

丁丑日誌 (下)

鹿児島県史料集 (Ⅱ)

丁丑日誌
(下)



刊 行 の 辞

鹿児島県史料集、第二輯として、「丁丑口誌」を刊行するはこびとなった。

これは鹿児島県の第二代岩村県令当時の県庁口誌である。

この口誌には、明治十年の役の当初から終戦までの県政の動きが丹念に記されている。終戦処理と言う方面から見ても、意義あるものと考えて刊行することにしたものである。

いろいろの都合で、下巻から先に刊行のはこびになってしまったが、本年度中に、上巻も刊行したいと考えている。

この「丁丑口誌」の原本は、県令の御令見岩村一木氏が家室として秘蔵されているものであったが、この刊行をこころよく御承諾下さって長期間にわたっておかし下さったことを、深く感謝するとともに、この間に立って、仲介の労をおとり下さった、加治木町長曾木隆輝氏に対しても厚く御礼申し上げる次第である。

昭和二十六年 月

鹿児島県立図書館長 久保田 彦 穂

凡 例

一、本書は元鹿兒島県令岩村通俊（当主一本氏）家所蔵の明治三年鹿兒島県庁日誌巻六より巻九までを収めたものである。

一、本書はもともと西南戦争当時の鹿兒島県庁の日誌で、時の岩崎県令はそれを筆写させて個人用として保管したものと思われる。

したがって県庁保管の原本が別にあったものと考えられるが、それは現存しない。

一、本書の書名を「丑日誌」としたのは、岩崎家でそのような通称を使っており、箱書きもこれを用い、その方が西南戦争との関係もはっきりして特色を出せると思ったので、これを用いた。

一、本書の中に若干誤記と思われるものがあり、（マ、）と注記した。

一、当用漢字表にある漢字は努めてこれによることにした。

一、次のような文字は（ ）内のように書き改めた。

帀（紙）。 /（シテ）。 帀（トキ）。 厶（トモ）。 𠂔（用）。

明治十年第九月分

鹿兒島県日誌

第五

九月一日

曾テ賊徒ノ可愛獄ノ困ヲ脱スルヤ沿道ノ諸郷ヲ蹂躪シ勢甚強暴此
時ニ當テ下流兇島ノ如キ官兵ハ皆諸道ニ進軍シ砲臺胸壁ハ皆既
ニ之ヲ撤シ戦守ノ具復爾所ナシ賊若シ此處ニ乘スレハ之ヲ如何
ントモス可ラス県令之ヲ憂ヘ為メニ兵ヲ總督府ニ請フコト再三兵
未タ到ラス遷延八月卅一日ニ至ル而シテ賊已ニ近クノ急報屢到ル
時ニ兵ノ此地ニ在ル者ハ唯伊東少將ノ率ユル者七百ト運輸局等ヲ
守ル者一百ト編費少警視率ユル巡查三百トノミ県令伊東少將等ニ
之ヲ而議ス少將曰ク兵寡シ而ニ敗レ不ルヲ保スル能ハスト因テ人
民及県官等避難ノコトヲ議シテ罷ム時正ニ夜九時ナリ即夜人民民
賊徒ノ突入難計ニ付銘々覚悟ノ上危難ニ不罹様可致旨ヲ布達シ且
ツ区戸長ニ命ジ其意ヲ毎戸ニ諭告セシメ内務卿ヘ止ムヲ得ス避難
スルノ伏ヲ具申シ支庁各出張所ヘ之ヲ達シ而シテ庁中所蔵ノ紙幣
及必用ノ簿冊等ヲ収メ其米穀ハ之ヲ少將ニ委シ各官員ニ達シ其家
族ト皆汽船ニ移ラシム其船ハ高千穂迎陽ノ二隻ナリ但シ県令予メ
之ヲ其船主ニ謀リ之レカ用意ヲ為サシメ且ツ小舟十餘隻ヲ海岸ニ
藏シ汽船ニ往復ノ用ニ供ス汽船ハ投錨シテ港外五丁余ノ所ニ在リ
官員等既ニ上船ス留テ庁中ニ守ル者ハ唯県令書記官及各課長外廣
官十余名ナリ九月一日午前第十一時賊徒城山ノ背後岩崎ノ辺ヨリ
突出シ小銃劇發直ニ県庁ニ迫ラントス乃告諭書ヲ庁壁ニ掲ケ以テ
賊徒ニ遺ス書中汝等無辜ノ人民ヲ殘害スル勿レ等ノ語アリ病院患
者ニ重テ治療ヲ請ク可キ旨ヲ懇諭シ庁下敷所ニ県官止タ汽船ニ避
難ノコトヲ揭示シ而シテ後皆夫ル庁門ヲ出レハ銃丸既ニ及フ市街
雜谷県官相失ス海岸ニ到レハ人民驚惶シテ舟ヲ爭フ無數ノ人民數
箇ノ小舟遂ニ能ク藏スル所ニ非ス県官等容易ニ汽船ニ達スルアリ
未タ舟ヲ得サルアリ舟ヲ得テ上ル所覆スルアリ既ニシテ僅カニ皆
上舟ス時ニ一様ノ賊賊ハ長刀ヲ閃カシ或ハ小銃ヲ發シ突然海岸ニ
出ス當県厩池上茂平屬官數名ト舟中ニ在リ銃丸ニ中テ死ス抑モ賊
徒ノ兇暴ナル殘害無辜ニ及フ岸上蟻集ノ人民自是後ヘニ迫リ深水
前ニ限ル進退維谷蓋シ自ラ謂フク寧ロ又セランシヨリハ禍スルニ

如カスト皆海ニ投ス水浜蟻垤ヲ潰スカ如ク蠢々蠕々湧シテ舟ニ上
ルアリ泳シテ島ニ達スルアリ退潮ニ随テ流ル、アリ復之ヲ救フニ
暇アラス県官皆既ニ汽船ニ達ス午後第一時市街火起リ漸ク延焼ス
一等馬正辺輝実外一名ヲ遺リ庁下ノ形勢ヲ探偵セシム輝実等小汽
船ヲ殘シテ行ク海岸猶賊ノ拒ク所トス上陸スルヲ得スシテ歸ル時
ニ高千穂迎陽ノ二船右炭欠乏因テ一タヒ長崎ニ航シ之ヲ貯ント欲
ス同第七時抜錨日モ亦已ニ没ス顧ミテ鹿兇島ヲ望メハ滿街焰火光
リ水天ニ映ズ

賊徒ニ庁中ニ遺書ス

通後四月赴任以來人民保護ノ道ヲ布キ殆ト安堵ノ域ニ至ラシム今ヤ
事茲ニ至リ不得止暫ク難ヲ汽船ニ避ケ汝等無辜ノ人民ヲ殘害スル勿
レ県庁ヲ紛擾スル勿レ既ニ負傷者モ亦病院ニ在リ幸ヒニ意ヲ加ヘヨ
爰ニ一日ヲ録シテ諭告スルコト是ノ如シ

庁下各所ニ指示

脱賊當地ヘ乱人不得止場合ニ立至リ候ニ付県官一同高千穂丸ニ一旦
乗組候支庁及ヒ各出張所諸官員ハ到着次第同船ヘ乗船候力或ハ潛
伏シテ危難ニ罹様可致旨揭示候事

高千穂丸乗組県令書記官ヲ除ノ外人員

御用掛判任官等外雇

医員

教員

区戸長学区取締

給仕小使僕從水夫等

士族平民販賣人

家族

警部巡查

臨時裁判官鹿兇島裁判官

右合計五百三十三人

迎陽丸乗組人員

判任官

一人

正副戸長并上族平民家族共

七十人

大蔵省官員

一人

本願寺僧徒

五人

福岡県士族

一人

長崎県商大阪府平民等

十人

警視庁地方役夫等

十二人

合計百人

九月二日晴

午後第三時高千穂迎陽ノ二船長崎着港船中ヲメ県官心得書ヲ定メ

上陸宿泊ノ順序總テ之ニ依ラシム県官口ニ上陸シ各所ニ分宿ス但

シ県令ハ樺島町荒木屋某方ニ大書記官ハ西仲町丸屋某方ニ泊ス

長崎着港ノ諸県官心得書

第一条

上陸ハ県令ノ發令ニ非サレバ恣ニ上陸スルヲ得ス

第二条

上陸ノ命ヲ降ス上ハ上陸検査官員ニ接テ附与シ置ク鑑札ヲ差山シ承認ヲ受候上上陸スベシ

但県官ニ非ラスト雖モ凡ハ一般乗船ノ上民ハ尚本条之例ヲ踐行セシムベシ

第三条

長崎入港ノ諸官員ハ七名ヲシテ先上陸セシメ県官ハ數ヲ量リ成丈ケ

散處セサル様旅費ヲ定メ之ヲ本艦ニ報スルモノトス

第四条

上陸ノ節ハ洋服又ハ袴袴致シ不体裁無之儀肝要タルベシ

第五条

前条ノ次第二付各自恣ニ旅亭ニ入ルヲ得ス各課長ノ通知ニ応ジ其旅

亭ニ宿泊スベシ

但シ家族等ヲ提携シ不得止事情有之別ニ旅亭ヲ設クル如キハ此限

ニアラス

第六条

上陸中各品不品行ノ所行決テアル可カラス固ク官吏ノ体面ヲ操持スベシ

第七条

各自手荷物ノ外ハ追テ何分ノ儀相違スル迄ハ陸揚ヲナス可カラス

第八条

各自旅宿ニ到着ノ上ハ其氏名ヲ門戸ニ張出シ置クベシ

第九条

本艦乗組ノ管下士民ハ長崎上陸ノ上ハ県官ニ非ラスト雖トモ其旅宿ハ一旦県官ニ報知シ置クベシ

内務卿へ電報

昨日十一時頃賊徒鹿兒島ニ乱入致予テ電信ニテ申上タル通り成丈

県庁ニ相詰候得共方々止ヲ得サル場合ニ至リ小官始県官等残ヲス高

千穂丸ニ乗組候鹿兒島ハ直ニ一面ニ火ノ手アリ仍テハ小蒸汽船

ヲ以テ鹿兒島近傍ニ遣シ其模様見分致サモ候如何分賊徒ノ砲丸頻リ

ニ米リ近ソク能ハズニ付官軍ノ勝敗等相分ラス午後五時北火ノ手弥

熾ニ相成多分県庁モ喪失ト存候夫故午後七時三十分高千穂丸ニテ鹿

兒島港ヲ發シ只今長崎ニ着セリ取テ敢ヘス此段御届仕ル

同

先刻御届申候通り此地へ着セリ尤鹿兒島ヨリ直ニ細島へ向ケ航海ス

可ク望ノ処高千穂丸石炭乏シク細島へ航海ナリ舵ヲ仍テ一旦此地へ

着船セリ就テハ兼テ御波ノ快順スニテ直ニ細島へ航海ノ見込ニアリ

シ処修復夫タ行届カザルニ付高千穂丸ニテ大書記官始県官一同直ニ

細島へ航海散サス可ク私儀ハ是ヨリ後県治ノ大綱ヲ何定度事之レ右

ルニ付上京致成至急御指令アリタシ

同

預テ御回相成シ二名ノ巡查ハ此度更ニ兵隊ニ編ミシニ付至急精進

ノ巡查三千名御差同ヲ類フ委細ハ郵便

前島縣通局長へ電報

鹿兒島へ米積込着船セシ高千穂丸鹿兒島ノ變動ニ付拙者始県官乘

組直ニ日向細島へ航海スベク処石炭乏シク止ヲ得ズ一旦此地へ着セリ就テハ直ニ預テ御渡シノ快順丸にテ細島へ航海ノ見込ニアリシ処修復未タ行届カスニ付寄千穂丸米積込ノマ、ニテ県官一同乗込直ニ細島へ航海致度ニ付一先航海御差替ノ上三菱会社へ直ニ御達アリタシ尤内務卿へモ申立置タリ至急御返事ヲ待ツ

同回報

高千穂丸細島へ同船ノ儀差支ナシ

熊本県令へ電報

昨一日午前十一時鹿兒島へ賊徒乱入ニ付捕者始メ官員共長崎へ引揚タリ此段御通知ニ及ブ

可回報

賊徒乱入ニ付實官始メ長崎へ御引揚ノ由承知ス先ツ御無事ヲ賀ス

県令預メ諸官員中或ハ事ニ托シ帰省等請願ノ者アラン事ヲ慮リ左ノ処分方ヲ定ム

一病氣ヲ唱ヘ再ヒ県地に赴クヲ断ル者

一故ナク跡船等ニテ出張ノ延引ヲ願出ル者

一父母ノ病氣等ヲ唱ヘ再ヒ県地ニ赴クヲ断ル者

但今般ノ一挙アル計ニ願出ル者ハ此限ニアラス

右三条ノ請願アル者ハ皆ヲ諭シテ職務ヲ免スモノトス

今夜池上荘平ヲ此地稲荷山ニ葬ル六等属片下輩平外二名ヲ送り之ニ与ラシム蓋シ預メ之ヲ該県庁に依頼シ其神官中講義古田成則ナル者ニ命シ之ヲ行ハシム其官員面名モ亦之ニ与ル

愛媛県へ通知書

其御県士族伊予今治居住池上荘平儀当県へ層申付候処本月一日賊徒襲来候に付県官一同避難之節鹿兒島港ニ於テ銃丸ニ中リ即死致候依テ長崎港稲荷山へ埋葬致候就テハ別封遺髪等遺族ノ者へ送還候條可然御取計有之度不取敢此段御通知旁及御依頼候也

別封書

池上荘平儀当県へ勤務中本月一日賊徒襲来ニ付県官一同避難ノ節鹿兒島港ニ於テ銃丸ニ中リ即死致候依テ長崎港稲荷山へ埋葬取計置候就テハ本人診斷書并遺髪祭文等差送候條此旨承知可有之候也

明治十年九月二日

鹿兒島県

池上峯太郎殿

普テ帰省父母有病ノコト終へ本日此ニ來ル

九等属

大野 親 范

九月三日晴

県令大書記官及課長等丸屋某方ニ会シ事務ヲ取扱フ県令東京ニ上リ内務卿ニ謁シ其中スル所有ラント欲シ電情ヲ以テ之ヲ伺フ其指令アリ之ヲ罷ム乃チ属官欽名ヲ送り之ヲ行ハシム又其十余名ヲ此地ニ留キ事務ヲ取扱ハシメ自余皆県地ニ遣ル県地ニ遣ル者ハ長次官之ヲ率ユ而シテ其家族ハ皆此地ニ置キ或ハ東京ニ遣ル蓋シ騒乱ノ際居住ノ迄未タ期ス可ラザルヲ以テナリ乃チ県地ニ遣ル者ニ令シ上艦セシム其艦ハ即チ高千穂丸ナリ將ニ午後第五時ヲ以テ抜錨セントス東京出張警視居電信局臨時裁判所等へモ亦之ヲ通知ス各員已ニ上艦ス然ルヲ其石炭積込ミノ事猶未タ終へザルヲ以テ抜錨遂ニ延期ス

内務卿ヨリ電報

前略上京見合セ宣布尽力有ベシ

九月三日

同回報

上京ノ儀可見合旨敬承セリ官員一同大奮発ニ付本日午後六時当港抜錨鹿兒島港ニ至リ其模様ニ寄リ上陸スベシ若戰爭中ナレバ稲荷山ニ上陸スルカ或ハ細島に到ルカ兎角実地ノ景況に寄リ可然場所ニ依ニ当県庁ヲ可置小官職掌上ノ儀ハ充分ニ可相尽ニ付御安心アルベシ時宜ニ寄リ不経例専断ノ取計ノ儀モ可有之ニ付此段兼テ御開置ヲ願フ

当地三菱会社へ達書

遇刻申談候通りニ付高千穂丸日向国細島へ發航之儀本日午後四時乘

組同五時抜錨ノ事ニ取極候条其旨在心得夫々手当可致此段相達候也
各官員等へ達旨

高千穂丸ヲ以テ日向国組島へ流航之儀本日午後五時抜錨ト相定候条
午后四時迄ニ一同乗組可申此旨相達候事

高千穂丸乗組司令書記官ヲ除ノ外人員
御用掛判任官等外雇
百二十人

教員
十三人

區戸長学区取締
二人

給仕小使僕従水夫等
二十五人

家族
二十二人

新開社三井組抄導職
三人

士族婦順人
二十五人

臨時裁判官鹿兒島裁判官
四人

総テ二百三十二人
垂水出張二等属心得名和賜外二名昨二日鹿兒島ヨリ汽艦寧靜丸ニ
乗組ミ本日此地着港此夜該艦ニ來リ県令ニ謁シ其戦争ノ概況等ヲ
告ケ

中講義 白川 慈 禪
外 十三名

右ハ一昨一日變動ノ際乗船ニ後レ踪跡不相分旨真宗東派本願寺九州
事務長小教王渥美契縁ミリ届出ル

中教正 大谷 勝 縁
外 四名

九等属 篠塚 基 長
十等属 神保 龍 玄
歴 篠塚 兼 当

右ハ親病氣等ニテ暇省ノ儀兼テ出願許可ノ処本日歸途ニ就ク
東京出張申付候事

全 一等属 曾根 静 夫

全 二等属 長山 信 順

全 御用掛 青江 秀 環

全 八等属 三上 正 淡

全 九等属 星野 弘

全 十等属 山崎 厚 道

全 等外二等 惠沢 保 厚

全 長崎結申付候事 川井 保 厚

全 全 福島 哲 三

全 五等属 大江 益 穂

全 全 塩田 德 治

全 七等属 島田 真 美

全 全 西沢 卓 郎

全 八等属 大石 桂 之助

全 全 中島 政 義

全 全 酒井 求

九月四日晴

午前第六時抜錨行ク行ク田布施ノ沖に到ル小舟アリ方サニ其来
ルヲ待者ノ如シ為メニ艦ヲ停ム舟中巡査アリ曰ク前日鹿兒島ノ乱
ヲ避ケ辛フシテ此ニ来ル小舟復此洋中ヲ如何ンセン諸フ助ケヨト
乃チ上艦セシム其人員ハ警部補一名巡査十五名ナリ行クコト三四
里亦小舟アリ其始末皆前ノ如シ其人員ハ巡査十二人ナリ

九月五日半晴半陰

午前第三時半鹿兒島沖ニ達ス艦ヲ停メテ夜ノ明ルヲ待ツ東方漸ク
白ミ艦モ亦漸ク進ム同第六時其港外ニ投錨ス時ニ汽艦ノ泊シテ此
ニ在ル者重艦三隻商船六隻又龍驤艦ハ依然トシテ祇岡ノ洲ニ在リ
聞ク未タ用ユ可カラスト街上ヲ顧望スレハ万葉歌所ノ空欄
如野ノ如シ間々砲声ヲ聞ク一等馬場辺輝表二等馬場伊藤市郎ヲ追リ
之ヲ探偵セシム輝表等隣艦ニ就テ問フ未タ其確説ヲ得ス賊艦ス警
部某モ亦米テ其概況ヲ告ク去ル時ニ川村參軍本營ヲ田ノ浦ニ移シ
コハニ居ル果令前ノ属官兩名ヲ率ヒ此ニ就見シ果官選乱ノ始末等
ヲ具申ス又テ談話アリ始メテ其戦狀等ノ確説ヲ得テ帰艦ス

間ク過日以來賊徒皆城山及県庁ヲ以テ根拠ト為シ西郷桐野逸見等
皆此ニ居ル而シテ逸見ハ曾テ横川戦争ノ時其額ニ負傷シ即今甚大
患ナリト伊藤海軍少將ハ預メ新撰旅団兵七百八人ヲ率ヒ市前ノ米倉
ニ拠リ固守ス綿貫少警視モ亦巡査三百余名ヲ率ヒ此ニ合ス賊ノ襲
撃スル者數ハ遠ニ能ク之ヲ防ク昨四日モ亦黎明ヨリ賊將貴島清其
手兵ヲ率ヒ突出シテ之ニ追リ頗ル劇戦有兵之ヲ敗ル賊兵ノ即死ス
ル者三十一人潰亡亦斃ル而シテ倉兵ハ去一日ヨリ今日ニ至リ數度
ノ拒戦ニ死傷スル者唯四十一人ノミ

齊藤義茂外五名ヲ遣リ參軍本營ニ就テ其指揮ヲ請ヒ且ツ其米穀調
査等ノ事ニ從ハシム

鹿兒島出張中付候事 監護掛 九等属 齊藤 義茂

同	第六課	八等属	山田 海三
同	同	十等属	桑原 政大
同	監護掛	等外一等	東郷 九左衛門
同	同	等外四等	伊東 助市
同	同	同	高山 經武

午後第二時抜錨少時ニ加治木ニ達ス伊藤市郎并羽田陽ヲ当出張所
ニ送ル飯艦ス

四等属	榮 太一郎
八等属	依藤 忠太
九等属	添田 弼
同	岡本 隆興
六等属	福原 元資
三等属	新島 義之
六等属	安井 義敬
七等属	吉田 為行
等外三等	束郷 栄之助

右ハ各所巡回中職從ノ為メニ或ハ路ヲ絶タレ或ハ取開マル或ハ山野
ニ臥シ辛フシテ歸來ス

右ハ既肥口高辺巡回戦乱ノ報ヲ得テ歸來ス

午後第六時果令大書記官御用掛上寸行微一等属田辺輝表外數名ト
当出張所ニ到ル詰合ノ官員數タアリ戸長モ亦數名アリ曰ク此地ハ
先ツ平穩ニ泊少將ノ兵二百余名及警視出張ノ巡査百余名此ニ守
ル電信モ亦去ル二日以来宮城延岡辺迄通スト果令戸長ニ面シ人長
ヲシテ賊船ノ再発ニ依リ方前ヲ誤ル者アラシメ不ル様注意スベキ
旨ヲ説諭ス又遂ニ其布達ヲ揭示セシム此後皆此ニ從ス

番外布達

本月一日賊徒鹿兒島ヘ乱入ニ付県庁ヲ襲テ一旦汽船ニ立退キ本日加治
木出張候現ニ官車諸道ヨリ攻撃賊徒等重開ノ中ニ有リ不日正定勿
論之儀ニ付士民共聯動掃蕩致問數候此旨布達候事

但賊徒貴島濱ハ鹿兒島ニ於テ戰死逸見十郎太ハ重傷致シ候条此段
モ為心得申添候事

征討總督本營へ上中書

当県臨時病院生ノ儀兼テ雇入候者ノ外尚患者増加ニ從ヒ追々医生
ノ増員モ取計置候得共此節宮崎延岡高鍋等ニ於テ負傷ノ賊徒陸續歸
順加之管内平病伝染疾等多分有之於病院手廻リ来候ニ付此際無数ノ
患者方一非命ノ死ニ陥候様ノ儀有之候テハ不容易儀ニ付順クハ別紙
飯頃ノ医生当県臨時病院へ雇入申度候間何卒特別ヲ以テ至意本人共
御所斷清相成候様仕度此段上申仕候也

明治十年八月廿九日

指令

上中ノ趣鹿兒島出張九州臨時裁判所へ可申立候事

九月一日

別紙

三田村 一
田上 平苗
手塚 盛徳
新保 可彌
石塚 才之助
田中 齊助
永嶺 妍造
武井 順助
兄玉 意誠
竹内 平男
国分 喜助
藤井 清隆
中馬 泰藏
大重 源之丞

同達書

其県下兵隊行軍并ニ物品運送之節川々架橋之設無之差支不少ニ付各

旅団ヨリ架橋取計候ケ処モ有之候処兵隊及ヒ物品渡シ濱ノ後タリ共
破損若クハ流失候テハ軍隊ハ勿論土地人民之ヲ不利ニ付自今各旅団
ニツイテ架橋候ケ処々々モ可相成テク保存係様於其取計可中此旨
相達候事

明治十年八月卅日

九等属 山内 満五郎

右ハ巡回中賊徒ニ海岸ニ迫ラレ途窮テ海ニ投シ泳テ船ニ達シ僅カニ
生命ヲ全フシ此夜帰来ス

等外四等 竹内 於鬼一

右ハ留テ人天徴集ノ為メ山川辺出張本夕飯来

九月六日半暗半雨

県令県庁ノ位置ヲ区ルニ鹿兒島ハ暴敵乱ノ地未タ之ヲ開ク可ラス
其邊限ノ地ハ亦便ナラ不ル所アリ因テ飯庁ヲ此地ニ置キ其平定ヲ
待ツテ之ヲ移ント欲ス則チ區宅等ノ之ニ充ツベキ者ヲ調査セシム
此日県令其近隣日野五郎兵衛方ニ移リ之ヲ議ス大書記官及御用掛
上村行微一課長田辺輝実六課長松木保又戸籍長伊藤市郎外属官數
名等此ニ会ス遂ニ之ヲ議定シ飯庁ヲ此ニ置ク又救恤取扱ノ場所順
叙ヨリ物品運輸ノ事ニ至ル迄詳細之ヲ議シ則チ非常事務取扱章程
及其掛官員ヲ定ム内務卿及征討本營等へ設庁ノ事ヲ上申シ又之ヲ
管内各方ニ達ス且ツ電報ヲ以テ長崎詰ノ官員ニ達シ救恤用ノ米穀
塩噌等ヲ回送セシム

内務卿及征討總督本營へ電報

小官始メ昨日加治木着依テ同所へ依リニ県庁ヲ設ケ事務取扱候此段
御届ケ仕

川村參軍并綿貫少警視へ之ヲ通知ス文意上ニ同シ依テ略ス

番外一號布達

本月一日鹿兒島へ脱賊乱入致シ目今官軍攻撃中ニ付当分ノ内加治木
出張所内ニ飯ニ県庁ヲ設ケ事務取扱候条願伺届等ハ同所へ可差出此
旨布達候事

臨時事務取扱役章程

運輸掛 救恤掛

土木掛 會計掛

運輸掛

一人馬船中等ヲ徵集シ海陸運輸ヲ弁理スル事

救恤掛

一貧民ヲ調査シ救恤米金ヲ規則ニ照シ支給スル事

土木掛

一家屋并救恤小屋架橋等ヲ建築或ハ修理スル事

會計掛

一運輸救恤及土木等ニ関スル諸費ヲ審算シ之カ出納ヲ為ス事

一職工及ヒ徴夫ノ給料ヲ時議査定スル事

長崎出張官員ヘ電報

快順丸又ハ密勢丸迎陽丸等ノ内ニテ味噌三百樽宅廣瀨大根百樽塩三百俵鹿治本ノ内ヘ大至急回ハスベシ

新瀉裁判所在勤司法省十七等出仕

任鹿兒島九等屬

土屋 金之助

第一課常務掛中付候申

鹿兒島ヘ出張

御用掛 上村 行 徵

郡城出張所詰

六等屬 渥美 力弥太

宮崎支庁詰

八等屬 菅井 雄

右ハ過日來加治木出張所ニ滞在本日任所ニ遣ル

帰庁

御用掛 西久保 紀 林

同

平馬 定 重

西川 吉 敬

右ハ皆テ大々徵募ノ為メ山川辺出張本日帰庁

白根 大 道

右ハ皆テ蒲生郷辺出張賊徒ニ取開マレ山野ニ逃走シ林藪ニ起臥シ食セ不ル者雖ハ又為メニ貯金若干ヲ強奪セラレ艱苦百端儘カニ生ヲ存

シテ版ル

九月七日曇

既ニ飯庁ヲ置キ細島行ヲ罷ム然ルニ賊徒ノ出沒未タ図ル可ラ不ルヲ以テ其金穀等猶艦中ニ置キ宮日モ亦徒ラニ上陸スルヲ許サズ唯其急務アル者ノミ出庁或ハ出張セシム具令其艦中ニ在ル者ノ沐浴等ニ困スルヲ慮リ為ニ一ノ休憩所ヲ設ケ交番ヲ以テ上陸シ沐浴セシム其航海ノ便ヲカル者ハ釐港以來漸次上陸シ去ル其販順人ノ如キハ獲艦中ニ留ム

元県庁郭内屋宇等皆悉ク兵災ニ罹ル

快順丸ニテ長崎ヨリ返庁

同

五等屬 芥 藤 小三郎

同

五等屬 米 山 信 久

同

十等屬 後 藤 基

同

等外四等 友 松 信 近

延岡ヨリ帰庁

雇 吉 井 友 輔

川船徵募ノ為メ松島等ヘ出張

等外四等 池 田 三 郎

同

九等屬 岡 本 隆 興

同

八等屬 松 本 彰

同

雇 前 田 平 七

九月八日

内務卿ヘ電報

県庁無事ノ段昨七日上申ノ処同日午後四時スギヨリ火起リ郭ハ内残ラス焼失スコレ全ク賊兵退治ノ為メ官軍ヨリ放火シタル由委細ハ郵便ヨリ御届ニ及ブベシ

同郷ヘ昨七日電報賊兵攻撃ノ次第ハ参軍ヨリ追々ニ申ノ通り然ルニ市街多ク焼失スト雖トモ辛ニシテ県庁ハ今日迄無事ナリ此段御届仕

鹿兒島出張官員ヨリ報知書

昨七日午後第六時頃ヨリ県庁郭内火起リ屋宇皆焼失其外諸街ノ家屋モ賊ヨリ放火候趣キ昨夜ヨリ今曉ニ至リ候テハ賊徒決死襲来ノ模様

ニ付官軍方ニテハ十分ノ手当テ相成居候間此節コソ賊魁退治別条有之間布俟猶詳細始之上可及御届候爲共不取敢此段以飛信上申候也

九月八日

陸奥藩所報

一 泉字郭内口学校第二課裁判所県令官舎等悉皆

一 飯電信局黒木座及加治木邸近辺并小松邸迄

一 三宮橋辺ヨリ新屋敷廻之口方角

一 西口橋内近辺

賊徒ノ回文

今日鹿兒島県下へ突入及戦争候處県庁役人等ハ悉ク船ニテ逃去台兵并巡查等ハ既ニ引色ニ相成十分之勝利ニ至候就テハ各郷ニテヒテハ巡查等ハ見当り次第掃蕩イタシ当所本營へ才領相付可被相廻候比段及御達候間結テナク着手可有之候左候テ此書面刻付ヲ以順々可被相廻候也

九月二日

人來

山崎

薩々田 九月三日午前七時承知仕

鶴田

佐志 丑九月二日午後三時承知

宮ノ城 丑九月二日午後一時承知

戸長中

副戸長中

追テ有志ノ面々ハ鹿兒島表へ駆付着御可被申出候

番外二号布達

鹿兒島県

過日來賊賊鹿兒島地方へ入込候ニ付去ル三日官軍七道ヨリ同所へ突入同所屯在之官軍ト相合シ攻撃中に有之然ルニ賊賊共回文ヲ以重富加治木国府福山其他各郷ニ相宛已等鹿兒島へ突入候處県令逃去兵隊巡查引色ニ相成十分ノ勝利ニ付巡查ハ見当次第捕縛シ尚有志之者ハ

鹿兒島及ヒ蒲生へ可駆付旨相触候諒右ハ人民ヲ煽動スル妄誕不經之詐言ニテ無謂事ニ候条各地人民右詐言ノ爲メ不被致誑惑様厚爲相心得置可申尚前文ノ如キ賊之書状等ヲ取扱又妄誕不經之虚説中触候者於有之ハ屹度取充候密ニ付捕縛ノ上本營へ可申出且歸順人ノ内重テ賊徒ニ党与候者ハ去月廿六日付ヲ以相達候通嚴罰ニ可処候条心得違無之様大至急管内へ可相達此旨相達候事

明治十年九月五日 征討總督有栖川城仁

前書之通征討總督官ヨリ御達有之候条此旨布達候事

宮崎支庁小野修一郎ヨリ電報

佐土原広瀬モ先ツ静謐ナリ

長崎出張官員へ達書

其地出張官員ノ内別紙人名者ヲ除クノ外一同次ノ便給ヲ以テ加治木飯庁へ可引揚此旨相達候事

別紙長崎詰官員人名

四等属 福島 哲三

七等属 西沢 良徳美

九等属 村井 庶方

等外三等 飯村 栄太郎

同 四等 石井 謙三郎

加治木警視分署出張細谷一等警部外一名ヨリ当分署へ巡查追々入

込多人數ニ相成候ニ付糧食糧米并塩糟可差同様可取計旨依頼アリ

之ニ応ス往復書署之

今夕岸良大検事米リ県令ト談話ス

渡辺大書記官木村利文外一名ヲ率ヒ官崎出張

渡辺大書記官官崎出張

ニ付隨行申付候事

同 六等属 木村 利文

同 七等属 堀 興憲

鹿兒島出張 御用掛 西久保 紀林

同 御用掛 竹内 正道

午後六時鹿兒島ヨリ飯庁 御用掛 上村 行微

九月九日

県令柴太一郎依藤忠夫越川重平ヲ率ヒ鹿兒島出張

県令藤兒島出張ニ村随行申付候事

同 八等属 依藤忠夫

同 雇 越川重平

同 垂水出張所結申付候事

同 六等属心得 福原元資

同 快順丸へ乗移磯へ出張可致候事

同 十等属 山田仲賢

同 同 内海忠海

同 同 等外四等 原山軍七

同 快順丸へ乗移リ本日谷山へ出張可致候事

同 六等属 親康忠紀

同 十等属 鎌田信夫

同 小舟十五隻ヲ徴集シ桜島ヨリ飯庁

九月十日

熊本県へ電報

当県庁飯ニ大隅国加治木ニ置タリ日今鹿兒島戦争ハ賊兵城山島嶺邸
私学校等ニ居リ官軍四面ヲ取り囲ミ日夜大砲攻ニテ勢ヒヨシ不日鎮
定ス可シ此段御報ニ及ブ

県令依藤忠夫越川重平ヲ率ヒ鹿兒島ヨリ飯庁但シ参軍本営ヨリ鹿
兒島谷山桜島等ヲ経テ歸ル

同 九等属 山内満五郎

同 同 等外四等 川上謙助

同 桜島出張申付候事

同 御用掛 西久保紀林

同 十等属 後藤基

同 同 雇 古井友輔

九月十一日

内務卿へ電報

過日加治木ニ飯県庁ヲ設ケ置キタレトモ当県ノ儀ハ是非鹿兒島ニ県
庁ヲ設ケズテハ行政上百般ノ不便ト存シ候ニ付鹿兒島平定ノ上ハ直
ニ同所へ県庁警視出張所官舎及ヒ米倉等新築致度右新築ニ付テハ経
費凡二十万圓計リ御下渡相成度御許可ノ上ハ新築見積書等ヲ以テ尚
可相心得ナレトモ此段至急御指令ヲ仰ク

東京出張一等属曾根静夫へ電報

預テ拙者見込申シ述ヘ置キ候通鹿兒島へ県庁其外新築ノ事今日内務
卿へ申立タリ仍テ此儀ニ注意シ御許可ノ上ハ当地ニ於テ新築着手可
致ニ付土木ニ熟達ノ官員六七名其地ニテ検査ノ上本県へ差回ス可シ

同 八等属 松本彰

同 同 前田平七

同 右ハ桜島等ニ於テ小舟四十余隻ヲ徴集シ歸ル

同 迎陽丸ニテ長崎ヨリ歸庁

同 七等属 福井忠利

同 各地巡回ヨリ歸庁

同 四等属 蒲原敬路

同 同 九等属 服部安容

同 同 雇 川畑篤雄

同 谷山辺出張

同 御用掛 上村行微

同 一等属 山辺輝実

同 川辺筋出張申付候事

同 六等属 鎌田定衛

同 八等属 石川克

同 同 九等属 岡本隆興

同 同 十等属 井村龜尾

同 同 等外四等 村田彦兵衛

同 同 雇 高木太郎左門

同 御用掛ニ付場庁申付候事

同 本県六等属心得 梅本敬吉

同 同 本県七等属心得 池田利勝

同

本県十等属心得 田中光弥

同

兵庫県官員

司

本県七等属心得 小西甚平

右長崎滞在ニ付之ヲ送致ス

東京府下寄留静岡県士族

任七等属

第一課常務掛申付候事

島田修

九月十二日

過日来小舟凡六十隻ヲ桜島等ヨリ屋ビ当海岸ニ繋キ之カ往復運輸等ノ用ニ供ス

内務大蔵両卿へ上申書

当県非常臨時費トシテ既ニ金二拾余万円御下渡相成候ニ付テハ仕松

方定額金ト区分之儀假令ハ消耗ノ如キハ兩費 臨時 定額 ニ跨リ

候得共其遺私多キ方ニテ悉皆精算候様致度依之別紙概口ノ如ハ臨時費ヨリ仕松勘定仕上取計可然候且警察ニ属スルモノハ警察臨時費トシテ別途仕上可取計儀ト存候得共為念併テ相伺候案至急御指揮相成度候也

明治十年七月十日

指令

伺之趣ハ平定迄ノ諸費額ノ内官員月給史記編集費招魂社費ノ外警察ニ属スル費用ト雖トモ悉皆暴動ニ関スル非常臨時費トシテ年度ヲ分界シ勘定仕上ニ可取計事

但本文官員月給外ニ費ヲ除クノ外定額常費ノ内月割ヲ以減額取調可申出事

大藏卿大限重信代理

十年九月一日

大藏大輔 松方正義

別紙

臨時費ヨリ仕松ベク概目

一 官員等外其外臨時派出旅費

一 賞与或ハ手当金ノ類

一 人夫及船船雇揚費ノ類

一 官員其外県庁結切昼夜賄料ノ類

一 官員其外県庁詰切焚出ニ属スル諸器械買揚費ノ類

一 官員死傷 扶助祭祀 料ノ類

一 市民死傷 埋葬扶助 料ノ類

一 燈灯燭燭其外需用品買物費ノ類

一 建物及飯立ノ類

一 医員日給赴任旅費及臨時派出旅費等病院ニ属スル一切ノ費用

一 兵火葬及諸民救助ノ類

一 郵便電信料ノ類

一 運送費ノ類

一 乘馬買揚ケ其他既ニ属スル一切ノ費用

一 警視居出張滞在ニ属スル一切ノ費用

一 刀剣買揚費

番外三分布達

此般賊徒ニテ一時方向ヲ誤リ官軍ニ抗敵スト雖トモ先非ヲ悔悟シ帰順自首スル者ハ其罪ヲ咎免セラレ候筈ニ候処追々賊黨其儘潜伏シ既ニ捕縛ノ際ニ雖ミ不得止帰順願出ル者住々有之甚以不宜次第ニ付來ル卅日迄ニ自首セザル者ハ其罪ヲ有メ捕縛ノ上可処嚴科候条心得尋之者無之様管下一般へ無漫布達可致此段相達候事

明治十年九月十一日 征討總督本營

鹿児島県令岩村通俊殿

治テ本文潜伏為致候者モ本犯同様処分可致候条此旨添達候也

右之通被相達候条此旨布達候事

加治木出張大塚判事ヨリ通知書

本日ヨリ当地へ九州臨時裁判所出張所開設候間此段及御通知候也

明治十年九月十二日

番外四号布達

本日ヨリ加治木表ニ九州臨時裁判所出張所開設相成候条此旨布達候事

從四位島津忠寬從五位島津忠亮家扶能勢直陳ヨリ願書

蕉藩地佐土原士民從來渡弊之処今般兵乱ニ付テハ弥増困窮ニ及候ハント相察候就テハ手元不如意之折柄十分ノ救助ハ難行候得共惻然ノ至存候ニ付災災ニ罹リ候士民ノ救助學校再築之料及一般ノ學校資金万分ノ補助トシテ乍些少金貳千円也之ヲ遣シ度御座候差支之儀無御座候者御片ニ於テ可然御処分被成下度奉願候様忠寬亮申聞候ニ付此段申上候也

明治十年九月十二日

右請取証

一金貳千円也

但旧佐土原藩士民へ救助并同新學校再建築及同所一般之學校資

金トシテ差出ノ分

右正ニ受取候也

宮崎支前長小野修一部へ達書

從四位島津忠寬從五位島津忠亮ヨリ旧藩地佐土原士民救助并學校再築之為メ金貳千円差出候旨別紙之通家扶能勢直陳ヨリ申出候ニ付配当方詳細取調可申出此旨相達候也 別紙前ノ如シ

鹿兒島出張西等屬柴太一郎ヨリ上申書

小官一昨十日田ノ浦荒同夜下伊敷へ泊シ昨夕田ノ浦へ販リ防禦線普ク巡視候処各方面未タ建築中ニハ候得共何レモ竹柵二重或ハ三重ニ立テ廻シ後ニ隣台ヲ築キ頗ル堅固ニ相見候尤此上ニモ追々嚴重日夜修築相成候趣

一武西山伊敷等ノ各村焼燬ノ家ハ悉ク軍人ノ陣營ニ相成戸長始メ丁壯ノ者一時潜居候哉又ハ中ニハ賊軍ニ再ヒ応候哉更ニ不相見老幼

婦女子ノミ居殘食物等ノ小商ヒ致シ差向静謐ノ体ニ相見候

一伊敷村別働二旅團二方百哨兵線通行ノ際岩崎谷ノ賊地ヲ脱シ候趣ニテ人夫六名来リ候ニ捕縛ノ上軍人一同取札候処岩谷山ノ者一名中村ノ者四名田上ノ者一名各夫当二日戸長ノ嚴達ニ依リ無余儀軍大ニ出候由岩谷山ノ戸長ハ不分明中村ノ戸長樺山助八田上ノ戸長ハ与倉新左衛門ニテ若シ軍人ニ出テサルトキハ持高取上ケ候ナト、ノ語ヲ以テ尋迫致候由片言ニハ候得共災ニ患ムヘキノ極ニ候尤右等ノ類旅團ニ於テ夫々着手相成候客右人夫ノ口供左ニ

一賊時谷ヲ六營ニ致シ各砲台ニ出張居候ニ付西郷等ノ賊縣ハ勿論賊數ノ多少モ不心得趣

一昨ハ一度ハ小サキ擲リ飯二ツ二度ハ粥菜ハ梅干計リ糧米五百俵計リ有之ト衆人申居候ヲ聞キ込候趣

一岩崎谷ニハ婦女子等多分穴居致居候由

一本仁礼大佐へ面会賊況并御軍議ノ模様聞合候処差向ノ処ハ防禦線堅固ニ建築ニ着手相成居未タ進軍ノ軍議ニモ不相連候

一賊數ハ大凡七百計ノ由ナレ共一昨日以來襲来モ無之如何ナル賊ノ方向カモ分明ナラサル趣

一昨今ハ賊ヨリ砲発ヲ不致候得共彈藥真ノ乏ト申モ無之模様

一糧食ハ追々欠乏ノ由

一島津邸ハ賊モ障リ候哉蹂躪モ放火モ不致其儘相成居趣

一右是聞之儘申上仕候也

九月十二日

川辺出張

同

同

長崎出張申付候事

水引出張所詰申付候事

依願出仕差免候事

依願出仕差免候事

八等屬 石川 克

九等屬 岡本 隆興

六等屬 鎌田 定衛

九等屬 伊藤 俊治

等外一等 小佐々 周平

等外四等 原 教三

右ハ山口県へ帰省中ニ付詳令書ヲ其県ニ差回ス

九月十三日半晴半雨

安藤中警視来リ県令ト談ス曰ク今般巡查千八百名ヲ率ヒ来ル因テ其五百名ヲ此地ニ置キ所々間道等ニ配付シ賊徒ノ出沒ニ備ントス又曰ク昨十二日皆テ賊徒ニ執ハレ城山ニ在リシ坂府ノ巡查一名ノ逃シ来ル有リ其賊ニヒク城止ニ在ル賊徒ノ數ハ四百名計リ西郷桐野等皆在リ糧米ハ凡ソ二百俵有リ

細島總督本官ヨリ電報

賊徒飯野加久藤辺ニ顯ハレ人吉ヲ襲撃セントスル勢ヒ有ル由報知アリ各地取締向一属注意有ルヲシ

十二日午前三時発

不通延着

同回報

賊徒飯野加久藤辺ニ顯ハレ人吉ヲ襲撃セントスル勢ヒ有ル由仍テ各地取締ムキ一層注意アル可シト御達シ今午前六時着セリ然ル処不通延着ト記載アルニ付此御達ハ最初賊小鉢飯野等ヲ襲ハントスル節ノ御達ト有スレトモ念ノ為メ相伺フ

十三日午前六時三十分発

鹿兒島出張官員へ電報

賊徒飯野加久藤辺ニ顯ハレ人吉ヲ襲撃セントスル勢ヒ有ル由依テ各地取締ムキ一層注意アル可シト今午前六時細島總督本官ヨリ達シアリ委細其地参官へ問合ノ上至急報知アルベシ

十三日午前六時五十分

同回報

賊徒飯野加久藤辺ニ顯ハレ人吉ヲ襲撃セントスル勢ヒ有ル由依テ各地取締ムキ一層注意アル可シト今午前六時細島總督本官ヨリ達シアリ委細其地参官へ問合ノ上至急報知アルベシ

十三日

總督本官へ電報

賊徒飯野加久藤辺ニ顯ハレ人吉ヲ襲撃セントスルノ勢ヒアルニ付各地取締向御達有リシ処不通延着ト有シニ付今日為念伺ヒ置シ其後追々報知モアラ飯野辺ノ事情相分リシニ付御達ノ趣注意可致候此段御請ニ及フ

大久保内務卿へ電報

今日安藤中警視ニ面会致シ県下各地へ巡查配置等ノ事ヲ聴キ安堵致候委細ハ同人ヨリ上中ヲ致ナレトモ此段申上置ク

加治木出張所へ達書

今十三日安藤中警視引率ノ巡查溝辺へ出張致シ同所ヨリ各地へ配置相成候ニ付預テ相定置候各所出張官員十四日派員可為致此旨相達候事

宮崎支庁長小野修一郎へ電報

賊徒飯野加久藤辺ニ顯ハレ人吉襲撃ノ勢ヒアルニ付直チニ野津少尉ノ三ニテ兵一大隊繰リ出シ且安藤中警視東京ヨリ巡查千余名ヲ率ヒ内五百名飯野ヲ本營トシ其地方嚴重ニ警備相整ヒ鹿兒島モ迫々開ヲ重子兵備相整ヒタル由旁カタ安心アルベシ

大隈大藏卿へ電報

九年度家禄渡シ残り金拾六万円余金額受取方之儀先般上申セシ処實際渡シ日限ハ長崎出納局ヨリ通知ス可キ旨御指令相成然ルニ未タ該局へ御達シ之レ無ク就テハ取調済之分三分通り非常ニ俸金ヨリ採替置ケリ然ルニ鹿兒島再ヒ戦争ニ付臨時御出費モ多分ニ付家禄金ノ内三分一金五万円至急長崎出納局ヨリ御達有リタシ

東京出張一等馬曾根静夫へ電報

預テ相伺シ租税免除等ノ儀如何カ御決定ニ相成リシヤ至急返事スベシ

県令へ回書

諸荷物運轉且非常予備ニ充テ予テ雇入置候小艇漸次到着稍多數ヲ加ヘ候ニ付本県用ハ六十艘ヲ以定員トシ外二十艘ハ幸ヒ警視局ニ於テ雇入度旨ニ付直ニ該局へ引渡候様取計中度此段相伺候也

櫻島出張御用掛西久保紀林ヨリ上申書

昨十二日午後二時頃ヨリ田ノ浦ヲ発シ櫻島着戸長役場へ車陣病院設置ニ依リ先ニ出張ノ官尉ハ本日赤水村上野友助宅ニ移転ニ依テ友助宅ニ至レハ戸長横山源左エ門ニモ来リ居ル全島ノ景況ヲ問フニ差向異事ナキト尚警視隊ノ屯所に至リ同ク問フニ其答モ亦同一ナリ然シトモ先月三十一日頃前三日間ハ頗ル夷情アリ昨今其不良ヲ謀リタル魁西道村士族今村直次郎外三四名既に捕縛シ其他鹿児島市街ノ平民等本日一戸頃官ノ大卒等ヲ害シタル愚漢当地潜伏ニ付日々探索捕縛中ナリト云フ

一当島士民突ハ兩端ヲ持スト雖トモ既ニ數方ノ官兵賊ヲ圍ミアルニ付其景況ヲ伺ヒ居ル模様ナリ

一島津家遠從トシテ追々各郷ヨリモ交代等ニテ当地へ来ル由尤先般避難ノ時ト比較セハ概十分ノ一ナラン谷山辺へ立退タル鹿児島ノ士民モ昨今櫻島へ来投ス

一田二ノ丸島津津より遁出タル隨從ノ者ノ既ニヨレハ賊糧食ノ欠乏ハ疑ヒナシ四五日前田二ノ丸ニアル島津ノ用米凡百俵ヲ頻ニ請求ス隨從者同所潛居中ハ不差出ノ短立退タル跡ハ必掠奪ナラン昨今賊ハ玄米ノ粥ヲ食フト此島津ノ米ヲ取レバ今日ヨリ凡六七日は糧食モ続クベキ歟ト

一賊ハ口大手辺或ハ招魂社ノ近傍其他大概竹棚ヲ設ケ且所々ノ要地ニ穴ヲ穿テ砲彈ヲ潜ルト帰順降伏人再ヒ応シタルハ銃刀ナキ者若下アリ是等ハ皆極木津ヲ擧タリト是モ過日遁シ出タル島津家從ノ咄シナリ

右之趣上申仕候也

九月十三日

大書記官宮官木村利文瀨奥憲ヲ率ヒ宮崎ヨリ阪庁

右日記

九月八日雨

千秋廣官木村利文瀨奥憲ヲ率ヒ午前第七時加治木ヨリ汽船快順丸ニ

乗込同十一時福山ニ達ス午後六時都ノ城ニ達ス此日県令ヨリ鹿児島ノ形況を報知アリタリ

同 九日晴

朝都ノ城ヲ發ス山ノ口染ノ木通過シ午後第六時宮崎へ達シ久世源七方ニ泊ス支庁長并ニ裁判事等米リ談話ス

同 十日晴

朝支庁へ出支庁長并ニ支庁詰官員ニ今回動搖ノ顛末ヲ逐一示達ス

同 十一日雨

同上病院ヲ巡視ス

同 十二日晴

朝宮崎ヲ發ス午後第六時都ノ城ニ至リ村田某ノ家ニ泊ス

同 十三日晴

朝山張所ニ至リ出張所具他建家ノ模様ヲ検査シ直ニ同所ヲ發シ正午福山ニ達シ午後第五時加治木ニ着ス

九月十四日

總督本營ヨリ電報

其県下各地へ架設ノ電信線へ妨害致候者有之屢々破損不通ニ相成此際甚不都合ノ事ニ付今後右等ノ事業之レ有ルニ於テハ屹ト取組シ嚴科ニ処ス可ク候衆心得違ヒノ者之レ無様消遣人民へ相諭シ置申ス可ク候且治道市村役人ニテ注意致ハ勿論人民ニ於テモ其所有地丈クハ各々注意致シ電信線妨害之レ無キ様致ス可キ旨大至急各地方へ相達請書取置申可ク候

本文之趣極ク急ヲ要スルニ付電信ヲ以て其県支庁及出張所へ相達シ其地最寄々々ヨリ布達候様取計ラウ可シ

九月十二日

宮崎支庁へ電報

県下各地へ架設ノ電信線へ妨害致候者有之屢々破損不通ニ相成此際甚不都合ノ事ニ付今後右等ノ事業於有之ハ屹度取組テ処置候衆心得

意之者無之様相論且ツ町村役人ニテ注意致スハ勿論人民ニ於テモ其
所有地内ハ銘々注意致シ電信線妨害無之様可致尤大至急各地方へ相
違請書取置キ可中日終宵本營ヨリ被相違候條其庁所轄ノ沿道へ官員
出張致居候場処ハ其最寄々々ヨリ布達候様可取計此旨相違候事

同四答書

管下沿道電信線破損ノ義ニ付以電信御達相成處ニ別紙之通布達取計
候條比段中懸仕候也

九月十四日

別紙

番外一号

県下各地へ架設ノ電信線へ妨害致候者有之屢々破損不通ニ相成此際
甚不都合ノ事ニ候今后右等ノ処業有之ニ於テハ屹度取札嚴科ニ可処
候条心得違ノ者無之様戸長ハ勿論於人民モ其所有地内ハ銘々注意
致候様可相違旨征討總督本營ヨリ御達相成候條一同堅相守何方ニテ
モ妨害ノ所業有之ヲ見聞致候ハ、当庁及警視分署巡行巡查へ可届出
此旨布達候事

明治十年九月十四日

官崎支庁

同庁ヨリ同書

八月三十一日第五号ヲ以兵器取纏御庁へ相回シ可中旨御達之趣敬承
致候然ル処今般鹿尾島事變ニ付テハ御庁ノ都合モ可有之候間送付方
暫時見合置可申渡至急御下命有之度候也

九月十三日

指令

書面申出之趣ハ尚相違候迄其庁ニ格護可致置候事

郡ノ城電信分局長山伸誠へ電報

加治水表に電信分局開設相成度此段御照会ニ及フ

別働第二旅団本陣ヨリ掛合書

大阪府下第七大区一小区平民

医生 浜野 三平

右之者誠ニ其奥飯病院へ白仕之処過日賊兵急刺襲撃之際終ニ賊手ニ
陥リ夫卒ニ使用セラレ其後相違レ永吉村へ潜伏候処去ル三日官軍進
入ヲ見受云々別紙之通り申出候ニ付則テ書類添本人護送御引渡及ヒ
候右ハ元来官軍進入已米数日ヲ経自官侯段迄タ不審ヲ不覚候間猶詳
細御取調相成度此段中進候也

十年九月十三日

別紙畧

同四答書

当県御用掛

医員 浜野 三平

右之者過日賊兵襲撃之際賊手ニ陥候処其後遂ニ賊手ヲ脱シ去ル三日
官軍進入ヲ見受ケ御用掛本人始末申出候ニ付当県田ノ浦出張所へ護
送相成尚御申越之趣委止了承右ハ当県医官ニ相違無之且賊兵ニ捕ハ
レ候ト来ノ願末詳細取札ノ処決テ疑念ノ餘無之候ニ付是迄ノ通臨時
病院掛為相動申候此段御回答等申進候也

山県參軍へ何書

県下薩摩國蒲生郷米丸村賊徒彈藥製造所跡ニ有之彈丸其外別働第三
旅団ニ於テ分捕致候物品処分方之儀ニ付別紙ノ通知治水出張所詰官
員ヨリ伺出候処右者出張官員見込之通り処分致シ可然哉此段相問候
也

九月十三日

指令

何之趣ハ重臣砲廠ヨリ官員差出処分可致審ニ付旨可相心得事

別紙

蒲生郷米丸村賊徒彈藥製造所跡ニ有之彈丸其外地鉄類別働第三旅団
新十番小隊分捕其儘同村へ預ケテ今処分無之村民ニ於テ甚難波ノ旨

第三課申付候事

滋賀県平民 中島 桂之助

九月十五日

内務大藏兩卿へ電報

八月廿六日暴風ニテ鹿兒島磯街道大ニ損シ人馬通行差支ニ付修繕之儀征討參事ヨリ達セラレ候因テ当県臨時費金ヲ以テ仕込此節修繕着手ナリ此旨御届ニ及フ

清田出張官ヨリ加治木出張所へ通知書

去ル十三日夜ヨリ飯野加久藤地方ニ於テ賊兵屯集之懸伝聞致シ小林吉田駐留隊軍兵ニハ急ヲ設ケ防禦ノ準備致シ候ニ付其筋ニ於テ専ラ偵察ニ相成候如該地方ニ數名徘徊致シ候ヨリ外格別ノ異聞モ無之先民情穩安ノ姿ニ有之候次第探偵人ヨリ通知有之ニ付此段中道候尚景況通知次第御報知可仕候也

十年九月十五日

八等属藤田定信外二名巡回先ヨリ上申書

以飛信室一書候本月十二日谷山ニ泊翌十三日高所発足昨十三日午後三時川辺郷へ着直ニ警視隊ヲ問合候処同隊ハ本日朝當郷發足ニテ阿多郷へ不機引揚候趣於是先戸長ヲ呼出シ当此ノ事情委細尋問ノ末親シク草薙ノ在ル処ヲ説諭致候處當郷中ハ最初ハ肥後家之助小倉啓助ナルモノ、脅慕ニ応ジ百六十余名ノ者一時山谷山表迄離脱候処緋田中佐既ニ同郷へ探込ノ後ニ付途中ヨリ悉ク散乱シ統テ警視隊並郷へ探込ニ相成候ニ隨ヒ陸續帰順ヲ願山候ニ付悉ク縛ニ就キ同隊本部へ護送ニ相成候者百三十五名ニ及ヒシト其者前日帰順ニ及ヒシ者ニテ其余此度新ニ出兵セシ者ハ悉ク自覚謹慎中付右之趣通知致候右肥後家之助ナル者ハ賊魁ト共ニ延岡ヨリ来リシ者ナレ共兩三日潜伏ノ末官兵ノ探偵嚴ナルニ付終ニ遁ルベカラサルヲ計リ今日ヨリ住キ三日自首シテ縛ニ就キ又小倉啓助ナル者モ十二日伊作郷ニ於テ警視隊ノ縛スル所トナル於是當郷ハ勿論近郷加世田始メ伊作阿多勝目知寛等諸郷ノ人心大ニ鎮定ニ及ヒ候趣篤ト警視隊及戸長ノ者ヨリ承知致シ候ニ付先此景況ニテ當節諸郷ハ格別懸念スヘキ儀無之候間御安意被成下度警視隊モ本日ノ景況ニヨリ候得ハ當筋出張ノ者一時引

揚ニ相成候得共口位置持場ノ者ハ悉ク其他ノ屯所へ詰居リ南方加世田筋ハ二十名三十名位夫々派出致シ當郷詰ノ者ハ未タ無之候得共一両口ノ内ニハ夫々手當可相成白尚追々人員等モ増加スル趣ニ承中候一今般飯順ノ者再ヒ出兵ニ及ヒシ郷ハ當地ノ外ハ今泉善人ニ多少有之計リニテ加世田ヲ始メ當筋所管ノ郷中ハ一人モ出兵等致シ候者無之趣且ツ知寛表ヘモ今朝出張ノ末當ト実地相調候処誠ニ存外ノ事ニ御座候

一如賢出張所詰ノ者川上四等属ヲ始メ一同往キニ加世田ヨリ乗船一ト先天下草島へ避難致候処官軍進軍ニ隨ヒ阿久根ヨリ上陸々地進行致シ漸ク昨夜勝目郷迄来リシ趣今日承知致シ候ニ付不取敢我輩出張ノ次第ヲ申述シ川上氏ヘモ面会シ諸事訂合此模様ニテハ更ニ萬念スベキ程ノ事モ無之ニ付明日ハ不取敢知寛表ニ出張罷設可致積ニ決シ近郷巡回ノ事ハ其ニノ事ニ相定メ申候猶明日詳議之上近日一人官城筋ヲ經テ委細上申可仕候得共先御安堵相成候為メ不取敢此段上申候也

追テ此上人心全ク平定ニ及ヒ士氣各共莫ニ安シ候ニ至ルノ期ハ惟警察ノ需ナルト遊兒島戰爭ノ景況ニ有之ノミニ御座候

十年九月十五日午後七時発

長崎ヨリ飯野	四等属	川井 保 厚
同	外属官	八 名
水引出張所詰申付候事	六等属	高 木 正 録
依願雇差免候事	雇	齊 藤 栄 山

九月十六日

本日ヨリ第六課ノ事務ヲ船中ニ取ル蓋シ其金穀及ヒ緊要ノ書類ヲ取扱フヲ以テ此際大ニ戒嚴スル所アレハナリ其般ハ快順尤

警視出張所ヨリ通知書

飯野郷探偵掃署ニ付別紙及御通知候也

九月十六日

別紙

九月十一日午後八時加治木出立十四日飯野郷麓ニ着探偵マルニ四五日以前飯野ノ内山鳥門前ニ残賊五名来リ内ニ二名帯刀三名脱刀ニテ加久藤郷ノ内東永江村字久野木三原ト云ヲ指テ立越候由一十ヨ計前加久藤郷ノ内西永江村へ賊二名脱刀ニテ来リ糧食ノ手当ヲ為シ直ニ前郷ヲ指テ立越候由

一飯野加久藤兩郷ニ残賊徘徊致居候云々ハ全ク虚説ニ御座候

一飯野郷麓士族畑野某ナル者官兵進軍ノ際尽力致候処過般賊徒突入之節先キニ帰順セシ者共右畑野ナルモノヲ賊ニ告テ慕縛同人ハ終ニ被害タル趣尤モ賊ニ告タル人員十五六名程官兵ヨリ縛シ此程人吉裁判所へ送致相成候趣承知セリ
右探偵手續取調如此御座候也

探偵人

九月十六日

岩本七郎

谷止出張五等屬親康忠紀ヨリ上申書

山川郷分署詰知覽喜入等受持三等少警部難波喜太郎ナル者急キ当出張所へ来リ云ク該郷戸長トモ魁官トナリ士族ヲ煽動賊ニ応スルノ意謀頭然タルヲ以右戸長共ヲ捕獲シ覺今ノ者ヲ追々探偵捕縛候旨ニ有之候処差向戸長心得ノ者ヲ操筆候ハデハ万端差支不少然ルニ県官出張モ無之又知覽出張所詰ノ者モ未タ歸リ来ラズ旁以当出張所ヨリ一名該郷へ出張ノ儀談示有之候ニ付不取敢一名差出置候得共至急右郷々へ県官派出候ハテハ大人心ノ向背ニモ関シ候耳ナラス諸事不都合ニ可有之ト相考候条遠ニ派出相成候様仕度此段上申候也

九月十六日

同回答書

知覽喜入等へ官員派遣之儀ニ付山川郷分署詰難波警部ヨリ示談有之候旨云々申立之趣詳知右ハ既ニ去ル十二日官員六名川辺郷へ派出為致内兩三名ハ右兩所へ可相廻寄ニ付最早到着候儀ト存候間其辺警部へモ可申渡此旨及同答候也

山県参軍ヨリ来書

頃日米コレラ疾伝染ノ微候有之趣医官ヨリ申出候処右ハ極メテ輕忽ニ難差置儀ニ付即チ別書ノ通りヲ防法為取調出征各旅団并ニ出張警視ニ致有違置候条其片ニ於テモ予防之方法為取調至急鹿児島近傍人民へ布達有之度候也

九月十六日

治テ諸災莫ハ當時縣子不時ノ者ニ有之候条尙却不可致旨是又布達相成置候也

別紙

第一条

各旅団医官ハ時々其旅団受持ノ区域を巡回シ汚物等惣テ健康ヲ害フベキ者ヲ見レハ速ニ遠隔ノ地ニ投棄セシムベキ事

第二条

コレラ病ニ類似スル病者ハ輕症タリトモ直ニコレラ病院へ輸送スベキ事

第三条

下痢スル者ハ速ニ医官之診察ヲ乞フベキ事

第四条

厠園ハ可相成大遠隔ノ地ニ設ケ糞充積スル時ハ速ニ投棄スルカ或ハ之ヲ埋メテ更ニ他所ニ設ヘキ事

第五条

食物ハ可成又新鮮ノ品飲水ハ清純ナル者ヲ撰ムベシ聊タリトモ腐敗ニ傾ク者及ヒ混濁臭氣アル水ヲ用ユヘカラス又アルコールド質アル飲料多量ニ用ユヘカラサル事

第六条

災莫ハ惣テ喫スルヲ禁スベキ事

第七条

湿衣ハ速ニ交換シ襪衣ハ時々洗濯スベキ事

第八条

フラ子ルモンバ或ハ木綿ニテ製シタル腹巻ヲ用ユヘキ事

第九条

身体ハ可成丈清潔ニスヘキ事

第一条

コレヲ病者ノ死体ハ人家遠隔ノ地ニ於テ速ニ火葬或ハ火葬スベキ事

第十一条

コレヲ病者ニ用ヒシ襦袢及毛布等ハ惣テ焼捨ヘキ事

但シ焼捨ヲ要セサル者ハ必ス消毒薬ヲ施スベシ

川村参軍ヨリ鹿兒島出張官員ヘ達啓

鹿兒島県廳

細井 濟

右者飯野ニ於テ賊ニ捕縛セラシ候処昨日遁レ山當營ヘ届出夫々取調
濟ニ付引渡候条與令ヘ差送り方可取計此旨相達候也

九月十六日

鹿兒島少衛視県計ニ来ル

大書託官越川重平ヲ率ヒ鹿兒島ヘ出張同日得計

賊徒ヨリ帰ル

細井 濟

志有志出張申付候事

元等属 大江 通

宮崎支庁詰申付候事

八等属 安藤 小次郎

同

九等属 平田 実

同

山本 鉄心

右ハ延岡出張ニ付同庁ヘ之ヲ送付ス

越川 重平

鹿兒島出張申付候事

雇

依頼出仕差免候事

等外・等出仕 福井 家規

右帰省中ニ付山口県ヘ之ヲ郵送ス

九月十七日

旧私学校鑑ス

鹿兒島出張官員ヘ電報

三浦院長至急谷山ヨリ呼歸シ同人を直チニ林軍医ノ方ヘ遣ハシ伝染
病予防ノ事ヲ打合セノ上加治木ニ差歸ス様御取計アルベシ

衛生局ヘ電報

当県下谷山郷ニシテ流行シテ林軍医正等ニ協議シテ防法相設ケ候
得共尚舊屆ヨリ至急ニ防法御廻シアリタシ

桜島出張官員ヨリ報知書

鹿兒島塩屋村平民

政吉

藤太郎

右兩名留テ強患ノ聞ヘアルモノニテ本月一日県下騒乱ノ際松原神社
ノ辺ニテ官人人体ノ者ヲ殺シ諸物ヲ掠奪シタルヲ見タル者アリ

同塩屋村ノ内沖ノ村

平民 小橋金太郎二男

小橋 甚助

外ニ二十名余

右其助儀賊ノ人夫長ニテ先般戦地ヘモ罷越居近事帰郷本月一日騒乱
ノ際右村ニテ官人ヲ引連テタル人夫二十名余ト共ニ官兵及ヒ官夫等ヲ
殺シ諸物ヲ掠奪スト殊ニ巡查ニ出逢降伏セヨト云巡查恐テ小銃ヲ以
打ントス其時數名取り掛リ之ヲ殺シ銃ハ賊ニ送ルト云甚助ノ妹果モ
共ニ殺害ノ念ニ与ス現ニ一見シタル人ノ咄ナリ今甚助其他谷山ノ
脇田ニ居ルト云

右聞取ノ儘記シ置候

明治十年九月十七日

右之通山口大警部ニ面会之節書付差出候処政吉藤太郎ハ其聞ヘヨ以
前手シタリ未タ捕縛セス猶甚助其他モ着手ストイヘリ

鹿兒島出張官員ヨリ報知書

今年前第十時頃ヨリ岩崎ヘ放火竟ニ蔓延シテ私学校ヘ焼付全ク灰燼
トナル午後第三時鎮火セリ但シ放火ノ原因ハ官兵焼玉ヲ發シ折田平
内ト云フ者ノ宅ヨリ焼出シ候趣同所過半焼失官兵ヨリハ不相換砲発
開斷ナシ 以下畧之

九月十八日

依頼差免候事

雇

佐瀬 精一

九月十九日

内務卿ヨリ電報

県庁官舎新築ノ事關屈ケリ費用之儀ハ或ハ省略シ旧官舎所屬ノ建物等不用之分ハ取用ヒ目論見相立尚何出ベシ

内務卿ヘ電報

県庁新築木材日州鉄肥郷官林ノ中立木伐採致シ非常予備金ノ内ヨリ仕払ヒ候積リ此旨御届ニ及フ

在京管根一等ヨリ電報

土木官員選舉之儀本人非役ノ者ハ当地ニ於テ仮ニ県命ノ辞令ヲ渡シ又在職ノ者ハ県命ヲ以其官庁ヘ掛合直ニ本県ヘ出向相成候様取計ヒタシ至急御指令ヲマツ

同回報

土木官員選舉ノ儀ハ寫ト吟味ノ上然ル可キ者ハ申越シノ通リ取計フ

ベシ

長崎三菱会社ヨリ電報

過般御用ニ備ヘタル高千穂丸ハ何頃神戸ニテ差立ニ成哉本船ハ拒テ往復一ト立限リ街借リ上ケニナリ神戸ニ居リテ御要害相成當就テハ人民荷物運送ノ為メ都合アリ彼地使者ヨリ此節ノ御都合伺ヒ越シマシタ何分ノ御沙汰ヲ仰キ奉リマス

九月十八日

同回報

高千穂丸イツ頃神戸ニ差立ニナルヤ同合ノ旨承知セリ鹿児島未タ戰爭中故米陸上ケ相整ハス依テ今暫ク止メ置

郵便局ヘ電報

高千穂丸組島ヘ廻船之儀過日御掛合ニ及ヒシ処右ハ都合ニヨリ直チニ加治木ヘ河津同港ニ碇泊セリ然ルニ鹿児島未タ戰爭中故米陸上ケ相整ハス依テ今暫ク止メ置ク此段御届ニ及フ

衛生局ヨリ電報

谷山郷ニコレヲ流行ノ白承知セリ予防法書類ハ八月廿三日三十一日ノ両表ニ郵送シタレトモ今日又々郵便ニテ谷山郷流行ノ原因ハ長崎ヨリ品川丸ニ乗込タル巡査ヨリ伝來セリト伝ヘ聞ク船ノ出入

リ當時別シテ注意アリタシ

九月十九日

番外布達

近來管下谷山郷返ニコレヲ病俗ニコロニ罹リ斃ルハ者數名有之右病ハ伝染蔓延スル惡病ニ付銘々注意予防ノ為メ別紙予防法相示シ候間各自衛生可致付テハ未熟之藥物類売買候儀一切嚴禁候条此旨右達候事

別紙

此頃長崎ヨリ來港ノ品川丸号乗合ノ者ニコレヲ病俗ニコロニカ、リテ斃ルハ者アリヨリテ其船中ニ乗組候人ヲ悉ク知林島ニ送リタレ共此病一端近傍ニ浸入シ若シ一人タリトモ此病ニ感スル時ハ追々伝染蔓延スルモノナレハ世ニ恐ルヘキ惡病ナリヨリテ各自予防法ヲ守リテ吾人トモ此害ヲ免カルヘキヨウ心得ノ為ニ示ス左ノ如シ

第一条

食物ハナルタケ新鮮ノ品飲水ハ清純ノ物ヲ撰フヘシ聊タリトモ腐敗ノ氣味アルモノ并ニ泥濁臭氣アル水ヲ用ユベカラズ又燒酎酒等ヲ多量ニ用ユヘカラス

第二条

尤通常ノ食物ニテモ不消化ノモノハ過食セサルヨウ注意スベキ事

第三条

柿梨子西瓜之類總テ生物ハ食スヘカラサル事

第四条

身体ハナルタケ清潔ニスベシ若雨水等ニテ衣ヲ沾シタレハ速ニ着換ヘ非難ハ時々洗濯スベシ尤モ衣服ハ感冒下痢等ヲ予防セシカ為常服ノ外ニフウ子ル木綿杯ニテ小腹ヲ巻キ足ニハ毛布ノ腹引ノ類ヲ穿クヲ良トス

但雨風ニサラシ夜氣ヲ侵シ或ハ寝冷ヘセサルヨウ別シテ注意スベシ

第五条

住所家屋ノ近所ハ常ニ掃除ヲヨクスベシ則圖ハ糞ノタマフスヨウニ

シテ得タメノ塵芥ハ取除キ都テ健康ヲ害スル臭氣ノナキヨウ精々注意スベシ

第五條

此頃下痢ヲ発セハ速ニ医者ノ診察ヲ乞ヒ若シコレヲ病ニ相似タル症アラハ輕症タリトモ直ニ區戸長ニ届ケ出ヘキ事

第六條

若此病ニ係リ死スル者アレハ人家遠隔ノ地ニ於テ火葬又ハ墓地ヲ十分ニ深ク掘リテ埋ムベキ事

第七條

此病ニ染テ死スル人ノ病中ニ常用シタル衣類其外病者ニ触レタルモノハ總テ焼捨ツヘシ若シ燒捨ヲ要セサル品物ハ医者ニ乞フテ消毒ノ法ヲ施スベシ

以上

親族氣ニ付し出願許可ノ上滞省	七等属	近藤	真言
田ノ浦出張申付候事	御用掛	本多	玄安
田上村出張申付候事	御用掛医員	安原	一郎
同	同	小林	兼三

九月廿日

内務卿ヨリ電報

鹿児島ヨリ宮崎街道々路修繕着手ノ儀聞届ク費用取調ヘ申出ベシ

同回報

鹿児島ヨリ宮崎街道々路修繕ノ儀御聞届ケノ旨承知セリ右ハ征討參軍ヨリ指令ニ因リ着手中ニ付費用ハ取調ヘノ上追テ中ヒヘシ

内務大臣兩卿ヘ電報

本年地租收入之儀ニ付テ伺置キノ件ハ検見期節追々差シ迫リ候ニ付至急御裁決ヲ待ツ

在東京一等區區長根野大ヘ電報

本年租税收入方之儀追々季節差臨ムニ付至急御指令ノ儀督促致スベシ且可成丈ケ御用取り片付ケ済ミ次第急キ取置スベシ

長崎県令ヘ電報

此頃領地ニコレヲ流行ノ由如何之模様ナリシヤ又此頃船舶取締設ケラレシヤ如何委細返事ヲマツ

同回報

当港ニ於テ本月上旬ヨリコレヲライチノ伝染病流行スレトモ未タ伝染ノ勢イハ薄シ專ラ予防嚴密ノ方法已ニ着手セリ又船舶出入ノ取締方モ即今着手中委細ハ跡ヨリ郵便ニテ通知ス尤モ差当リ出港ヨリ其地ヘ航海ノ船舶乗込人ハ御注意アリタシテ予防法等ノ書類ハ已ニ郵便ヨリ送致シタリ

沖奈川県ヨリ電報

当港コレヲ流行專ラ予防施行中ナレトモ患者總員九十余名内死スル者三十余名ニ及ブ若シ此病氣ニ感スル者渡海モ計リ難シ依テ御報知ニ及ブ

谷山出張官員ヨリ上申書

当鄉村々巡回村内ノ動靜ヲ現人心ノ向背ヲ察スルニ下在 和山下福元 等ノ三ヶ村ハ賊ニ再心出兵セシ者ニ寡ク將賊徒立入士民ヲ煽動シ或ハ脅迫セシトコトモ不相聞背鹿児島ヨリ避難ノ者多人數有之候得共方今不良ノ者潜居候様ノ儀ハ無之先以平穩ニ相聞ヘ候上在 山田中村五ヶ 等ノ村々ニハ賊徒水谷卯一ナル者其他數名立賊士民ヲ協迫セシヲ以テ既ニ応援出兵セシ者凡四十名且此輩ニ乘シ不良ノ輩東奔西走人民ヲ鼓動シ巡查四名及鹿児島ヨリ立退來リ候商民等ヲ殺害シ又ハ人家ニ押入物品ヲ掠奪セシ者等モ若干有之其巨魁連累ノ者警視隊ニ於テ已ニ捕獲セシ事凡四百名ニ向テシト然ルニ中村山田五ヶ別府等ノ村々ニハ右不良ノ徒追逃山中ニ潜伏シ中村ノ如キハ夜中在方ヘ出沒竊ニ居民ヘ飲食ヲ請求セシ赴モ相聞ヘ候ニ付一層戸長ニ注意為致右等ハ速ニ改正帰順ノ道ヲ違ハ様懇諭致置其旨警視本營ヘモ及原會置候尤巡回先ニテハ重立候農民ヲ相招キ夫々厚ク説諭ヲ加ヘ置候

一週月上申仕置候コレヲ病ヲ患ヒ候巡查ハ已ニ知林島ヘ送付相成リ

且ツ当地ニテ伝染セシ警視警視隊中ノ者ハ障子川傍ニ仮病院ヲ建
設相成リ患者ハ總テ該病院ニ於テ療養有之候事ニ相決シ候趣然
昨日来此地へ居民ノ内ニモ感染セシ者已ニ三名漸次伝播候テハ不
容易ニ付是等モ同様異所ヨリ別段人家懸隔ノ場所ニ於テ仮病院
ヲ取設ケ患者ヲ退ケ其病根ヲ斷滅セズンハ大ニ憂延ノ懼アルヲ以
テ右患設ノ儀ニ付綿貫少警視ヨリ協議ノ次第モ有之候旁以當所ノ
人家ヨリ凡二丁丁相隔テ候松田為高ナル者ノ別邸ヲ以テ御取設相
成候ハ、至極可然相考候條醫員派出之儀御下命相成度此段添テ上
申仕候詳細ノ儀ハ鎌田信夫ヨリ直ニ上申可仕候也

十年九月廿日

宮崎支庁ヨリ伺書

從前支庁下へ貸座敷芸妓娼業免許ノ者有之候趣即今追々免許并ニ
娼業トモ願出候者有之右ハ旧宮崎縣施行規則ニ照準不都合ノ儀無之
分ハ當所限門屈置追テ取束子上申シ可然致至至御指揮有之度依之規
則寫相添此段相伺候也

明治十年九月十八日

指令

伺之通

右規則寫真之

歸序

御用都合有之帰序申付候事

九月廿一日

島津邸火

東京衛生局ヨリ電報

コレラ病ノ調ベハ予防心得之通り廿四時間毎ニ死去シタル人員及新
タニ罹リタル病者ノ員數ヲ調ベ日々管下及當局ニ報告スベシ

九月廿一日

同回報

コレラ病ノ調ベ日々報告ノ儀承知セリ予防心得至急御廻アリタシ且
又先頃御依頼ニ及ヒ置タル藥品早ク御廻シアリタシ

各開港場府県及近県へ電報 各通

当県下谷山川内桜島ニコレラ病流行死スル者已ニ二十三名程尚追々
流行ノ模様アリ右ハ入港ノ船舶乗組ノ者ヨリ伝染セリ御心得ノ為
ノ御通知ニ及ブ

谷山川内桜島三出張所へ達書

此程管内各所ニコレラ病流行候趣過日来長所轄内ニ於テ右病症ニ罹
リ候者死生共人員取調至急可届出且向所ハ二十四時間毎ニ死亡候者
及患者共日々取調可申出此段相達候也

追テ本文二十四時間ハ発病ヨリ死亡ニ至迄ノ時間ニ付此旨可相心
得候也

甲第四十号布達

熊本県下阿蘇郡黒川村ニ於テ伝染病類似ノ疫牛馬十二頭死亡候旨通
知有之候ニ付管下ニ於テモ稍々注意シ右等ノ伝染病ニ罹ル牛馬有之
節ハ速ニ可届出此旨布達候事

軍団本営ヨリ達書

解放ノ軍夫中五十長或ハ百長等帶刀之儀歸県候者有之右ハ不都合不
少候條獨後出征旅団等ニ於テ解散ノ節總テ帶刀候ヲ見受候ハ、大々
取締可致旨其県警視官へ可相達事

九月十九日

安藤中警視并綿貫少警視へ通知書

鹿児島軍団本営ヨリ別紙寫之通被相達候條可然御取計有之度此段及
御通知候也

別紙同前

宮崎支庁及加治木知覽水引垂水田ノ浦谷山出張所へ達書

鹿児島軍団本営ヨリ別紙寫之通被相達警視官へ通知ニ及置候條為心
得此旨相達候事

別紙同前

支庁各出張所へ達書

各区正副戸長ノ内今般ノ騒乱ニ付不都合之聞へ有之候者ハ速ニ免職
可申付等候ニ付行狀書ト取調且右代員ノ儀モ見込相添早々可申出此

旨相達候事

東京出納局田辺金一郎ヨリ電報

九年渡家銀十六万円余ノ内先ツ五万円御渡申ス可キ旨承知当局長崎
出納所ニテ御受取アレ大蔵卿へ電信ナレド主筆故拙者ヨリ御答

西等属 古賀 保高

右ハ本月十三日ヲ以テ熊本県ニ等属ニ転任ス

往復書累

御用都合有之滞行中付候事

十等属 野中 法隆

知覧出張所詰申付候事

等外三等出仕

岩田 烈

谷山出張申付候事

御用医員

西田 弥学

同

同

柏木 弘毅

九月廿二日

衛生局長ヨリ電報

コレヲ防心得ハ十八日ヨリ兩度郵便ヨリ送リタリ藥品ハ来ル廿六
日ノ便船ニテ長崎マデ送り同県ニ頼ミ置ケ可シ

内務卿へ電報

今日川村参軍ヨリ承ルニ賊軍ノ内ヨリ山野田一輔河野主一郎昨廿一
日高嶋ノ手ニ米ルニ付捕縛之上其筋ニテ丸彈ノ処西郷等暗殺ノ次第
及ヒ御征討ノ趣キ尋問ノ為メ罷越タル由賊徒窮迫ニ付辞柄ヲ設ケ降
伏ノ手立ト察セリ

支庁各出張所へ達書

各区正副戸長ノ内賊徒ニ党与シ或ハ私罪等ヲ犯シ就縛ノ者ハ直ニ職
務差免シ速ニ右人名可届出此旨相達候事

但本文戸長免職ノ後代員ノ儀ハ昨廿一日相達置候道可相心得事

山県川村参軍ヨリ達書

島ノ浦ニ覽(マ)ノ獲有之降伏人大概単衣汚穢ノモノヲ纏著ノ者ニテ
追々冷氣相慕候ニ付テハ夜間等難相凌景況ニ有之由ニ相聞候ニ付テ
ハ其旨ニ於テ早々相当ノ手当方有之度候也

九月廿一日

安藤中警視へ掛合書

島ノ津ニ監護有之候降伏人衣類ノ儀ニ付別紙之通向参軍ヨリ達有之
然ルニ該降伏人ハ其テ御局於テ御取計可相成筋、被存候間可然御処分相
成表仍北段申進候也

熊本県令ヨリ電報

二十七日賊七百計リ米良山ノ内ニ出テイタヤスギツキニ向ケ行ト
本日人古ヨリ報知ス其他ノ様子時々報知アリタシ

八月廿九日 本日着

同

残賊日向ノミカドニ敗レ薩ノ小林飯野加久藤エイデタル由預知アリ
タリ海軍御警備アリタシ

八月廿五日午後四時発 本日着

島尾陸軍中將へ伺書

御省本年丁第四百十九号ヲ以テ御達相成候戦死遺族ノ者へ御手当金
ノ儀当県ニテ一時操替ヲ以テ渡方取計置右金額受方ノ儀御省へ申立
可然哉又ハ該軍人所管ノ鎮台へ申立候儀ニ有之候哉至急何分ノ指令
御相成度候也

明治十年八月十七日

指令

何之趣丁第四百十九号達シ但書之通遺族ヨリ願出之都度其死者旧
所管へ速ニ可申出事

八月廿六日

郵便局長前島内務少輔ヨリ通知書

御県御備船之儀ニ付所轄郵便汽船三菱会社別紙写之通り相達候条為
御心得此段及御通知置候也

十月八月廿五日

別紙

郵便汽船三菱会社

鹿児島県備船トシテ其社汽船ノ内各艘同所へ廻航可致旨先般相達置

候処即今其杜汽船快順丸儀長崎港ニ於テ陸軍省御用船解放相成候ニ付テハ同船ヲ以テ鹿兒島港へ差廻候様可被取計尤本船ニ屬スル費用ノ儀ハ陸軍省雇上ノ振合ヲ以鹿兒島県ヨリ下渡候儀ト可相心得事

郵便局長

十年八月

前島内務少輔

東京三菱会社岩崎某ヨリ電報

高千穂丸ニ童男童女アリ米モ亦五千石アリ令公之ヲ浮家泛宅トナシ跡ヲ泰ノ餘福ニ比セシスルノ意アリト聞ク公ノ意ハ果シテ如何ン

九月廿一日

県令越川重平ヲ率ヒ鹿兒島出張即日飯庁

巡回ヨリ飯庁

十等属

吉川 一 雅

依願免職

雇

篠塚 兼 当

九月廿三日

衛生局長代理内務権少書記官島田泰夫ヨリ來書

御県下鹿島其外数村ニ於テ虎列刺病流行四十名計死亡候旨警察分署ヨリ報告ニ付早速病院医員派出候得共尚医員并予防法相心得候モノ出向取計與度旨一日發電報昨日到達ニ付即時及御回答置候通別紙予防法郵送致候間精々御注意有之度尤過般支那廈門地方ニ於テモ流行之趣ニ付内國へ伝播候テハ不容易儀ニ有之速ニ長崎兵庫神奈川ノ三県へ予防手当可致旨御達相成尚一門上海等駐在之領事へ數回電報ヲ以往復候処全ク廈門地方ノミニ止リ示候病勢漸々減少其上上陸ニハ絶テ無之趣ニ付最早別段ノ着手ニ不及旨更ニ三港へ御達相成候儀ニ有之既ニ避病院ノ設置等ハ横濱始メ略相整居候間御地流行之病性蔓延之姿ニ至リ候得バ莫ニ不容易儀ニ付其根拠タル土地ニ於テ專ラ予防救療之法ヲ可施ハ勿論内國一般予防法心得方御達可相成ニ付今一回病院医師ノ診察書及ヒ流行性之減速等詳細ノ御報ヲ得バ御請求ノ派出医師等速ニ詮議可相成ト存御開申相付居候右申達候也

明治十年八月廿三日

別紙

虎列刺病予防法心得

第一条

外国地方ニ虎列刺病流行シテ内務省ヨリ検査規則ノ施行ヲ命スルトキハ開港場アル地方長官ハ医員衛生警察吏等ヲ撰定シテ其委員トナシ外国領事ニ協議シ該規則ヲ遵奉シテ予防拒絶ノ事ヲ担任セシムベシ

第二条

虎列刺病流行ノ地方ヨリ來ル船舶ハ港外一定ノ地ニ於テ検病委員其船ニ就キ船長并ニ医官ニ患者或ハ死屍ノ有無ヲ尋問檢案シ該病者ニ罹レル者或ハ疑似ノ症狀アルモノハ之ヲ避病院ニ移シ病者ナキモノト雖モ若干ノ時日ヲ限リ入港ヲ許サハルコトアルベシ

第三条

港口ニ於テ離島或ハ人家隔絶ノ地ヲ撰ヒ臨時避病院ヲ設ケ入港船舶ノ虎列刺患者ヲ入ルハニ供シ或ハ便宜ニ從ヒ該地方ニテ此病ニ罹リタルモノモ入院セシムルコトアルベシ

但シ避病院ハ其構造極メテ輕易ヲ主トシ三棟ヲ建ルカ或ハ一棟ニシテ三室ニ區画シ輕症重症恢復期ノ患者ヲ分テ置クベシ

第四条

避病院ニハ黄色ノ布ニQ字ヲ黒記シタル標旗ヲ建テ其境界ニハ制止標ヲ立テ鐵シク外人ノ交進ヲ絶ツヘシ且ツ該院ニ需用スル一切物品ハ使丁ヲ定メテ購求シ其使丁ハ決テ病室ニ入り或ハ病室汚染ノ物品ニ触レシムベカラス

第五条

避病院ノ病者全快シタルトキハ医員ヨリ全快ノ証書ヲ与ヘ衣服其他一切ノ什具ニ消毒法ヲ行ヒ退院セシムヘシ病者輕快ニ赴クトモ委員ノ許可ヲ得ルニ非サレバ決シテ院外ニ出ツルヲ許サス

第六条

避病院ニ於テ死シタルモノ、埋葬地ハ委員ニ於テ相定メ安リニ埋葬スベカラス但シ該地方ニ墓地ヲ有スルモノ委員ノ許可ヲ得消毒法

ヲ行フノ後ハ運搬スルモ妨ケナシ

以上六条開港場アル地方ニテ檢疫規則ニ參酌シ施行スヘキモノト
ス以下流行ノ時地方一般ノ予防ニ係ル

第七条

地方官ハ管内ニ亜細亞虎列刺病者アル事ヲ医師ヨリ届ケ出タルトキ
ハ其病性ノ真偽ト諸症ノ緩劇トヲ詳カニシ若真ノ亜細亞虎列刺病ナ
ルヲ確認スルトキハ委員ヲ命シ予防ノ方法ヲ着手シ内務省ニ申報シ
且ツ管内近隣ノ地方官ニ報告スベシ

第八条

医師ハ虎列刺病者ヲ診察スルトキハ其時ニ直チニ区戸長或ハ医務取
締ヲ經テ地方官ニ届出ツヘシ

第九条

地方官ハ医師ヨリ口々出ス所ノ申渡ヲ集メ患者ノ數ト死者ノ數トヲ
記シ毎土曜日之ヲ内務省ニ申報スベシ

第十条

地方長官ハ虎列刺流行ノ勢盛ナルトキハ日々二十四時間ノ死亡員數
ヲ管内ニ告示スベシ

第十一条

貨家旅店港泊ノ船字塋及ヒ諸製造所ノ主等總テ衆人ヲ管スルモノハ
若シ其内ニ虎列刺病ニ罹ルモノアルトキハ二十四時間内ニ委員區戸
長或ハ医務取締ニ届クベシ

第十二条

陣營ノ主一軍艦ノ船長モ其配下ニ虎列刺病者アルトキハ二十四時内
ニ其地方官ニ通知スベシ

第十三条

虎列刺病者アル家族ハ看護ニ緊要ナル人ノ外ハ成丈他家ニ避ケシメ
安リニ往來スルヲ許サス患者恢復或ハ死亡ノ後消毒法ヲ行ヒ十日ヲ
経ルニ非サレハ学校ニ入ルベカラズ

第十四条

虎列刺病流行ノ時ニ際シ地方長官ハ祭礼開市等無益ニ他方ノ人ノ群

集スル事件ヲ禁ズベシ

第十五条

前条ノ場合ニ於テハ地方官ハ病勢ノ緩急ト人口ノ多寡トニ応ジ管内
各市邑ニ於テ特ニ虎列刺患者ノミヲ療養スル仮病院ノ設ケ旅店ノ貸
家等多數同居ノ患者ヲ移シ入ルベシ

第十六条

委員ハ虎列刺病者アル家宅船舶ノ門戸入口ニ著シク虎列刺傳染病
リノ數字ヲ記シテ之ヲ貼付シ成丈ケ無用ノ人ノ交通ヲ絶ツベシ

第十七条

委員ハ特ニ虎列刺病者ノ吐瀉物ニ注意シ該病者アル家ハ一々其処置
ヲ示諭シ決シテ便所下水芥溜田圃河海等ニ投棄セシムベカラズ

附錄消毒法ヲ參酌スベシ

第十八条

委員ハ虎列刺病者アル家屋船舶器具等消毒法ヲ行ヒ或ハ之ヲ焼却埋
却スル等總テ病毒傳播ヲ防制スル便宜ノ方法ヲ設ケ地方長官ノ許可
ヲ得テ之ヲ施行スベシ 同上

第十九条

虎列刺病流行ノ時或ハ其患レアルトキハ委員ハ便所芥溜下水溝渠等
總テ一般ノ清潔ニ関スル事件ニ注意スベシ但シ掃除ハ既ニ流行ノ時
ニ及テハ或ハ行フテ却テ害アルコトアリ消毒法ヲ行フベシ 同上

第二十条

虎列刺病者ヲ運搬シ或ハ該病ニ罹リテ後他行シ或ハ患者若クハ屍体
ニ触レタル物品ヲ消毒法ヲ行ハサル前贈与受用スル等總テ不注意ニ
由テ病毒ヲ他ニ伝播スベキ事件ヲ禁ズベシ

第二十一条

虎列刺病者ヲ病院或ハ自宅ニ送ルニハ各地方ニ於テ此規則ヲ參酌シ
相当ノ手續ヲ定メ安リニ運搬転移スルヲ禁シ且ツ其運送器ハ世間公
用ノモノヲ用フルヲ許サス運送後消毒法ヲ行ハシムベシ排泄物或ハ
病畜ニ汚染シタル器具ヲ消毒法施行ノ場所ニ送ルモ亦其手續ヲ定メ
注意ヲ加フベシ 同上

第廿二条

虎列刺病者ノ死屍ハ該地方ニテ定メタル埋葬地ニ非サンハ他ニ運送スルヲ許サズ運送ノ器モ再ヒ生人ニ用フルヲ禁ス而シテ其通路ハ尤捷近ナルモノヲ撰ブベシ

第廿三条

内国ノ港灣ニ於テ往來ノ船舶ニ虎列刺病者アルカ或ハ十日以内ニ此病ニ斃レタルモノアルトキハ繫泊前其船ヨリ該地ノ委員或ハ区戸長ニ届出テ其差列ヲ受ケタル場所ニ碇泊シテ全ク外人ノ交通ヲ絶チ消毒法ヲ行ヒ其許可ヲ得ルノ後ニアラサレバ其所ヲ移ヲ許サズ

第廿四条

虎列刺病流行ノ地方ニ在リテハ便宜ノ場所ニ消毒藥販賣ノ所ヲ設ケ在來ノ藥店ニ命シ若シ藥店ナキ場所ハ新ニ此販賣所ヲ假設ス 委員ニテ其藥価ヲ一定シ購求スルモノニハ施行ノ方法ヲモ伝示セシムベシ貧困ノモノハ無償ニテ給与スルコトアルベシ

予防法附録消毒藥及其方法

虎列刺病ノ真因ト其蔓延ノ実況トハ未タ明了ナラスト雖トモ其病毒ノ特ニ患者吐瀉物ニ舍トレルコトハ諸説ノ一定シテ復タ疑ヲ容レサル所ナリ而シテ此吐瀉物モ排泄ノ後直チニ伝染ノ毒ヲ退フスルモノニ非サルニ似タリ少時ヲ經テ泡酸腐敗ニ陥リ然ル後始チ一種ノ伝染毒ヲ醸スルモノナリ故ニ吐瀉物ヲ他ノ腐敗シタル物ニ混スルトキハ其腐敗スル事太速カニシテ病ヲ発生スルコト最甚シ虎列刺病者ノ吐瀉物ヲ他人ノ糞尿ニ混スル 尋常ノ便所芥溜下トキハ大ニ其蔓延ノ勢ヲ熾ニスルモノナリ右ノ如クシテ發生シタル病者ノ人体ニ没入スルハ飲水 井水ニ病毒滲透シタルニヨル 食物 虎列刺病者ノ排泄物ヲ食ヒタル魚介家畜ノ肉或ハ該排泄物ヲ培養ニ供シタル蔬菜或ハ病者ノ氣中ニアリテ之ニ染ミ或ハ小虫等汚物ヲ齧シテ汚染スル等ヨリ伝ワルニ止ル 或ハ消毒法ヲ行ハサル便所ニ上ル等ナリ而シテ人体器具モ亦能ク病毒ヲ伝播スルノ媒介ナルモノナリ此故ニ海陸ノ檢疫規則ヲ以テ全ク此病ヲ拒絶スルノ企望ハ其目的ヲ達スルコト頗メテ難シトス而シテ消

毒ノ法ハ近來虎列刺病予防方法中最大緊急ノ事件トナリ其予防ノ実

績ヲ奏シタルハ各国ノ普子ク實驗スル所ナルヲ以テ此方ヲ施行スルハ之ヲ人民各目ノ注意ニ任シテ足レリトスヘキモノニ非ラス必ス勸奨或ハ強迫シテ嚴重ニ奉行セシムルハ保護ノ要件ナリトス是レ此方法ハ直チニ病毒ヲ撲滅スルノ力アルカ故ニ精密ニ注意シテ施行スルトキハ能ク其蔓延ヲ制シ且ツ該地ノ病根ヲ永遠ニ絶ツコトヲ得ルモノナレバナリ孰令歐洲諸國伝染病流行ノ時ニ際シテハ一般ニ之ヲ施行シ之カ為ニ莫大ノ國費ヲ要スト云フ

消毒藥中最有力ノモノハ石炭酸ヲ第一トス近來消毒法ノ声誉ヲ得タルハ職トシテ此發明ニ由ルナリ之ニ次クモノハ亜硫酸瓦斯ナリ綠礬ノ單用ハ防臭ノ能アルノミ病毒ヲ撲滅スルニ足ラス亦タ石炭酸ヲ配用スヘシ

消毒藥方

(第一) 粗製石炭酸

四十五分ヨリ六十分ノフエニル酸 (即チ結晶石炭酸) ヲ含ムモノニシテ精色ヲ帶ヒ流動シテ水ニ溶化シカタク「チール」ヲ化スレハ不快ノ臭ヲ発ス

(第二) 石炭酸末

右ノ粗製石炭酸ニ木炭。砂。灰。錫屑等ノ粗末ヲ化シタルモノナリ

(第三) 結晶石炭酸 即チフエニル酸又フエニルアルコール

無色ノ結晶酸ニシテ全ク水ニ溶解スルモノ 十八分至廿分ノ水ニテ既ニ溶解ス

(第四) 石炭酸水

結晶石炭酸一分ヲ百倍ノ水ニ溶シタルモノ

(第五) 石炭酸溶液

結晶石炭酸二分ヲ百分ノ水ニ和シタルモノ

(第六) 硫酸鐵ト石炭酸トノ混和溶液

「キロー」ノ綠礬ヲ十五「リトル」水ニ混シ三百瓦至三百五十

瓦ノ組製石炭酸ヲ加ヘタルモノ 此合劑ハ久シク貯フヘカラス

出ニ臨テ調合スベシ

(第七) 石炭酸蒸氣 用ニ從テ組製或ハ結晶酸ヲ用フ

石炭酸ヲ皿ニ盛り炎火ニ上ニ蒸散セシム

(第八) 亜硫酸瓦私

(消毒藥用法)

消毒法ヲ施行スルニハ(第一) 其瀉物吐物及ヒ此吐瀉物ヲ以テ汚シタル衣服夜具紙屑布片等及ヒ其屍体

(第二) 患者ノ消毒シタル居室船室若クハ病院陣營等

(第三) 便所糞芥下水等一切不潔ノ淨除ニ注意スベシ

(第一) 汚染シタル物品

(排泄物) 吐瀉物ヲ受ル器ハチメ綠礬ニ石炭酸ヲ混シタルモノ(第六) 一合余ヲ入レ置キ月ヲ終ルノ後ハ直チニ屋外ニ持出シ洗淨シ

テ又右ノ消毒藥ヲ入レ後用ニ備フベシ

止瀉物并ニ其器ヲ洗淨シタル水及ヒ吐瀉物ニ染ミタル紙屑布片ハ溝渠下水芥溜山間等ニ投棄スヘカラス且ツ此吐瀉物他ノ腐敗物ニ

混スルトキハ其病毒ヲ醸成スルコト殊ニ甚シキヲ以テ決シテ之ヲ尋常ノ便所ニ投シ健康ナル人ノ糞尿ニ混スベカラス總テ虎列刺病

者ノ排泄物ハ悉皆之ヲ取分ケ深ク土ヲ掘リテ之ヲ埋メ十分ニ石炭酸末(第二) ヲ撒布シ然後土ヲ覆ヒ雜草ヲ種ユベシ又排泄物ヲ燒却スルハ殊ニ良トス淺ク穴ヲ掘リ底ニ乾キタル藁或ハ鈹屑ヲ布キ

止瀉物ヲ其上ハ投シ再ヒ藁或ハ鈹屑ヲ覆ヒ石炭油ヲ灌キテ火ヲ点ス火勢滅スルトキハ之ヲ攪セ再ヒ油ヲ注キ全ク灰盡トナルノ後穴

ヲ填メ雜草ヲ種ルコト前ニ同シ但シ排泄ノ度毎ニ斯ク埋却燒却スルヲ要セス積テ若干ノ容量ニ至テ燒棄シテ可ナリ排泄物ハ家屋井

戸用水等ヲ貯ルコト七間以上ノ場所ニアラサレハ埋ムヘカラス且ツ一穴ニ多量ヲ収ムヘカラス

自宅ニ吐瀉物ヲ埋メ或ハ燒クノ余地ヲ有セサルモノハ前段ノ如ク消毒法ヲ行ヒ置キ一日二回或ハ三回一定ノ場所ニ送ルベシ委員ハ

予メ之カ爲メニ恰當ノ地ヲ定メ排泄物ヲ処分スル所トナシ各家ヨ

リ送ル所ノ排泄物ヲ前法ニ從テ燒キ或ハ埋ムベシ紙屑布片等ノ汚物ニ染ミタルモノハ排泄物ト共ニ燒却スベシ

(衣服夜具) 洗濯ニ堪フヘキ衣服ハ桶ニ入レ石炭酸溶液(第六) ヲ灌キ浸シ置クコト一晝夜ニシテ更ニ熱湯ヲ注キ煮ルコト四分時後

水ニテ洗淨ス

洗濯ニ堪ヘサル衣服ハ其品類ニヨリ亜硫酸瓦私(第八) 或ハ石炭酸

蒸氣(第七) ヲ以テ蒸蒸スヘシ

(虎列刺) 患者或ハ其死屍ニ触レタル人ノ上ニ衣ハ吐瀉物ニ汚染シタルニ非サレハ

汚染シタルモノハ勿論前法ニ從フベシ 石炭酸溶液(第五) ヲ吹掛ケ或ハ海綿ニ浸シテ拭ヒ然ル後刷淨シテ空氣ニ曝スベシ夜具ノ類モ石炭酸

溶液ヲ浸シ後煮沸洗淨スルコト衣服ニ同シ其洗濯スベカラザルモノハ十分ニ石炭酸ノ蒸氣ヲ蒸シ或ハ溶液ヲ布片海綿ニ浸シテ洗刷

スベシ

總テ衣服夜具晝常等ク甚シク汚レタルモノハ買上ケテ燒却スベシ(家具) 木材ノ具飯簍ノ具等ハ皆石炭酸水(第四) ヲ濯キ然ル後石

鹼水ニテ洗淨シ乾カスベシ其洗フヘカラサルモノハ亜硫酸瓦私(第八) 或ハ石炭酸蒸氣(第七) ニテ薰シ或ハ石炭酸溶液(第五)

ヲ海綿布片ニ浸シ拭淨スベシ

總テ日常ノ家具ハ病室ニ入レテ一時ニ蒸蒸シ石炭酸水ヲ以テ洗淨スルヲ最良トス

(書籍新聞紙) ノ類病室ニアリタルモノハ開キテ石炭酸蒸氣ヲ蒸スベシ

(器械) 外科產科ノ道具職人手道具ノ類ハ石炭酸水(第四) ヲ以テ洗フベシ

(食物) ノ汚レタルモノハ投棄スベキモノ居多或ハ消毒法ヲ行フテ足ルモノアリ委員ノ指圖ニ隨フベシ

(死屍) (虎列刺病) ニ斃レタルモノハ成丈速カニ片付ケ十分ニ石炭酸溶液(第五) ヲ浸シタル木綿ヲ以テ之ヲ包ミ健康ナル人ヲ近

ツカシムベカラズ棺ノ内ニハ多量ノ石炭酸末(第二) ヲ充テ時々

石炭酸溶液ヲ濯キベシ

(第二) 家屋船舶病室等

(部屋) (虎列刺) 病者アル部屋并ニ死屍ヲ置ケル部屋ハ十分ニ石

炭酸蒸氣 (第七結晶酸) ヲ蒸シテ之ヲ満室ニ籠ムベシ患者全快シ或ハ埋

葬ノ後ハ先ツ室中ノ金銀書籍彩色物絹物等ヲ取除ケ 此品ハ別ニ相

行 窓戸ヲ密閉(マ、)シ火鉢ニ火ヲ盛リ其上ニ硫黄ヲ置キ入口ヲ閉

ツベシ蒸氣スルコト六時至八時ニシテ火鉢ヲ除キ窓戸ヲ開キ少時

ヲ経テ室内ノ諸物ヲ大氣中ニ持出シ散キ松フベシ天井建具等木製

ノモノハ石炭酸水 (第四) ヲ注キ石鹼水ヲ以テ洗淨シ後テ空氣ニ

順スベシ

(運送器具) (虎列刺) 病者或ハ其死屍ヲ運送シタル舟車駕等ハ用

フル度毎ニ石炭酸水 (第四) ヲ以テ洗ヒ或ハ石炭酸蒸氣 (第七)

硫磺酸瓦私 (第八) ヲ蒸スベシ右ノ車駕中ニ具ヘタル器具ハ前条

ノ消毒ヲ參照シテ行フベシ

(第三) 便所芥溜下水等

(便所) ハ日々其糞池ヲ掃除シ十分ニ綠礬石炭酸ノ合劑 (第六) ヲ

撒布シ再ヒ汚臭ヲ放ツヲ見ハ直チニ之ヲ撤スベシ

(芥溜) ハ流行前ニ掃除スベシ既ニ流行ノ時ニ及テ掃除スルハ攪擾

シテ其惡氣ヲ散逸シ却テ害アルアリ特定シテ時々其上ニ石炭酸末

(第二) ヲ撒布シテ之ヲ覆フベシ或ハ掃除ノ時ニ臨ミ石炭酸綠礬

ノ合劑 (第六) ヲ灑クモ亦良シ

(下水溝渠) ハ日々之ヲ流通シ水ヲ濯テ洗淨スベシ其シク汚穢ノ滯

塞シタル所ハ石炭酸水 (第四) ヲ注クヲ良トス

区戸長へ達書

コレヲ病流行ヲ防之儀過口相達置候処今般内務省衛生局ヨリ予防法

別紙之通送付相成候ニ付猶又下付候条各医員へ不漏様相示シ精々注

意可致此已相達候事

熊本県ヨリ電報

杣奈川県下横浜神奈川等へコレヲ病流行致患者百五十五人ノ内死ス

ル者三十八名ニ及フ旨同県ヨリ報知ニ付御心得迄御通知ニ及フ

櫻島出張官員ヨリ上申書

当地夷事無之過日警視隊ノ内虎列刺病ニ罹リ候者ハ二名ニテ直ニ横

山軍病院へ送り療養スルニ依リ死ニ至ル程ニハ無之由其後同隊中伝

染ノ者ハ無之且其頃小池村ノ者二名横山村ノ者一名虎列刺ニ類似ノ

症煩由ニ候得共追々快氣ノ趣其他今日マテ右症ニ罹ル者聞知不致猶

各村取札居候先ツ此景況ニテハ格別ノ憂モ無之故ニ被察候右上申仕

候也

十年九月廿三日

治テ鹿兒島ヨリ立退ノ人民最早食料欠乏ニ候可然御指揮奉伺候也

上等馬古川一雅ヨリ上申書

一垂水ヨリ華岡ヲ経ウ鹿臺へノ往復ハ先達ヨリ開通有之鹿臺ヨリ大

貽良大根占ヲ経テ佐多迄ノ線路ハ八月廿一日ヨリ開通相成尚又鹿

臺ヨリ串良高山波見ヲ経テ内ノ浦迄ノ線路ハ八月廿四日ヨリ開線

相成右線路ハ都テ從前ノ通ニ有之候大ヨリ志布志ヲ経テ日向既肥

筋ニ巡回此線路ハ最早先達ヨリ開通有之此度天々計算上取調ノ上

操營金等下渡置申候尤志布志郵便取扱人伊集院泉ハ本年二月出兵

致シ今以得順無之ニ付差向副戸長肝付喜一郎ヲ以當分取扱ハセ申

候其外都テ從前之通ニ有之候

一日向國本道筋延岡并熊田ハ先達ヨリ開線有之熊田ヨリ大分県管下

重岡へノ線路ハ一切差支テ通線致候支道ノ分古江ヨリ延岡へノ

往復ハ九月六日ヨリ開通相成延岡ヨリ曾本宮水三田并ヲ経テ熊本

県管下馬見原ニ至ル線路ハ九月十二日ヨリ開線致候尤宮水郵便局

元取扱人大里邑平騷擾以來他山今以停住不致ニ付差向七折村平民

々計算上取割一ヶ月分換替金下渡置申候前条之通り本道支道モ
部テ罷線相成候ニ付此設上中仕候也

十年九月廿三日

宮崎支庁請申付候事 雇 西井 濟
依願出仕差免候事 等外四等山仕 高 橋 長一郎
任鹿兒島県七等職 東京府平民 中 村 政 綱
第三課土木係中付事 同 人

九月廿四日

曾テ賊徒ノ鹿兒島ニ突入シ旧城山ニ拠ルヤ官軍諸道ヨリ集リ之ヲ
圍ム兵凡數万其山ヲ繞ラシ胸壁ヲ築キ之ニ加フルニ二三重ノ竹柵
ヲ以テス備禦甚嚴ナリ賊徒既ニ重圍ヲ蒙リ亦逃ルニ道ナシ官軍モ
亦必スシモ其危險ヲ冒シ之ニ迫ルヲ安セス唯砲撃ヲ急ニス日夜概
子間斷ナク其左右前後ヨリ之ヲ彈射シ其壘ヲ摧キ其營ヲ燒ク其營
ト爲ル所ノ県庁私學校島津邸及ヒ岩崎ノ一街等漸次皆燼ス賊已ニ
營ノ舍ス可キ者ト爲ル可キ者トヲ突ヒ地ヲ鑿テ穴居ス兵氣大
ニ衰ヘ餽食殆ント尽ク賊中旧陸軍中尉山野田一輔同河野主一郎ナ
ル者アリ一日其使者トシテ高島少將ノ營ニ來リ御征討ノ趣旨ヲ聞
フ川村參軍之ニ面談ス使者之ヲ承解シ大ニ恐伏スル者ノ如シ乃チ
其一人ヲ留メ其一人ヲ遣リ時山ヲ經シ西郷降盛ヲシテ來ラシム且
ツ之ニ告ケシメテ口ク若シ期ヲ過キ來ラサレハ則チ兵アルノミ期
既ニ過キ遂ニ來ラス官軍實ヲ決シ九月廿四日午前第四時ヲ以テ兵
ヲ發シ其四面ヨリ突進ス賊徒大ニ狼狽シ左ニ逃レ右ニ迫ラレ前ニ
避ケ後ニ擊タレ成ハ林藪ニ潛ミ或ハ山谷ニ転ヒ或ハ其穴ヲ失シ他
ノ穴ニ入り一穴ニ群入シテ叢刺セラル、若アリ白旗ヲ振フテ棄ヲ
乞フ者アリ時ニ西郷降盛等逃走シテ山下ニ出ツ官兵之ヲ擊ツ銃丸
其小腹ヲ貫ク從兵急ニ其首ヲ刎子之ヲ匿ス桐野利秋見十郎太別
府晉助等皆斃ル西郷降盛ノ葬ル、突ニ本日午前第七時過キナリ職
フ者既ニ斃レ逃ル者既ニ降リ賊類全ク尽ク此日其斃ル、者西郷以
下百五十九人其葬ル者坂口諸藩以下二百余人而シテ官兵ノ之ニ死

スル者凡四十人

県令川村山県而參軍ニ就見シ賊徒ノ死屍ヲ請フ之ヲ聽ル因テ之ヲ
協議シ西郷以下三十九人ノ死屍ヲ淨光明寺ノ境内ニ埋葬シ木標ヲ
建ツ県令及ヒ屬官數名之ニ会ス其百二十人ヲ元不新光院等ニ埋葬
ス鹿兒島淨光明寺境内ニ埋葬スル西郷以下人名位置

松田 幸内 石塚 長左門
浜田 正八 岩本 平八
西郷 久右エ門 平野 正助
桂 久武 別府 晋介
村田 新八 桐野 利秋
池之上 四郎 逸見 十郎太
高城 十次 蒲生 彦四郎
山野田 一輔 小倉 壯九郎

旧不斷光院ニ埋葬スル人名

草野曰へ同

奥 良之丞
岩切 喜次郎
外姓名不知者 七十匹人
宅間 伴介
積子島 城介
新納 軍八
松田 金吉
外姓名不知者

真照院ノ上へ同

城ヶ谷へ同

十五人

姓名不知者

七人

姓名不知者

十八人

疾室ヲ城山ノ一所ニ設ケ降伏賊徒ノ負傷者ヲ療ス匠員三浦義純外
三名ヲ遣リ之ニ從事セシム

汽船高千穂丸乗組ノ官員猶七十五名アリ此日上陸セシメントス然
ルニ宿所未タ全ク備ハラサルヲ以テ先ヅ其半ヲ上陸セシメ其半ヲ
快順丸ニ移ス而シテ高千穂ハ鹿兒島ニ廻ハシ其米ヲ陸揚ケセシム
県令一等國添田彌羅越川重平ヲ率ヒ今朝第六時鹿兒島ヨリ發

林大警部ヨリ電報

今朝ノ一警ニ全ク滅亡セリ西郷桐野別府其他數十人戰死セリ又降伏
人等夥多アリ全ク鎮定セリ御安心アレ

九月廿四日午前第十一時

宮崎支庁へ電報

只今鹿兒島ヨリ張林大警部ヨリ左之通り電報アリ仍テ心得ノ為メ相達
ス日向各出張所ヘモ通知スベシ

本文前ノ如シ

田ノ浦出張所ヨリ電報

本日早曉ヨリ官軍鹿兒島城山へ攻撃相成候處賊魁西郷隆盛桐野利秋
其他打取或ハ降伏致候條此旨各出張所へ速ニ布達スヘシ尤モ宮崎支
庁へハ此ヨリ通知セリ

加治木谷山永引知覽垂永松島出張所へ達書

鹿兒島賊徒滅亡之儀ニ付別紙之通電報有之候間爲心得此旨相達候尤
布達等ハ大々可段計候得共爲念不取取区戸長等へ相達置可申候事

別紙同前

宮崎支庁へ電報

本日早曉ヨリ官軍鹿兒島城山攻撃相成候處賊魁西郷隆盛桐野利秋其
他討取或ハ降服致候條一同安堵致ス可ク此旨布達候事右之通り日向
國一同へ速ニ布達ス可シ

番外布達

本日早曉ヨリ官軍鹿兒島城山へ攻撃相成候處賊魁西郷隆盛桐野利秋
其他打取り或ハ降伏致候條一同安堵可致此旨布達候事

内務卿へ電報

今早曉官軍攻撃西郷桐野始メ討取り相成候此段申上ケル

松方大藏大輔へ電報

今曉官軍攻撃西郷桐野等討取り最早半定ニ付家祿渡調へ方尤モ差シ
急キ候條金田清風始メ速カニ出張御命シ相願候

熊本大分長崎福岡県へ電報

本日早曉ヨリ官軍鹿兒島城山へ攻撃相成候處賊魁西郷隆盛桐野利秋
其他討取或ハ降伏致候條此段御心得迄ニ御通知及ブ

長崎及東京出張官員へ電報

文意前ノ如シ

川村參軍ヨリ田ノ浦出張所令へ來書

賊半隊長

岩切 喜次郎

同分隊長

奥 良之丞

同半隊長

西郷 休右エ門

右ハ先刻及御通知候末元不斷光院跡へ取集置候死体ノ由爲取調候處
右三名ノ者共死体有之姓名相記置候ニ付葬方ノ節可然御取計有之度
此段及御通知候也

九月廿四日

同回答書

本日御引渡相成候西郷隆盛以下拾六名死体埋葬取計相濟候處其内小
倉壯九郎外二名ハ同所ニ死体無之候ニ付後ニ御申越之三名一同元不

新光院ニ於テ收葬埋葬之順席ニ致置候間御答旁此段申進候也

追テ山県參軍ヘハ別ニ御届不致候ニ付可然御中通シ相願度委細ハ明日可申陳候也

同届書

本日御引渡相成候賊徒死体浄光明寺ノ分三拾八名元不斷光院ノ分七拾三名合計百拾壹名埋葬取計相濟候ニ付御届ケ致候猶山県參軍ヘハ可然御中通被下度此段申進候也

汽船高千穂丸へ達書

御用右之候条明廿五日午前第六時山吼鹿兒島へ回漕申付候事

賊地ヨリ歸ル

八等屈心得 加納恒方

田ノ浦出張可有之候事

御用掛 三浦義純

田ノ浦出張申付候事

御用掛 高村文徳

同

全 浜野三平

同

全 山科元行

九月廿五日

山県參軍ヨリ通知書

昨廿四日西郷隆盛桐野利秋ヲ始メ村田新八池之上四郎逸見十郎太別府晋介桂右衛門汾湯五郎左衛門市米宗助高城七之丞仁礼五右衛門郷田王之丞蒲生彦四郎岩本平八山野田一輔石塚長左衛門以下伏誅其他縛ニ付此地平定候条此段及通知候也

九月廿五日

出甲第壹号布達

昨廿四日布達候通り官軍鹿兒島城山エ攻撃賊魁西郷隆盛桐野利秋其他村田新八逸見十郎太別府晋介桂久武池ノ上四郎等百數十名打取且ソ殘党悉ク降伏致シ管下一般平定候此旨布達候事

出乙第壹号達書

区戸長へ

鹿兒島県庁兵燹ニ罹リ悉皆焼失ニ付同所へ再ヒ建築之儀相伺候処許可相成依テ速ニ木材等手当ノ上其着手可致候条此旨為心得相達候事

内務卿へ電報

昨日畧申上候通り西郷隆盛桐野利秋ヲ始メ村田新八池ノ上四郎逸見十郎太別府晋介桂久武汾湯五郎右衛門市米宗助高城七之丞仁礼新左衛門郷田王之丞蒲生彦四郎岩本平八山野田一輔石塚長左衛門以下誅ニ伏シ其他縛ニ就キ管下全ク平定セリ此段御届仕ル

大藏卿ヨリ電報

其県下平定ニ付金田清風始メ出張之儀申立承知セリ着手ノ順席速カニ決定次第差遣スベシ

九月廿五日

總督本營ヨリ電報

明廿六日当本營ヲ鹿兒島ニ移ス

九月二十五日

歸庁

九等屈 篠塚基長

依願出仕差免候事

等外四等出仕 石井鎌三郎

九月廿六日

出甲第二号布達

今般田ノ浦ニ当県出張所ヲ相設候条最寄士民願同届等拙者宛名ヲ以右出張所へ可差出此旨布達候事

揭示書

本月廿四日官軍ニ於テ討取相成候賊徒死体左之各所江仮埋候事

浄光明寺へ仮埋メ之分

西郷隆盛

桐野利秋

村田新八

逸見十郎太

別府晋介

桂久武

池ノ上四郎

高城十次

山野田一輔

蒲生彦四郎

石塚長左衛門

岩本平八

小倉壯九郎

平野正助

西郷 休右三門

浜田庄八

外ニ姓名不知者 二拾三名

元不斷光院へ同断

奥 良之丞

岩 切 吉次郎

外ニ姓名不知者

七拾四名

草牟田工同断

宅 間 伴 介

種子島 城 介

新 納 軍 八

松 田 金 吉

外ニ姓名不知者

十五名

真照院ノ上工同断

姓名不知者

七 名

城ヶ谷へ同断

姓名不知者

十八名

以上

京都大阪両府及兵庫堺和歌山三県へ電報

預テ御差山之官員今般ノ兵乱ニハ都テ無難ニ道レタリ此段御報知ニ

及フ

内務卿へ電報

管下平定ニ付諸船舶出入トモ平常ニ復シ候様御布告相願候

賊徒ノ名簿 元書ハ西郷隆盛ノ白筆ナリト云フ

各隊名簿

一番隊 岩崎口本道

土 師 正之進
上 野 六次郎
種子島 英 介
伊 藤 武 次
池ノ上 信 登
遠 矢 為次郎
安 楽 佐次郎

二番隊 学校ヨリ角ノ矢倉迄

隊長

分隊長

半隊長

給 養

弓 田 直 藏
河 野 徳 藏
四 本 矢 八 郎
折 田 英 吉
田 中 雄 介
小 田 一 作
東 郷 直 介
森 山 与 八 郎
柏 原 源 介
伊 地 知 徳 哉
黒 木 万 太 郎
小 久 保 新 介
松 元 勘 介
林 兵 佐
須 山 与 之 進
峯 山 小 三 太
森 彦 熊
平 瀬 慶 一
武 元 与 之 丞
大 山 幸 介
西 佐 一 郎
松 崎 八 之 丞
米 良 静 介
高 城 十 二

平病士	兵士	押伍	兵士	押伍	同	同	兵士	押伍	同	同	同	兵士	押伍	兵士	押伍	分隊長	半隊長	隊長
川上矢之介	沖雄次郎	林清治	大山清一	村山八兵衛	森直一	山中雄吉	松下主右門	平田盛二	鬼塚早左門	隈元貞治	倉山孫次郎	白浜貫修	野間叶	樺山喜平次	伊地知壯之介	佐藤三二		

三番隊二ノ丸内

兵士	押伍	兵士	押伍	兵士	押伍	給養	報知役
西田金之助	向田幸藏	山本彦太郎	福崎金太郎	遠矢乙介	平瀬宗兵衛	指宿精一	川西勝
宇都宮吉之助	汾湯五郎右衛門	清水正一	家村栄介	野村直介	大場公義	伊地知彦介	
竹迫平七	黒木弥三次	家等左次郎	新保喜之進	佐藤良貞	山本伊左衛門		

押 伍	愛 甲 秋 種	久 保 田 斧 七	長 谷 場 喜 藏	鯨 島 柳 太 郎	兵 士	竹 下 伝 太 郎	堅 山 健 二	柳 原 金 七	野 崎 榮 七	押 伍	上 原 七 之 介	坂 本 平 七	兵 士	河 野 鉄 之 介	木 村 龍 太 郎	帖 佐 伝 介	谷 山 宗 太 郎	斥 候 役	有 吉 次 左 衛 門	隊 長	半 隊 長	仁 礼 彦 太 郎	分 隊 長	久 留 半 吾	給 養	大 塚 正 新	坂 元 勘 左 衛 門	万 膳 英 介
--------	------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	--------	-----------------------	------------------	------------------	------------------	--------	-----------------------	------------------	--------	-----------------------	-----------------------	------------------	-----------------------	-------------	----------------------------	--------	-------------	-----------------------	-------------	------------------	--------	------------------	----------------------------	------------------

五番隊大手ヨリ本田屋敷掛

隊 長	高 城 七 之 丞	半 隊 長	堀	分 隊 長	壺 山 壯 八	市 来 壯 助	郷 田 吉 之 助	有 川 魁 介	佐 々 木 茂 平	給 養	西 幸 吉	押 伍	有 馬 甚 介	兵 士	青 木 彦 二	田 中 岩 熊	押 伍	野 間 九 左 衛 門	兵 士	肥 田 嘉 之 介	伊 集 院 藤 七	押 伍	肱 剛 信 一	兵 士	中 山 助 次 郎	小 久 保 兼 三	押 伍	馬 崎 直 介
--------	-----------------------	-------------	---	-------------	------------------	------------------	-----------------------	------------------	-----------------------	--------	-------------	--------	------------------	--------	------------------	------------------	--------	----------------------------	--------	-----------------------	-----------------------	--------	------------------	--------	-----------------------	-----------------------	--------	------------------

兵士　押伍　兵士　押伍　兵士　押伍　兵士　押伍　兵士　押伍　兵士　押伍

七番隊新正院越ヨリ夏陰下迄

— 34 —

十番隊夏陰司

[illegible]

押
伍

野村	中馬	瀬ノ口	米良	石神	飯田	森山	田上	佐々木	新穂	高橋	橋口	佐上原	増口	福崎	浜川	野添	東郷	種子田	有馬	大迫	深見	平野	野崎	坂元	相原	原山	
助五郎	正之丞	甚五郎	伊平治	清吉	伝太郎	与太郎	源左衛門	源太郎	利秀	鹿之丞	甚介	鎌助	忠助	正治	健次郎	金兵衛	良助	広吉	源七	祐吉	藤五郎	敬三	八郎左衛門	五郎八	正治	弁介	三岐

十二番隊後ノ廻ヨリ城ケ口迄

吉田 他行
野元 休之
迫田 伊右衛門
実宮 伝之介
森 啓介

園田武一

伊集院 熊次郎

坂元直人

新納 織之丞
吉田 勇 藏
伊集院 半之丞

大迫 壯之介

本田次五左衛門

荒井 介

市原源次郎

溝口金四郎

秋
目
種
事

隊長

半隊長

分隊長

市來矢之助

峯崎 半左衛門

土部孫一

藤田 寿左衛門

池田彦八郎

兕玉彦吉

槐島米直心

禪 兵 吉

川口新二郎

山下馬嘶，花外鶯啼。見遊絲、橫路惹香塵。見

村原斧八

久木田 善之助

伊集院 金七

伊集院修左衛門

上野新五左衛門

給養

前田 弼七
新納 市郎太
種子島 城介
調所次郎左衛門
緒方 益井
福井 信篤
任六等屬第五課申付候事
任七等屬第三課申付候事
岡山県士族

東京府平民長野県師範学校教員

九月廿七日

征討總督有栖川宮親島ヨリ本日鹿児島着照

大蔵卿ヨリ電報

本年地租收納方委任ノ義太政官エ何之上聞届ケタリ指令ハ出京ノ属
曾根ニ渡ス

九月廿六日

在東京曾根大ヨリ電報

租税收入方ノ儀ハ昨日御委任ノ御指令相済候処最早季節相迫リ連モ
検見方ハ行ヒ難ク因テハ区戸長ニ謀リ適宜ノ活法ヲ用サルヨリ外有
聞敷此段御報申上ル又土木官員撰等ノ儀相行届キ一日モ早く飯塚致
スベクト存シ煩リニ出給ヲ聞合セ手配致シ居ル

九月廿七日

宮崎支庁長小野修一郎へ電報

本年租税收納ノ儀ハ何ノ上拙者へ御委任相成リタリ依テ検見方等ハ
迫テ相達スベクナレトモ不取敢此段報知ニ及フ

同

本年地租收入ノ儀ニ付検見法ノ書類ヲ持タセ吉田為行氏廿八日其地
へ出張セシム心得トシテ此旨報知ニ及ブ

乙第十三号達書

本年地租收入ノ儀ハ春米ノ懸授ニ付田方植付後ノ仕付荒等ニテ平年
ノ通り実リ兼候村方等可有之因テ定免收納難出米村方ハ検見願出次

第特別ノ詮議ヲ以官員派出検見ノ上減租又ハ除租可取計候条十月五
日限願有無一郷毎ニ取極メ可申立此旨相達候事

但季節差迫候ニ付右日限ニ後レ候テハ巡回不都合ニ付無延滞取調
候様注意可致事

大隈大蔵卿代理松方大蔵大輔ヨリ達書

其果非常臨時費ノ儀是迄人用ノ節ハ在長崎出納局出張所ニ於テ不取
取操替渡為取計候処向後操替渡ノ儀ハ不相成候条必須ノ事情有之候
ハ、其旨内務省へ具申可致同省許可ノ上差急候分ハ同出張所ニ於テ
假渡可為取計此旨相達候事

明治十年八月廿七日

同電報

有縁ノ士族へ小屋掛料及ヒ農具料ノ貸付方之儀救助規則ニ的例ナシ
且本年以來金禄公債証書御発行ニ付テ有縁無縁ヲ論セス士民共總テ
身元難波ノ者ニ限り貸付然ル可キ哉至急御指令ヲ請フ

窮民救助方改定

一救恤所ハ鹿児島ノ内ニテ便宜ノ地所ヲ撰定シ先ツ一ヶ所取設ケノ
事

但本文開設ノ上実地ノ景状ニヨリ仍ホ救恤所ヲ増加スル事アル

ベシ

一救恤所へハ判任三名等外二名出勤之事

布達

本月一口賊徒鹿児島へ乱入以來兵火ニ罹リ又ハ難ヲ各地ニ避ケ營業
ノ方向ヲ失ヒ現実目下飢饉ニ迫ル者ハ右窮民一時救助規則ニ照シ救
助米施行候条士民トモ住所及ヒ戸主并ニ家族ノ姓名年齢ヲ詳記シタ
ル願書ヲ戸長へ差出戸長ノ奥印受ケ鹿児島救恤所へ可願出此旨布達
候事

但各村在住ノ向ハ村掛リ戸長ニテ取極メ可願出事

大分県ヨリ電報

当地臨時裁判所ニテ免罪ニナル貴県下ノ者ハ直チニ御引渡中度何レノ地迄護送爲致可然哉此段御掛合ニ及フ

九月廿六日

熊本県ヨリ電報

貴県国事犯ノ者臨時裁判所ヨリ処分ノ上引渡ス可キ旨照会アリ御県ニテ差支ナクバ宿村送ノ取計ニ及フ可シ否返事マツ

九月廿六日

同

当県臨時裁判所ニテ処刑済シ其県国事犯ノ者宿村通送致ス可キ旨昨日中進セシハ間違ニ付巡査ヲ以基其下警察所之レ有ル地迄護送ス可シ前取方差支ナキ様御手当有リタシ至急回答アレ

九月廿七日

長崎熊本大分三県へ電報

当県下士民ニテ国事犯免罪ノ者御県ヨリ当県へ差送ラル、若幾人アリシヤ至急御報知アリタシ

熊本県ヨリ電報

貴県へ護送スベキ国事犯ノ者三百六拾八名ナリ此段御答ニ及フ

九月廿七日

同

国事犯ノ者臨時裁判所ヨリ差急ク旨掛合ヒアリルソ何日頃ニナレハ護送不苦ヤ

同

貴県国事犯ノ者護送ノ儀臨時裁判所ヨリ切迫申越スニ付至急何分ノ御回答アリタシ

熊本大分兩県へ電報

平定即今実ニ難告ニ付裁判所ニテ免罪ノ者引渡シノ儀今暫ク御見合アリタシ

加治木出張臨時裁判所大塚判事ヨリ掛合書

別紙之通河野幹事ヨリ電報ヲ以テ中來候間御差支無之哉此段及御照

会候也

明治十年九月廿六日

別紙

加治木臨時裁判所大塚判事へ

長崎河野幹事

鹿児島國徒ニシテ当地拘留之者決放之上直チニ其地へ帰籍爲致無差支哉其県官へ照会ノニ至急回答アルベシ

九月廿六日

大塚判事へ問合書

河野幹事ヨリ電報ヲ以テ当県下賊徒ニシテ長崎へ拘留ノ者決放ノ上直チニ当県へ帰籍爲致差支ナキヤ云々申越候趣ヲ以御照会ノ趣致承知安然ルニ賊徒平定昨今ノ儀ニテ夫ニ鑑否拒絶候間帰籍ノ儀今暫見合相成候様可然御取計相成度此段及御答候也

都城宮崎出張所ヨリ電報

当病院外來患者日々百四五十名ニ至リ其内微毒症多シ仍テ左ノ藥品大至急御廻シアラタシ尤モ当病院ヨリ其病院へ過日來慶ハ掛合シナレトモ藥品來ラサル儀ニ付此上延着スル時ハ外來ノ治療相罷メ然ル可キヤ相何フ

ヨウホツ拾版ホミカエキス三瓶其外過日其病院へ中送ル通り

九月廿七日

鹿児島出張所へ電報

都ノ城出張病院ヨリ右ノ藥品大至急送與レタシト中來レリ然ルニ藥品ハ皆其御地病院へ廻シタンバ其地ヨリ御廻シ有リタシ

ヨウホツ拾版ホミカエキス三瓶其外過日其病院へ中送ル通り委細山科奉知ナリ

大坂広業商會等野熊吉へ電報

当県下此程平定ニ属セリ然ルニ兵戰ニ離リ諸物品イヨイヨ差支ヘリ仍テ相頼ミ度儀アルニ因リ其商會ニテ慥ナル者一兩名至急出張アリタシ

同回報

電報御命シノ趣委細承知本日山港ノ迎陽丸へ乗込出張致ス御請報知ス

正中文部大輔へ上申書

当県上族米國留學生高橋新一宮ノ原誠一ヨリ學資金之儀ニ付別紙甲印写之通リ願書差出候趣ニテ外務大書記官此迎太一ヨリ乙印写之通中越候右願書ノ趣ニテハ是迄學資金前県令大山綱良ヨリ差送候旨ニ候処今般堅下兵乱ニ屬シ内文書散佚イタシ右兩人留學ノ事并ニ學資支給之手順共取調不行用然ルニ願書面ニモ右之候通リ已ニ數年間勉學致シ今一兩年ニテ卒業之見込ノ処今日ニ至リ學資支給之途相絶候ハ実ニ遺憾ニ候間御取調ノ上將來成業ノ目途有之ニ候ハ、何卒特別之訳ヲ以テ右兩人學資ヲ給与セラレ留學ノ儀御省管轄相成候様仕度御許可ノ有無ニ寄リ尚外務省へ可申立候間至急御裁下有之度此段具申候也

明治十年八月五日

指令

申出之趣難聞届候事

明治十年八月廿四日

右御指令有之ニ付之ヲ外務大書記官ニ回答シ留學生高橋新一等ニ達書ス

別紙略之

県令昨廿六日鹿兒島ヨリ坂下本日又出張二等屬伊藤市郎堀越川重平随行ス

宮崎出張申付候事

七等屬 吉田 為行

雇申付一ヶ月金五円給与候事

当県上族 小城 龍輔

九月廿八日

征討總督有栖川宮回駕本日鹿兒島港出帆川村參軍モ同ク

内務卿へ電報

県庁新築之儀過日御許可ニ付不口目論見金額何フベク積リナレトモ差向キ七拾五坪二階作ノ建築ヲ仮県庁ニ致ス積リ并ニ二百三拾坪ノ官舎其他附屬ノ建物建築此入費合セテ凡ソ七千円ノ積リヲ以テ大坂ニテ切組至急運漕致シ度此旨相伺フ至急御指令アリタシ

九月廿七日

同回報

假県庁官舎等建築開届ケタリ金七千円ハ長崎出納局ニ於テ受取ルベシ

内務卿へ電報

当県非常予備金ノ儀籠ト予定致シ難ク成レトモ差向キ庁中費県庁官舎新築費病院費及ヒ汽船航海費一時救助金御賑恤金戸籍取調ベ費入足債其他諸雜費等ニ宛惣金額百万円長崎出納局ヨリ漸々御渡相成度御裁可ノ上ハ該局ニ至急御指令ヲ請フ

九月廿七日

同回報

非常予備金ハ其廉之目論見或ハ入費要例取調ベ更ニ請求至急諸病院汽船航海費等差延ヘ難キ分ハ一廉限リ金員ヲ定メ電報中越スベシ

出甲第三号布達

其県下各地ニ於テ賊徒等兵器彈藥ノ類ヲ山野ニ遺棄致シ置候者不少趣ニ相聞候処人民各自所有地内ハ勿論其他共見当リ次第取上ケ可為和納若シ見当リ候共取揚不相納又ハ匿シ置候者有之ニ於テハ屹度可処嚴科候間心得違無之様可致段管内ハ無洩可致布達此旨相達候事

明治十年九月廿八日

征討總督本營

鹿兒島縣全岩村通俊

殿右之通御達相成候条此旨布達候事

支庁各出張所へ達書

賊徒兵器類山野ニ遺棄有之分取纏方之儀ニ付總督本營ヨリ御達有之仍別紙之通布達候条区戸長ニ於テ精々取纏方注意為致迫テ取纏ノ上

飯庁へ送附可致此旨相達候事 別紙同前

警視出張所へ通知書

賊徒兵器類山野ニ遺棄ノ分取廻方之儀ニ付總督本官ヨリ御達有之仍別紙之通管内へ布達候間為御心得此旨及御通知候也 別紙同前

征討總督本官ヨリ達書

先般當管下軍用飛信線路取設方相達置候処今般賊徒平定ニ就テハ右線路早々相廢候様此段相達候事

明治十年九月廿八日

支庁各出張所へ達書

兼テ飛信線立方并ニ軍用飛信取扱方共相達置候処本日ヨリ相廢止候条右ニ付雇入有之候人夫ハ速ニ解放可致此旨相達候事

追テ其庁所轄各出張所并ニ出張所々轄立所有之候ハハ其庁其出張所ヨリ直ニ可相達候事

工部卿へ電報

賊徒平定ニ付軍用電線廢セラル趣然ルニ御省電信線官崎大分ト未タ連絡不致ニ付左落成迄ハ軍用電線ヲ御省ニテ御取用ヒ都城宮崎延岡ニ間局相成候様仕度尤モ該手器械等ハ軍用之分其儘御用ヒ可相成ト存候間速ニ可然御指揮ヲ乞フ

宮崎出張九州臨時裁判所所長大橋事ヨリ結合書

延岡高鍋在病院ノ賊徒中懲役一年以上見込ノ者數十名有之其内傷瘡ノ為メ他へ護送難相成分ハ其地ニ於テ裁判宣告致度候間此段予テ及御照会置候也

明治十年九月廿六日

同回答書

延岡高鍋在病院ノ賊徒中懲役一年以上ノ者電傷ノ為メ護送難相成分ハ其地ニ於テ裁判宣告云々御照会ノ趣委細詳知致候当県ニ於テ差支筋無之此段及御答候也

加冷木出張九州臨時裁判所ヨリ通知書

当裁判所明廿九日鹿兒島へ移転候間為御心得此段及御通知候也

九月廿八日

大分県ヨリ電報

御県下士民ニテ國事犯免罪ニナル者当県ヨリ差送ル人数ハ裁判所へ問合せタレトモ兩三日ヲ経サレハ相分ラズ此段御承知アレ

九月廿八日

各出張所へ達書

コレヲ察テ防法兼テ致布達置候処今般衛生局ヨリ別紙予防法送付有之候ニ付猶又為心得相廻シ候多精々注意無毒憂セサル様可致此旨相達候事

別紙予防法ハ去ル廿三日ノ下ニ出ツ依テ略此

水引出張所へ達書

其出張所轄内入來郷ニ於テ近來コレヲ病流行致シ其毒災ニ罹ル者鮮ナカラサル趣相聞候条預テ相達置候預防法等ニ注意シ各郷ニ蔓延セサル様可致此旨相達候事

追テ右病ニ罹ル者有之節ハ死生ニ不拘凍ニ可届出事

東京出張官員ヨリ太政官へ上申書

九月一日賊徒鹿兒島亂入ノ顛末概略上申

鹿兒島縣今岩村通俊日向地方巡回去ル八月十七日延岡ニ於テ山県參軍等ニ面会賊徒重圍ノ中ニ容匿ノ趣見聞致シ同十八日同所發程同廿日宮崎ニ於テ總督官ニ謁シ賊徒可愛敵ノ重刑脱出ノ旨承同廿二日湯戸同廿四日山県參軍ヨリ別紙第一号ノ如ク西郷以下人吉ニ向フ云々ノ電報アリ然ルニ當時庁下ノ人心恟々タルヲ以テ綿貫少警視ト協議即日別紙第二号ノ如ク兵隊差遣ノ儀請求ス同二十八日三好陸軍少將著麗ニ付綿貫少警視ト共ニ面会庁下警備ノ事再三稟議ノ処遂ニ別紙第三号ノ如ク加治木ヨリ來書アリ同二十九日出張官員ヨリ賊徒小林ヲ根拠トシ其近傍ヲ蹂躪シ東野警視分署ヲ襲ヒ其鋒直ニ横川ヲ衝ク勢アル旨報知ニ付重テ別紙第四号ノ如ク至急兵隊差遣ノ儀請求ス同三十日官軍横川ニ開戦ノ報知アリ依テ別紙第五号ノ如ク兵隊差遣請云々シ処別紙第六号ノ如ク小沢陸軍大佐ヨリ回答ヲ得日夜其着兵ヲ待ミ同三十一日午前七時三菱会社汽船高千穂丸入港次テ果下商船迎陽丸モ亦至ル時ニ該社員岡某ヲ呼出シ賊徒庁下へ亂入難計時宜ニ

依リ諸官員等乗船スベシ予テ其用意アルベキ旨内密相達ス同日黃昏
飛鳥井陸軍中佐三好海軍少將ノ命ヲ以テ加治木ヨリ來リ賊徒加治木
溝迄ノ間ヲ退キ山田ニ向フ旨報知ス依テ県令直ニ中佐ト同行シ伊東
海軍少將ノ降營ニ至リ仁礼海軍大佐等一同列席ニテ下警備ノ事ヲ
稟議ス然ルニ兵隊寡少ニシテ保護行届キ難キ趣ニ付人民避難ノ義并
諸官員乗船ノ義等協議致シ尚警視出張所ニ至リ總兵少警視ニ前案ノ
事由ヲ面議シ其夜別紙第七号ノ如ク人民ニ布達シ尚区戸長ヲ召集シ
其意ヲ毎戸ニ諭告セシム且官崎支庁各出張所ヘ別紙第八号ノ如ク相
達シ然シテ金貨及必用ノ簿冊等ハ船ニ輪シ其他ハ官庫ニ藏メ火穀ハ
悉ク伊東海軍少將ニ交付シ曉ニ至ル迄県令書記官各課長ヲ除クノ外
諸官員等ハ高千穂丸ニ乗下士民ハ迎陽丸ニ乗船ス乃チ別紙第九号ノ
如ク内務卿ヘ上申ス大明テ九月一日払曉三好陸軍少將兵隊引卒着處
ニ付面会同將ハ直ニ古田ニ向ヒ出軍セリ此時賊徒未タ發來セス然ル
ニ行政ノ巡查ハ昨夜賊ニ隊伍ニ編制セシニ付下取締ノ為メ官員三
十名上陸巡邏セシム午前十一時ニ至リ城山ノ背後岩崎辺ヨリ賊徒突
出小銃激發県庁ヘ相迫リ依テ別紙第十号第十一号ノ如ク庁門閉塞ニ
掲示シ且衛生班ヲ病院ニ遣シ賊徒ノ負傷者ニ危急ヲ告ケ重テ治療ヲ
可受旨ヲ懇諭セシム了テ県令各課長等乗船ス時ニ諸官員及県下士民
ノ高千穂迎陽両船ニ在ル者凡六百五十名ナリ此時ニ當リテ賊徒疾ク
海崖ヲ要シ県官及士民ノ難ヲ避ルヲ追フ當県崖池上莊平銃丸ニ中テ
死シハ等寓内海久次郎其他士民海ニ投シ未ダ生死ヲ詳カニセサル者
若干アリ午後一時比市街出火漸次延焼庁下ノ実況探偵ノ為メ小蒸氣
船ヲ以テ等寓田辺輝実御用掛坂本清彦ヲ遣ル賊徒尚海岸ヲ拒キ上陸
スルヲ得スシテ帰ル時ニ高千穂丸石炭欠乏ノ趣該船事務長ヨリ申出
同日黃昏鹿兒島港拔錨長崎ヘ航海九月二日同港着次テ迎陽丸モ亦着
港ス右事情別紙第十一号及第十二号ノ如ク内務卿ヘ上申ノ処別紙第
十四号ノ如ク御指令アリ依テ別紙第十五号ノ如ク尚亦内務卿ヘ上申
シ即日拔錨可致ノ処石炭ノ搭載意外二時間ヲ移シ同日朝鹿兒島ヲ
指シ同港拔錨ス其節県令ヨリ前条内務卿ヘ具狀ノ為メ私共三名エ出
京被命同日八日長崎港拔錨同十三日着京同卿ニ謁シ詳細具陳ノ処松市

大書記官ヲ以テ右事情書取太政官ヘ可差出旨御達ニ付概略上申如此
謹言

明治十年九月廿八日 同 鹿兒島縣御用掛 青江 秀
同 二等紙 長山 信 原
同 一等紙 曾根 静 夫

別紙

第一号

岩村県令ヘ

山県參軍ヨリ

西郷以下脱賊人吉ニ向フカ如シ然レトモ彼等出沒無常何レノ地ニ方
向ヲ転スルモ鑑計ニ付其地巡查ノ警備一層嚴重ニ注意アルベシ尚此
旨裁判官ヘモ通知シ捕縛人取締方手落ナク様深ク注意スル様申伝ヘ
アルベシ

八月廿四日午前九時五十分發

第二号

延岡ニテ山県參軍ヘ

岩村県令ヨリ

西郷以下脱賊人吉ニ向フカ如シサレトモ渠等出沒何ノ地ニ転スルモ
鑑計依テ当地巡查警備一層嚴重ニ注意候様承知セリ直ニ警視諸員ハ
協議致シ夫々取締ヲ可相付管然ルニ西郷等團ヲ脱ケ候ヨリ当地人心
ニモ差響キ何トナク穩カナラサル趣ニ相聞ヘ余炎再ヒ燃ヘ出ツル儀
モ鑑計候間此際当地警備トシテ二大隊計リ至急細島ヨリ汽船ニテ御
差向ク相成度尤モ当地ヘ新撰旅團凡七百人員滞在候得共更ニ規律等
不相立ノミナラス司令長官モ無之由ニ付前条ニ大隊御指尙相成威威
ヲ以鎮圧ノ儀肝要ト存候間此段相順候速ニ御指令ヲ待ツ

八月廿四日

第三号

昨日御面談后今朝加治木ヘ着ノ処不図脱賊飯野地方出沒ノ報有之仍
テ直ニ彼地方ヨリ歸及ヒ長池ノ方迄守備致シ候尚昨日ハ真幸ヘ向ケ
行進為候候等ニ付御令迄申進候陳レバ當國全軍回鑑ニ付昨日御約束
中置候遊撃隊第七大隊第三小队々長栗屋某引率御地為警備派遣為致
候就テハ警備方之儀ニ付本管付山根中尉差立候間万事同人口頭ヨリ

御歸取有之度候也

八月廿九日

加治木ニ於テ

三好陸軍少將

第四号

岩村県令殿

細島ニテ征討總督本營へ

岩村県令ヨリ

脱賊栗野警視分遣ヲ襲ヒ最早横川ニ来ルベシト昨廿八日出ノ書面ニテ出張官員ヨリ届出タリ依テハ幕テ上申致シ候通当地警備ノ為メ極至急ニ大隊御差向相成度旨再応相頼候尤兵隊御換合セ調ハ、二大隊ノ外兵隊御差向々充分ノ警備ヲ乞フ

八月廿九日

第五号

同

同

同本日午前七時二十分溝辺出張當県官員ヨリ只今横川ニ於テ開戦ノ伝合アリト報知之レアリタリ右次第ニ付キ予テ相頼候ニ大隊御差向ノ儀ハ尚又至急御許可アリタシ

八月三十日夕六時五十分出

第六号

岩村県令へ

細島ヨリ小沢大佐

出兵ノ儀御請求ノ趣承知セリ右ハ第四旅團變後ヨリ帰省次第其地へ差回ス寄ナリ

八月三十日午後十時完

第七号

布達

予テ及布達置候通り賊魁西郷桐野以下ノ脱賊在州日午前五時栗野横川ノ間ニ於テ戦争ノ後本日終ニ溝辺加治木ノ間ヲ潜行シ山田ノ方ヘ向テ相過候趣ニ付自然当地へ突入候哉モ難計候条人民ニ於テモ銘々覚悟ノ上危難ニ不罹様可致旨布達候事

明治十年八月卅一日

岩村県令

第八号

支庁及ヒ出張官員へ達書

脱賊追々当地へ突入可致モ難計ニ付別紙之通相達シ候条此旨爲心得相達候事

但時宜ニ寄り県庁ニ於テモ立退候儀モ難計候条是又可相心得候也

布達 八月卅一日ノ分 依テ略之

明治十年八月卅一日

岩村県令

第九号

内務卿へ

岩村県令ヨリ

脱賊溝辺加治木ノ間ヲ突キ抜ケ山田ヲ向ケ遁逃シ此上当地へ突入必然ト相考ヘ伊東少將へ警備ノ儀問合セシ処人民保護ノ儀ハ兵隊少キニ付受合不課ト云フ依テハ不得止先以人民へ立退方ノ儀布達致シ且婦女子其外官員高千穂丸へ為難糾拙者ニ於テハ成文ケ県庁ニ相詰メ居ル心得テレ、モ時宜ニ寄り乗船スルモ難測兼テ申上タル通り本營へ兵隊差向ケノ儀三度ニ至ル迄稟議ニ及ヒ候得共今以テ着相成ラス実ニ遺憾ノ事ナレ共不得止此段御届ニ及ブ

八月卅一日午後十時二十五分出

第十号

庁中へ達書

通後四月赴任以來人民保護ノ道ヲ布キ殆ト安堵ノ域ニ至ラシム今ヤ事茲ニ至リ不得已暫ク難ヲ汽船ニ避ケ汝等無辜ノ人民ヲ残害スル勿レ県庁ヲ紛擾スル勿レ既ニ負傷者モ亦病院ニ在リ幸ヒニ意ヲ加ヘヨ爰ニ一言ヲ録シテ諭告スル事是ノ如シ

明治十年九月一日

鹿児島県令岩村通俊

第十一号

揭示

脱賊当地へ突入不得止場合ニ立至リ候ニ付一同高千穂丸ニ一旦乗組候条支庁及ヒ各出張所詰諸官員ハ到着次第同船へ乗船候カ或ハ潜伏シテ危難ニ不罹様可致旨掲示候事

九月一日

岩村県令

第十二号

大久保内務卿へ

長崎ニテ岩村県令

昨一日十一時頃賊徒鹿兒島ニ散入リテ電信ニテ申上タル通り成丈
ケ其府ニ和詰メ候得共刀々不得止場合ニ至リ小官始メ果官等殘ラス
高千穂丸ニ兵組候処鹿兒島ハ直クニ一面ニ火ノ手揚リ欲テハ小蒸氣
船ヲ以テ鹿兒島近傍ニ滑ハシ其模様見分致サセ候処何分賊徒ノ砲丸
頻ニ米タリ近ヅク能ハスニ付官軍ノ勝敗等不相分午後十時比火ノ手
愈熾シニ相成リ多分果官モ焼失ト存候夫故午後七時三十分高千穂丸
ニテ鹿兒島ヲ発シ只今長崎ニ着セリ不取敢此段御届仕ツル

九月二日

第十三号

内務卿へ

岩村県令ヨリ

先刻御届申候通此地へ着セリ尤モ鹿兒島ヨリ直クニ細島へ向ケ航海
スヘク密ノ通高千穂丸石炭之シク細島へ航海難成因テ一口此地エ着
給セリ就テハ予テ御渡シノ快順丸ニテ直クニ細島へ航海ノ見込ニア
リシトコロ修復未タ不行届ニ付高千穂丸ニテ大書記官始メ果官一同
直クニ細島へ航海致スヘク私儀ハ是ヨリ後果官治ノ大綱ヲ伺ヒ定メ更
事有之ニ付上京致度至急御指令アリタシ

九月二日午後

第十四号

岩村県令へ

大久保内務卿

前略上京見合セシ布居力有ヘシ

九月三日

第十五号

内務卿へ

長崎ヨリ岩村県令

上京ノ儀可見合旨敬承セリ官員一同大奮発ニ付本日午後六時當港按
鑑鹿兒島港ニ至リ其模様ニ寄リ上陸スベシ若戦争中ナンバ福山ニ上
陸スルカ或ハ細島ニ到ルカ兎角災地ノ景況ニ寄リ可然場所ニ依ニ当
果官ヲ可置小官職掌上ノ儀ハ充分ニ可相尽ニ付御安心アルベシ時宜
ニ寄リ不経端所ノ取計ノ儀モ可有之ニ付此段兼テ御聞置ヲ願フ

九月三日

工部省九等技手二級

任六等属第三課	牛	奥 昌
土木係申付候事		
任七等属第三課	一 部 省 廳	小 林 莊 太 郎
土木係申付候事		
同	同	沼 尻 政 太 郎
任九等属第三課	同	渡 辺 一 忠
土木係申付候事		

九月廿九日

郵便局長並島内務少輔ヨリ聯合書

御県備汽船快順丸航費之儀ニ付別紙之通り三菱会社ヨリ申出候ニ付
調査候処先般米陸軍省用船之儀ハ軍機ニ関シ候儀故本船臨機運航ニ
差支無之様母ヲ手配有之候儀ニ付日然滞船費等モ過額相成居候儀ニ
テ於御県モ当今差向候処ハ会社申立之通り支給相成可然存候得共自
然本船半ケ年以上モ御備可相成候見込ニ申談ニ付否早行回答有之度
此段別紙相添及御照会候也

十年九月十九日

別紙

当社汽船快順丸今般内務御省御沙汰ヲ以鹿兒島果御用船被仰付船費
御下渡其外ノ件共總テ陸軍省同様之振合ヲ以御用相勤候答於長崎支
社別紙写之通何濟相成候処船費額之儀ハ右支社ニ於テ相心得不申ニ
付何等ノ儀モ何出不申候処陸軍省何濟ノ費額航海一様夜金三百拾八
門拾四錢管燈燈泊一様夜金百四拾八門拾四錢管燈二御照候条此費額
ヲ以鹿兒島果官ヨリ御下金ノ儀御河ヨリ可然御照会被或下候様仕度
此段御届旁奉願候也

明治十年九月十八日

郵便局

御中

郵便汽船三菱会社

前島内務少輔ヨリ電報

快順丸ハ永久便船ニスルカ経費約定ノ都合アリ急ニ

九月廿七日

同回報

快順丸ハ來ル十月ヨリ先キ六ヶ月ノ間且寧靜丸モ当分押借ノ心得ナリ外ニ累下商船迎陽丸相借ヒ諸物品等輸送致サセ居候間此段御聞置有リタシ

三菱会社高千穂丸事務長池添権平ヨリ伺書

一 汽船高千穂丸

右ハ先般内務省御用ヲ以一ト立限リ当御県下救恤米積入当港へ航海神戸阪港ノ上御用解ニ相成於同所人民ノ荷物積入東京へ航海ノ等ヲ以於神戸港其手宛仕有之処御県下動乱ニ際シ不計モ永々之滞泊ニ相成於神戸港テ約定仕有之候荷物ノ儀ニ付不都合相生困却仕居候趣之処此節御用荷物最早陸揚濟ニ可相成ニ付テハ此上神戸歸航御用解可相成ト相心得手配ニ及居候処海軍省御用ヲ以御人数御乗込ノ趣承知仕候右者神戸迄ノ航海ニテ前件之通御用解相成且其迄ノ処ハ矢張内務省御用船ト相心得可然哉又ハ其他ノ港へ通航仕候共神戸阪若候迄ハ同様相心得可中哉於神戸人民荷物請負之都合有之候得者予テ於東京内務省ニ御約定通神戸回航ノ上御用解相成候様仕度此段參伺候也

十年九月廿九日

指令

書面句ノ趣川村參事ヨリ照会之次第有之ニ付米陸揚濟之上ハ都テ參軍本營ノ指揮ヲ可請儀ト可相心得事

仁礼大佐へ掛合書

三菱会社汽船高千穂丸事務長池添権平ヨリ別紙之通伺出候就テハ曾テ御引合ノ趣モ無之哉一応為急及御照会候也

別紙同前

同回答書

三菱会社汽船高千穂丸事務長池添権平ヨリ申出之儀ニ付御照会之趣致承知候右ハ聊夷存無之候条御覽慮之通り取計有之度此旨及御回答候也

九月廿九日

田ノ浦出張県令へ電報

快順丸需用品欠乏セシニ付鹿児島從泊ノ鹿児島丸ヨリ物品受取タク旨船長ヨリ願出ルニ付序テ預テ同船へ積置シ米四百俵余其地へ陸揚ケ致候方然ル可キ見込其地差支ナキヤ御答ヲマツ

同回報

快順丸差廻之儀差支ナシ

快順丸へ達書

其船明三十日午前第八時ヨリ鹿児島へ向ケ出帆可致尤所着港之上米穀陸揚ノ儀出張官員へ可伺出事

追テ鹿児島港ニ於テ陸揚濟当港へ販港ノ上ハ其旨可届昌事

長崎県令ヨリ電報

御県下ノ者ニテ現今当地監獄ニ有ル罪囚ノ内免罪ノマエ送ルベキ分二百八十七名アリ

九月廿七日

加治大警視飯田張所ヨリ通知書

明三十日当飯出張所鹿児島へ引移候間為御心得此段及御通知候也

九月廿九日

軍団本營ヨリ來書

今般賊徒追討ニ付進軍及滞陣之際軍団各部各旅団等其県下市街村落人民之家屋江倉營為致候就テハ相当之宿料可下渡候条其県ニ於テ詳細取調証據書等相添取付メ可申出事

但飯米兵外取換品等有之者ハ其代價等無遺漏取調宿主申書ニ証據書相添戸長奥印ヲ捺シ可差出事

九月廿九日

出乙第二号達書

各区戸長

今般賊徒征討ニ付各軍団人民之家屋へ倉庫致候宿料等ト予之儀ニ付別紙之通り軍団本營ヨリ達シ有之候条各区ニ於テ無洩取繼所轄庁又ハ出張所へ可差出此旨相達候事

同	田ノ浦出張所詰申付候事
同	二等属
同	伊藤市郎
同	六等属
同	鎌田定衛
同	七等属
同	小宮山季良
同	八等属
同	島田徳治
同	千家尊賀
同	坂本源
同	山田海三
同	松本彰
同	石井忠順
同	石井克
同	添田弼
同	九等属
同	岡本隆興
同	十等属
同	己野正孝
同	内海忠海
同	矢田正義
同	等外一等
同	小川力松
同	山川兵力
司	松山庵
同	竹内於菟一
同	三等
同	永田半助
同	大塔万護六
同	田中方右之門
御用有之大坂出張申付候事	三等属
御用都合有之飯子申付候事	新島義之
第一課申付候事	須知彦太郎
除服出仕申付候事	浦原敬路
依願免太官	山田海三
居申付日給四拾銭宛給与候事	伊藤義彪
	猪瀬義典
	五等属
	中沢義致
	東京府士族
	島田直忠

市岡義之助
山林豊平

内務卿へ電報

当県非常予備金ノ儀ハ其釐々目論見或ハ入替ノ要例取調ベ更ニ可申
立旨ニ承致セリ該金百万円ノ内七百四十万円庁中新調モノ并ニ官員人
足等賄費ナリ目論見高金貳拾万円県庁官舎新築費七万八千円汽船航
海費八万円病院費一万五千円戸籍取調費一万円一時御救助費七万円
特別小屋掛料賜ヘリ金拾九万五千円御賑恤金五万円学校費二万五千
円人足賃貳拾万円臨時備ヘ金ニ有之追テ精算仕上ニ至リ一ト詳細区
分申上ベク依テ至急御指令ヲ待ツ

内務大蔵兩卿へ上申書

六金拾万圓

右者先般為非常予備金貳拾万圓御亭相成候処入果以降果下弼戰之際
シ人民兵火ニ罹リ候者共不少日今追々勘定ニ屬シ一時散逸ノ人民復
販ニ付テハ至難ノ者トモ救恤方等費用夥多ノ義ニ付兼テ伺濟ノ延長
崎出納迄ニ於テ書載ノ金經操替受取申候間右金員史ニ御下渡ニ相成
度御許可ノ上ハ長崎出納局へ直テ二御下付相成候様仕度此段相付候
也

十年七月廿五日

指令

書面金拾万円ハ非常臨時費トシテ大蔵省ヨリ可下渡事

十年八月廿九日

内務卿大久保利通

警視局ヨリ通知書

一、警第百三号

今般第二次新撰旅団編入之者へ別紙之通相達候就テハ出京先着之者ヨリ順次出立中付候手組ニ候条此段爲心得及御通知候也

十年八月廿四日

別紙畧

同掛合書

一ノ警第百廿六号

今般第二次新撰旅回編入ノ者解職歸郷中付候儀ニ付諸達等相添一ノ警第百三号ヲ以過日及御通知候処右慰勞金并県庁ヨリ住所迄ノ旅費金等受取方申出之者ヘハ一時御呉ニ於テ繰替渡御取計相成追テ精算明細帳柜添御申越和成度此段及御照会候也

十年八月卅一日

同回答書

今般第二次新撰旅回編入ノ者解職歸郷御中付相成候儀ニ付一ノ警第百三号ヲ以御通知和成候処右慰勞金并県庁ヨリ住所迄ノ旅費金等受取方申出之者ヘハ一時御呉ニ於テ繰替渡御取計相成追テ精算明細帳柜添御申越和成度此段及御照会候也

宮崎支庁長小野修一郎ヘ奉書

県下追々平定ニ越候ニ付各府県ヨリ出張ノ官員ハ夫々飯果取計置候儀共其支庁ノニ就テハ本庁直轄ノ分ハ各出張所共夫々飯果取計置候儀共其支庁ノ分ハ各出張所等多数ノ出張官員モ有之儀ニ付直ニ帰県中付テモ事務上ノ不都合ヲ醸シ候儀モ難計ニ付一迄及協議候条其支庁在勤ノ官員ヨリ可成交代等ノ日途相立テ尚不足ノ人員ハ当庁ヨリ可相廻候間篤ト緩急等見計ヒ何分ノ儀急速可申出此旨相達候也

東京ヨリ帰庁

同	八等属	三上環
同	上等属	山崎弘
田ノ浦出張所詰中付候支	四等属	浦原敬路
垂水出張所詰中付候事	五等属	塩田益穂
同	八等属	三上環
同	十等属	島崎正志
同	五等属	大江退
同	九等属	山内満五郎
知覧出張所詰中付候支	同	三屋金之助

同	十等属	村河与一
鹿児島出張所詰中付候支	同	大山行佐
御用都合有之至意	七等属	小宮山季良
飯庁中付候支	大阪府官員	福原元資
御用済ニ付帰府中付候支	本県六等属心得	同
同	同	七等属心得
同	同	八等属心得
同	同	兵庫縣官員
御用済ニ付帰県中付候事	同	八等属心得
同	同	堀縣官員
同	同	七等属心得
同	同	九等属心得
同	同	滋賀縣官員
同	同	四等属心得
同	同	七等属心得
任七等属第三課	同	七等属心得
土木掛中付候支	許別県土族	大貫忠清

明治十年第十月分

鹿兒島県口誌

第六

十月一日晴 月曜日

軍用電信大島陸軍少佐ヨリ聯合書

都ノ城ヨリ延岡迄軍用電信線路其儘差置候事ニ付伊藤工部卿へ御上
申ニ相成候処今以テ何分ノ儀電報ニテ不申來然ルニ当局事務モ追々
取片付致度候間至急何分ノ御決定ニ相成候様工部卿へ御催促相成度
此段及御照会候也

追テ軍団各部モ順次引揚ニ相成候間模様ニ寄リ線路引上ケ候故此
旨為念添テ申入置候也

十月一日

同回答書

都ノ城ヨリ延岡迄電信線路ノ儀ニ付去日伊藤工部卿エ上申候処今以
テ何分ノ指揮無之ニ付催促ニ可及旨御聯合承知致候尚從是再上申
ニ及候様可致候間右御承知相成度此段及御答候也

工部卿エ電報

去月二十八日付ケ電信ヲ以テ宮崎ヨリ大分マテ電信線路軍用ノ儘御
採り用ヒ相成度旨上申候処于今御指揮無之此際差置候ニ付至急御指
揮相成タシ

同回報

軍用電信ヲ当省ニテ採り用ヒ郡城宮崎延岡其儘開局ノ儀承知ス此段
陸軍ニ聯合タリ

十月一日

宮崎支庁へ電報

今般軍用電信局引揚ノ旨ニ付其儘差置度旨工部〇へ上申セシ処左ノ
指揮アリ因テ此旨心得トシテ相達ス

指令文如前

内務大藏兩卿へ電報

予テ当県へ御渡相成ベキ米五万石ノ内和歌ノ浦史及比高千穂丸ニテ
追々御同艘相成シ処乱候ノ分多数有之散米多ク且陸揚等此際至急ヲ
要シ石數量リ立ノ暇無之因テ仕松濱精算ノ上員數等詳細可申上此段
御届仕候也

郵便局長前島内務少輔へ電報

高千穂丸積米八千石余賊徒平定ニ付陸揚ケ着手セシ延折柄川村參軍
へ引渡候ニ付陸揚極メテ至急ヲ要シ方スレトモ式方依程ノ内乱儀
及ヒ散米大凡千百俵程積ミ残リタリ此際不得已儀故御地着船ノ上ハ
陸揚日今後ノ輸漕等可然其筋へ御達シ相成度此段御依頼致候也

大藏卿へ電報

当県へ御渡ノ米五万石ノ内凡一万五千石程受取タリ残三万石余可成
至急御渡シアリタシ当県使用ノ諸船ハ必要諸物品運送其上大島始メ
各島砂漕運輪見込ニ付郵便寮所情用船等ニテ御同送御取計ヲ乞フ

長崎県ヨリ電報

貴県士族大山綱良昨三十日斬罪所刑済ノ処貴県士族半田豊吉親族ニ
代リ綱良ノ遺骸ヲ受度旨願出タリ右願ニ因リ下ケ渡シ親族ニ於テ差
問無之ヤ否御調ノ上即刻御報アリタシ

十月一日

熊本県ヨリ電報

貴県國事犯ノ者護送ノ儀臨時裁判所ヨリ切迫申越スニ付至急何分ノ
御回答アリタシ

十月一日

熊本大分兩県へ電報

當県國事犯ノ者本日ヨリ放免帰籍ノ儀差支ナシ護送ノ儀ハ鹿児島警
視出張所迄御取計アリタシ

出内第一号布達

鹿児島三大区戸長役場当分左ノ通知定候冬士民諸願何届等奥印ヲ
要スル者ハ其向々へ可差出此旨布達候也

第二大区士族中

第二大区下町西田町

第三大区上町

依願免本官

依願出仕差免候事

国分浜市出張申付候事

撫育会社内

松原神社ノ内中教院

鶴江崎渡辺武右衛門方

四等属 柴 太一郎

等外三等 網代 浜之助

御用掛区員 島谷 文吾

十月二日晴 大曜日

三条太政大臣ヨリ電報

本年五月行在所第十二号達シ鹿児島県下諸港へ船舶出入禁止ノ儀ハ
廃シタリ此旨達ス

甲第四十二号布達

本年五月行在所太政官第十二号ヲ以テ当県下諸港船舶出入当分禁止
之儀御達相成候処即今電信ヲ以テ廃止之旨御達相成候条此旨布達候事
加治木車用電信掛ヨリ通知書
本日当軍用電信取扱所閉局ニ付向後ノ電報ハ總テ工部電信分局へ御
依頼相成度此段及御通知候也

十月二日

長崎県令ヨリ電報

貴県囚事犯ノモノ七拾名免罪ニナリ本日午後五時当港出帆明三日午
后其地着ノ積リ舳舳ヲ差出上陸差支無キ様御注意ヲ乞フ

十月二日

兵庫県ヨリ電報

其他昨今虎列刺病ノ形況イカニ

十月二日

同回報

当県下虎列刺病ノ形況御尋ノ旨奉知セリ巡查軍夫ニ少シツ、アレ共
蔓延スル勢ニナシ此旨回答ニ及フ

警視出張所へ掛合書

管丁各郷目下虎列刺病流行候ニ付右予防法等モ夫々布達シ置候処就
中水引郷近傍各郷ニハ追々流行之趣尤右ハ其郷ニ出張ノ警視隊中ニ
起リ自然人民ニモ伝染ニ及フ模様ニ有之由同所出張所ヨリ中山候因
テハ右予防法ハ勿論自然伝染不致候様一層御注意ノ上忠告等ノ儀夫
々御所分相成度此段及御照会候也

同所ヨリ依頼書

今般警視出張所再設本日開庁事務取扱候就テハ別紙之通受許人民へ
布達方可取計警之処兵乱後未タ当地ニ戸長詰所等モ取設無之趣依テ

乍御手教其節へ達方御取計相成候様改度布達書相添此段及御依頼候
也

別紙

今般鹿児島山ノ口馬場島津左衛門郎ヲ以テ鹿児島警視出張所再設本
日ヨリ開庁事務取扱候条人民諸願付留等差出方之儀者本年七月十二
日初等同廿五日第二号ヲ以テ布達候通可相心得此旨相達候也

明治十年十月一日

鹿児島警視出張所

同回答書

今般其出張所再設ニ付布達書掲示方云々御依頼之趣承知致候速ニ其
筋へ達方取計候条此段及御回答候也

各支庁及各出張所へ達書

鹿児島警視出張所ヨリ別紙布達書掲示方之儀依頼相成候条其通取
計此旨相達候事

別紙布達書如前

佐伯出張軍団裁判所ヨリ通知書

日向国臼杵郡北片村平民角田平太郎儀一応裁判候別紙手續書ニ付
大分出張九州臨時裁判所へ護送之途中当月一日逃亡致候条書類相添
此段及御通知候也

明治十年九月八日

別紙略之

同回答書

日向国臼杵郡北片村平民角田平太郎儀御覧問ノ末大分出張九州臨時
裁判所へ護送之途中客月一日逃亡致候段御通知ノ趣致承知候此段及
御回答候也

追テ本人手續書ニハ南方村角田栄太郎ト有之外書類ト不突合ニ付
尚御取調有之度此段中添候也

宮崎支庁へ達書

佐伯出張軍団裁判所ヨリ別紙之通中越候ニ付書類相副此段相達候
也

別紙如前 書類略之

佐伯出張軍団裁判所ヨリ通知書

八月卅に死没

薩摩國指宿住士族

堀之内 冒之丞

九月二口死没

大隅國財部郡正ヶ峰村住士族

上原 治左衛門

九月四日死没

同國司郡司村士族

長瀬 寛治

右之者共去八月中降伏致候ニ付熊本鎮台出張不営豊後國重岡ヨリ当所へ護送相成候処兼テ重傷ヲ受有之為ノ遂ニ頭書ノ月日ニ死没致候間当地警視署へ依頼俾埋葬致置候条比段及御通知候也

明治十年九月八日

右回答書並其遺族へ達書等畧之

熊本軍國輜重部ヨリ電報

軍國及ヒ各旅団ニテ一時使役セシ人夫中若可願出事故有之者ハ至急御取調ヘノ上來ル五日迄ニ熊本軍國輜重部へ御申出アレ尚同所ニテ發務取調ヘ直クニ坂京スルニ付右御通報ニ及ブ

十月一日

同回報

軍國及ヒ各旅団ニ於テ一時使役セシ人夫中若シ願出ベキ事故有之者ハ至急取調ノ上來ル五日迄ニ貴部迄可申出云々御通報之趣致承知候右ハ管内一般へ関係ノ儀ニ付徹底五日間ヲ以取調候儀雖出来依テ一応罷ケ寄出張輜重部へ屬官ヲ以引合候処取調ノ儀有之ニ付迄テ何分御回答可相成旨致承知候然ルニ本日別紙等之通り御回報相成就テハ前形ノ通り早急取調出来並候間当廿日迄御猶予相成度其内貴部御引揚ニ相成候ハ、本省へ上申致度候間左様御承知相成度此段御回報旁申上候也

軍第四十五号布達

軍國及ヒ各旅団ニテ一時使役セラレ候人夫ノ内右使役中賃金等ノ儀ニ付山縣致度者有之候ハ、來ル十五日迄ニ可申出此旨布達候事

九州臨時裁判所ヨリ通知書

益山慶輔以下六十三名別紙之通昨廿日及処断候条此段申入候也

明治十年九月廿一日

別紙

申渡

鹿児島縣鹿兒島

上ノ原居住士族

益山 慶輔

同県西田村居住士族

木城 伸之助

同県上ノ原居住士族

八木 信行

同県上荒田居住士族

竹原 半兵衛

同県西田町士族

深江 孝藏

同県加治木郷反上村士族

猪之助養子

小浜 半之丞

同県草牟山士族愛太夫

長男

梅田 剛八郎

同県薩摩國指宿郡今和泉

郷岩本村士族

宅間 道心

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ争シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ中隊長トナリ

官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上

懲役五年申付ル

明治十年九月二十日

鹿児島縣高岡郷内山村

士族祐倫長男

長野 祐之

同県鹿兒島県草牟田居住
七族
東郷 夷 平
同県鹿兒島平ノ馬場通り
士族治啓葵子
梅田 治 智
其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聳メ中隊ノ監軍ト
ナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可中付延情状ヲ酌量シ各除族
ノ上懲役五年申付ル
年月日同上依略之以下徴之

鹿兒島県日向国那珂郡飯肥
板敷村居住士族
山城 軌
同県鹿兒島天神馬場士族
肝付左右同居士族當時日
向国宮崎松山町平民緒方
新平方寄留
新納 観 二
同県鹿兒島西田村居住
上族
桑波田 景 左
同県日向国那珂郡佐土原
下那阿村士族喜總忠長男
小 森 喜 一
同県鹿兒島上後迫士族
寺兵衛長男
岩 切 正九郎
同県日向国那珂郡佐土原
上口島町居住士族
木 村 喜惣太

同県同国諸県郡高門郷
内山村居住士族
杣木崎 正 因
同県鹿兒島城ヶ谷居住
士族
志 岐 喜平太
同県日向国児湯郡高鍋
居住士族
河 辺 敏 公
同県末吉郷麓居住士族
宮 里 敬 介
同県今和泉郷岩本村
居住士族
三 宅 住 室
同県日向国児湯県高鍋
士族
石 井 習 吉
同県同国諸県郡高門郷
内山村居住士族善右衛門
養子
有 馬 純 房
同県鹿兒島新屋敷居住
士族
秋 印 甚 助
同県日向国野尻郷紙屋村
居住士族伝右衛門長男
永 片 利 坡
同県鹿兒島可鍛治屋町
居住士族
小 山 直 方

同県鹿兒島西田村士族
多聞長男

上井 保

同県日向国那珂郡佐土原
下田島村士族

鶴田 六郎

同県鹿兒島犬迫村士族

鬼丸 五助

同県薩摩谷山郷堀之内

馬場士族

左近允 尚行

同県鹿兒島下荒田村

居住士族

鎌田 政武

同県薩摩国平佐郷平佐村

居住士族

徳丸 吉蔵

同県日向国臼杵郡

延岡々宮村士族

大島 景保

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ

官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上

懲役三年申付ル

鹿兒島県日向国諸県郡

高陽郷内山村士族

池上 助二

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長ノ監軍トナ

リ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上

懲役三年申付ル

鹿兒島県日向国臼杵郡

延岡高村士族

清水 湛

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長ノ申付ヲ
以監軍トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量
シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県薩摩国阿多郡

伊作郷中原村居住士族

宇都 為榮

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ官
兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役三年可申付処
初メ県庁ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県薩摩國中幡村

士族

堀原 小助

同県日向国諸県郡綾

十ヶ所村居住士族

久木山 与市

同県薩摩国市来郷

湊村居住士族

和田 軍吉

同県日向国諸県郡都城

長飯村居住士族

前田 漢寝

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ

官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役三年可申付

処初メ区戸長ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ各除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県大隅国福山郷薩

居住士族兼和長男

松下 市次

同県鹿兒島郡上江村居住

士族

村井正綏

同県日向国諸県高岡郷内

山村居住士族甚右衛門

長男

川辺道圓

同県日向国同郡同郷

飯田村居住士族

中村政喜

同県日向国那珂郡佐土原

上田島村居住士族

立山權十郎

同県大隅国末吉郡二ノ方

村上族貞行養子

本山貞直

同県鹿兒島下荒田村士族

野村誠助

同県上ノ國上族一六長男

鳥丸修吾

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ半隊長トナリ
官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付知情状ヲ酌量シ各除族ノ上
懲役二年申付ル

鹿兒島県日向国諸県郡

辨山村居住士族

黒木伝

同県大隅国贈嶺郡国分郷

向花村士族四郎兵衛四男

小原武七

同県日向国諸県郡野尻郷

紙屋村士族

岩倉新四郎

同県大隅国始羅郡重富郷

立野村士族強兵衛長男

厚地豊之助

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ半隊長トナリ

官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役二年可申付

処初メ区戸長ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ各除族ノ上懲役一年申付ル

鹿兒島県末吉郷

岩崎村居住平民

池田甚左衛門

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ半隊長トナリ官

兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役二年可申付ノ

処初メ区長ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ懲役一年申付ル

鹿兒島県鹿兒島二本松

馬場通居住士族

池永兼教

同県薩摩国伊集院郷

久佐村居住士族

上野平太郎

同県日向国高岡郷

飯田村士族

中村正常

同県薩摩国頤娃郷

七族六弥太三男

蜂須賀資治

同県日向国那珂郡蘇肥

酒谷村士族

鬼束綱義

同県日向国高岡五町村

士族藤兵衛長男

宇都 連
同県鹿兒島草牟田士族

秋丸 節

同県日向国高麗郷

内山村士族

池上 市助

同県薩摩国多喜郡高城郷

菱ノ浦村士族六郎次長男

阿久根甚左衛門

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長トナリ
官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上
懲役一年申付ル

同回答書

益山慶輔以下六拾三名九月廿日御所断済御通知之趣致知候此段及
御回答候也

右益山慶輔以下懲役五年以上ノ者ハ原籍ヘ之ヲ揭示セリ揭示書
類畧之

同所ヨリ通知書

山内甚右衛門以下百四拾七名別紙之通去ル十四日及処断候条此段申
入候也

明治十年九月廿一日
別紙

申渡

鹿兒島県大隅国々分郷
士族

山内 甚右衛門

同県日向国諸県郡穆佐郷

小山田村士族盛祐長男

野村 盛賢

同県下伊集院士族

有馬 雄助

同県下鹿兒島

天神馬場士族

橋本 諒助

同県鹿兒島上本龍寺

馬場士族

伊集院 英輔

同県鹿兒島武村士族

八之進四男

児玉 八次

同県日向国那珂郡鉄肥

板敷村士族

米良 一穂

同県日向国同郡岡村

士族

金田 徹

同県蒲生郷上久徳村

士族

長谷場 純尚

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ中隊長トナリ
官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上
懲役五年申付ル

明治十年九月十四日

同県鹿兒島郡小野村
士族善兵衛長男

原山 英次

同県士族

伊東 祐賢

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ中隊長トナリ
官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ各除族

ノ上懲役五年申付ル
年月日同前依テ答之以下敬之

鹿兒島県下加世田郷
小港村士族
窪田 七兵衛
同県川辺郡平山村
上族

大辰 太左衛門

其方兵儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ并シ衆ヲ聚メ中隊長トナリ
官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情狀ヲ酌量シ懲役五年可申付
処初メ戸長ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌量シ除族ノ上懲役三年申付ル

同県鹿兒島西田後馬場

十族十郎兵衛長男

八木 豊治

同県同所西ノ所村

士族

黒田 源右衛門

同県同所荒田村士族

半蔵弟

江田 基

同県大隅国山田郷士族

治右衛門長男

竹下 六郎

同県鹿兒島天神馬場

士族佐左衛門二男

肥後 直治

同県第三大区六小区

鹿兒島福昌寺門前士族

郡山 誠治

同県日向国那珂郡鉄肥

板敷村士族朽索養子

伊東 祐啓

同県同国同郡同所

平野村士族

和田 勇

同県薩摩国出水郡

出水郷武本土族

竹添 節

同県日向国諸県郡

高岡五町村士族

坂元 正一

同県同国那珂郡福島西

方村士族養毅長男

口高 義正

同県同国同郡田島村

士族

前田 貞一郎

同県同国同郡下那珂村

士族

石井 平三

同県同国都ノ城士族

竜岡 資時

同県同国同所士族

袖田 正吉

同県武村ノ内上ノ隔

士族次右衛門長男

松元 直之丞

同県薩摩国指宿郡

指宿郷士族

山崎 武平

同県鹿兒島西田村
士族
横山 賢次郎
同県瀬姓郷郡村士族
田中 豊彦
同県同郷仙田村士族
阿万 甚五郎
同県川辺郷平山村
士族元益長男
鯨島 藤一郎
同県喜入郷下村
士族兼片長男
榎屋 兼明
同県加世田郷麓士族
木佐貫 助一
同県置郡出木野郷
上妙村士族
加藤 彦十郎
同県鹿兒島塩屋村
士族金之進長男
三原 直記
同県薩摩国日置郡猪鹿
倉村九番地士族
是枝 吉蔵
同県下荒田村士族
土岐 半介
同県上荒田村士族
平田 佐八郎
同県蒲生郷士族
伊地知 敬輔

其方共義西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ
官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上
懲役三年中付ル

鹿兒島県日向国那珂郡
福島西方村士族

鈴木 重弘

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ監軍トナリ官兵
ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役三
年中付ル

同県薩摩国鹿兒島郡

鹿兒島本立寺馬場

士族倫文弟

矢野 倫安

其方儀警視庁巡查奉職中佐賀山張先ヨリ脱去シ西郷隆盛ノ逆意ニ与
シ兵器ヲ携ヘ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ除族ノ上懲役三年中付ル

同県伊集院郷士族

町田 孝造

同県諸県郡城五十

町村士族

乙守 宗嘆

同県薩摩国出水郡

出水郷武本村士族

小田原 要輔

同県隈ノ城郷東手村

士族吉十郎弟

平山 英輔

同県同郷同村士族

源太左衛門二男

木場 宗兵衛

同県同郷西手村士族

作兵衛長男
 永山 正兵衛
 同県大隅国始羅郡
 蒲生郷士族
 有馬 源右衛門
 同県伊作郷湯ノ浦村
 士族一郎二長男
 田中 伝右衛門
 同県市来郷湊村士族
 山下 嘉兵衛
 同県薩摩国姦山郷
 上福本村七族
 池田 康右衛門
 同県日向国児湯郡高鍋
 石原村二族
 岡本 勝知
 同県伊集院郷士族
 坂本 栄後
 同県知覧郷西別府村
 士族
 赤崎 元瑞
 同県加世田郷麓士族
 指宿 通綱
 同県同郷同所士族
 前田 源之丞
 同県永利郷山田村
 士族
 愛甲 雄藏
 同県莊内郷士族
 末原 熊次

同県阿多郷宮崎村
 士族
 迫田 権五郎
 同県下指宿郷麓士族
 玄良養子
 東郷 莊之進
 同県平佐郷士族
 落合 精次
 其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ官
 兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役三年可申付処
 初メ区戸長ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ各除族ノ上懲役二年申付ル
 全県田布施郷下リ村
 士族諸右衛門長男
 築原 源次郎
 其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ官
 兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役三年可申付処初
 メ県庁ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ除族ノ上懲役二年申付ル
 同県第一大区五小区
 西田村平民
 知 識 友次郎
 其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ半隊長トナリ官
 兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ懲役二年申付
 ル
 同県第五十四大区一小区
 山田郷卅一番地士族信五
 右衛門長男
 小倉 祐助
 同県鹿兒島市野村士族
 池上 盛行
 同県第二大区三小区上

ノ蘭八拾番地士族
梶原 繁一
同県鹿兒島武村上ノ園
士族
東郷 弥彦
同県日向国那珂郡飯肥
板敷村士族
伊東 祐藏
同県同国同郡同所
大窪村士族
大田 原弘
同県鹿兒島千石馬場通
士族
義国 実義
同県日向国那珂郡飯肥
板敷村士族
高山 真平
同県同国同郡同所
同村士族
稲沢 泰三
同県同国同郡同所
同村士族
長倉 弥九郎
同県同国同郡同所
同村士族
米良 雲暉
同県第一火区二小区
士族盛武長男
竹下 盛隆
同県薩摩国谷山郷福

元村士族利貞長男
児玉 利謙
同県額姓郷郡村士族
眞永 藤次郎
同県喜入郷上村士族
佐藤 良助
同県日置郡中木野郷上
妙村士族宗之丞長男
長連 四郎
同県伊集院郷士族
坂本 友藏
同県水引郷士族
塚元 浮一
同県薩摩国鹿兒島郡鹿
児島騎射場士族金兵衛
弟
長崎 源藏
其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ兵隊長トナリ
官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上
懲役二年申付ル
同県鹿兒島後追士族
川上 親平
其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ彈藥製造ノ事ヲ主任スルノミナラス其
為メ鉛山取設ノ議ヲ發起シ其礦業ニ従事スル科ニ依リ懲役三年ノ処
情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル
同県日向国諸県郡
高崎郷繩瀬村士族
山下 盛繁
同県額姓郷郡村
士族

阿野 安敦
 同県同国那珂郡佐
 土原下那珂村士族
 権三長男
 山中 九八郎
 同県同国児湯郡高鍋
 上江村士族
 平林 忠組
 同県同国同郡高鍋
 石原村士族
 泥谷 新
 同県同国都城郷
 梅北村士族
 細山田 正信
 同県莊内郡安永村
 士族
 桂木 良耀
 同県日向国都ノ城
 士族
 齊藤 実猛
 同県隈ノ城東子村
 士族
 尾上 言志
 同県同所西手村
 士族
 天辰 武右衛門
 同県平佐郷一族
 丸目 織右衛門
 同県同郷士族
 柳田 賢右衛門

同県永利郷百次村
 士族
 前原 俊助
 同県同郷同村士族
 福山 善吉
 同県隈ノ城郷西手村
 士族東峯長男
 四元 杏哉
 同県第九大区二小区
 伊作湯ノ浦村士族瀬
 右衛門長男
 樺山 伊右衛門
 同県川辺郷平山村士族
 左次右衛門二男
 和田 幸兵衛
 同県市来郷長置村
 士族
 赤崎 権藏
 同県田布施郷池辺村
 士族
 川野 伊右衛門
 同県日向郡串木野郷
 上妙村士族
 加藤 寛右衛門
 同県日向国諸県郡
 前田村士族伝右衛門
 長男
 白尾 実記
 同県薩摩国谿山郡谷
 山郷上福元村士族

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ兵器ヲ并シ衆ヲ聚メ半隊長トナリ官
兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役二年可申付処
初メ区戸長ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ各除族ノ上懲役一年申付ル

田中 太右衛門
同県市来郷湊村士族
和田 治右衛門
同県伊集院士族
永田 幸四郎
同県加世田郷麓士族
小田原 秀順
同県永利郷山田村
士族
平峯 利右衛門
同県加世田郷麓士族
指宿 孝助
同県大隅国始羅郡
蒲生郷士族
山口 喜右衛門
同県水引郷士族
石塚 甚助
同県平佐郷士族
岩切 清兵衛
同県日向国都ノ城
上族
長峯 貞員
同県莊内郷安永村
士族
加塩 捷己
同県額姓郷上町村
士族
成尾 藤市

同県鹿尾島上内ノ丸
士族喜三次伴
中島 八郎
同県日向国諸果郡
高岡郷士族
山崎 源右衛門
同県同国同郡同郷
士族
神崎 周平
同県同国同郡那珂郡禮島
西方村士族
吉屋 於菟七
同県日向国那珂郡上田
島村士族紋兵衛長男
河野 徳太郎
同県都ノ城士族
肥田 景敏
同県同所士族
池田 貞英
同県水引郷士族
貴島 要之助
同県同郷士族
喜右衛門二男
平山 弥七郎
同県日向国那珂郡飯肥
板敷村士族
田爪 鴻三
同県同国同郡同所
同村士族
日高 昌

同県同国諸県志布志郷

站村士族

東郷重郷

同県西田士族

小助長男

竹下小平

同県薩摩国鹿兒島郡

指宿郷士族

山下覺矢

同県薩摩郷別府村

士族

神六助

同県川辺郷平山村士族

四郎右衛門長男

池田軍次

同県指宿西方村

士族

日高藤一

同県伊集院郷

士族

裴輪孫六

同県浦生郷麓士族

助百長男

松下兼文

同県口置郷中木野郷

下妙村士族

宮ノ原亮助

同県市来郷長里村

士族

松山八郎兵衛

同県高麗町士族

海老原半助

同県都城士族

野崎丹左

同県同所士族

神田橋助護

同県水引郷士族

内山八郎

同県同郷士族

上村治右衛門

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニシテ兵器ヲ弄シ衆メ分隊長トナリ
官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ各降族ノ上
懲役一年申付ル

同県鹿兒島内ノ丸
上族長蔵二男

河野徳之丞

其方儀鹿兒島県巡查奉職中同県下海軍製鉄所へ押入り弾藥掠奪スル
ノミナラス西郷隆盛ノ逆意ニシテ兵器ヲ携へ官兵ニ抵抗スル科ニ依
リ懲役可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役一年申付ル

同回答書

山内甚右衛門以下百四十七名九月十四日御処断新濟御通知ノ趣致承知
候此段及御回答候也

右山内甚右衛門以下懲役五年以上ノ者ハ原籍へ之ヲ揭示ス書類等
之

宮崎支庁へ達書

九州臨時裁判所ニ於テ別紙写之通処断相成候間爲心得此段相達候也

別紙如前

重富吉田伊集院郡山
各郷巡回申付候事

八等属 石原嘉兵衛

同 肝付新蔵

十月三日 水曜日

救恤所ヲ松原神社ニ開設シ鹿兒島三大区ノ窮民ヲ救助ス

内務卿ヘ電報

先般兵火ニ罹リ特別小屋掛代ヲ賜ハリ既ニ小屋掛督ミシモノ其小屋掛風ニテ倒レシトキハ例規ノ通り小屋掛代借シ渡シ亦ハ其小屋掛今度ノ兵火ニ罹リシトキハ再ヒ特別小屋掛代遣シ可然誠至急御指揮ヲ請フ

九月廿八日

同回報

風ニテ倒レシハ成規ノ通り借シ渡セ行ヒ兵火ニ罹リシハ先般ノ例ニ倣ヒ仮小屋掛料ヲ遣スベシ

十月二日

熊本県ヨリ電報

国事犯ノ者引渡スベキ警視出張所ハ米ノ津ニアルカ亦ハ出水ニアルカ御通知アレ

十月二日

同回報

国事犯ノ者御引渡ニ付警視出張所ハ米ノ津ニアルカ亦ハ出水ニアルカ御問合セヨ旨承知セリ右ハ鹿兒島ニ警視出張所アルニ付同所ヘ御引渡アリタシ此旨回答ニ及フ

同県ヨリ電報

国事犯ノ者鹿兒島迄護送スベキ旨承知ス然ルニ最早処分済ノ者計ニテ其内沿道米ノ津出水辺ノ者モアルベシ夫等ヲ鹿兒島迄護送スレハ其者共迷惑且入費モ懸ルベシ願クハ米ノ津出水辺ノ警視分署ヘ送りタシ尚御回答ヲ待ツ

十月三日

鶴江崎出張所ヘ電報

唯今熊本県ヨリ左ノ報知アリ因テ警視ヘ協議ノ上急キ回答アルベシ

報知文如前
乙第十四号達書

正副区戸長

取調ノ儀有之候条別紙雛形ニ照シ來ル十五日限り各所轄庁又ハ出張所ヘ可届出此旨相達候事

別紙

明細書

某国何大区何小区

某郷某村何番地居住

士族

何ノ職即

年 齡

何年何月何日某所 区長副区長 村長 村副長

一年給何石 被下置官給民費課出力

但何年何月分迄請取候事

一役分地又ハ元庄屋 免高何石

一何年何月何日勤向相伺候處從前之通可相勤旨御指令

一何年何月何日左ノ通拝命

何ノ誰

第何大区某郷 区長副区長 心得中付一ヶ月金何円給与云々辞令ノ全文ヲ記ス可シ

但月給何月分迄請取候

一受持左之通

何大区何小区 戸數 何程 反別 何程

何小区 戸數 何程 反別 何程

合 戸數 何程 反別 何程

右ノ通御座候也

明治十年十月 日

支庁各出張所へ達書

今般別紙之通相達候ニ付テハ各員明細書ノ儀ハ尚審査ヲ遂ケ取纏メ
ノ上戸籍掛へ郵送可致此旨相達候事

別紙如前

同

各区正副戸長ノ内賊徒ニ党与シ或ハ私罪等ヲ犯シ就縛ノ者ハ直ニ職
務差先シ右人名可届山旨九月廿二日付ヲ以相達置候処右ハ取消候条
同廿一日相達候通可相心得此旨更ニ相達候事

同

近頃虎列刺病流行ニ付予防法等夫々布達及置候処右流行ノ地方遊病
院ノ儀ハ成丈人家隔絶ノ場所ヲ撰定シ在来ノ家屋ヲ借受可相設尤可
借受家屋等無之候ハ、仮小屋相建右病症ニ類似スル患者共ハ速ニ該
遊病院へ送付治療可致此旨相達候事

加治木出張病院医員へ達書

虎列刺病流行候処現今警保出張所ニ医員無之行警者有之節検査ニ差
支候ニ付向後行警者有之旨同出張所ヨリ通知候ハ、速ニ派出シ検査
可致此旨相達候事

熊本県ヨリ電報

当県下虎列刺病患者去月二十三日ヨリ今日迄六十名内死亡三十一名
アリ粗蔓延ノ懼アリ此段報知ス

十月三日

揭示書

鹿児島第一仮小学教場

同 第二仮小学教場

同 第四仮小学教場

同 第五仮小学教場

右焼夫ニ付廢校候事

水引出張所詰申付候事

田ノ浦出張所詰申付候事

同

同

田ノ浦出張所詰申付置候処
御田都合有之其儀ニ不及候事

桜島出張中付候事

依願雇免候事

等外一等 佐藤 邦太郎

等外二等 田川 兵力

等外四等 藤島 良士

雇 帖佐 藤右衛門

等外二等 小川 力松

雇 松田 友之助

同 草野 翠輔

十月四日晴 木曜日

甲第四十三号布達

軍人附屬人夫等放免ノ後病氣ニ罹リ其元籍へ運送致シ米候者虎列刺
病者ニ限リ伝染ノ恐レ有之候ニ付運送相禁候条右患者又ハ死体等有
之節ハ其土地人家隔絶ノ場所ニ於テ兼テ相達置候予防法ニ照準シ直
ニ処分致シ迫テ可届出此旨布達候事

熊本県令ヨリ電報

九州臨時裁判所ニテ免罪ニ成リタル者三百八十人昨日今日兩度ニ護
送差立置タリ此段申進ス

十月四日

長崎九州臨時裁判所ヨリ通知書

西本幸二以下六十九名本日処断相濟候条宣告書写相添此段及御通知
候也

十年十月二日

別紙宣告書畧之 但シ処断免罪ニ止ル

同回答書

四本幸二以下六十九名処断相濟宣告書相添御通知ノ旨致承知候此段
及御答候也

長崎県令ヨリ掛合書

國事犯囚實業士族敵島宗左衛門外六十九名別紙名面書之通リ九州臨
時裁判所ニ於テ免罪相成候ニ付一等巡査矢島保高外七名ヲ以テ及御

送付候条御受有之度此段申進候也

十年十月二日

別紙人名畧之

同回答書

国事犯因当県士族鯨島宗左衛門外六十九名九州臨時裁判所ニ於テ免罪相成候ニ付一等巡查矢島保高外七名ヲ以御送付相成受取申候本人共所持金及物品ノ儀ハ点檢ノ上夫々配付帰家申付候統テハ彼是御手數相掛御換傍此段及御回答候也

追テ本文鯨島宗左衛門外六十九名ト有之候得共中三人ハ病氣ニ付貴地滞在致居候由ニ候間為念此段申進候也

田ノ浦出張所詰申付候事

同	五等屬	齊藤	小三郎
同	十等屬	桑原	政夫
同	等外一等	竹内	正徳
同	等外四等	友松	信近
同	司	口高	善造
同	屈	西田	喜藤治
同	同	大山	市郎太
同	同	前田	平七

十月五日晴 金曜日

内務卿ヨリ電報

非常金中立之内県庁新築費ハ目論見帳差出ノ上、會議スベク学校ハ即今着手ニ及バス戸籍ハ人別一時調等ハ格別旧戸籍帳ノ如キハ急ニ調整ニ及ハス先此三口ヲ除キ予備金ハ共金額多キニ過クルヲ以テ減シテ三万門トシ其他小屋津料救助賑恤庁中費人足貧病院汽船費共八口合金五拾六万貳千門ハ長崎出納局ニ於テ追々下渡スベシ

十月四日

大蔵卿ヨリ内達書

国立銀行ノ儀ニ付テハ先般及内達候処何レモ其趣旨ヲ領得シ管民ヲシテ其方向ヲ誤ラシメサル様夫々注意有之趣ニテ各地方共追々銀行

創立等ノ企望ヲ抱クモノ不少哉ニ相聞候然ルニ士族輩ニ至ツテハ其管内ノ士族ハ必シモ協同結社セサルヲ得サルモノノ如ク相心得銀行ニ望ミキモノヲモ或ハ強テ誘導セントスルカ如キモノ有之哉ノ趣ニ候得共是等ハ各地方官ニ於テ固ヨリ注意モ有之筈ニ付敢テ不都合之場合ニ立至候處ハ有之間敷候得共銀行創立ノ儀ハ人民各自ヲ自由ニ任セ候儀ニテ官ヨリ強テ勸奨ヲ要セサハ(マ、)勿論人民ニ於テモ互ニ相強誘スル等ノ儀不相成候ニ付猶其趣ノ趣ヲ注意可有之且銀行創立ノ儀ハ其土地ノ広狭人口ノ多寡物産ノ有否其他商業取引ノ模様ニヨリテ自然其興否得失ノ次第モ有之且銀行ハ福福ノ門戸トモ謂フベキモノニテ其營業ノ宜キヲ得ルト否ナルトニヨリテ著シク其利害相益ノ帰着スル所ヲ異ニスルモノニ付該事業ノ興廢ハ偏ニ其銀行三ノ存スルモノニシテ到底適當ノ役員ヲ得ルニ非サレハ假令銀行ノ設ケアルモ其營業上終に破綻倒行ノ憂ヲ生シ利益ヲ期シテ却テ損失ヲ招クニ立至如之凡貨財ノ運用ハ其地方官ヲ定限アルモノニ付或ハ不適慶ノ資本ヲ要シ或ハ過多ノ銀行ヲ起スモ終ニ之カ進退使用ニ苦シムノミニテ結局其功用ヲ失シ尋テ民間多少ノ弊害ヲ醸スモ難計ニ付其辺際ト熱慮致シ前途ノ差期ヲ不生様尚一層注意有之度此段更ニ為心得尚亦及内達候事

明治十年八月廿八日

甲第四十四号布達

今般塔県下堺港ニ燈台ヲ設置シ候功相成本年九月十五日夜ヨリ点火致シ候趣申進候条為心得此旨沿海各区へ布達候事

田ノ浦出張所詰申付候事

同	十等屬	伊山	徳治郎
同	等外二等	山下	孫一
同	司	堀田	栄太郎
同	同	前田	与四郎

十月六日晴 土曜日

丙第六号達書

記

一真米七拾九俵

但国分郷中村名主矢八外名へ預ケ

一米米八拾四俵

但国分郷向花村名主吉水武助外名へ預ケ

一真米四拾七俵

但国分郷唐人町林作助へ預ケ

一白米二百五拾俵

但重富郷重富戸長へ預ケ

一白米九百八拾九俵

一真米四拾六俵

但加治木親田田農民社会倉庫ニ積入

右者今般県下鎮定ニ付征討軍団迫々引揚和成粮米不用ニ属シ当県へ引渡和成候ニ付入札ノ上高札へ落札松取計候条加治木ハ米ル八日重富ハ米ル九日国分ハ米ル十日官員出張為致何レモ午後二時開札致候条望ノ者ハ入札可致此旨相達候事

但石相場不相当ト見認候節ハ松下見令候事

種子島出張所へ達書

歸順人之儀別紙之通征討總督本營ヨリ御達相成候處征討中便給無之此節相達候条到達ノ上ハ其所轄諸島へモ至急致布達賊徒へ与シ候者ハ在達到達ノ日ヨリ口数十日限り戸長へ相付自首致候様々可取計尤警視局ヨリモ不日出張相成候條ニ付自首致候者ハ一同取纏メ其節処分可為相受此旨相達候事

別紙ハ九月十一日付ノ達書ナリ此ニ畧ス

長崎県令ヨリ掛合書

貴県士族國事犯本場貞正以下百七十七名別紙名前ノ者共本口九州臨時裁判所ニ於テ免罪処分済ニ付及護送候条到着ノ上ハ可然御取計右之度此段及御掛合候也

明治十年十月四日

別紙人名畧之

同回答書

國事犯当與士族不場貞正外百七十七名九州臨時裁判所ニ於テ免罪相成候ニ付一等巡查小西喜代三外十五名ヲ以送付相成候趣致承知候然延右ノ内尾崎政実若元製炭次郎堀内七之助島田壯一都合四名ハ不致到着其受取中候本人共所持金及ヒ物品ノ儀ハ点検ノ上夫々配付帰家申付候就テハ彼是御手数ニ相成御挨拶旁此段及御回答候也

追テ坂本頼藏外三十六名ノ者共所持金及ヒ物品不着申出候間委細ハ監獄番木村丈三郎外名へ申聞置候川辺郷士族池田沢助儀ハ船中ニ於テ死去候由ニ付遺体受取方夫々相添候尤病症ノ次第右護送者ヨリ承リ及ヒ候得ハ虎列刺病症ト相聞候間定規ノ通埋葬方申付候

此段為御合申副候也

長崎九州臨時裁判所ヨリ通知書

藤井直吉以下百七十五名別紙ノ通本日処断相濟候間宣告書等相添此段及御通知候也

十年十月四日

別紙

鹿児島県都ノ城

下水崎村士族

藤井直吉

同県都ノ城士族

前山左内

同県莊内郷山口村

士族正一長男

有田宗一

同県莊内郷上水

流村士族

大牟田越右衛門

同県日向國莊内郷

上水流村士族

大牟田半兵衛

同県隈ノ城東手村

士族

園田 嘉右衛門

同県岡村士族

東 栄二

同県隈ノ城郷

西手村士族

曾木 正之助

同県同郷東手村士族

市右衛門長男

川口 新助

同県岡村士族

国分 覚二

同県同郷東手村士族

市右衛門長男

志賀 棟蔵

同県伊作郷

湯ノ浦士族

中尾 善右衛門

同県大隅国始羅郡

蒲生郷居住士族

塚田 賢石

同県第九大区小一区

伊作中原村居住士族

善兵衛養子

千口 王兵衛

同県市采郷湯田村

士族

国分 仙蔵

同県市采郷大里村

士族

宇都 伝右衛門

同県阿多郷原屋敷

馬場士族

池田 喜助

同県日置郡串木野郷

上妙村士族

東 彦六郎

同県南方秋日村

士族六郎二長男

野口 武八

同県伊集院士族

浅川 勇助

同県同所士族

若松 孫左衛門

同県平佐郷士族

永井 善八

同県水引郷士族

松本半之丞長男

猶木 源八

同県同所士族

山ノ内 藤助

同県同所士族

額川 宇兵衛

同県莊内郷

安永村士族

坂本 千二

同県水引郷士族

植村 栄蔵

同県宮ノ城士族

谷 平兵衛

同県庄内郷安永村
士族

新穂 嘉藤太

同県永利郷百次村
士族

上床 郷兵衛

同県永利郷山田村
士族

本佐貫 林兵衛

同県大隅国大根占郷

坂元 領藏

麓居族士族風長男

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ并シ衆ヲ聚メ分隊長トナリ
官兵ニ抵抗スル科ニ依リ穂役十年ノ処情狀ヲ酌量シ懲役一年可申付
処初メ区戸長ノ達ニ出ルヲ以尚酌減シ懲役百日士族ナルヲ以除族中
付ル

明治十年十月四日

以下人名畧之 但シ処断免罪ニ止ル

同回答書

藤井直吉外百七十五名処断相済宜告書写相添御通知ノ旨致奉知候此
段及御回答候也

田ノ浦出張所詰申付候事

雇 伊地知 筑兵衛

十月七日晴 日曜日

汽船快原丸長崎ヨリ着港ス県官ノ家族ノ長崎等ニ滞スル者此日皆
来ル広業商會笠野熊吉ナル者アリ県令ノ囑ニヨリ衣裳等ヲ齎シ米
テ之カ購求ニ応ス是ヨリ先キ県官ノ職難ヲ避ルヤ勿々未タ其物品
ヲ携ルニ違アラス皆之ヲ遺テ去ル時正ニ暑中其衣服ノ如キ和洋ニ
様ノ別アレトモ皆単衣ニシテ而モ唯其身ニ着スル所ノ者ノミ時節
漸ク更リ秋霜已ニ降ル然レトモ猶未タ其衣ヲ易ルヲ得ス蓋シ機キ

ニ遺ス所ノ物ハ皆燼シ近傍ノ市場ハ皆火シ復之ヲ購求スルニ由ナ
キヲ以テナリ頃日纔カニ洋氈ヲ長崎ヨリ得テ以テ衣ニ充ツ昼夜ト
ナク寒暖トナク衣裳ト為ル所ノ者ハ唯一葛一氈ノミ幸ヒニシテ饑
ヘサルモ亦凍ルヲ如何ンセン此ニ至テ之ヲ得始メテ皆其憂ヲ忘ル

揭示書

鹿児島県士族

大山 經良

其方儀鹿児島県令奉職中 朝憲ヲ憚カラス西郷隆盛等ノ逆意ヲ佐ケ
少警部中原尚雄等隆盛ヲ暗殺セント謀リシ連私学校ノ者共取捨タル
口供ヲ降盛ヨリ受取り直ニ之ヲ印刷シ右之故ヲ以降盛等政府ヘ尋問
ノ為メ上京旧兵隊ノ者多人致随行團屈タル旨管下ヘ布達シ尚人心ヲ
煽動スル為專使ト稱シ各府県鎮台ニ属官ヲ派出シ又ハ各課ノ属官等
ヲシテ賊用ニ供セシムル而ヒナラズ県庁現在官金拾五万圓余ヲ隆盛
等ニ相渡シ其県庁内ニニケ所ノ焚出湯ヲ設ケ官米ヲ以糧食ヲ給スル
科ニ依リ除族ノ上新罪申付ル

明治十年九月三十日

右之通去九月三十日九州臨時裁判所ニ於テ処断行形済ニ付此旨及揭
示候事

安藤中警視ヘ通知書

当県官崎支庁長小野修一郎ヨリ別紙写送越候条御令迄書類写送進候
也

別紙

百三大区旧区长坂口諸潔事ニ口太郎ヨリ百三大区ヘ差越候書面等御
廻シ申候本県エモ差出シ候方可然ト存候間宜布御取計被下度候此段
申進候也

九月廿八日

小野修一郎殿

藤井 精雄

写

熊本ヨリ申入候昨日今日安政橋ノ門也 鎮台兵營ノ防禦被命夜ニ入夫々賊

付候兵士何レモ無事ニ付留守ヘ安心候様御達可給候其内田中五郎立
本席太谷山鎮己美々津ヘ向替ノ為メ殘置跡ヨリ金子持參可致ノ宛今
以着不致若途中心配ノ段モ聞持參不中候テハ不相濟候間第次第特參
候様御達可給候尤比度出勢ト同様ニテ不苦候様此度上ノ町錦五郎別
段尽力候ニ付兵士格エ召仕急飛中付其地ヘ差向候間御聞取可被下候
其内第二番隊別組人名其餘ニモ御吟味ノ上元氣宜キモノ五六拾人日
高百馬隊長ニテ一日モ早ク御繰出可被下候此儀ハ大将方ト相談仕候
誤ニ候ニモ銃ハ入不申又支持參候付ハ分指ノ品沢山有之候先日県庁
ヨリ征討ノ御有達ハ有之候ヘトモ表向ノ事ニテ此上ハ一日モ早ク落
城為致精忠實微候様可仕大小等ノ決議ニ付先日ヨリ申上候金子ハ
勿論精々御周旋可被下候且又鉛塩硝少々ニテモ此度ノ兵士ヘ為御持
可被下候丸藥ハ延岡ニハ沢山有之趣ニ付藥谷ヘ御相談御調人夫ニテ
御送り被下候テモ宜ク又隣区辺ニテ一兩日中手ニ入候ハ、兵士ヘ為
御持可被下候鉄肥九大区ヘ先生御出被下候テ内々御相談被下候ハ、
少々ハ手ニ入り可申候此義十分御尽力可被下万事ハ錦五郎口上ニテ
申上候通り逐一御聞取夫々御進ヒ可被下候

三月十六日

土田太郎

篠田様

田中仲様

皆々御中

本県ヘ軍艦着ニ付貢米ハ被送間布候間近辺無論商人ノ米名目ニ
テ豊後辺ヘ向ケ飛込追々御仕送可被下候凡テ以來送方ハ錦五郎
ヨリ御聞取可被下候

一藥谷氏ヘノ書状ハ戸長代勤ノ内直持可被下候用事ハ延岡ヘ本營ヨ
リ玉葉注文ト兵士ヲ豊後地ヘ向ケ被下候トノ事ニ付必御直持可被
下候又高鍋ヘモ同斷ノ事御座候

一拙者改名ノ儀ニ藥谷氏ヘ御通シ御持參可被下候

鈴木坦平

田中耕藏
右二番三番立ノ兵隊引卒此狀着次第中一日ヲ除キ山立熊本福島本
局ヘ差越可申此段相達候也

三月三十一日

鹿児島本營參謀兼福島軍長

土田太郎

二番山立ナレハ兩人共三番ヲ引卒シ可申候此段更ニ為急中進候也
一込沢忠右衛門着其元兵隊繰出方延引ノ段甚以不相濟先日ノ公達ハ
只一通リ表向ノ達ニテ内実ハ旧薩領ノ兵四千人余ニ番立追々着高
錦延岡モ又操出其地一日モ速ニ操出無之候テハ後日ニ至リ甚不都
合ニ付併先日峯吉差立候間此程ハ既ニ操出ト存候方一今以操出不
中候ハ、此狀着次第繰出方被成候百馬病氣ナレハ代人鈴木坦平ヘ
申付可然又巡査參居候ハ、不殘首ヲ切ルトモ生取ニ致シ早々打果
ス力第一ノ功也福島ハ戰濟ニハ拙者ヘ賜リ候積ニ付先々ノ豈ヲ考
ヘ金策等被成下一日モ早ク御出可被成二番立ハ勿論三番立モ五十
程ハ火編網ニテモ七八人以上ノ箇ナレハ宜ク候間持參候様即令ノ
獵師ノ品ニテモ惜上御送り可被成右山来不申候ハ、鎗又ハ鋸刀ニ
テモ思々ニ持參不苦人足モ十人程御送り可被成貢米ハ本県ヘ上納
ニ不及最寄ニテ先代金御送り可被下候委細ハ使ヨリ可申述候也
三月三十一日認

土田太郎

篠田殿

田中殿

戸長代勤中

尚々延引致候上ハ不用ニ付金策米荒道用丈出来候ハ、三番モ三十人
程ハ御操出可被成候別紙至急御達早々御操出可被成出平耕藏百馬方
一慮疲ヲ以漸書差出候ハ、首ヲ打御送り可被成候
別紙第二旅團第一方面參謀部ヨリ掛合書

鬼神野村

戸長

若松信任

右ハ脱賊為追討延岡ヨリ江代ヘ出兵ノ御三山井松尾辺賊情探偵ノ事

及宮崎支庁長小野修一郎へ中村中住ヨリノ書状等托候処計シヤ渠却テ賊徒ノ為周旋尽力更ニ何等ノ偵報モ不致ノミナラス右書状ニ不相届彼是不審ノ照不少候間於其御県捕縛ノ上至急東京表山田少將ノ旅団事務取調所迄御送致相成候様致度此段及御掛合候也

十年九月廿五日

宮崎支庁へ遺書

第二旅団參謀部ヨリ別紙之通掛合有之候条其地出張警視へ打合セ諸事取計ベク此旨相達候也 別紙如前

同片へ電報

檢見ニ付加勢ノ官員六名明八日出立為致候就テハ其心得ニテ手配リ有ルベシ

神戸ニ在テ首根一等屬ヨリ電報

私共三人其他警備官員活版師及ヒ機械文字共取纏メ一昨日横浜ヲ出テ来ル八日ノ晩長崎へ向ケ按鋪ノ等

十月六日

宮崎出張申付候支

司

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

七等屬

八等屬

九等屬

等外二等

同

同

八等屬

等外一等

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

福井 信篤

中島 珪之助

米山 信久

池田 鎗三郎

田辺 松太郎

伊藤 喜之助

上村 直

有馬 慎吾

福島 善之助

山口 小左衛門

顯川 徳業

岡上 雄次郎

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

十月八日晴 月曜日

内務卿ヨリ電報

各費目ニ対スル金高五拾六万円下渡シ指令セリ因テ郵便申出長崎表

ニ於テ操替受取タル拾万円ハ其儘返納ニテ可然御答ヲ得ツ

十月八日

同回報

各費目ニ対スル金高五拾六万円余御下渡ノ御指令ニ付長崎表ノ操替

受取タル拾万円ハ返納ニテ可然哉ノ旨御達ノ処右操替金ハ先般上申

セシ通り予定金ノ外ニ有之返納難致因テ拾万円ハ別途御渡シ相成度

迄テ精算勘定仕上ケニ至リ残余ノ分ハ返納可仕因テ至急御指令アリ

タシ

安藤中警視ヨリ回答書 往翰ハ去ル二日ノ

水引鄰近傍ノ各郷虎列刺病流行其原由タル該郷出張警視隊中ヨリ起

リ自然人民ニモ伝播候様ニ付テ防注意方及患者処分之儀云々御照

会ノ趣テ承即チ所轄警視署へ相達貴候此段及御回答候也

十月七日

宿直規則ヲ改定ス

第一条

宿直ハ第一第二第三第五ノ四課ヨリ毎日判任者人

月給十円 月給十二円 等外者

以下ノ者共 兩人ツハ相勤ムベシ

第二条

宿直時間ハ前日退庁刻ヨリ翌朝出庁時刻迄相勤ムベシ

第三条

宿直中ハ時々庁中ノ各課ヲ巡視シ万事可心懸ハ勿論万一非常ノ儀有

之節ハ直ニ長次官課長亦ハ監護掛等へ通知スベシ

第四条

退庁時限后他ヨリ来翰アリテ即時回答又ハ所分ヲ要スル職或ハ士民

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

急願等ノモノハ直ニ長次官亦ハ其主務ノ課掛ヘ送付シ其処分ヲ決ス
ベシ尤至急ヲ要セサルモノハ翌朝受付亦ハ往復掛等ニ交附スベシ
第五条

宿直中事故ノ有無ヲ宿直日記ニ記載シ翌朝第一課長ヘ出シ候印ヲ受
テ后ヲ宿直継送箱ヘ入レ封印ノ上次直ヘ引渡スベシ
以上

御用済ニ付帰県申付候事

滋賀県七等警部

松島正義

同 九等警部

神谷一二

御用都合有之歸戸申付候事

第一課常務掛申付候事

九等属

黒田勇七

等外二等出仕申付候事

十等属

野中法隆

第一課衛生掛申付候事

本県士族

今村明清

雇中付一ヶ口金六圓給与

同

町田案山子

垂水出張所詰申付候事

同

有田彦五郎

出ノ浦出張所詰申付候事

同

三浦嘉次郎

桜島出張申付候事

同

村松碩三

垂水出張申付候事

同

村松碩三

十月九日 火曜日

出納局長崎出張長岡宗芳ヨリ掛合書

曾テ御請求相成候米管万石七月以来追々御渡シ致シ既ニ過半御受取
済之処賊徒再ヒ鹿兒島ヘ襲撃已来残米其儘ニ相成居候頃頃日賊徒全
ク滅亡征討総督官ニモ御凱戦相成候由伝聞候ニ付テハ此上右残米御
請求相成候様ニ候ハ、予メ時日御取極メ御受取相成度若又御請求不
相成候ニ候ハ、此際決算可致存候間否打返シ御回報有之度此段及御
照会候也

十月三日

同回答書

本月三日付ヲ以米管万石ノ残米請求ノ儀ニ付云々御照会ノ趣委細了
承右残米ノ儀ハ今般快順迎陽ノ両汽船ヲ差向運搬取計ニ付不日請求
済ニ可相成候間其上決算可致候此段及御回報候也

鹿兒島出張三菱会社ヨリ何書

和歌ノ浦ルニ積入有之陸揚残リ御用米ノ儀ニ付別紙之通以電報神戸
支社ヨリ申来候間如何回答可仕哉至急何分ノ御指揮率伺候也

十年十月八日

指令

書面陸揚残米二千三俵ハ和船ヘ積移候ニ付同船ニテ長崎表ヘ運搬
同所出張当県官員ヘ可引渡事

別紙

和歌ノ浦丸乗兵員百余名虎列刺病ニ罹リ其後水火夫今ニボツ々々斃
レルニ付港外ニ出シ消毒法ヲ行密ノ処鹿兒島県用揚残ノ米二千三俵
アリ運輸局ニモ不知ト云此米陸揚モ不成無致方和船借入積移港外ニ
掛在ル此終費追テ差出此米如何御処分致成哉至急県庁ニ何何分ノ御
指令ラ乞

十年十月七日

神戸三菱会社

鹿兒島出張三菱会社

前島駒廻局長ヘ電報

和歌ノ浦丸ヘ乗込ノ兵員虎列刺病ニ罹リ其後水火夫ニ及ボシ消毒方
行ヒ居ル処当県陸揚残米二千三俵ハ和船ヘ積移タルニ付取計ヒ振リ
神戸三菱会社ヨリ申出タリ就テハ和船ニテ長崎ヘ運搬当所出張当県
官員ヘ引渡スベキ旨指令ス因テ此段御報ニ及ヒ置候

鶴江崎出張所ヨリ電報

迎陽丸長崎ヘ回漕ノ節警視局ヨリ囚人二百名程差送り度旨依頼アリ
不得已儀ニ付同船回漕ニ決スル上ハ承諾スベキヤ御答ヲ差ッ

同回報

迎陽丸長崎出帆ノ節警視局ヨリ囚人二百名程送り度旨依頼アリシニ
付中越ノ儀承知セリ右ハ船賃仮振則通り取立テ乗組差聞ナシ

内務卿ヘ電報

過日御許可相成候旨宅ノ儀ハ長屋二棟是ハ判任住居ノ積リ因テ小官并ニ大書記官役宅新築仕度小官ノ分ハ次ノ間三坪客ノ間五坪茶ノ間二坪半居間二間合セテ七坪待部屋三坪女部屋三坪押入七坪縁側拾二坪台所土間雪隠共合セテ七坪余占テ五拾三坪余外ニ二階十三坪半坪二占テ六十六坪余此代凡テ貳百七十坪余ニ相成候書記官ノ分ハ玄關二坪余客ノ間三坪次ノ間二坪居間二間合セテ五坪余待部屋三坪女部屋三坪押入四坪縁側九坪台所土間雪隠共合セテ四坪半占テ三十六坪此代凡七百坪余惣占テ建坪百二坪余代金千九百八十坪余ヲ以テ大坂ニテ切組マセ度何分借宅等無之不得已次第ニ付此段相伺候至急御指令ヲ待ツ

雇出付一ヶ月金二拾四給与

第五課申付候事

長崎出張申付候事

東京府三族

桜井忠徳

等外一等

牧田新太郎

内務省御用掛医員

久米純清

月給四拾四給与候処
拾四増加候事

月給貳拾五同給与候処
拾四増加候事

同

木梨精太郎

月給貳拾四給与候処
拾四増加候事

前田政四郎

右ハ内務省へ上申則チ去月廿五日御許可相成ル

御用掛医員

村松碩三

月給四拾四給与候処
拾四増加候事

吉田宗城

同

難波一

月給卅五同給与候処
十同増加候事

田中緋瀨

月給卅五同給与候処
前同文

小林廉三

同

大河木璉松

月給卅五同給与候処
前同文

三田宗三

同

片桐重明

月給十五同給与候処
前同文

松村城

月給十五同給与候処
前同文

荒井房吉

月給十五同給与候処
前同文

高村文徳

十月十日雨 水曜日

飯県庁官廳成ル本日ヨリ各課へ事務ヲ此ニ取ル
甲第四十六号布達

今般加治木出張所相廢止当分福山菱刈宮ノ城三ヶ所ニ出張所ヲ増置
シ且山ノ浦出張所ヲ鹿兒島ニ移シ自今左之通区分相立事務取扱候条
諸般伺届等其出張所へ可差出此旨布達候事

加治木飯庁直轄

加治木 國分 清水 篠山 踊 横川 清辺 帖佐

山田 蒲生 重宮 吉山 硫黄島 竹島 黒島 コノ

島 諏訪瀬島 中ノ島 西岩島 臥蛇島 平島 宝島

鹿兒島出張所所轄 鹿兒島 谷山 郡山 伊集院 桜島

福山出張所所轄 福山 數根 恒吉 末吉 岩川 財部 宮引 市来

菱刈出張所所轄 菱刈 牛山 太良 栗野 吉松

宮ノ城出張所所轄 宮ノ城 鶴田 佐志 黒木 大村 入来 山崎 桐脇

國平田 甲第四拾七号布達

今般西征ノ役ニ服シ戦死ノ者来ル十四日ヨリ十六日迄於熊本鎮台ニ

- 73 -

御下渡相成候様仕度此段相候候也

明治十年七月六日

指令

書面之趣聞届候条其県臨時費ノ内ヲ以テ仕払可申事

明治十年七月十七日

甲第四十九号布達

盤内敷校設以下水火卒名簿取調候条国郡大小区姓名及ヒ宗族扶助金何年何月迄受領以降何月ヨリ何月迄未領等明細記載布達到達ヨリ日数廿日ノ内日向地方ハ宮崎支庁其他ハ本庁并ニ各出張所へ無遅滞可差出此段布達候事

大分県令ヨリ電報

当県中津城魁後藤順平先月廿六日貴県ニテ縛ニ就ケリト田舎新聞ニ見ユ実事カ御報アレ

十月十日

在熊本縣重部ヨリ電報

当部本日限り閉部致シタリ爾來当部ニ係ル用向ハ東京ニ於テ輻重部殘勢取調所ヲ設ケタル上御報ニ及ブ故其方へ御申出アリタシ

十月十一日

鹿兒島屯在兵參謀部長々坂陸軍中佐ヨリ通知書

別紙探偵書一通御心得迄及御回候猶即今ノ事情御探偵相成居候ハ、
当方へモ御差廻相成度此段并セテ御照会候也

十月九日

別紙

一荒田村士族ハ西郷党ノ者多ク人氣甚タアシ、婦女子ニ至ル迄事理ヲ弁セス一途ニ官軍ヲ忌メ惡ムノ形情ナリ故ニ西郷ヲ忌嫌スル者モ官軍ヲ誇リ陽ニ其党ヲトナラサレハ酷虐ニ遇フノ恐レアリトスル勢ナリ然レトモ賊徒ニ与セシ子弟等帰順寛典処セラル、ニヨリ父兄親族其再生ノ恩ヲ感戴スルモノ間々アリト云一昨今ノ浮説ニ山口県ニ賊蜂起シ勢盛ナリト云支那軍艦鹿兒島ニ入

港官軍ト兵端ヲ開クト云皆不逞ノ輩人心ヲ煽動セント此等ノ飛語ヲナスモノト想像セリ

一路傍往々汚穢或ハ死屍飯埋セシヨリ臭氣ヲ發スルアリ虎列刺ノ流行ハ之レカ為メナラント人民其掃除アランコトヲ希望セリ

一兵火ヲ避フシ者追々飯小屋ニ居來シ營業ニ就ケリ

一戸籍調ニ御着手アリト聞キ潜伏セシ者帰順ヲ願出ルト云
右去四月以來ノ探偵申出候也

十月八日

山本 正命

熊本出張九州臨時裁判所判事三好退蔵ヨリ通知書

鹿兒島縣薩摩國

谿山郷上福元村士族

窪田 長保

外三百七拾五名

右ノ者本日処断致シ則別紙宣告状写及御送付候御落手有之度候也
明治十年十月三日

同通知書

鹿兒島縣日向國

野井藏村士族

鳥浜 伝之助

外 五名

右ノ者其本日致処断則別紙宣告状写及御送付候御落手有之度候也

明治十年十月三日

別紙

鹿兒島縣薩摩國

谿山郷上福元村士族

窪田 長保

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニシシ分隊長トナリ兵士ヲ率ヒ以テ官兵ニ抵抗スル科懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ懲役百日士族ナルヲ以テ

除族中付ル

明治十年十月三日

以下人名略之 但処断免罪ニ止ル

同回答書

当県士族窪田長保外都合三百八十一名処断相済宣告書互相添御通知ノ旨致承知候此段及御回答候也

熊本県令ヨリ掛合書

鹿兒島県薩摩国

谷山郷上福元村士族

窪田長保

外三百七拾五名

右ハ本日九州臨時裁判所ニ於テ刑名宣告相済原籍へ護送候儀ニ付テハ最前及御掛合置候通ニ候処一同差出候テハ途中不締之儀モ有之候ニ付本日ハ窪田長保外百六十九名当県八等警部松崎欣哉ヲ以警視出張所へ送付致候此段申追候也

十年十月三日

同回答書

当県士族谷山郷本村居住窪田長保外三百七十名今般九州臨時裁判所ニ於テ刑名宣告相済候処途中都合モ有之候ニ付先以窪田長保外百六十九名八等警部松崎欣哉ヲ以当地警視出張所へ送付相成居候段御照会ノ趣夫々致承知候右ハ彼は御手数相掛ケ御挨拶此段及御回答候也

熊本県令ヨリ掛合書

鹿兒島県日向国

諸県郡七折村平民

榊田喜太郎

外五人

右ハ最前及御通知候三百七十六人ノ外ニ刑名宣告相成候人数ニテ則三好判事背論ノ通ニ有之候事

川口治助

外 二百五人

右ハ最前護送候窪田長保外百六十九人ノ残人数ニ有之候尤右ノ内它人ハ病ニ罹リ差立難相成候事
右之通ニテ今四日当県八等警部山田俊親ヲ以護送致サセ候此段申進候也

十年十月四日

同回答書

先般御送付相成候窪田長保外百六十九人ノ残員川口治助外二百五名及七榊山喜太郎外五名共今般八等警部山田俊親ヲ以当地警視出張所へ護送付相成候段御照会ノ趣夫々致承知候此段及御回答候也

安藤中警視ヨリ掛合書

今般賊徒ニ党与致候鹿兒島県管民熊本ニ於テ処分済ノ者当出張所へ送付候様同県へ御県ヨリ御答相成候趣ヲ以昨日百七十名護送致米候間則受取当所ニ於テ夫々放遣致候然ル処別紙印人名ノ者ハ虎列刺症ニ付不取取天保止病監へ差入申候尤右ノ者共ハ般早常人ノ儀ニ付親戚ニ引渡シツ島ノ内宇湯河内御府病院治療相成候方相当ト被存候可然御取計有之度且処分済帰省ノ者ハ自今当出張所ニテハ受取不中条左様御承知有之度此段及御掛合候也

十年十月十一日

追テ別紙乙印人名ノ者ハ銃船ニ付岩崎病院へ差送中候也 別紙零

同回答書

今般賊徒ニ党与致候当県管民ノ者処刑済ノ分熊本ヨリ送付ニ付貴所ニ於テ夫々御処分相成候処松山郷士族山崎五右衛門外二名ハ銃創ニ付岩崎病院へ御送付等ノ儀詳細御照会ノ趣致承知候依テ宮原善次郎外一名愛取トシテ掛ノ者差山候条夫々御引渡有之度此段御回答旁申進候也

鶴江崎出張所詰中付候事

等外一等

溝山吉次郎

御用都合有之帰庁申付候事

同

矢田正義

十月十二日 金曜日

谷山松島両出張所へ達書

今般用第四十六号ヲ以テ布達候ニ付テハ其出張所ノ諸申達等ハ總テ鹿兒島出張所へ可指出且出張官員進退ノ儀モ迫テ鹿兒島出張所ヨリ何分儀相達候迄其儘在勤可致儀ト可相心得此旨相達候也

大書記官鹿兒島ヨリ始行

東京ヨリ始行

同

東京ヨリ赴任

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

一等属 曾根 静 夫

御用掛 青江 秀

六等属 丑 奥 昌

七等属 小林 莊太郎

同 沼尻 政太郎

同 中村 政綱

同 大賀 忠 清

同 渡辺 一 忠

六等属 丹下 量 平

同 鎌田 定 衛

八等属 依藤 忠 夫

同 清岡 健 八

同 渡辺 弘

等外二等 池田 四 郎

等外四等 星山 彦右衛門

雇

雇

雇

雇

雇

雇

雇

雇

雇

雇

雇

雇

雇

雇

雇

但宮崎支庁へ日向一區ヲ所轄候事

乙第十六号達書

区 戸 長

長崎県管下肥前国高来郡島原港字七ツ瀬ニ於テ民費ヲ以テ燈明台ヲ築設シ本年九月一日ヨリ点燈候ニ付右建築入費消却ノ為入港ノ諸船ヨリ別紙之通帆別錢取立候趣同県ヨリ申来候条管下航海營業之者へ無洩告示可致此旨相達候事 別紙畧ス

宮崎支庁ヨリ何書

支庁管下ノ区戸長今般國事犯ニ付懲役等実決ニ係ルモノハ裁判所ヨリ通達有之次第直ニ支庁ニ於テ免職申付其段本庁へ御届申上候様致度此段相何候事

十月十一日

指令電報

何之通可取計

宮崎支庁詰申付候事

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

六等属 徳尾野 信 成

十等属 京 極 宏

八等属 清岡 健 八

雇 渡辺 弘

六等属 大橋 政 昶

等外四等 川口 一

依願出仕差免候事 山井 量 平

依願免本官

依願出仕差免候事

大口筋出張申付候事

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

十月十四日晴 日曜日

吉川電信局長へ電報

先般加治木電信局ヲ鹿兒島ニ移シ候様電承致シ又其節当県飯庁ハ加治木ニ置ニ付当分同所へモ分局被置度旨御届合ニ及ヒ御承知ノ処今度鹿兒島電信掛リ引揚ニ相成リ候由右ハ陸軍運輸局警視出張用又ハ当県出張所モ有之鹿兒島引揚候テハ差間ニ付其儘指置候様致度此段及御届合御承知ノ上ハ至急同所へ御達シアリタシ

十月十三日

同回報

鹿児島軍需局ヨリ御依頼ニ任ヤ其儘開局ノ都合ニ達シマシタ

十月十四日

宮崎支庁ヨリ電報

大分県ヨリ送り下ス国事犯放免ノ者多分今日頃ハ此地ニ着スベク右ハ既ニ放免ノ上ハ護送人差添ノ理無之各勝手ニ帰宅サセ候テ可然ト存候ニ付当地ノ警視局ヘ打合セシ処異存ナキノミナラス護送ノ儀ハ若支有之旨中越候旁以到着ノ上ハ当地ノ区戸長ニ渡シ勝手ニ帰郷ヲ達シ度此段相伺候直クニ御指揮アリタシ

同回報

国事犯放免ノ者ハ護送ニ及ハス本人元籍ノ戸長ヘ帰籍ノ達書ヲ本人ニ為持帰スベシ

宮ノ城出張所ヨリ屈書

原地村旧飯屋内ニ出張所開設本日ヨリ事務取扱候間此段及御届候也

十月十四日

和歌山県七等属

御用済ニ付滞県申付候事

本県七等属心得 下村 可成

十月十五日 半雨 月曜日

明治十年検見方法ヲ定ム

第一条

管内各村検見法ヲ施行ス尤破免検見ノ儀ニ付準合等ハ一切開届ケサル事

第二条

村々刈甸申出次第早々出郷秋収ノ季節ヲ悠ラサル様可致事

第三条

検見法施行ニ付テハ村々内見帳耕地絵図等可為差出答ニ候得共当県ノ儀ハ從來検見取ノ村々僅少ニシテ是等ノ事ヲ熟知スルモノ甚稀ナリ依テモ文ノ書領ハ相用ス唯内見ノ建札ノミヲ為致可申支

第四条

内見建札ハ左ノ雛形ニ倣ヒ一村限り区戸長ニ於テ本新田大縄流作場共作方ノ模様ヲ見合ケ熟練ヲ上中下毛及仕付荒ノ四段ニ為相分可申支

字何	地主
一田何反何畔歩	何之誰
内見	
上毛	
中毛	
下毛	
仕付荒	忒

第五条

毎村耕地巡視ノ節ハ必区戸長亦ハ小前ノ内ニテ地連ニ明ナルモノヲ案内トシテ建札ヲ為詳坪刈ヲ為シタル田地ノ字番号反別地主ノ姓名内見ノ毛付稲草ノ名称及株数マテ主任官ノ野帳ニ詳記シ番方ノ節建札ニ照合可致支

竿入ハ畔際三尺ヲ除キ稻株ニ方附ノ方ヲ相用ユ可キ支

第六条

坪竿ハ当県ノ旧法ニ拠リ六尺五寸竿ヲ用ユ可キ支

第七条

竿入ハ区戸長ニ為取扱最官員付添可致差図支

第八条

竿入相済候ハ、小前ノ者ニ為刈取落穂無之様注意シ其田地ノ建札共錠ニ包ミ封印致シ便宜ノ場所ニテ番方可致支

第九条

番方ノ節耕廻シハ戸長ニ為取扱小前惣代ノ者ニモ見届ケサセ登量ノ穀数坪刈帳ニ記シ戸長ノ捺印可為致支

第十条

千欠ハ二割減ヲ以目的トシ取箇付仮仕出シハ別紙雖ノ通タル可キ支

第十一条

登量穀数ハ可為五公五民支
検見済帰着後四十日以内ニ取箇帳調整可致支

第十二条

租税ノ收額前季ニ比較シ増減有之候ハ、其訳柄取箇仕出シ帳ヘ記載可致矣

別紙署ス

検見心得書ヲ定ム

第一条

検見巡回ニ付テハ午前第八時ヲ期シテ耕地ニ臨ミ、午后第四時ヲ過キスシテ引揚可申矣

第二条

巡回ノ都合ニ寄リ數ヶ所ニ於テ春法候儀不苦候得共可成丈ケ一ヶ所ニテ春法耕廻シ取計可申矣

第三条

春法耕廻シノ節ハ準合村々戸長及ヒ惣代人一兩名宛為立会而ル上坪刈帳ニ調印為致可申矣

第四条

朝夕ハ自然霜露ヲ蓋ヒ候歟或ハ雨天等ニテ春法モ充分ナラサル節ハ人民ノ狐疑ヲ不生様能々藁火ヲ以テ乾涸シ然ル上耕廻シ可取計矣

第五条

巡回ノ節各手ニ日誌ヲ製シ置歸庁ノ上可供一覽矣

第六条

一村ノ耕地凡七分以上無仕付或ハ仕付荒ニ屬スルモノハ皆無ト視做シ歸庁ノ上實際ノ景況ヲ具陳スベキ矣

第七条

一村ノ耕地凡五六分以上種芸シ有之候共本年ノ当合定免ノ貢額比較シ七分以上ノ損毛ニ當ルモノハ是亦皆無ト見做シ第六條ノ通可相心得矣

第八条

荒地無仕付仕付荒等ヲ除キ定免ノ貢額ニ比シ凡四割減ヲ以目的トシ坪刈假仕出シ等取計ヒ可申矣

第九条

従前士族自作地自作高ノ如キ高壹石ニ付八升壹合宛県庁限リ收入シ其他士族ノ家縁ニ充有之候地所ト雖トモ本年ヨリ右八升壹合米ハ金祿公債証書ノ元高ニ結込有之候ニ付本年租税ノ儀ハ外百姓一般持地同様八升壹合ヲモ算入シタル三斗八升七合ヲ以テ收納為致候儀ト可相心得矣

但本文ノ理合ハ各郷士族ニ於テ不了解ノ儀モ可有之ニ付丁寧説明候様注意可致矣

第十条

毎村ノ坪刈ハ上中下仕付荒ノ四段ヲ以官限トス作併作柄ノ模様ニ寄実地不平均ト視認候節ハ下々ノ等位ヲ追加候儀不苦且情願ニ寄リ候テハ四ヶ所ノ外一二ヶ所所新様シ増加取計候儀不苦候矣

第十一条

田方ノ内へ勝手ヲ以如作ヲ仕付有之分ハ田免ヲ以上納可致ハ当然ニ候得共兵乱ニ付不得止仕付後レノ場所へ助難植物ヲ種芸有之候共右ハ無仕付ト見做シ可申矣

第十二条

検見巡回ノ際各村本年豊凶ノ等差ト罹災ノ深淺トノ権衡ヲ通観シ寫ト区戸長ノ見込ヲモ為中立別紙甲号ノ通各郷限村位ノ等級ヲ編製シ又派出官各手限各郷ノ上ヲ通勸視察シ別紙乙号ノ通郷位等級表ヲ編製シ歸庁ノ上其実況ヲ具狀シ追テ取了仕出シ方ノ参考ニ供ス可キ矣但村位表ハ区戸長ノ見込ヲ参酌シ郷位表ハ該官ノ通勸出ノミヲ以編製候儀ト可相心得矣

別紙署ス

検見出張人員ヲ定ム

向ヒ瀧方限九十六ヶ村へ

四等属	川井保厚
八等属	大石卓郎
同	南郷八郎二
同	内田良助

川内方限八十二ヶ村へ

六等属 安井 義 敏
十等属 後藤 基
同 赤堀 廉 蔵
雇 早田 万 蔵

内場方限百三ヶ村へ

七等属 福井 忠 利
九等属 大野 親 温
十等属 池田 徳 実
雇 富田 七兵衛
同 渡江 彦 二

西目方限百二ヶ村へ

七等属 中村 正 綱
九等属 森田 一 翠
等外一等 渡川 喜兵衛
雇 谷村 十右衛門

屋久島種子島両島二十九ヶ村へ

四等属 福島 哲 三
雇 山田 有 庸

長島上下嶺島二十四ヶ村へ

七等属 大貫 忠 清
十等属 小林 広 重

下瀧方限九十五ヶ村へ

八等属 平島 定 重
九等属 齊藤 助 作
十等属 佐土原 祐 知
雇 池田 三 郎

乙第十七号布達

從來当京士族家禄元持高ノ儀ハ定免米三斗八升七合ノ内八升七合ハ年々限取入致シ家禄税学校費其他適宜ノ道ニ追ヒ松ヒ有之候処

本年ヨリ禄制御案草ニ付右八升七合米ハ金禄公債証書算出ノ元高ニ結ヒ込ミ而シテ其利子ヲ支給セラレ候儀ニ付右家禄ノ内自作地自作高ノ儀ハ自今一般百姓持地同様定免三斗八升七合宛貢納候儀、可相心得此旨元鹿兒島藩上族ニ布達候事

但シ本文自作地自作高ノ儀ハ自今一般百姓持地同様相成候ニ付テハ該地荒蕪ニ属シテ除税ニ相成又ハ検見等ニ依テ減租等相成候手續ノ儀ハ是亦一般百姓持地同様可相心得要

福山出張所ヨリ届書

福山出張所今十五日ヨリ開設事務取扱候ニ付此段御届申上候也

十月十五日

内務卿へ上申書

県下大島会社所有汽船寧静丸ノ儀過般何ノ上当県へ御交付相成リ以來物品運輸為致候処追々冬氣ニ向ヒ風波烈敷各島へ航海難相成ニ付只今ノ内取仕切リ大島其外島々ヨリ砂糖運輸此際貢納相逐度趣ヲ以各島航海ノ儀県下各島商社ヨリ願出事実取札候処不得止儀ニ付御交附方御指解相成度此段上申候也

雇申付一ヶ月金

拾貳円給与候事

第一課戸籍掛申付候事

鹿兒島出張所詰申付候事

宮崎支病院詰申付候事

本県士族 山下 常 蔵

雇 同 山城 新

同 同 山崎 泰 輔

同 同 難波 一

同 同 木梨 精一郎

同 同 前田 政一郎

同 同 片桐 重 明

同 同 荒井 房 吉

同 同 津田 文 雄

同 同 梶 勇

同 同 南 善 齊

同 同 島 玄 碩

同 同 伊地知 惣 蔵
同 平 瀬 淳 三
同 中 磨 直 助
本県士族

十月十六日晴 火曜日

内務卿ヨリ電報
県令書記官官宅建築費額ケタリ其費用千九百拾円長崎出納局ニ於テ
請取ベシ此後建築費外共規例アル請求ハナルベク目論見帳杯ニ認メ
急飛信セシニ托シ差越ス様別段注意スベシ

十月十六日

甲第五十三号布達
乙第七号

府 県

当省所轄下士以下移籍改名其他戸籍上ニ係ル届出方之儀ニ付明治七
年八月記シ套第四十四号ヲ以テ布達候趣モ有之婚姻生死等ヲ始終テ
戸籍上変換ノ節ハ其都度無違滞リ届出ノ処中ニハ往々等閑ニ附シ年
月経テ届出候向モ有之右家族扶助金下渡ニ付金銭出納年度期限モ有
之且兵籍上不都合不参候条自今右等ノ節ハ其都度無違滞リ戸長調印
ノ上各管片ヨリ当省軍務局ヘ可届出此旨更ニ相違候事
但本文届出方及逕延候向ハ示来届出ノ年月ヨリ起算扶助金支給候
儀ト可相心得事

海軍大輔川村純義代理

明治十年九月廿六日

海軍少将中津田倉之助

右之通海軍省ヨリ被達候条移籍改名婚姻生死等ヲ始メ終テ戸籍上変
換ノ節ハ其都度区戸長調印ノ上速ニ可届出若シ年月ヲ経テ届出候向
ハ同省達但書ノ通候条此旨布達候事

宮崎支庁及各出張所詰長ヘ内達書

今般全管区戸長配置方釐正可致見込ニ付各所轄内区戸長黽涉ノ所見

等充分取調米ル十一月五日出行可致此旨及内達候也
九州臨時裁判所ヨリ通知書
蒲地清実以下三十六名別紙ノ通本日処断相済候条宣告書等相添此段
及御通知候也
十年十月十一日

別紙

鹿兒島県薩摩国鹿兒島郡
旧新橋下路士族
蒲地清実
同県下丸ノ内士族
半之丞長男
武井清蔵

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ半隊長トナリ官
兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役二年可申付処
先升ヲ悔悟シ自首スルノ後官軍ノ為メ使役ニ服セシ廉ヲ以テ其罪ヲ
免ス

明治十年十月十二日

鹿兒島県下
西田村士族

小笠原嘉右衛門
其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ大小荷駄料ナリ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚
メ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役二年可申
付処降伏ノ後官軍ノ為メ使役ニ服セシ廉ヲ以テ其罪ヲ免ス

年月同上以下倣之

鹿兒島県大隅国嶺山郷
重久村士族佐左衛門
長男

小川与平次

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長トナリ官
兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役二年可申付処

初メ県庁ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ懲役百日士族ナルヲ以テ除族申付ル

鹿児島県下山水郷
西目村士族

宮原新助

同県同郷武元村士族

池田彦太郎

同県同村士族

是枝陽之助

同県高尾野郷下

高尾野村士族

永池庄太夫

同県同郷寺馬地

士族

遠竹嘉壯太

同県同郷下知識村

士族

市之瀬勘介

同県下福山郷佳例川村

士族

小原良行

同県大隅国鹿屋郷

中名村士族

石踊恰

同県第廿三大区小一区

市糸郷四百十三番地

士族

石神英介

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役一年可申付

処初メ区戸長ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ懲役百日士族ナルヲ以テ除族申付ル

鹿児島県指宿郷
西方村士族

野村愛之進

其方儀賊徒ニ与シ医療ヲ施セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自首謹愼申付置処西郷隆盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ際其本營ノ達ナリ迎同郷士族山本主藏等ノ誘ニ同意シ山川警現分署ヲ襲撃セントスルニ随行スル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ懲役百日士族ナルヲ以テ除族申付ル

鹿児島県大隅国喺啖郡

清水郷梯子丸村士族

兵右衛門二男

万膳栄助

同県同村士族

新右衛門長男

永野新助

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役一年可申付処初メ戸長ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌量シ懲役百日士族ナルヲ以テ除族申付ル

以下人名畧之 但シ処断免罪ニ止ル

同回答書

当県上族蒲地清実外三十五名処断相済宣告書ヲ相添御通知ノ旨致承知此段及御回答候也

長崎県令ヨリ掛合書

国事犯囚貴県士族蒲地清実外三十五名別紙名面書之通り九州臨時裁判所ニ於テ免罪相成候ニ付一等巡查七里真外六名ヲ以テ及送付候条御請取相成度此段申進候也

十年十月十一日

別紙畧

同回答書

園亭犯因当県土族藩地清寒外三十五名九州臨時裁判所ニ於テ免罪相成候ニ付一等巡查七里真外六名ヲ以御送付相成請取申候本人共所持金及物品ノ儀ハ点檢之上配付帰家中付候此段及御回答候也

任九等属監護掛申付候事

本県土族 黒田 才藏

御用掛申付月給計五円

副区長 飯牟礼 俊良

給与第三課申付候事

本県上族 岡田 世吉

雇申付月給十三円給与

第二課申付候事

同 谷村十郎右衛門

雇申付月給八円給与

同 石川 正之進

第三課申付候事

同 入江 駒之丞

雇申付月給六円給与

同 藤井 休介

第一課申付候事

同 早田 万藏

同

同 重久 篤周

雇申付月給八円給与

同 後藤 基

第三課申付候事

同 十等属 後藤 基

第一課雇中付月給

同 大阪府九等属 三輪 俊之助

御用済ニ付帰府申付候事

十月十七日晴 水曜日

文部省大書記官辻新次ヨリ来書

明治十年自七月至十二月貴県小学補助金別紙仕訳書之通出納局長崎

出張所渡切符ヲ以駅通局ヲ經由及御送付候也

明治十年十月二日

別紙

明治八年調

一人口拾九万九千八百貳拾壹人

鹿児島県

明治十年七月ヨリ同十一年六月迄ノ分

一金壹万六千四百九拾八円八拾八錢三厘

但分頭金八錢貳厘五毛六八三三

内金八千貳百四拾九円四拾四錢貳厘

今回答付ノ分

出甲第四号布達

過般賊徒攻撃中哨兵線内外人民取難ノ際各自ノ家具物品土倉庫或ハ宅内へ格護ノ儘諸方へ立返候者不少候処其跡多ク兵燹ニ罹リ適存在家屋ハ官軍ノ宿陣ト相成前後騒擾ノ間其物品近隣其他へ散乱有之哉ニ相聞得就テハ元所有主見当次第証拠等有之者ハ該主へ可相渡若証拠有之物品ヲ無認不差返有之者其事由委細監視出張所へ可申出此旨鹿児島三大区士民へ布達候事

宮崎支庁へ達書

先般甲第五拾号ヲ以致布達候熊本県賊徒暴動之際戦死者遺族ノ者へ手当金給与方之儀ハ今般西南ノ役戦死者家族へ給与致候手続キヲ以渡方取計可申名簿相添此段相達候事

名簿畧ス

九州臨時裁判所ヨリ通知書

其県国事犯本原武志外百五十四名本月五日大々処刑相済候条刑名宣告書相添此段及御通知候也

明治十年十月七日

別紙

鹿児島県限之城郷

西手村土族

木原武志

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ小隊長トナリ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎中付置ク処隆盛等再ヒ鹿児島へ襲来ノ際其本營ノ邊アリ連覺与ヲ察リ兵器ヲ携ヘ川内警視分署ヲ襲ハント途中迄到ル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役五年申付ル

明治十年十月五日

同県東郷田海村
士族

淵脇善助

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ入檻申付置ク処隆盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ際賊徒等破檻スルヨリ其本営ニ到リ桐野利秋ノ指揮ニ随ヒ刀ヲ請取り党与ヲ誘フ科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役三年申付ル

年月同上以下儀之

鹿児島県日向国諸県郡

高岡郷士族

浜田良啓

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ砲隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役三年申付ル

鹿児島県第十七大区

七小区四十六番地

士族

上野徳二

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長トナリ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付ケ置ク処隆盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ際其本営ノ達ナリ巡査ヲ捕縛セント兵器ヲ携ヘ顯姓郷仙田村迄出張セシ科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役三年申付ル

鹿児島県士族

谷口 藤次郎

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置ク処隆盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ際橋口仲二ノ指揮ニ随ヒ兵器ヲ携ヘ橋口仲二郎等俱々巡査ヲ殺害スル科ニ依除族

ノ上懲役三年申付ル

鹿児島県薩摩国鹿児島郡
鹿児島塩屋村居住民

大山末吉

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ雜役ニ供セシ先非ヲ悔悟シ自首スル隆盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ際貨物積ノ指導ヲ受ケ高山瀬四郎外八名俱々巡査ヲ捕縛シ其本営ニ引渡スコニ依リ懲役二年申付ル

鹿児島県日向国諸県郡

高岡郷士族金左衛門

長男

海老原 為平

同県同国那珂郡佐土原

下那珂村士族

山村 仲蔵

同県同国諸県郡

高岡郷内山村士族

高木 秀並

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ大隊付ノ大小荷駄係リニテ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役二年申付ル

鹿児島県薩摩国谷山郡

上福元村居住士族

大脇 為政

同県伊作村原村百二十

八番地士族長左衛門長男

篠原 伊藤次

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役三年可申付処初メ戸長ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ各除族ノ上懲役

鹿児島県上荒山士族

助八長男

淵 辺 元 副

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆メ半隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県第六大区一小区

薩摩国川辺郡加世田郷麓

村百八十二番地士族

有馬 七左衛門

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆メ半隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県第十七大区一小

区九十四番地士族

柳 田 誠之助

同県同大区十四小区

百十二番地士族

松 田 有 節

同県同大区十五小区

二百二十七番地士族

四郎右衛門長男

田 中 号 藏

同県同大区三十三番地

士族神助長男

斉 藤 覚 市

同県同大区六小区百

二十六番地士族

桶渡八郎右衛門

同県同大区一小区

三十七番地士族

山 口 弥九郎

同県同大区十五小区

百九十番地士族

成尾 勘右衛門

同県薩摩国額姪郷

十丁村士族

長 山 健 彦

同県第十七大区十五

小区百廿三番地士族

日 牟 兼 巨

同県同大区一小区五

番地士族角兵衛長男

有 馬 党之助

同県同大区九十三番地

士族

上 野 益 賢

同県同大区九十番地

士族

上 野 藤 市

同県薩摩国額姪郷

十丁村士族休矢養子

有 村 利右衛門

同県第十七大区一小区

十一番地士族

田 恒之助

同県同大区九十一番地

士族龍助長男

井 上 静 利

同県同大区廿五番地

士族

同県同大区二小区
 六十六番地士族
 阿万 真澄
 同県同大区二小区卅
 一番地士族孝兵衛長男
 鮫島 新藏
 同県同大区一小区
 廿九番地士族
 鮫島 九郎兵衛
 同県同大小区九十九番
 地孝吉長男
 永井 善藏
 同県同大小区六十二番
 地善之丞弟
 木佐貫 与十郎
 同県同大小区百二番地
 士族八郎太弟
 小山 十次郎
 同県同大小区百五十六
 番地士族
 種子田 東十
 同県同大区二小区
 二百七番地士族
 山口 源十郎
 同県同大区一小区
 百四十八番地士族
 都外川 新五郎
 同県同大小区百二十
 四番地七族

同県同大区十四小区
 百卅番地士族直次郎
 長男
 海江田 綱賀
 同県同大区十五小区
 二百十八番地士族
 田中 伊右衛門
 同県同大小区百九十
 七番地士族
 鎌田 助之丞
 同県同大区十四小区
 五十七番地士族
 西牟田 竹次郎
 同県同大区二小区二
 百四十番地士族
 谷山 平右衛門
 同県同大小区二百二
 番地士族喜兵衛門二男
 池口 喜左衛門
 同県同大小区二百二
 番地士族喜兵衛長男
 池口 市兵衛
 同県同大区十五小区
 二百八番地士族
 山元 善之進
 同県同大区十四小区
 三百十三番地士族
 鎌田 助左衛門
 同県同大区十五小区

八十五番地士族助之進
長男

鎌田 藤之助

同県同大小区九番地

士族次右衛門長男

川辺 權左衛門

同県同大小区八十四

番地士族藤藏長男

西牟田 政助

同県同大小区十四小区

八十番地士族忠之丞

二男

樋渡 仲藏

同県同大小区十五小区

千山村居住士族

愛甲 治右衛門

同県同大小区百九十

六番地士族

紀藤 五郎

同県同大小区百四十

九番地士族

池田 甚右衛門

同県同大小区百九十

七番地士族

松山 宮彦

同県同大小区二百九

番地士族孝左衛門長男

田中 孝太郎

同県同大小区二小区二

百十三番地士族喜兵衛二男

都外川 正八郎

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ携ヘ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置ク処隆盛等再度鹿児島ニ襲来ノ際其本營ノ達ナリ進各兵器ヲ携ヘ戸長野間口周衛ノ指揮ニ随ヒ巡查ヲ捕縛セント願挂郷仙田村迄出張スル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役二年申付ル

鹿児島県第四大区一小区

上福元村士族助右衛門長

男

福岡 仲之丞

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗シ其裁判ヲ受ル後再ヒ賊徒ニ与シ兵器ヲ携ヘ出張スル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿児島県薩摩国薩摩郡

隈ノ城郷東手村士族

岩月 伊八

同県同国同村士族

四本 平助

同県同国同村士族

架波次郎長男

愛甲 半助

同県同国同村士族

吉兵衛長男

有馬 格助

同県同国同村士族

庄兵衛長男

中村 清藏

同県同国同村士族

平太夫長男

和泉 周藏

同県同国同村士族
 助五郎長男
 安田 善次
 同県同国西手村士族
 野村 矢太郎
 同県同国同村士族
 道国 彦二
 同県同国同村士族
 野田 強之進
 同県同国同村士族
 源之助長男
 遠矢 彦二
 同県同国同村士族
 鳳斎 弟
 菱刈 隆次郎
 同県同国同村士族
 源助 叔父
 猿渡 藤次郎
 同県同国同村士族
 伝次郎次男
 橘口 太左衛門
 同県同国同村士族
 直右衛門二男
 有馬 勇七
 同県同国同村士族
 庄八長男
 愛甲 喜助
 同県同国同村士族
 助左衛門長男
 木原 権太郎

同県同国同村士族
 伊右衛門長男
 管 木 仲之丞
 同県同国同村士族
 治助二男
 高城 吉之進
 同県同国薩摩郡隈城
 郷西手村士族
 曾木 茂輔
 同県同村士族
 園田 武右衛門
 同県同村士族
 弥七郎長男
 愛甲 仲助
 同県同村士族
 市兵衛二男
 崎山 狩助
 同県同村士族
 勘左衛門孫
 竹山 誠介
 同県同国同郷東手村
 士族
 藤田 源吾
 其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ携ヘ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ
 悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置処隆盛等再度鹿児島ニ襲来ノ
 際木原武志等ノ募リニ応シ各所ニ奔走シテ巡査ヲ拘縛セントスル科
 ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役二年中付ル
 鹿児島薩摩国高城郷
 西手村士族伊助長男
 橘口 仲五郎

同県同国同郷同村士族 谷口 万六
 同県同国同郷同村 士族平五左衛門二男 橋口 助太郎
 同県同国高城郷西手村 士族一左衛門長男 谷口 兼吉
 同県同国同郷士族 与八二男 山本 弥衛
 同県同国同郷同村 士族宇八長男 谷口 勇右衛門
 同県同国同郷同村 士族伊平太二男 松下 彦二郎
 同県同国同郷同村 士族太六長男 山本 与七郎
 同県同国同郷同村 士族正右衛門長男 永田 金之丞
 同県同国同郷同村 士族作左衛門長男 山本 佐兵衛
 同県同国同郷同村 士族 松下 直之丞
 同県同国同郷同村

士族助四郎長男 貴島 庄之進
 同県同国同郷同村 士族奎右衛門長男 中尾 彦八
 其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ携ヘ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ
 悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎中付置ク処隆盛等再度鹿児島へ襲来
 ノ概其本営ノ達シヲ受ケ戸長橋口仲二等巡査数名ヲ捕縛スル際兵器
 ヲ携ヘ番兵ニ出ル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ
 上懲役二年申付ル

鹿児島県薩摩国高城郷 湯田村士族 松下 市助
 同県同国同郷同村 士族半太夫長男 林 八之進
 同県同国同郷同村 士族金藏弟 上野 藤之進
 同県同国同郷同村 士族金之丞二男 石塚 末次郎
 同県同国同郷同村 士族与兵衛長男 橋口 与四郎
 同県同国同郷 西手村士族 橋口 喜平次
 同県同国同郷 同村士族

同上

橋口 宗一郎

鹿兒島県薩摩国高城郷

西手村士族

中尾 覚太夫

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ兵器ヲ携ヘ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置ク処隆盛等再ヒ鹿兒島ヘ襲メ御其木宮ノ達ナリトテ戸長橋口仲二等巡査数名ヲ捕縛スル際同人ノ募リニ応シ兵器ヲ携ヘ西方警視分署ヘ到ル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県薩摩国指宿郡

指宿郷西手村士族

坂本 彦助

同村士族乗助二男

瀬戸口 猪之助

同村士族龍角二男

永田 養次郎

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置ク処隆盛等再ヒ鹿兒島ニ襲メノ際其本官ノ達ナリ迎佐土原八郎太等ノ募リニ応シ山川警視分署ヲ襲撃セント兵器ヲ携ヘ池底ホハ杉ノ浜迄到ル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県水引郷

草道村士族

十島 彦二

同県同郷同村士族

藤井 伝左衛門

同県同郷同村士族

源内三男

十島 宝蔵

同県同郷同村士族

染川 嘉七郎

同士族仲左衛門長男

上野 嘉左衛門

同県同郷同村

士族友三三男

福山 孝介

同県同郷新馬場村

士族幸太郎長男

久留 小八郎

同県同郷草道村

士族嘉兵衛長男

浜田 龍蔵

同県同郷同村士族

嘉兵衛長(ママ)

浜田 矢兵衛

同県同郷宮内村

士族伝左衛門三男

大久保 佐不太

同県同郷同村士族

浜田 直次郎

同県同郷同村士族

川畑 直助

同県同郷同村士族

浜田 勇蔵

同県同郷草道村士族

浜田 矢之助

同県同郷同村士族

源内長男

十島四郎左衛門

同県同郷同村士族
忽介長男

樂師寺 恕 七

同県同郷同村士族

小幡 圃兵衛

同県同郷宮内村士族

中村 奎太郎

同県同郷同村士族

天辰 甚吉

同県同郷草道村

士族普兵衛三男

藥師寺 藤之進

同県同郷士族正学

長男

上野伝五右衛門

同県同郷同村士族

源五右衛門二男

村尾 源之助

同県同郷同村士族

宣右衛門長男

上野 泰藏

同県同郷同村士族

知識 甚七

同県同郷同村士族

深川 齊藏

同県同郷大津村士族

庄兵衛長男

永田 正之進

同県同郷草道村士族

仲左衛門三男

上野 助八

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ携ヘ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ
海悟シ自首スルヲ以テ白帛謹慎申付置延隆盛等再度鹿児島ニ襲来ノ
際其本營ノ達ナリ出一同京泊迄立越シ巡査ヲ捕縛セント相謀ル科ニ
依リ懲役三年可申付延情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役二年申付ル

鹿児島県限ノ城郷

西手村居仁士族

正助長男

野村 賢藏

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ携ヘ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔
悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置延隆盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ際
同郷士族木原武志外七名申合兵器ヲ携ヘ巡査ヲ捕縛セント京泊ニ至
ル科ニ依リ懲役三年可申付延情状ヲ酌量シ除族ノ懲役二年申付ル

鹿児島県薩摩國

阿多郡泊野名村

士族

有馬 半右衛門

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ官
兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ延情状ヲ酌量シ懲役三年可申付延
初メ戸長ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿児島県指宿郷

西方村士族網右衛

門長男

石嶺 恕古

同県同村士族

平右衛門長男

同県同村士族

同県同村士族

同県同村士族

同県同村士族

永井 源吉

平嶺 政助

八郎兵衛三男

坂本 平次郎

同県同村士族

横山 重右衛門

同県同村士族

上山 善右衛門

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ携ヘ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎中付置ク処隆盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ際其本営ノ達ナリ迎兵器ヲ携ヘ山川警視分署ヲ襲撃セント謀ル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿児島県市米郷

湊士族左門長男

勝目 量平

同県同郷湊士族

左稱弟

和田 豊栄

同県同郷湊士族

源兵衛長男

丸山 貞助

同県同郷湊士族

良右衛門長男

伊集院 良藏

同県同郷湊士族

幸右衛門四男

井上 秀彦

同県同郷湊士族

武兵衛弟

高崎 彦助

同県同郷湊士族

藤左衛門弟

同県同郷湊士族

野崎 静介

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ携ヘ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎中付置ク処隆盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ際其本営ノ達ナリ迎兵器ヲ携ヘ巡査ヲ捕縛セント串木野郷迄出張スル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿児島県下水引郷

士族

高木 敬助

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ心隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役三年可申付処初メ脅従ニ出ルヲ以テ尚酌減シ除族ノ上懲役一年申付ル

鹿児島県薩摩國

加世田郷瀧村百

三番地士族立兵

衛二男

小城 愛兵衛

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役一年申付ル

鹿児島県東郷田海村

居住士族柳兵衛長男

中島 直太郎

同県伊作郷湯ノ浦村

士族

坂本 金之丞

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役三年可申付

延初メ戸長ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ除族ノ上懲役一年申付ル

同回答書

本県内ノ城西手村士族木原武志外百五十四名国事犯ノモノ本月五日御処断済御通知ノ趣了承致候此段御回答及候也

右懲役五年以上ノ者ハ本籍ヘ之ヲ揭示ス

書類畧

六分県令ヨリ通知書

御県第二大区二小区高岡内山村士族弥二右衛門長男二見乳外六名当地出張九州臨時裁判ニ於テ別紙宣告書等之通延刑相成候条此段及御通知候也

明治十年十月十二日

別紙

鹿児島県第二大区二小区

日向国高岡内山村士族

弥二衛門長男

二見 乳

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ小隊長トナリ隊下ヲ指揮シ以テ官兵ニ抵抗スル科懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役三年申付ル

明治十年十月六日

鹿児島県日向国第三

大区八小区小川村平民

河野 義俊

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ小隊長ノ心得ヲ以テ隊下ヲ指揮シ以テ官兵ニ抵抗スル科懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役三年申付ル
年月日同上以下倣之

鹿児島県第二大区二

小区高岡郷五丁町

土族

中村 賤夫

同県同大区同小区同郷

内山村士族六右衛門

長男

吉野 正内

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ小隊長トナリ隊下ヲ指揮シ以テ官兵ニ抵抗スル科懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役二年申付ル

鹿児島県第二大区二小区

日向国高岡郷入野村士族

助兵衛長男

税所 助太郎

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ分隊長トナリ隊下ヲ指揮シ以テ官兵ニ抵抗スル科懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役一年申付ル

鹿児島県第五十九大区

二小区大隅国加治木郷

士族兼刀長男

土橋 栄吉

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ分隊長トナリ隊下ヲ指揮シ以テ官兵ニ抵抗スル科懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役二年可申付延初メ区長ノ達ニ山ル申ヲ以テ尚酌減シ除族ノ上懲役一年付ル

鹿児島県第九十九大区

七小区日向国臼杵郡古

江村士族

猪狩 勝重

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ六分県下乱入ノ際各所ニ於テ人民ヲ恐喝(ママ)シ金田ヲ募集シ以テ官兵ニ抵抗スル科懲役三年ノ処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役一年申付ル

同回答書

当県第二大区二小区高岡内山村士族弥二右衛門長男二見乳外六名貴

県九州臨時裁判所ニ於テ延刑相成宣告書等相添ヘ御通知ノ趣承知致

候此段御回報ニ及候也

十月十八日 雨 木曜日

鹿兒島三大区へ揭示書

去月廿四日官軍ニ於テ討取候賊徒死体ノ淨光明寺其他へ仮埋ノ処爾後改葬又ハ墓表相立候儀出願ノ上ハ聞届候条鹿兒島出張所へ可願出此旨揭示候事

但葬式執行ハ不相成且墓表ハ姓名年月ヲ記スノミニ止マリ候儀ト可相心得事

駅通局前島内務少輔ヨリ電報

高千穂丸船費ハ海軍省ノ分ヲ除キ当地船船ヨリ長崎等ノ碇泊マテ三万五千八百八十五円余トナル委細ハ郵便

十月十七日

同回答

高千穂丸船費ノ儀海軍ノ分ヲ除キ御地及ヒ長崎等ノ諸費迄三万八千五百八十五円余御申越シナレトモ九月廿八日付ケ御申越シニハ諸雜費トモ三万三千九百三十三円余トアリ現ニ四千五百十二円ノ違ヒアリ如何ノ儀ニ之レ有ルヤ尤モ右汽船航海費ノ儀ニ付テハ十月十三日付ケヲ以テ内務省へ及上申貴官へ御回答書郵便ヲ以テ左立置タリ然ルニ金額相違候テハ不都合ニ付尚委細ノ御答アリタシ

第二課中付候事

鹿兒島出張所詰申付候事

依頼免本官

四等属 蒲原敬路
六等属 親康忠紀
十等属 重見盛一

十月十九日 晴 金曜日

軍部軍部ヨリ聯合書

戦地備役人夫ノ内事故有之願出候者ハ本月五日迄ニ熊本本部へ御申出有之様口進候処未タ御申出難相成分モ有之ニ付テハ此後御申出ノ分ハ本人区戸長及ヒ該百人長連印ノ上其地名時日族団名号等詳細記載ノ上願出右白人長死亡或ハ事故有之連印難相成又ハ百人長無之者

ハ其原因詳細記載ノ上願出候様御取計有之度尤モ右ハ來ル十一月三十日限り必ス東京陸軍省輜重部殘務取調所へ御差山有之候様致度此段及御照会候也

十月十九日

同回答

戦地備役人夫ノ内事故有之願出候者ハ本月五日迄ニ熊本本部へ中山候様御通知有之候得共管下一般ノ儀ニ候得ハ御申越ノ日限迄取調難出來段ハ兼テ中進置候処此後申出ノ分ハ本人区戸長及ヒ該百人長連印其地名時日族団名号等詳細記載可為申出若シ百人長死亡或ハ事故有之連印ト難相成カ又ハ百人長無之者等ハ原因詳細記載ノ上來ル十一月三十日限り必ス東京陸軍省輜重部殘務取調所へ差山候様云々御照会ノ旨了奉致候依テ此段御回答候也

十月十五日

甲第五十一号布達

先般軍部輜重部ヨリ各旅団ニテ一時使役セラレ候人夫ノ内右使役中賃金等ノ儀ニ付願出候者有之候ハ、可申出旨通知有之依テ甲第四十五号ヲ以テ本月十五日迄ニ可申出旨布達致置候処右ハ該区戸長及ヒ使役中ノ百人長連印ノ上其地名時日族団名号等詳細記載シ白人長死亡或ハ事故有之連印難相成分又ハ百人長無之者等ハ其原因詳細記載候様今般軍部輜重部ヨリ再ヒ申來候間既ニ差出シ済ノ者モ前件ノ通更ニ取調差出候儀ト相心得復ヲ除クノ外十五日間ニ必ス本支庁ヒ各出張所ノ中へ可差出此旨更ニ布達候事

及十月十九日

各出張所へ達書

各旅団ニテ一時使役セラレ候人夫ノ内右使役中賃金等ノ儀ニ付願出致シ度モノハ本月十五日迄ニ可申出旨甲第四十五号ヲ以テ布達致シ置候処今般軍部輜重部ヨリ使役セラレ候本人ノ該区戸長及ヒ使役中ノ百人長連印ノ上其地名時日族団名号等詳細記載シ若シ百人長死亡或ハ事故有之連印難相成分又ハ百人長無之モノ等ハ其原因詳細記載シ來十一月三十日迄ニ必ス東京陸軍省輜重部殘務取調所へ可差出様

中炎候ニ付テハ既ニ差出済ノモノ連モ前件ノ通詳細記載云々往復ヲ
除ク外本支庁各出張所ノ中へ可申出旨更ニ別紙之通布達致候条精々
注意限日ノ通無遺漏為申出当庁へ通送可致此旨相達候事

衛生局へ電報

虎列刺患者ノ儀本月十三日御届ケノ後今日迄百二十二名内死亡五十
七名病勢ハ迫々衰フル模様ナリ右御報知ニ及フ

内務卿へ上申書

文意前ノ如シ

接近四県へ電報

文意同上

大分県ヨリ電報

当県中津縣魁田宗太郎ハ其地ニテ討取ラレ後藤順平ハ縛ニ就タル
内其外梅谷安義盛井寛一郎ノ踪跡ハ不分ヤ御問合ニ及フ

十月十八日

県令鹿児島ヨリ傳片

御用都合有之清庁中付候事

第六課中付候事

知覽出張所詰中付候事

蒲生郷出張中付候事

雇申付月給八円給与

第一課常務掛中付候事

依頼免本官

巨

御月滞在差免候事

十月廿日 土曜日

内務卿ヨリ電報

元伴屋人同居人ニテモ今別ニ小屋掛ヲナスモノハ五円以下特別ニ
借シ下グ可シ

十月十九日

同

賊徒家族へモ兵火ノ救助ノ儀ハ追テ指令ニ及ブマデ着手ナラス

十月廿日

日比内務三等属ヨリ電報

兵火ノ御救ヒ成規ニ照ラシ官員へモ賜ハル前後地方へ帰住ノ者ハ賜
ハラズ

十月廿日

福岡県令ヨリ電報

当県預リ米嶺後田イ米ノ分貴県へ回漕ノ儀大蔵卿ヨリ達シアリ和船ニテ
回漕スル故何地湊へ回スベキヤ

同回報

御県へ御預リ米当県へ回漕ノ儀大蔵卿ヨリ御達ニ付当地何レノ湊へ
可送ヤ御問合ノ儀承知セリ右ハ当方ヨリ何分ノ次第申進ズル迄回漕
御見合セアリタシ

鹿児島出張官員ヨリ電報

私学校跡地陸軍省ニ於テ是非仕用致度旨掛合アリ因テ島津久光支配
地ヲ除キ地ノ種類及ビ差支ノ有無電報ニテ御指揮アリタシ

十月十九日

同回報

私学校跡地ノ儀陸軍省ニテ仕用致度旨承知セリ右ハ官地ニテ亦外ニ
差支筋ナシ因テ陸軍省ヨリ其筋へ照会仕用相成候様御返事アルベシ

内務卿へ上申書

当県区戸長学区取締給料当分官費支給之儀本年四月中赴任已前上申
候処区戸長ノ儀ハ同之通り学区取締ノ儀ハ学制第百章但書ノ通り可
相心得旨五月廿二日付ケヲ以テ御指令ノ趣承知仕候然ルニ赴任ノ上
実地ニ就キ尚思考候処県下ノ儀ハ当今教育ヲ擴張スルハ実ニ一日モ
緩クス可ラザル儀ニ有之然ルニ目下兵乱ノ際学区取締給料未タ民費
課出之場合ニ至ラズ因テ学制第百章之通文部省委託金ヲ以テ学区取締
給料民費ノ幾分ヲ助ケ候ハ勿論ニ候得共其民費ヨリ支給スヘキ分

丈ヶ当分ノ内官費支給候様致度此段相伺候也

但学区取締ハ管下九中学区ニテ一中学区ニ三人計ニ下七人トシ春
入ノ月給金十二円支給致度尤モ各区共定員ノ内ヲ以テ互ニ増減致
候儀モ可有之且給料精算ノ儀ハ区戸長同一取調迄テ其筋ヘ可申立
候此段副陳候也

明治十年八月十四日
指令

伺之趣難聞候事

明治十年十月六日 文部大輔 山口不二麿

九州臨時裁判所ヨリ通知書

鹿児島県士族小倉啓介以下二百七名別紙之通本日処刑相済候条官告
書写相添此段及御通知候也

明治十年十月十二日

別紙

鹿児島県薩摩国鹿児島

上後迫居住士族道益二男

小倉啓助

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ振武全隊ノ惣監
軍トナリ十中隊ヲ督シテ官兵ニ抵抗シ及ヒ竹添六郎外十九人ハ官軍
ノ嚮導或ハ探偵ヲナシ永井軍官ハカメナル者ハ官軍ニ内通セシ逆札
問ノ上皆島清ノ指揮ヲ受ケ振武本營惣監軍ノ名義ヲ以テ各郷ニ分ケ
殺害セシメ且隆盛等再ヒ鹿児島ニ襲來ノ際募兵ノ為各郷ニ奔走シ亦
ハ桐野利秋ニ謀リ薩島ノ募兵ヲ以テ長崎ヲ襲ハントセシ科ニ依リ除
族ノ上懲役十年申付ル

明治十年十月十二日

鹿児島県分郷

薩士族

林 一郎

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ中隊長トナリ官
軍ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付候情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役

五年申付ル

明治十年十月十二日

鹿児島県上族

前田 重正

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ中隊長トナリ官兵
ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役五年可申付処初
メ戸長ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ除族ノ上懲役三年申付ル
年月日同上以下倣之

鹿児島県出水下鯖淵村

士族

境 日 勇次郎

司馬下野田郷下名村

士族

片野坂弥右衛門

同県下高隈郷下高隈村

士族

藤田 熊助

同県下加治木郷柳山

馬場士族

曾木 隆宜

同県高尾野郷上水流

村士族

茨木 運藏

同県下因分郷

上尾川村士族

服部 良之介

同県下同郷向花村

士族郷兵衛長男

山内 孝右衛門

同県下志布志郷

帖村士族

肝 属 琢 磨

同県下古引郷

士族

鶴 田 喜 市

同県下志布志郷

士族

若 松 親 豊

同県下加治木郷

天神馬場上族

鮫 島 敬 輔

同県下鹿兒島中

平島場上族

平 田 幾 之 助

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ
官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上
懲役三年中付ル

鹿兒島県大隅国始羅郡

蒲生郷麓士族

松 田 正 之 丞

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ官
兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役
三年中付ル

鹿兒島県南方郷

鹿籠村士族

今 給 黎 久 清

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ
官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲
役三年中付ル

鹿兒島県第二大区二

小区砂野村五百五十

九番地士族

庸助弟

谷 村 助 七

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ半隊長トナリ官兵
ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルノ後再ヒ隆盛等鹿兒島ニ襲来ノ際
兵器ヲ携ヘ小倉啓助ノ募兵スルニ随從シテ各所ニ奔走スル科ニ依リ
懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役三年中付ル

鹿兒島県中木野郷

士族

長谷場 純 孝

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スル
後隆盛鹿兒島ニ襲来ノ際千種仲太郎外三名ヲ指揮シ島本浦警視分署
ヲ襲撃ノ為該所迄出兵セシムル科ニ依リ除族ノ上懲役三年中付ル

鹿兒島県谷山郷

麓士族

松 田 弥 左 衛 門

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ其使役ニ服セシ先非ヲ悔悟シ自首ス
ルノ後隆盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際賊徒長谷一郎ノ指揮ヲ受ケ同
郷士族飯沢兵左衛門外数名ヲ募ル科ニ依リ除族ノ上懲役三年中付ル

鹿兒島県谷山郷

上福木村士族

山 下 兼 武

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ兵器ヲ擲ヘ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟
シ自首スルヲ以テ自宅謹慎中付置処隆盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際賊
徒長谷一郎ノ指揮ヲ受ケ有志ノ者ハ賊營ニ配付又ハ巡查ト認メハ
捕縛スベキ旨各村ヘ回達スル科ニ依リ除族ノ上懲役三年中付ル

鹿兒島県下野田郷

下名村士族

兄 島 仙 藏

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ半隊長トナリ
官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情狀ヲ酌量シ各除族ノ上
懲役三年申付ル

同県下垂水郷海潟
村士族
荒川助八
同県下高尾野郷柴
引村士族
土岐十助
同県下出水郷下知
識村士族
久保田 与兵衛
同県下高尾野郷高
尾野村士族
波多野嘉右裁門
同県下出水郷下知
識村士族
宮崎 弥八郎
同県下山本郷武本
村士族
内ノ浦 嘉兵衛
同県下國分郷上小
川村士族
岩切 甚太夫
同県下山田郷下名
村士族吉左衛門長男
宮内 喜一郎
同県下國分郷上尾川
村士族宮左衛門家族
服部 喜助

鹿兒島県日向國諸県郡
志布志郷帖村士族
愛甲 良八
其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ半隊長トナリ官兵
ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情狀ヲ酌量シ除族ノ上懲役二
季申付ル

鹿兒島県志布志郷士族
稲留 祝
其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ半隊長トナリ官
兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情狀ヲ酌量シ懲役三年可申付処
初メ県庁ノ達ニ出ルヲ以テ尚ホ酌減シ除族ノ上懲役二季申付ル
鹿兒島県加治木大神馬場
士族
柚木 新十郎

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ半隊長トナリ官
兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情狀ヲ酌量シ除族
ノ上懲役二季申付ル
鹿兒島県出水郷武元士族
野間口 権之丞

同県大隅國薩摩中名郷士族(氏名脱カ)
其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ半隊長トナリ官
軍ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処初メ区戸長ノ達ニ出ルヲ以
テ尚ホ酌減シ除族ノ上懲役二年申付ル
鹿兒島県大隅國曾根郡
清水郷梯子丸村士族
榎元 静

同県同村士族
貢良男

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ半隊長トナリ官兵
安田 東一

ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役三年可中付処切
メ戸長ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿児島県薩摩国

日置郡山郷郡山村

士族

木場 須賀人

同県同郡同村

士族善太郎長男

永田 善之進

同県同郡同村

士族孝兵衛長男

郡山 伊平太

同県同郡同村

士族新右衛門長男

郡山 弥一郎

同県同郡同村

川田村士族松次郎二男

成尾 甚七

同県同郡同村

同村士族

宅 万 平製茶

同県同郡同村

士族平製茶弟

宅 万 弥之助

同県同郡同村

士族

成尾 庄之丞

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首ス
ルヲ以テ宅謹慎中付置処隆盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ際同県士族竹
内嘉平次ノ募リニ応シ各兵器ヲ携ヘ川田村并園迄出兵スル科ニ依リ

懲役三年可中付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿児島県谷山郷五ヶ

別府村上族平治長男

竹迫 平助

同県同郡同村士族

黒木 弥三次

同県同郡川口士族

東一長男

木村 義任

其方(マヽ)儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ
自首スルヲ以テ宅謹慎中付置処隆盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ際戸長
ノ募リニ応シ出兵セシ山野田一輔ノ指揮ニ随ヒ各兵器ヲ携ヘ城山ニ
至リ番兵スル科ニ依リ懲役三年申付ベキ処情状ヲ酌量シ各除族ノ上
懲役二年申付ル

鹿児島県谷山郷

五ヶ別府平民

野崎 栄助

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首ス
ルヲ以テ宅謹慎中付置処隆盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ際戸長ノ募リニ
応シ出兵シ中島健彦ノ指揮ニ随ヒ兵器ヲ携ヘ城山ニ至リ番兵スル科
ニ依リ懲役十年可中付処情状ヲ酌量シ懲役二年申付ル

鹿児島県薩摩国E置郡

郡山郷川田村士族

成尾 甚之丞

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首ス
ルヲ以テ宅謹慎中付置処隆盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ際同県士族竹内
嘉平次ノ募リニ応シ兵器ヲ携ヘ川田村并園迄出兵スル科ニ依リ懲役三年可
中付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿児島県第十四大区

一小区薩摩国今泉郷

士族

伊集院 兼雄

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置処陸盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ際其本營ノ募リニ応シ兵器ヲ携ヘ税所幸次郎ノ指揮ニ随ヒ書問ヲ携ヘ賊營ニ至ル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年中付ル

鹿児島県第十四大区

一小区薩摩国今泉郷

士族

池山 金左衛門

同県同郷士族

十兵衛長男

塚田 仙藏

同県同郷士族

黒江 吉之丞

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置処陸盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ際各兵器ヲ携ヘ税所幸次郎ノ指揮ニ随ヒ同郷士族伊知重武外一名官軍ノ為メ探偵セシトテ捕縛シアルヲ喜入郷迄護送スル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役二年中付ル

鹿児島県第十四大区一小区

薩摩国今泉郷士族

大窪 新右衛門

同県同大小区同郷

士族八郎右衛門 男

神宮 一郎次

同県同大小区同郷

同郷士族

秋山 幸吉

同県同大小区同郷

同郷士族

山内 源平

同県同大小区同郷

同郷士族

鯨島 平蔵

同県同大小区同郷

同郷士族勲右衛門

西男

託摩 英蔵

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置処陸盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ際兵器ヲ携ヘ税所幸次郎ノ指揮ニ随ヒ巡査捕縛ノ人数ニ加ハリ其宿所近傍ニ番兵スル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役二年中付ル

鹿児島県第十四大区

一小区今泉郷士族

成尾 一二

同県同大小区同郷

士族

桑鶴 彦二

同県同大小区同郷

士族

肥後 百一

同県同大小区同郷

士族

肥後 雲八

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置処陸盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ際其本營ノ募リニ応シ各兵器ヲ携ヘ税所幸次郎ノ指揮ニ随ヒ捕縛シアル巡査ヲ喜入郷迄護送スル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲

役二年申付ル

鹿兒島県薩摩国日置郡

伊集院郷石谷村士族

町田 竜之丞

同県同国同郷同村士族

石 神 喜次郎

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置処隆盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際其本營ノ達ナリ辻尾村士族山田阿和久ノ募リニ応シ兵器ヲ携ヘ横井村迄出兵スル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県郡山郷西俣村

士族普平長男

帖 佐 豊 平

同県同郷同村士族

大 山 八之丞

同県同郷同村士族

井 上 義 雄

同県同郷須木村

士族

末 原 喜 助

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置処隆盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際同郷士族竹内喜平次ノ募リニ応シ各兵器ヲ携ヘ川田村迄出兵スル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県薩摩国伊集院

郷清藤村士族吉太郎弟

児 玉 甚太郎

同県同国同郷同村士族

川 野 莊 助

同県同国同郷同村士族

川 野 四郎助

同県同国同郷同村士族

水之助弟

有 川 勇 言

同県同国同郷士族

村士族

松 山 助之進

同県同国同郷同村士族

西 村 矢之進

同県同国同郷士族

次郎兵衛長男

馬 渡 降次郎

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置処隆盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際其本營ノ募リニ応シ兵器ヲ携ヘ横井村迄出兵スル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県薩摩国

伊集院郷士族

山 下 甚次郎

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置処隆盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際其本營ノ募リニ応シ兵器ヲ携ヘ西田橋迄出兵スル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県薩摩国

今泉郷士族

渡 見 曾 八

同県同国同郷士族

次右衛門長男

栗 野 雄 八

同県同郷士族

荒牧 五十郎

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置処隆盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ際其本營ノ寨ヲニ応シ各兵器ヲ携ヘ戦所幸次郎ノ指揮ニ随ヒ巡查ヲ捕縛ノ爲其宿所ニ立越シ及ヒ喜入郷迄出兵スル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役二年申付ル

鹿児島県第五十三大区

一小区大隅區蒲生郷北村士族

満尾 仲右衛門

同県大隅國始遷郡蒲生郷麓十三番迄士族常盤

長男

谷川 十藏

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ兵器ヲ并シ衆ヲ聚メ半隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿児島県今泉郷

烏山村士族

池田 早之丞

同県同郷岩元村士族

有馬 信助

同県同郷新南方村士族

坂口 平吉

同県同郷岩元村士族

上妻 時記

同県同郷同村士族

犬童 彦五郎

同県同郷同村士族

同県同郷同村士族

勝目 照雄

同県同郷同村士族

前田 兼邦

同県同郷新南方村士族

永嶺 文之助

同県同郷同村士族

竹ノ上 稚助

同県同郷同村士族

折田 半藏

同県同郷同村士族

池水 平兵衛

同県同郷同村士族

井上 休之助

同県同郷同村士族

山下 半兵衛

同県同郷岩元村士族

四本 八平

同県同郷同村士族

上床 半之助

同県同郷同村士族

永田 金兵衛

同県同郷同村士族

隈元 藏次

同県同郷同村士族

岡部 与助

同県同郷同村士族

永田 喜平次

同県同郷同村士族

堀之内 良助

同県同郷同村士族

司馬同郷同村士族	別府榮輔
同県同郷同村士族	山村軍治
同県同郷同村士族	山村城介
同県同郷同村士族	山村十右衛門
同県永利郷山田村士族	井上榮之助
同県同郷同村士族	福山伝助
同県同郷同村士族	重久彦右衛門
同県同郷同村士族	上村栄藏
同県同郷同村士族	上村善五左衛門
同県同郷同村士族	有馬六郎次
同県同郷同村士族	前田次兵衛
同県同郷同村士族	伝五郎弟
同県同郷同村士族	永山伝次郎
同県同郷同村士族	新齊長男
同県同郷同村士族	慶田才介
同県同郷同村士族	弥田長男

同県同郷同村士族	柳田源八
同県同郷同村士族	九右衛門二男
同県同郷同村士族	井上善右衛門
同県同郷同村士族	武田武二
同県同郷同村士族	大内田市兵衛
同県同郷同村士族	繞二男
同県同郷同村士族	岩元吉次郎
同県同郷同村士族	愛甲情介
同県同郷同村士族	宮内善左衛門
同県同郷同村士族	宮内善七
同県同郷同村士族	半右衛門養子
同県同郷同村士族	重久彦七
同県同郷同村士族	強右衛門二男
同県同郷同村士族	寺田浅右衛門
同県同郷同村士族	今村幸左衛門
同県同郷同村士族	寺田伊右衛門
同県同郷同村士族	鳥山平之助
同県同郷同村士族	

情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役二年中付ル

鹿児島県郡山郷
龍平民

前園 仁之助

其方嶺西郷隆盛ノ逆意ニ与シ其使役ニ服セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎中付置処隆盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ際同郷士族白阪敦光等俱々巡査ヲ捕縛セント常盤村警視分署ニ到ル科ニ依リ懲役三年可中付延情状ヲ酌量シ懲役二年中付ル

鹿児島県白木野郷

士族

千龍 伸太郎

右同郷士族

吉武 省一

右同郷士族

池田 吉二

右同郷士族

児玉 佐七

日置郷士族

山口 市四郎

右同郷士族

田原 嘉一郎

右同郷士族

萩田 良一郎

右同郷士族

日高 祐吉

右同郷士族

書川 次郎

其方共儀隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎中付置処隆盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ際小倉啓助長谷場純孝等ノ募リニ応シ各兵器ヲ携ヘ警視分署ヲ襲撃シ或ハ巡査ヲ捕縛

セント島平浦又ハ伊集院迄出兵スル科ニ依リ懲役三年可中付延情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役二年中付ル

鹿児島県下田郡郡
日置村士族

岩崎 叶

同県同郷同村士族

吉元 浅右衛門

同県同郷同村士族

成相 嘉尾次

同県同郷同村士族

川崎 与兵衛

同県同郷同村士族

曾山 祐次郎

同県同郷同村士族

山口 二之助

同県同郷同村士族

古垣 市次郎

同県同郷同村士族

堀大 只治

同県同郷同村士族

古信 栄吉

同県同郷同村士族

丸田 藤太夫

同県同郷同村士族

川辺 文助

同県同郷同村士族

射越 金太郎

同県同郷同村士族

坂口 幸助

同県同郷同村士族

終須賀 民之助

同県同郷同村士族

原口 常右衛門

同県同郷同村士族

坂口 正朝

同県同郷同村士族

鶴丸 壺衛

同県同郷同村士族

中村 諸右衛門

同県同郷同村士族

上村 喜右衛門

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ口首
スルヲ以テ自宅謹慎申付置処隆盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ際小倉啓介
ノ募リニ応シ各兵器ヲ携ヘ伊集院又ハ五町迄出兵スル科ニ依リ懲役
三年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役二年申付ル

鹿児島県谷山郷

中村平民

奈良迫 卯之助

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ携ヘ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔
ヒ口首シテ其裁判ヲ受ル後再ヒ賊徒ニ与シ其使役ニ服スル科ニ依リ
懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ懲役一年申付ル

鹿児島県清水郷

弟子丸村士族

木佐 木平

同県同村上族

万膳 王藏

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ半隊長トナリ
官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ懲役三年可
申付処初メ戸長ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ除族ノ上懲役一年申付ル

鹿児島県日向国志布志

郷帖村士族伊右衛門

養子

海老原 盛平

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ半隊長トナリ官
兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役三年可申付処
初メ区戸長ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ除族ノ上懲役一年申付ル

鹿児島県高尾野郷

柴川村士族

小谷 番左衛門

同県出水郷籠士族

愛甲七郎右衛門

同県高隈郷高隈村

上族才右衛門弟

森 吾藏

同県本庄郷南浦村

士族正吉長男

原口 源太

同県野田郷籠士族

田代 周一郎

同県日向国諸県郡

志布志帖村士族

有留 重善

同県同郷同村同郷

同村上族

山崎 実信

同県加治木郷柳田

馬場一族

桑幡 孫七

同県下塩屋村士族

國師 静嘉

同県下志布志郷士族

上村 昌盛

同県荒田士族

染川 彦八

同県山田郷釐下名村

士族

池田 盛直

同県第二大区三小区

百十四番地士族

有馬 純孝

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ半隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役一年中付ル

鹿児島県下大隅国

鹿屋中名村士族

前田 佐右衛門

同県出水郷西目村

士族

松本 良右衛門

同県下同郷鹿兒村

士族

宇給梨 叶衛

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ半隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役二年可申付処初メ区戸長ノ達ニ出ルヲ以テ尚ホ酌減シ除族ノ上懲役一年中付ル

鹿児島県南分郷

上尾川村字中田士族

中村 源藏

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長心得トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲

役一年中付ル

鹿児島県下高麗町

士族現今桜島古里村住

谷村 純孝

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ右松祐永ノ指揮ヲ受ケ本腰武章等俱々川上親賢外二人ヲ苦刻之拷訊スル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役一年中付ル

鹿児島県第五大区

川辺郷古富村士族

肝付 吉次

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ侮憚シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置処隆盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ際小倉啓助ノ募兵スルニ随從シテ各所ニ奔走スル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役一年中付ル

同回答書

本県鹿児島上後迫居住士族道益二男小倉啓助外二百七名本月十二日御処刑済ノ上宣告書写相添御通知ノ趣致了承候此段及御回答候也

右懲役五年以上ノ者ハ本籍ヘ之ヲ揭示ス

書類署之

鹿児島出張所詰申付候事

福山出張所詰兼務若免候事

御用済ニ付帰郷申付候事

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

沖永良部支庁諸官員ヨリ其嶋民へ諭達書

人ノ地上ニ生活スルヤ各其業ヲ勉メ衣食住ヲ慮ラサルベカラス其中食物ニ生命ヲ養フモノナレバ最も貴重ニシテ片時モ欠クベカラザルモノナリ然ルニ此島ノ習俗タル明キ此アルモ之ヲ耕ヤスコトナク閑暇アルモ之ヲ松キルコトヲセス唯ニ唐芋ヲノミ食シテ終身足レリトシ致テ他ノ穀物ヲ耕作スルヲシテ年々若干ノ砂糖ヲ製ルモ貢米ノ代リニ上納セシ残リハ商社ニテ内地ヨリ持テ來ル延ノ穀物及ヒ諸品ト交易スルマテニシテ又金錢ノ貴キヲ知ラサルモノ、如シ然リ而シテ當島ノ人数ノ増減ヲ明治元年ヨリ今年マデ比較スルニ別紙表面ノ通り年々二三白人ツ、増加ヲ生セリ此ノ如クシテ今後數年ヲ送ラハ終ニ許多ノ人数ニ増加スルヤ然セリ而シテ人口ノ増加スレハ隨テ其食スル延ノ穀量モ亦年毎ニ増加スルハ當然ノ理ナレハ全地ヨリ得ル延ノ收穫モ亦年毎ニ増加セサレハアル可ラス然ルニ明治元年以來全島ニ就テ砂糖ノ出來高ヲ見ルニ却テ年々ニ減差ヲ生シ亦金高モ増スコトナク内地ヨリ輸入スル延ノ品物ノ金高トノ比較スルニ年々出高ハ多クシテ揚リ高ハ寡ナシ因テ明治八年ノ如キハ別紙ノ通り差引上若干ノ不足ヲ生セリ又九年ノ如キハ稍増差ヲ生セリトイヘトモ琉球地等ヨリ輸入ノ物品ニ有之若シ之ヲ詳カニセハ或ハ減差ヲ生スルニ至ラン既ニ今日ノ景況ニテハ來年ノ山來砂糖ヲ以テ今年食用スル延ノ穀物ヲ買フニ至ラン至此ノ如クシテ止マサレハ終ニ將來三年先キノ砂糖ヲ以テ其年ニ食スル延ノ穀物ヲ買フニ至ラン若シ果シテ然ラハ月ヲ追ヒ年ヲ追ヒテ益々窮乏シ愈々困窮シテ終ニ島民ノ立行難キニ至ランコト鏡ニ懸ケテ見ルカ如シ然トイヘトモ今日ヨリ注意セハ之レヲ防カンコト敢テ難キニアラズ抑モ先ツ全島ノ人民各競ブテ以富ヲ求ムベシ而シ富ヲ求ムル事他ニアラス各其業ニ勉勵シ空堀アンハ之ヲ耕ヤシ閑暇アラバ之ヲ松キリ以テ先ツ日用欠クベカラナル延ノ穀物ハ勿論其他其地ニ適スル延ノ物ヲ作り之ヲ蓄ヘ之ヲ食用シ可成丈ケ作りテ得易キ穀物等ヲ内地ニ仰カザル様可致然ラハ自ら砂糖糖壳却ノ金高モ纏リ野ニ空地ナク家ニ空蔵ナキニ至ルベシ依テ自今一層精勵シ第一穀物等ヲ耕作スベシ業ニ大志ノ如キハ最早時付ベキ季節モ

近付候事故先從是シテ小麦大豆小豆等ノ類追々試作致スベシ最モ右穀作ハ培養專一ノ者ナレハ勉テ之ヲ養フベシ亦當島ニテ從來用米延ノ農具等ノ如キハ何レモ極メテ拙ナキ物ニシテ甚タ不便ノ物ニ付迄テ農業盛大ノ地方ヨリ此地ニ適スル延ノ農具一ト通り取寄セ且農業熟練ノ者一兩人呼寄セ候積リニ候条追々可申達次第モ可有之候得共先以此旨諭達候事

別紙客ス

親病氣ニ付山願許可ノ上歸省	雇	大塔	万護六
鹿兒島出張所詰申付候事	九等屬	有馬	純徳
同	十等屬	柳田	古介
同	雇	加納	源之丞

十月廿二日晴 月曜日

内務卿へ電報

本月十七日付ヨリ以テ寧靜丸交付差解ノ儀上中及ヒ灣候通各嶋商社ヨリ出願ノ次第モ有之ニ付此度大島へ航海ノ上同所ニ於テ時宜ニ依リ直チニ交付差解度此段至急御指令有度シ

文部大輔へ上旨書

当県明治九年學事年報進達不行届候旨去七月中上申候書面御指令ノ趣ニ依リ尚又取調候延今度県庁焼失之節諸帳簿悉皆烏有トナリ僅ニ別紙裏表ノ通相分り候ニ付則及進達候此段上申候也

別紙

明治九年十月末日調

人口 百二十万六千四百十人

内

十九中学区ヨリ廿四中学区マテ
八十二万六千五百五十四人
廿五中学区ヨリ廿七中学区マテ
三十八万五千七百八十六人
学齡人口 十九万三千二百二十三人

就学人員 三万三千六百七十二人
小学校 六百三十九

内

女学校廿六会ハ男子学校又ハ男女学校

小学師範学校 二

内

男子師範学校 一

女子師範学校 一

中学校 一

英語学校 一

医学学校 一

但鹿兒島病院ニ屬シ未タ医学学校ノ名ヲ立テズ

学校全數 六百七十九

但前ノ諸數ヲ合計スレバ六百四十四トナル然レトモ旧記此ノ如シ

未タ孰レカ是ナルヲ知ラズ

人口百中就學生徒 二人七九

書籍館

初書籍局ト稱シ後書籍局ニ改稱ス

以上

甲第五十七号達書

達日第廿七号

客歲十月熊本縣騒擾ノ際戰死或ハ傷痍ニ源因シテ竟ニ死ニ至ル軍人ノ寡婦孤兒ハ恩給令ニ因リ扶助料可下賜ノ処示后引続奉米ノ形勢ニ立至リ取調方遷延候ニ付右寡婦孤兒等ノ儀モ特別シ以テ本年大阪陸軍事務所島尾中将達丁第四百十九号ニ連興シ右同様手当給与候条出願ノ手續等總テ右達ニ準シ軍人軍属ノ遺族ヘ無洩漏速ニ可相達此旨相達候事

陸軍卿山縣有朋代理

明治十年九月十五日

陸軍中將 西郷從道

右之通り被達候条寡婦孤兒或ハ父母幼少ノ弟妹ノミアツテ之ヲ養育

スル親族無之者ニ限り手当金給与候条戰死年月官等并遺族姓名年齢男女ノ別等事故明細書相添印形持參金子受取方日向地方ハ宮崎支庁其他ハ本庁第一課ヘ申立願書之儀ハ陸軍省一ノ第四百十九号達但書ニ徴ヒ追テ差出候儀ト可相心得此旨布達候事

甲第五十二号布達

県下加治木電信分局ニ於テ本日ヨリ私報音信取扱候旨申越候条為心得此旨布達候事

但鹿兒島郡ノ城宮崎三局ノ私信ハ未タ不取扱旨ニ付此段副テ相達候事

鹿兒島出張所詰中付候事

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

御用掛 青江 秀

同 柴田 三

同 原田 三

同 卷名 雄之進

同 川畑 梓

同 本田 休治

同 川井 嘉一郎

同 木脇 次郎

同 二木 直喜

同 市岡 義之助

同 猪瀬 義典

同 渡辺 一忠

同 九等屬

同 中嶋 泰雄

同 北林 源八

同 松元 二次

同 村上 新

同 御用掛

同 三浦 義純

—109—

國事犯囚御県士族平野四郎外廿五名九州臨時裁判所ニ於テ処刑済引渡相成候ニ付一等巡查永田三郎外三名ヲ以テ及御送付候間身柄御請取有之度尤右人員ノ内九名ハ當時病氣中ノ者ニ付當邊便船次第及御送付候条此段申進候也

十年十月十八日

河回答書

國事犯囚當県士族平野四郎外二十五名九州臨時裁判所ニ於テ処刑済引渡相成候ニ付一等巡查永田三郎外三名ヲ以テ御送付請取申候尤右人員之内九名ハ當時病氣中ニ付邊便次第御送付ノ趣致承知候就テハ每度御手致相成御挨拶此段及御回答候也

大分県ヨリ電報

行旅人埋葬費ノ儀ハ官費割込ニ付當県ノ者ニテ罹病ノ者ハ右之通り被ヒアリタシ

十月廿二日

同回報

旅人埋葬費ノ儀ハ虎列刺病人ニ限ル儀ト心得居ル為急御同合ニ及ブ

県令鹿兒島へ出張

東ヨリ帰庁	二等属	長山 信順
御用有之鹿兒島出張申付候事	御用掛	坂本 清彦
菱刈出張所請申付候事	尾	山下 常藏
除服出仕申付候事	同	山下 兼藏

十月廿四日雨 水曜日

大隅大蔵卿へ電報

先王方石御渡御許可ノ末和歌ノ浦高下穂高船ニテ追々御同漕相成候処目今他国ヨリモ米輸入相成新穀モ取入ノ期第二向ニ且ハ軍団ヨリ引渡米モ多分有之右等ヲ以テ融通致スヘク見込相立候ニ付最前何高五万石ノ内御同漕残米三万余石御同シノ儀ハ差止メ相成度候委細ハ

郵便ニテ白上ル

内務卿へ電報

兼テ米五万石當県へ同漕ノ儀許可相成候処追々他国ヨリモ米輸入相成新穀モ取入ノ期第二向ニ且ハ軍団ヨリモ引渡米モ有之依テハ管内一般米融通筋取調候此ノ上同漕相成ラズテモ差支之ヲ無キ見込ニ相立候ニ付五万石ノ内同漕残米三万石余ハ廻漕御差ヤメノ儀大蔵卿へ上申セリ右ニ付十月十三日付ヲ以テ廻漕費トシテ金十萬円御下ケ渡ノ儀相候候處重書ノ次第ニ付戻ニ廻漕相成候高千穂丸費用三万八千五百八十五円余ノミ御下ケ渡シ其金ノ金額ハ御下渡シニ不及候間此旨更ニ上白ス猶委細ハ郵便

林内務少輔ヨリ電報

昨ヨリ軍静丸交付ヲ差解ノ儀云々電報ノ文意分リ居ルニ付猶委細申越ス可シ

十月廿三日

同回報

軍静丸交付云々ノ文意分リ候候段承知セリ該船ノ儀ハ内務卿上坂中本年七月十二日付ヲ以テ當県下大島商社持船軍静丸本県へ交付候条取締相附ケ當分仕用致スベキ旨ノ御達シアリ故ニ此節迄仕用セシ処該社ヨリ差解キ出願ニ付本月十七日郵便ニテ上申ノ通商社ヨリ出願ノ次第モ右之ニ付軍静丸此度大島へ航海ノ上於同所時宜ニ依リ直ニ交付差解キ度旨電報ニテ伺ヒシ訳ナリ御申越ニ泰平丸ハ軍静丸ノ誤リト察ス此段至急御指令アリタシ

大坂出張官員へ電報

飯庁建築ノ儀其地ニテ切り組ミ丈ケニ積リ替ヘ一式金二千四百五拾円余ニテ本船積込費共右金高ニ額ル筈トイフキハ当地ニテ手当テ致スベシ且召連ル職工賃金ノ儀モ承知セリ右金高ニテ請負申付直クニ着手スベシ日數ハ適引キ縮メ至急回ス様尽力スベシ官宅ハ何分賃金高ヨリ多分高ムニ付此上費用減省成リ難キ上ハ差止ムベシ此旨達ス

県令鹿兒島ヨリ帰庁

親病氣ニ付出願許可ノ上滞省 六等属 八村利文
御用都合有之帰戸申付候事 十等属 伊山徳三郎
同 雇 大塔万護六
同 同 帖佐藤左衛門
除服出仕申付候事 等外二等出仕 諏訪隣藏

十月廿五日晴 木曜日

内務卿ヨリ電報

其県ノ貢租当年ハ何部減額ノ見込尚凡ノ延滞タシ

十月廿四日

同回報

当県本年租税減額ノ部合御下問ノ趣承知セリ右ハ荒地等ヲ除キ薩摩
大隅ハ凡四部戸向國ハ凡三部位減租ノ見込ニ候最モ人民ノ願ニ依リ
目下検見中ニ付尚追テ御確答申上ベシ

大蔵卿ヨリ電報

三万余石同米止メノ儀聞届ケタリ福岡ヨリ七千七百石余最早積船手
配リ済ミニ付廻リタレハ請取ベシ其余ハ差止メアリ

十月廿五日

同回報

三万余石同米ノ内七千石余ハ最早福岡ヨリ積出シム々ノ儀敬承セリ
然ルニ近日福岡県令ヨリ米何レノ港へ送ルベキヤ問合ノ節当県ヨリ
何分ノ次第申入候迄ハ廻漕見合セ有リ度旨答へ置シニ付其御心得ヲ
以テ可然福岡県令へ御指揮アリタシ

前島駅近局長へ電報

小官赴任ノ節御渡ノ扶桑丸及物品輸入ノ為野熊吉使用セシ清清丸
費用金額御中越有之度比旨御組合ニ及フ

甲第五十四号布達

明治廿六日鹿兒島裁判所飯所ノ鹿兒島山ノ口馬場島港左衛門邸へ移テ
候旨同裁判所ヨリ通知有之候条此旨布達候事

田中文部大臣へ伺書

当県下中学本部左之通相定度此段相伺候也

第十九中学区

鹿兒島

第二十中学区

国分

第二十一中学区

張之城向町町

第二十二中学区

垂水

第二十三中学区

加世田

第二十四中学区

大島名瀬間切

第二十五中学区

宮崎

第二十六中学区

延岡

第二十七中学区

都ノ城

明治十年八月十四日

指令

伺之通相定不苦候事

明治十年十月六日

甲第五十六号布達

今般管内中学本部左ノ通相定候条此旨布達候事

学区割前ノ如シ依テ答ス

甲第五十七号布達

県下暴挙ノ際各所ノ学校一時休業実ニ不得已ノ事情ニ候知事ノ儀
ハ一口モ忽ニスベカラサレノ次第ニ付明治五年二月第二百十四号公
布ノ趣ヲ厚ク体認シ士民困弊之折柄ニハ候得共均教育ハ父母タル者
子女ヲシテ開智興産ノ基ヲ固カシムルノ本務ニ候条各自奮勵戮力學
資支給ノ方法及各校開業年限等取調十一月三十日限可届出此旨布達
候事

但各校ノ内本文ノ通り見込不相立者有之候ハ、其旨委細書面ヲ以
テ申出指図ヲ可受事

諸官員及ヒ各区々戸長へ達書

県下兵亂ニ際シ 朝廷士民ノ困弊ヲ憐ミ賜ヒ度御賑恤ノ特恩ヲ蒙リ
誠ニ艱有次第ニ右之平定ノ上ハ銘々奮起自存ノ道可相立ハ勿論ニ候
得共目下大亂ノ後ヲ承ケ流離顛沛殆ント寒饑ヲ免レザル者十二八九

存候就テハ興業授業産ノ道最大急務ニ可有之然レトニ輕忽着テ万
一隠匿候テハ実ニ恐懼ニ堪サル儀ニ付此際迄ク衆議ヲ取リ其利害得
失講究致度依之 官員区戸長 一同此旨ヲ体認シ苟クモ空論ニ涉ラ
ス其方法計算規則等詳密取調可差出尚筆紙ニ尽ス能ハサル者拙者親
シク承知候条無忌憚開陳可致此旨相違事

区戸長へ送書

乙第二十号

管下上民ノ内先般暴卒ニ際シ各地ニ出兵遂ニ戦死致候者及ヒ出兵ノ
儘生死不明ノ者等別紙表面雛形ノ通復ヲ除キ二十日間ニ無洩取調
支庁各出張所へ無還滞可差出此旨相違候事

別紙表

支庁各出張所へ送書

文意同上

衛生局へ電報

当県下天然痘流行致スニ付予防ノ為種痘致度痘苗無之ニ付硝子
管人痘苗百本至急御廻シアリタシ代価ハ贈ルベシ右御依頼ニ及
ブ

宮崎支庁長へ電報

延岡其他病院引揚運速見合相付テ且一ヶ月諸入費取調ベ出庁ノ節特
参スベシ

松原神社ノ救恤所ヲ廢ス

大坂府九等警部

御用濟ニ付婦府中付候事	島村十郎
鹿兒島出張所詰中付候事	八等属 新倉直道
同	同 外島麗治
同	同 齊藤義茂
同	同 黒田才藏
同	同 岡上雄次郎
同	同 大野盛器
同	十等属

同	同	吉川一雅
同	同	佐々木真兵衛
同	同	東郷八郎
同	同	東郷九左衛門
同	同	肝付伊兵衛
同	同	小川力松
同	同	飯村栄太郎
同	同	村山小四郎
同	同	相良吉次郎
同	同	伊東助市
同	同	牧十左衛門
同	同	伊地知彦左衛門
同	同	津田全温

水引出張所詰中付候事

九等属

十月廿六日晴 金曜日

大蔵出納局守倉守人ヨリ電報

福岡ヨリ米七千何百石余其御県へ同清ノ分差止方福岡県令エ指令ス
ベキ旨ヲ大蔵卿へ御申出ノ趣承知セリ然ルニ此米ハ最早御県へ回漕
ノ積リ手配リ置タル分ニテ当局ニ於テ不都合ノ儀モアリ且代価壹石
ニ付四円ニテ此外ニ運賃係ルトモ則今米価ニ比スレハ廉価ニテ御県
ニ於テモ御都合ナルベシ故ニ右福岡ノ分丈ケハ御引請有リタシ此段
拙者ヨリ一応問合ニ及ブ直グニ返事有度シ

同回報

福岡ヨリ可送米ノ儀ニ付御問合ノ趣承知セリ右米当県ニテ可引受候
此旨御回答ニ及ブ大蔵卿へハ此旨別ニ上申セス宜御取計ヲ請フ

福岡県令へ電報

予テ御問合ノ当県へ其地ヨリ可送米七千石会御都合次第県下鹿兒島
へ向ケ回漕有度シ

林内務少輔へ電報

一昨廿四日付上申ノ寧靜元交付御差解ノ伺ヒ至急何分ノ御指今有度

シ

宮崎支庁ヨリ電報

友成正雄儀本月三十日短州中渡可相成旨ヲ以テ左ノ通り当地詰メ判事ヨリ申来リ候条此段申上候尤死体ハ警視局ヨリ直チニ該地戸長へ相渡シノ儀出張ノ警視へ談置候

岸良検査長火塚判事ヨリ及御照会置候延岡病院ニアル友成正雄断罪宣告ノ為批者儀該地へ出張候就テハ場所其外不都合無之様御取計有之度此段及御掛合候也

長崎県ヨリ電報

当地虎列刺病ハ未夕烈シカラサレトモ發病ヨリ去ル廿四日迄ノ患者凡ソ百二十名外ニ死亡凡五十名ニ及ブ

堺県十等属

御用済ニ付帰県申付候事

七等属

沼野 寿慶治
吉田 為行

宮崎支庁詰申付候事

竹道 弥一

屏申付月給十兩給与
第六課申付候事

岩切 彦治

十月廿七日晴 土曜口

内務卿ヨリ電報

寧靜丸解放ノ事聞置キタリ泰平丸ハ同船ノ誤リナリ

十月廿七日

大蔵卿ヨリ電報

先般和歌ノ泊丸ニテ積送リタル米五円六拾貳錢五厘ニテ松下ベキ旨返答セシ処其内米代納メ方ハ出張局ヨリ申上タル相場ニテ同局へ納ヘシ運賃納方ハサルニ取運局ヨリ通達スベシ高千穂丸ノ分モ右ノ手續キニ心得ベシ福岡ヨリ和船ニテ積送リ運賃其他ノ費用ニ限り直チニ福岡県へ仕込ヘシ米代ハ出納局へ納ルハ勿論タルベシ

十月廿七日

川路大警視ヨリ掛合書

全国三決懲役人員取調之儀有之候ニ付御県該囚現員并ニ監獄則圖式第十号囚籍之内初犯及ニ再三犯刑名月日共尙取調至急当局へ御差越シ相成度此段及御掛合候也

十月十二日

鹿児島警視出張所へ掛合書

県下懲役人員等ノ儀ニ付川路大警視ヨリ別紙ノ通り申来候間至急御取調御回報相成度候也

別紙前ノ如シ

熊本鎮台ヨリ電報

軍団裁判所ニテ懲役十年ニ短シ其地警視出張所ニ依頼セル事又助ナル者ノ連類捕縛スルニ又助ノ申立ト相違シ対決セサレハ落着セザルニ付至急又助ヲ当台へ護送相成タシ

十月廿七日

鹿児島警視出張所丁野少警視へ掛合書

熊本鎮台ヨリ別紙等ノ通電報有之候間来田又助ナル者護送方ノ儀可然御取計相成度此段及御掛合候也

別紙同上

同所ヨリ来書

東京本局ヨリ遭難記実送致有之候条十部達早及ヒ候右ハ中原尚雄等捕縛ノ起源ヲ記載スルモノニテ人民之迷ヲ解クノ一部分ニモ可相成若シ区長へ御下付相成度候ハ三百部程ハ及御送付可申此段及御照会候也

十月廿六日

同回答書

東京御本局ヨリ遭難記実送致相成候ニ付十部御差廻相成正ニ落手致候右ハ御申越ノ通区戸長へモ下付致度ニ付更ニ三百部御差廻相成度御回答此段及御依頼候也

大島へ出張

御用都合有之帰庁申付候事
鹿児島出張所詰申付候事

十等属 磯部 栄志
等外三等 飯村 栄太郎
足 竹迫 弥一

鹿兒島縣等外四等
出仕申付候事

同 永田 半介
同 高木 太郎左エ門

十月廿八日晴 日曜日

前島駅逕局長ヨリ電報

扶桑丸清渚丸之儀了解シ難シ巨船郵便ニテ御申越シアリ

十月廿七日

同回報

三菱会社汽船扶桑丸及清渚丸入費之儀電信ヲ以テ御照会及ヒ候処御了解難相成ニ付云々御申越致奉知候扶桑丸ノ儀ハ小官赴任ノ際内務卿へ上申拝借ノ上官員一同乗組入費致候儀ニテ右費用仕方ノ儀ハ別紙申号ノ通本年四月廿三日御指令済有之候間三菱会社へ御局ヨリ御尋之上右航海費御調査御申越被下度清渚丸之儀ハ別紙乙号ノ通リノ次第ニテ長崎県下野野熊内務省ノ許可得票下開戦ノ際官民ノ便宜計リ諸物品輸入致候航海費ニ有之候間是又臨時費ノ内ヨリ可仕振策ニ付是又同様御取計ノ之懸賞金併テ御申越被下度此段及御照会候也

県令へ同書

曰私学校構内地所今般陸軍省へ御引渡相成候ニ付テハ是迄栽培ノ草木後日試験ヲ要スル品ハ同地内尙後県門ニ属セル場所へ移植イタシ度此段相伺候也

右ハ家事紛紜ノ儀ニ付山願許可ノ上帰省
御用都合有之帰庁申付候事
鹿兒島出張所詰中付候事
五等属 親 康 忠 紀
等外四等 日 高 善 造
堀 切 彦 次

十月廿九日晴 月曜日

鹿兒島屯在長阪中佐へ掛合書

本年九月廿八日紙計給督本營ヨリ賊徒兵器類山野へ遺棄有之分取調

方御達ニ付則管下へ布達致候処追々取纏メ致送付候ニ付其都度目録相添速ニ貴營へ回送可致積ニ右之候条御差支無之哉至急御回報有之度此段及御掛合候也

陸軍省第五局へ電報

宣因ヨリ本県ニ引受ノ精玄米御依頼新穀刈入ノ季節ニ際シ相場日々下落ノ勢ヒニ付入札取計ヒ高札取調ベ重テ御照会ニ及ベク積リ至急御報ヲ待ツ

川路大警視ヨリ依頼書

御県管下島島ノ内大島種子島鬼界嶋等へ旧藩ノ窮犯人ヲ流罪致候事ニ承知致候候処一休右島嶼中へ罪囚幾名位派遣候テモ迄支無之候哉尤各自營生ノ道モ有之候哉且從來ノ家屋等モ現存致候哉御手致前件巨細御取調至急御申越相成度此段及御依頼候也

明治十年十月十二日

追テ各島ノ内周距離船路ノ便宜モ御取調有之度此段添テ及御依頼候也

同回答書

県下島島之内旧藩中犯人ヲ流罪候事御承知相成候右島嶼中へ罪囚幾名位派遣候テモ迄支無之哉且各自營生ノ道モ有之候哉從來ノ家屋モ現存候哉云々御問合之趣致奉知候各島支庁へ至急取調之儀相達置候ニ付各島ヨリ取調申出次第返ニ可及御確答候条右様御承知有之度此段御回答ニ及置候也

右親病氣ニ付山願許可ノ上帰省

往復掛申付候事
第一課申付候事
額子島出張所詰申付候
御用都合有之帰庁申付候事
五等属 齊 藤 小三郎
鹿 古 細 金 達
等外四等 伊 地 知 彦 左 衛 門
等外三等 相 良 吉 十 郎
等外四等 牧 十 左 衛 門
同 大 迫 新 藏

十月三十日時 火曜日

内務卿へ上申書

大島備米之儀ハ従前五百石ツ、年々回漕被來候処九年度ノ分ハ既ニ小官赴任前悉皆払切候ニ付差直令般御渡シ相成候米五万石ノ内ヲ以テ先規通米五百石更ニ回漕致候ニ付為念此段及御届候也

明治十年九月廿七日

指令

書面大島備米五百石ハ此度下渡候高之内ヲ以テ回漕之儀ハ聞置候条赴任前仕相成候始末取調大藏省へ可申出候事

明治十年十月十六日

征討總督府ヨリ電報

旧征討團事務所ヲ陸軍省内ニ設置候条心得ノ為相違ス

十月廿九日

宮内省式部寮へ電報

当県ニ准委任月給八十円ノ御用掛亦准判任月給三十円以上ノ御用掛アリ有位モ無位モアリ右ハ委任判任ノ相當ニ三大節ノ拝賈取扱ヒ且酒膳モ下シ賜ハル儀ト心得可然茲至急御回答ヲ請フ

同回報

准委任准判任御雇等ハ三大節ノ拝賈酒膳共ニナシ此段御報ニ及ブ

東京旧軍団會計部ヨリ電報

答エ御引渡ニ及ヒ置キタル精玄米云々其景何書エ軍団本管ヨリノ御指令但書地価平均相場云々ニ基キ御取計ヒ有ルベシ

十月三十日

長崎県ヨリ掛合書

國事犯因御県士族黒木源八外十一名今般臨時裁判所ニ於テ除族并ニ免罪処断相成候ニ付二等巡查官朗郎外一名ヲ以テ及御送付候条身柄御請取有之度此段申進候也

十月廿二日

右人名悉ス但黒木源八ハ除族余ハ免罪

同回答書

國事因犯当県士族黒木源八外十一名臨時裁判所ニ於テ除族并ニ免罪処断相成候ニ付二等巡查官朗郎外一名ヲ以テ御送付請取申候就テハ毎度御手致ニ相成候段御挨拶及御回答候也

長崎県臨時監倉事務所ヨリ掛合書

御県下士族黒木源八外十一名当九州臨時裁判所ニ於テ本日放免相成候ニ付今般可及御送付処内大和田伝三野須宗櫻津野常三名当地榎津町居住米屋金三郎ナル者引受度旨獻出候ニ付則同人へ引渡又北原半之進町田喜右衛門兩人ハ當日病氣ニテ難差送候条此段及御届合候也

十月廿二日

同回答書

当県士族黒木源八外十一名其地九州臨時裁判所ニ於テ放免相成御送付ノ処内大和田伝三野須宗櫻津野常三名ハ其地榎木町居住米屋金三郎ナル者引請度旨願出候ニ付同人へ引渡又北原半之進町田喜右衛門兩名ハ病氣ニ候間難差送御届合ノ趣致了承候比及御答候也

乙第二十八号達書

新潟県管下佐渡國難太郎ニ見村中道佐津丸ヨリ同國二見港字台ヶ鼻海岸へ民費ヲ以燈明台ヲ築設シ本年五月廿三日ヨリ点燈候ニ付右建築入費消却ノ為該港入津ノ諸船セリ別紙ノ通り取立候趣同県ヨリ折合有之候条此旨管下航海営業ノ者へ相違候事

別紙各

乙第二十四号達書

当県下各郷米蔵取払役ノ儀目今一般廢止候条事務ノ儀ハ現在米穀高及在来書類等取調兵米蔵所在地ノ区戸長へ引渡可申此旨右米蔵取払役ノ者へ相違候事

但本年一月以來勤務手續及給料受取済否等ノ儀ハ事務引渡済之上至急可届候事

乙第二十五号達書

薩摩西國区戸長へ

今般当県下各郷米蔵取払役廢止候条右事務ノ儀ハ当分其米蔵所在地ノ区戸長ニ於テ兼勤候儀ト相心得米蔵現在ノ米穀高及在来書類等右

取松役ノ者ヨリ受取可申此旨相違候事
但事務受取済之上ハ其旨可届出候事

宮崎支庁事務章程中附則

宮崎支庁事務章程上款第七条中改印ノ二字并同第九条ヲ削除シ下款
末条へ左ノ通追加候事

下款第三十二条

官員神宮区戸長及学区取締改印届ノ事

但其都度本庁へ印鑑可届出

同三十二条

宿村通送人ヲ処分スル事

簿籍取扱方心得書ヲ定ム

第一条

庁中一切ノ簿籍ハ第一課編輯掛ニ於テ保存シ一ケ仁ヲ總括シ部類節
目ヲ分テ之ヲ編輯整理スルモノトス

但シ教育上ニ関スル書籍ニシテ從來第五課ニ於テ保存ノ分ハ従前
ノ通取扱フベシ

第二条

編輯掛ニ於テ書籍目錄簿籍目錄ヲ製シ之ヲ以テ簿籍監護ノ基本トナ
シ参照搜索ニ便ナラシム

第三条

簿冊等參觀ニ供スル為メ常ニ各課中ニ備ヘサルヲ得サルモノハ編輯
掛ニ受取証ヲ差出シ然ル後チ之ヲ各課ニ備置クベシ

第四条

布告布達 布告令 其他書籍買入ノ節ハ各課掛入用ノ為買入レシモ
書ノ類

ノト雖トモ一応之ヲ編輯掛ニ同シ同掛目錄ニ登記ノ上請取証ヲ以テ
更ニ受取ルベシ

第五条

東京其他ヨリ新聞紙郵送ノ節ハ往復掛ニ於テ逐次之ヲ綴着シ決テ散
乱セシム可ラズ

但一ヶ月分全ク到着候節ハ往復掛之ヲ編輯掛ニ送付スベシ

十月卅一日半雨半晴 水曜日

九州臨時裁判所ヨリ通知書

其県士族河野主一郎外二百四十七名本口別府之通宣台致候条等相添
此段及御通知候也

明治十年十月廿二日

別冊

鹿兒島県鹿兒島

高麗町士族

河野 主一郎

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ正義隊指揮長トナリ及百引火崎戰跡ノ
際本營ノ達ヲ受ケ逃見十郎太ニ代リ該方面ノ警軍ヲ指揮シ士官兵ニ
抵抗スル科ニ依リ除族ノ上懲役十年申付ル

明治十年十月廿二日

鹿兒島県士族

長倉 認

其方儀鹿兒島県中屬幸職官崎支庁在勤中西郷隆盛ノ逆意ニ与シ石川
駿大内確ヲ既肥ニ遣シ区戸長等ヲシテ該地人民ヲ煽動シ賊徒ニ党与
シ出兵セシムル科ニ依リ懲役十年可申付処情狀ヲ酌量シ除族ノ上懲
役七年申付ル

年月日同上以下微之

鹿兒島県士族

深見 右常

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ本營ニ在テ其指揮ヲ受ケ各隊進退差引
ノ令ヲ伝ヘ又ハ別府晋助ノ指図ニ從ヒ同人ニ代リ兵隊操出シ且銃器
彈藥運送等ノ事ヲ担任シ及ヒ各所ニ於テ党与數三名ヲ招募スル科ニ
依リ懲役十年可申付処情狀ヲ酌量シ除族ノ上懲役五年申付ル

鹿兒島県下吉野村

士族十郎長男

別府 九郎

同県下高籠町士族

神宮司助左衛門

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ中隊長トナリ
官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲
役五年申付ル

鹿児島県上荒田

士族

松下 助四郎

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ中隊長トナリ官
兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役
五年申付ル

鹿児島県下小根占郷

川南村士族

池 成 須佐水

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ
官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲
役三年申付ル

鹿児島県下都ノ城

士族

坂本 良一

同県同郷士族

野村 綱雄

同

鶴田 貞直

同

龍岡 直記

同

有馬 純信

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ

リ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上
懲役三年申付ル

鹿児島県士族

黒木 源次

同

瀬戸口沢右衛門

同

安藤 幸彦

同

土持 信

同

永井 実切

同

半田 宗正

同

山下 兼重

同

神谷 寺正利

同

時任 高綱

同

小山 良輔

同

松本 利器

同

野崎 堅磐

同

桑原 植勝

同

安藤 利盃

同	待木富典	同	深川談水	同	阿久根良愛	同	今村市郎左衛門	同	野尻源吉	同	川辺当頼	同	指宿貞義	同	相良次太夫	同	添田雄七郎	同	牧瀬 奇右衛門	其方共儀近郷隣盛ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役年十可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役三年申付ル	鹿兒島県小野村	同	西ノ谷士族	限元 一	其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置処隣等所ト鹿兒島ニ聚来ノ察其本營ノ違ニ底シ西田町迄出兵シ中島健彦ノ指揮ニ從ヒ宇治主ノ神主某ヲ縛シ本營ヘ引渡スル科ニ依リ除族ノ上懲役三年申付ル
---	------	---	------	---	-------	---	---------	---	------	---	------	---	------	---	-------	---	-------	---	---------	---	---------	---	-------	------	--

鹿兒島県高原郷士族	竹之下 莊五	同	馬場 万之助	同県莊内郷安永村士族	蒲生才藏	同県下村部郷士族	松下兼信	同県下龍牟田郷士族	谷口 伸兵衛	同県松山郷士族	上野清貞	同県高麗町士族	林 七郎次	同県荒田村士族	東郷重護	同県下帖佐郷郷倉村士族	川崎 十兵衛	同県下同郷三拾町村士族	東条 吉左衛門	同県下同郷鍋倉村士族	川崎 佐一郎
-----------	--------	---	--------	------------	------	----------	------	-----------	--------	---------	------	---------	-------	---------	------	-------------	--------	-------------	---------	------------	--------

同県財部郷士族

久永 喜七郎

同

肥田 喜之介

同県下入米郷第三拾

一六区四拾六番地

上族

入米院 蔵治

同県下蒲生郷郷士族

指宿八郎左衛門

同県宮ノ城平川村

士族

杉元 孫右衛門

同県鹿兒島縣誌小路

居住士族

中江 貞治

同県鹿屋郷士族

川井田宗右衛門

同

坂元 佐兵衛

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ半隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県士族

川越 武二

同

宮原 左衛門

同

羽佐間 元充

同

谷口 祐右衛門

同

岩切 賢助

同

沼留 経礼

同

稻元 氏総

同

園田 秀里

同

神田橋 耕内

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ半隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県西戸田屋敷

士族

田原 健蔵

同県加治木郷士族

原田 宗之進

同

波多 与蔵

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ大小荷駄役トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県額姓郷

石垣村士族

児玉 栄寿

同

上野 次郎八

同

榎 幸兵衛

同 郡山 六之丞

同 西幸田 六郎

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首
スルヲ以テ自宅謹慎中付置処降盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際其本營ノ達
ナリ逆有宮古左衛門ノ指揮ニ從ヒ兵器ヲ携ヘ各所ニ奔走シ巡查ヲ荒
縛セントスル科ニ依リ懲役三年可申付処情狀ヲ酌量シ各除族ノ上懲
役二年申付ル

鹿兒島県伊集院郷

直六村士族

中馬 富角

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スル
ヲ以テ自宅謹慎中付置処降盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際其本營ノ達ニ
隨ヒ兵器ヲ携ヘ鹿兒島ニ赴カント途中迄出兵スル科ニ依リ懲役三年
可申付処情狀ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県中野郷

上族

檀村 兵古

同

大浦 良太郎

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首ス
ルヲ以テ自宅謹慎中付置処降盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際賊徒長谷場
純孝ノ指揮ヲ請ケ官軍探偵ノ為メ兵器ヲ携ヘ伊集院町迄到ル科ニ依
リ懲役三年可申付処情狀ヲ酌量シ各除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県伊集院郷

石谷村平民

柳原 藤介

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首シテ

其裁判ヲ受ル後再ヒ降盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際尚又賊徒ニ与シ兵
器ヲ携ヘ横井村迄出兵スル科ニ依リ懲役三年可申付処情狀ヲ酌量シ
懲役二年申付ル

鹿兒島県山川郷

上族

坂本 直衛

同

山口 勢入

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首ス
ルヲ以テ自宅謹慎中付置処降盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際其本營ノ達
ナリ逆野間口守衛ノ指揮ニ從ヒ兵器ヲ携ヘ山川警視分署ヲ襲ヒ巡查
ヲ捕縛セント途中迄立越スル科ニ依リ懲役三年可申付処情狀ヲ酌量シ
各除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県第十大区

一小区六言郷麓

上族

肥後 十内

同

久木崎 伊兵衛

同庄右衛門長男

野元 新太郎

同忠兵衛長男

野元 万之助

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首シ
テ其裁判ヲ受ル後降盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際其本營ノ檄文ニ応シ
各兵器ヲ携ヘ伊集院郷清藤村迄出兵スル科ニ依リ懲役三年可申付処
情狀ヲ酌量シ各除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県伊集院郷

人佐村士族

吉海 郷次郎

司

小野原 藤 八

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置処隆盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ際其本營ノ繳交ニ応シ鹿児島ニ出兵セント四本迄到ル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役二年申付ル

鹿児島県士族

山ノ内 庄 助

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役三年可申付処初メ戸長ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿児島県薩埵郷

武士族

井 元 幾 衛

同

峰須賀 樞之進

同

阿 万 良 八

同

篠原 藤左衛門

同

山口 主 八

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置処隆盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ際其本營ノ達ナリ並有富吉左衛門ノ指揮ニ從ヒ各兵器ヲ擄ヘ山川警視分署ヲ襲ヒ巡査ヲ捕縛セント仙田村迄立廻スコニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役二年申付ル

鹿児島県伊集院郷

直木村士族一 郎左

衛門長男

中 馬 喜之進

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置処隆盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ際其本營ノ募リニ応シ兵器ヲ擄ヘ伊集院郷字カミ迄出兵スル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿児島県指宿郷

士族

山下 新 介

同

前 田 藤五郎

同

坂 本 助七郎

同

石 峯 善十郎

同

山下 正 蔵

同

辻 八之進

同

岡 師 助 七

同

有 馬 八太郎

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置処隆盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ際其所幸次郎ノ募リニ応シ同人ノ隊下トナリ喜入郷迄出兵スル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役二年申付ル

鹿児島県谷山郷

郡元村士族

淵 辺 与 市

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首シテ

其裁判ヲ受ルノ後隆盛等再ヒ鹿兒島ニ襲來ノ際尚又賊徒ニ与シ兵器ヲ携ヘ出兵スル科ニ依リ懲役三年可申付処情狀ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県下日向國

諸県郡志布志郷

帖村士族

東 藏 蔵

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ半隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情狀ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県士族

津崎 英吉

同

津崎 直助

同

丸田 秀三

同

有馬 静治

同

河野 悦兵衛

同

二宮 可悦

同

木佐黄 清八

同

大重 庄五郎

同

萩原 金兵衛

同

野村 仲吾

同

藤田 彦右衛門

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情狀ヲ酌量シ除族ノ上懲役一年申付ル

鹿兒島県下蘭牟田郷士族

士族

大崎 蔵右衛門

同県下田右施郷

士族千頭良男

二宮 金之助

同県永吉郷麓士族

山下 覺左衛門

同県祐佐郷西餅田

村士族

森 新五右衛門

同県同村士族

財島 仲左衛門

同

井尻 善七

同県郡山郷士族

有馬 嘉兵衛

同県永利郷百次村士族

穴野 豊治

同

同県清生郷麓士族

伊地知 季義

同

頼崎 良助

同県下山田郷士族

池山 伊助

同県鹿兒島西田村士族

柴山 景盛

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役一年申付ル

鹿兒島県元馬乗

馬場士族

黒江 景範

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ右松祐水ノ指揮ヲ受ケ木藤武重等俱ニ川上親賢外二人ヲ苛酷ノ拷訊スル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役一年申付ル

鹿兒島県耶山郷

士族

竹内 喜平次

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先共ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎中付置処隆盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際共募リニ応シ同郷士族重久純孝外六名ヲ招集シ巡查ノ屯所ヲ襲ヒ品物ヲ掠奪シ尚ホ六名ヲ率ヒ鹿兒島県官ヲ捕縛シ金門ヲ奪取ル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役五年申付ル

鹿兒島県上甕島郷

中甕島村士族

和田 一平

同

和田 諸介

同

和田 一作

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先共ヲ悔悟シ自首ス

ルヲ以テ自宅謹慎申付置処隆盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際深見有常ノ指図ニ従ヒ同郷士族數十名ヲ指揮シ甕島派出ノ巡查十余名ヲ捕縛セシムル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役五年申付ル

鹿兒島県大隅国糟喉郡

国分郷内花村士族

石塚 七十郎

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ中隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役五年可申付処初メ戸長ノ達ニ出ルヲ以テ尚ホ酌減シ除族ノ上懲役三年申付ル

鹿兒島県高城郷

士族

大久保 越吉

同県下甕郷士族

春山 吉二

同

松下 恕介

同県下甕山郷士族

細山田 十兵衛

同県吉田郷東佐多

浦村百五十五番地

士族

深見 八太郎

同県下甕野郷原田

村士族

朝稲 孫左衛門

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役三年申付ル

鹿兒島県市来郷

伊作田村士族

山下 勇次郎

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自宅謹慎申付置処隆盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際右ニ応セント兵器ヲ携ヘ実兄山下幸右衛門方ニ到ル処巡査体ノ者二人探偵ニ成リシ辻幸右衛門俱ニ追逐シテ其一名官軍探偵雇ヒ兎ニ幸兵衛ヲ殺害スル科ニ依リ除族ノ上懲役三年申付ル

鹿兒島県加世田郷 平民

松本 末吉

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ其使役ニ服セシ先非ヲ悔悟シ自首シテ其裁判ヲ受ル後隆盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際右ニ応セント辻幸右衛門ヘ出兵シ町人体ノ者俱ヲ打殺スル科ニ依リ懲役三年申付ル

鹿兒島県郡山郷 薩士族

重久 純孝

同

白坂 篤光

同 西保村士族

小倉 助次郎

同

萩野 吉次郎

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置処隆盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際同郷士族竹内吾平次ノ募リニ応シ同人ニ随ヒ巡査ヲ捕縛セント屯所ヲ襲ヒ品物ヲ掠奪シ及ヒ鹿兒島県官ヲ縛シ其金田ヲ奪取ル科ニ依リ各除族ノ上懲役三年申付ル

鹿兒島県薩兒島 呉服町平民

杉崎 喜次郎

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ賊首ニ到リ官兵巡査ヲ斬殺スベシト貴島清ノ指揮ヲ受ケ出官ノ際襲リニ通行人ヲ殺害スル科ニ依リ懲役三年申付ル

鹿兒島県薩摩國

市来郷長里村

士族

唐鎌 岩助

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置処隆盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際実兄山下幸右衛門方ヘ立越ス処巡査体ノ者兩名探偵ニ来リ立云リシト幸右衛門等追逐スルニ尾ノ実弟山下銀矢外一名ト其巡査ヲ捕縛シ賊首ニ引渡スル科ニ依リ除族ノ上懲役三年申付ル

鹿兒島県鹿兒島

上江町平民

宮春 政右衛門

同人弟

宮春 岩次郎

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ其使役ニ服セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置処隆盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際酒匂覚右衛門ノ指揮ニ従ヒ賊徒ノ為メ人夫ヲ募リ又ハ官軍ノ人夫ヲ捕縛スル而ヒナラス賊徒久保田勤兵衛ノ指揮ヲ受ケ民舎ヲ放火スル科ニ依リ各懲役三年申付ル

鹿兒島県高江郷

久見崎士族

中村 一兵衛

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ其使役ニ服セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置処隆盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際其本營ノ機文ニ応シ壯年士族ヲ招集シ兵器ヲ携ヘ川内警視分署ヲ襲ヒ巡査ヲ捕縛セントスル科ニ依リ除族ノ上懲役三年申付ル

鹿兒島県指宿郷

士族

浜田良七

同

池水政五郎

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎中付置処降盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ際税所幸次郎ノ募リニ応シ喜入郷迄出兵スル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役二年申付ル

鹿児島県指宿郷

西方村士族

久木弥一郎

同

生駒助之丞

同

川端嘉之丞

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スル後清太郎ハ其裁判ヲ受ケ弥一郎嘉之丞助之丞ハ自宅謹慎中付置処降盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ際其本營ノ達アリ連佐土原八郎太等ノ指揮ヲ受ケ巡査ヲ捕縛セシ、追攝同郷滑浦迄到ル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役二年申付ル

鹿児島県上飯島

士族

橘口莊重

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎中付置処降盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ際賊徒深見有常ノ指揮ニ従ヒ原田貫次俱々官軍ノ勳勤ヲ探偵スル科ニ依リ懲役三年ノ処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿児島県下高江郷

士族

秋岡栄助

同

櫻木治介

同

中村与四郎

同

川添清一郎

同

川添太之助

同

細井吉次郎

同

池田十郎

同

中村佐一郎

同

山田弥一

同

中村直次郎

同

飯野勢六

同

竹田吉次郎

同

河野辰次郎

同

榎並八兵衛

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置処降盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ際其本營ヨリ各郷派出ノ巡査ヲ捕縛スベシトノ達シアリ連中村一兵衛ノ招募ニ応シ各兵器ヲ提ヘ同人宅迄出張スル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ

酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県鹿兒島
三官橋通士族

上野 六郎

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置処降盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際貴島清ノ指揮ニ従ヒ岩崎口ニ於テ番兵スル科ニ依リ懲役三年ノ処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県第二大区
二小区塩壺村百七
拾八番地主族

鎌田 英之進

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首シテ其裁判ヲ受ル後降盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際貴島清ノ指揮ヲ受ケ兵器ヲ携ヘ洲崎ニ出張番兵スル科ニ依リ懲役三年ノ申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県永利郷
山田村士族強兵衛
長男

車田 兵作

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置処降盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際同村士族中村惣太郎ノ募リニ応シ川内警視分署ヲ襲ヒ巡查ヲ捕縛セント水戸郷ニ王堂村迄出兵スル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県今泉郷
新西方村士族

伊藤 筑石衛門

河

藤田 藤十郎

同

久米十郎右衛門

同

千歳 万右衛門

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置処降盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際其本營ノ達ナリ近宅間道心等ノ募リニ応シ山川詰巡查ヲ捕縛セント指郷大ガケ迄到ル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県中甕島
士族

中村 喜八

同

和田 一介

同

塩田 伝吉

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首シテ其裁判ヲ受ル後降盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際和田一平ノ指揮ヲ受ケ該地派山ノ巡查ヲ捕縛セント其手配リヲ為ス科ニ依リ懲役三年ノ処情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県大隅国大隅郡
垂水郷山上村士族
源兵衛菱子

町田 貞道

同県同国始羅郡

加治木郷又土村

士族

池田 静治

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長心得トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役三年可申

付処初メ戸長ノ達ニ出ルヲ以テ尚ホ酌減シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿児島県下今泉郷
岩元村上族

藤崎 依右衛門
同永利郷百次六
見玉直次

同 佐多庄藏

同 松永平内

同 佐多 七右衛門

同 上野 幸吉郎

同日置郷土族
松山 兼次郎

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首ス
ルヲ以テ自宅謹慎申付置処隆盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ際其本營ノ達
ニ從ヒ兵器ヲ携ヘ巡查ヲ補縛セント各所ニ出兵スル科ニ依リ懲役三
年ノ処情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役二年申付ル

鹿児島県下々荒田村
上族

谷元道實

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ大隊付ノ大小荷駄
役トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除
族ノ上懲役二年申付ル

鹿児島県薩摩国川辺郷
加世回郷竹田村薩土族

有留信吾

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ振武新兵隊七拾六

名ノ長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量
シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿児島県大隅国噲喉郡
国分郷上小川村土族助
左衛門長男

松下助一

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ官兵
ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役三年可申付処初
メ県庁ノ達ニ出ルヲ以テ尚ホ酌減シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿児島県第八十五大区
二小区毛水郷田上村
土族

中原 巖

同県大隅国始羅郡
加治木郷反土村大
神馬場土族

原田 源太

同県同国噲喉郡国
分郷福島村土族七
一郎長男

中村 崇藏

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ半隊長トナリ官
兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役二年可申付処
初メ区戸長ノ達ニ出ルヲ以テ尚ホ酌減シ各除族ノ上懲役一年申付ル

鹿児島県高城郷
土族
同 脇岡 助十郎

同 山本 正太夫
同国分郷土族

服部 權之丞
同景下荒田村士族

玉置 政直

同田上村士族

中村 金五郎

同頰脇郷士族

平山 主之丞

同到久根郷山下村士族

橋口 吉二

同飯野郷大河平村士族

小田市郎左衛門

士族

同々郷原田村士族

額川 徳平

同景同郷川北村士族

宇部 源之丞

士族

同景大隅国噲喉郡

同分郷上小川村士族

市成 弥助

士族

同景上族軍太長男

愛甲 蘇太

同景上族軍太長男

同景上族軍太長男

同景上族軍太長男

同景上族軍太長男

同景上族軍太長男

同景上族軍太長男

同景上族軍太長男

同景上族軍太長男

同景上族軍太長男

同景上族軍太長男

同景上族軍太長男

同景上族軍太長男

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ半隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処分状ヲ酌量シ懲役二年可申付処初メ区戸長ノ達シニ出ルヲ以テ尚ホ酌減シ除族ノ上懲役一年付ル

鹿兒島県薩摩国

児島郡龍野居住

士族

右松 祐永

其方儀鹿兒島県一等國兼一等警部奉職中西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ大山綱良ノ指揮ヲ受テ川上親賢外四名ヲ警部木藤武章ヲシテ奇刻ノ拷訊セシメ及ヒ桐野利秋寡兵ノ催促ニ依リ田畑常秋ノ指図ニ從ヒ警部奈良原喜格等ヲシテ寡兵ノ為各所ニ派出セシムルノミナラス自己ノ意見ヲ以テ獨ニ取締リト稱シ陰ニ寡兵ニ從事ス可シト申含ムル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役五年申付ル

鹿兒島県薩摩国川辺郡

川辺郷平山村士族

肥後 壯之助

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ半隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役五年申付ル

鹿兒島県第二大区

三小区天神馬湯居

住士族

今藤 宏

其方儀鹿兒島県一等國兼職中西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ大山綱良ノ指揮ヲ受テ賊徒等海軍所轄ノ彈藥掠夺ノ儀内務省へ届書ニ經良ノ賊徒ヲ佐ル意ヲ察シ事案取隠シタル文案ヲ作ルノミナラス中原尚雄外二十名ノ口供印刷ニ付スルノ際野村綱ノ口書中送り仮名ヲ添削スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役三年申付ル

鹿兒島県第二大区

三小区上野隈九十

八番地士族

松元 武雄

其方儀鹿兒島県一等馬奉職中西郷隆盛等ノ逆意ニシテ大山綱良ノ指揮ヲ受ケ彈藥製造及ヒ其運搬等ノ事ヲ担任スル科ニ依リ懲役ト付可申付処情狀ヲ酌量シ除族ノ上懲役三年中付ル

鹿兒島県鹿兒島郡

千石馬場居住士族

表田 長福

其方儀鹿兒島県四等馬奉職中西郷隆盛等ノ逆意ニシテ大山綱良ノ指揮ヲ受ケ鎌田正直等ト俱ニ県庁ノ垢合拾五万円余隆盛等ニ相渡スノミナラズ田畑常秋ノ穫シヲ受ケ賊用ニ供セン為メ承應撫育兩社ニ出金ヲ促シ社長市來徳四郎ノ乞ニ任セ金円ニ交換スル証書ヲ發行セシト當秋ニ建議シ其証書六万円ヲ製造セシムル科ニ依リ懲役三年可申付処情狀ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年中付ル

鹿兒島県薩摩國今泉

郷士族藍右衛門長男

竹内 幸市左衛門

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニシテ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置処隆盛等再ヒ鹿兒島ニ襲來ノ際所幸次郎ノ察リニ応シ兵器ヲ携ヘ出兵シ同人ノ指揮ヲ受ケ巡查ヲ捕縛セシト其手配リヲ為スコニ懲リ懲役三年可申付処情狀ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年中付ル

鹿兒島県下荒田

士族

鎌口 政直

其方儀鹿兒島県六等馬奉職中西郷隆盛ノ逆意ニシテ大山綱良田畑常秋ノ指揮ヲ取ケ県庁ノ現金前後取束子四拾万円余隆盛等ニ相渡シ及ヒ賊徒病院ノ需ニ応シ毛巾五百余枚木綿下余反等買入レ拒廻スコニ依リ懲役三年可申付処情狀ヲ酌量シ除族ノ上懲役一年中付ル

鹿兒島県永吉郷第十一大区

十二小区十族藍右衛門長男

黒本 源八

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニシテ兵隊ヲ弄シ衆ヲ衆メ分隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情狀ヲ酌量シ懲役一年可申付処初メ戸長ノ達ニ出ルヲ以テ尚ホ酌減シ懲役百日十族ナルヲ以テ除族申付ル

以下人名略之 口知断免罪

同所ヨリ通知書

國事犯其県士族山下幸右衛門外二十名本日別紙之通列名及宣告ニ候条等相添此段申入候也

十年十月廿四日

別紙

鹿兒島県市來郷

士族

山下 幸右衛門

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニシテ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置処隆盛等再ヒ鹿兒島ニ襲來ノ際巡查依リ者二名自宅探偵ニ米リシ連実弟山下勇次郎等ト追跡遂ニ一名ハ勇次郎ニテ殺害シ巡查見善頭ハ実弟唐鎌若助捕縛セシヨリ賊管ヘ引渡スコニ依リ除族ノ上懲役三年申付ル

十年十月廿四日

鹿兒島県佐多郷

士族

池水 友之進

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニシテ兵隊ヲ弄シ衆ヲ衆メ小隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情狀ヲ酌量シ除族ノ上懲役三年中付ル

年同日同上以下續之

鹿兒島県加治木郷

天神馬場士族

前山 平左衛門

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役三年申付ル

鹿兒島県下飫島郷

士族

和田 用一

同県下吉田郷

士族

菊田 重本

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役三年申付ル

鹿兒島県下飫島郷

士族

木原 用八

同県下々荒田村

士族

泡田 貞義

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県下高江町

士族

十屋 富之進

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置処隆盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際其本営ヨリ各郷派出ノ巡查ヲ捕縛ス可シト違シアル決中村一兵衛ノ招募ニ応シ兵器ヲ携ヘ同人宅迄出張スル科ニ依リ懲役三年可申付情状ヲ酌量シ

除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県加治屋町

士族

有川 勘功

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ桐野利秋ノ指揮ヲ受ケ各所ニ於テ党与数百名ヲ募リ出兵セシムル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県第拾大区

一小区永吉郷麓

士族

長野 金左衛門

同県同大小区同郷

司所士族

裁松 仲吉

同県同大小区同郷

同所士族十左衛門

四男

山下 勘次郎

同県同大小区同郷

同所士族

矢神 直之進

同県同大小区同郷

同所

曾木 彦助

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首シテ其裁判ヲ受ル後隆盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際其本営ノ檄文ニ応シ兵器ヲ携ヘ伊集院郷清藤村迄出兵スル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県第十大区

一小区永吉郷麓十

族筑左衛門長男

正中 竜五郎

同県同郷麓士族

軍左衛門長男

久留 四郎助

同県同郷麓士族

助次郎二男

松崎 十郎太

同県同郷麓士族

次十郎二男

富山 孫四郎

同県同郷麓士族

十左衛門長男

左近充 庄之丞

同県同郷麓士族

次郎長男

隅 愛之助

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自昔ス
ルヲ以テ自宅謹慎申付置処隆盛等再ニ鹿兒島ニ裝束ノ際其本營ノ檄
文ニ応シ兵器ヲ携ヘ伊集院郷清藤村迄出兵スル科ニ依リ懲役三年可
中付処情狀ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年中付ル

鹿兒島県下出水郷

武元村士族嘉平

長男

前田 善兵衛

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長トナリ官
兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情狀ヲ酌量シ懲役一年可中付処
初メ戸長ノ達ニ出ルヲ以テ尚ホ酌減シ懲役百口士族ナルヲ以テ除族
申付ル

同所ヨリ通知書

本月廿二日決放ニ及候飯牟礼休左衛門儀ハ包蔵セシ賸有之同廿三日
更ニ別紙ノ通宣告ニ及候条廿二日及御回候宣告等ハ御取消有之度此
段中入候也

十年十月廿四日

別紙

鹿兒島県薩摩国郡兒島

西田村士族俊良長男

飯牟礼休左衛門

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ中隊長トナリ官
兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可中付処情狀ヲ酌量シ除族ノ上懲役
五年中付ル

十年十月廿三日

同所ヘ回答書

河野主一郎外二百四十七名十月廿二日山下幸右衛門以下二十名同月
廿四日御処断済同廿二日御決放相成候飯牟礼休左衛門儀包蔵セシ賸
有之同廿三日更ニ懲役五年御宣告ニ付廿二日御回送相成候宣告等取
消可申云々御掛合之趣致承知候此段及御回答候也

右懲役五年以上ノ者ハ元籍ヘ之ヲ揭示ス

書類署

明治十年十一月分

鹿児島県日誌

第七

十一月一日晴 木曜日

丁野少警視ヨリ通知書

今般警察施行ニ付人民ノ便利ヲ計較シ当管轄ヲ三方面ニ区分シ方面毎ニ數署ヲ置キ署毎ニ各派出所ヲ設置シ警察事務ヲ取扱候爲御心得此段及御通知置候也

明治十年十一月一日

追テ本文管内各区戸長へ相達候条右様御承知有之有度候也

第一方面

鹿兒島海岸通野上崎江戸橋口県庁前通千石馬場通西田橋ヲ右ニ折リ甲突川ヲ境界トシ以西郡山入米蘭幸田黒木佐志鶴田出水以西北ヲ左ノ警視署ヲ置キ所轄ス

下方限警視署

谷山警視署 山川警視署 伊集院警視署

加世田警視署

宮ノ城警視署 水引警視署 出水警視署

南方警視署

第二方面

鹿兒島海岸野上崎江戸橋旧県庁前通千石馬場通西田橋ヲ右ニ折リ甲突川ヲ境界トシ以北吉田蒲生曾木羽月大口山野ヨリ以東小林高原高崎高城山ノ口郡ノ城松山志布志以南左ノ警視署ヲ置キ所轄ス

上方限警視署

加治木警視署 国分警視署 栗野警視署

大口警視署

都ノ城警視署 志布志警視署 鹿ノ尾警視署

小根占警視署

垂水警視署

第三方面

須木野尻高岡橋佐左之警視署ヲ置キ所轄ス

高岡警視署

高崎警視署 妖肥警視署 佐土原警視署

美々津警視署

延岡警視署 高龍警視署

宮崎支庁及各山嶺所へ達書

今般警察施行ニ付管内各警視所配置之儀別紙之通丁野少警視ヨリ通知有之候条爲心得此段相達候事

別紙同前

差列出張申付候事

御出書 其山 庵

十一月二日雨 金曜日

長崎九州臨時裁判所ヨリ通知書

其県士族坂田諸藩本日別紙ノ通新罪宣告ニ及候条写相添此段及御通知候也

明治十年十月廿二日

別紙

鹿兒島県已向国高龍

士族

坂田 諸藩

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ今シ兵器ヲ弄シ党々ヲ招集シ小隊長以下ヲ撰任シテ白ラ軍長ト稱シ之カ総裁トナリ官兵ニ抵抗スルノミナラズ日向国参軍トナリ高龍ニ出張本管ヲ設ケ其長トナリ人民ヲ脅迫シテ軍資金數千円及ヒ党々欲百名ヲ募ル科ニ依リ除族ノ上斬罪申付ル

明治十年十月廿二日

同回答書

当県士族坂田諸藩去月廿二日斬罪候宣告済ノ旨御通知ノ趣致了承候此段及御回答候也

右宣告書原籍へ之ヲ提示ス

喜界島支庁へ達書

其島人民去ル八月風災ニ罹リ失産者へ救助米トシテ玄米貳百石及ヒ非常予備米百石受取ノ爲戸長折田実榮着県候処石ハ先般県下擾乱之折柄非常米トシテ各島へ当テ玄米六百石可下該趣許可致置候米既ニ平定ニ至リ候ニ付テハ非常米ノ議ハ回漕不致尚不得已事情有之候ハハ詳悉ヲ尽シ可同越日大島大支庁へ十月廿七日付ヲ以テ相達候通ニ有之故ニ從前何藩各島常備米五百石議ニ該支庁へ向ケ輸送ニ付石之内ヲ以テ相当ノ請取候尤救助米貳百石之分ハ今般下渡候条仕込済之上詳細取調書可差出此段相達候事

但白米拾石中出之通相渡候条最前赴任之御下渡候白米共別紙代償

ヲ以第六課へ可相納候事

別紙各ス

判任官一同へ達書

十一月三日 天朝節ニ付為拝賀午前八時礼服用登庁可有之事

但礼服用所持之サルトキハ通常ノ洋服又ハ羽織袴ニテ苦シカラス

鹿児島出張所詰申付候吏

全 等外四等 長 命 房 吉

免本官 十等 園 田 七兵衛

桑 原 政 夫

十一月三日 晴 土曜日

明治十年天朝節拝賀手續書

第一条

十一月三日天朝節ニ付為拝賀午前第八時長官始メ判任官一同礼服用登庁スベキ事

但礼服用所持之サル者ハ通常ノ洋服又ハ羽織袴ニテモ不苦且御用掛

位ノ有無 等外出仕履ハ登庁ニ及ハズ

第二条

各員相揃候上一等属ヨリ十等属迄整列上席者ヨリ長官へ拝賀上此時テ一課常務掛ニ於テ明治九年第三百四十七号御達ニ徴と取調ヘ置タル賀表ヲ進呈シ長官之ヲ受ル

但長次官連名ノ賀表及ヒ判任官并島津忠義島津久光此三件賀表ノ添書モテ取調ヘ置キ同時ニ呈上シ之ヲ取調メ宮内省式部寮へ郵送ス都テ常務掛主任之事

第三条

各支庁及ヒ諸出張所詰判任官ハ同日長官ニ賀表ヲ呈スベキ事

第四条

酒饌ハ代料ヲ以テ下賜候ニ付テ第六課ニ於テ取調ヘ置キ拝賀畢テ各員へ下付スベキ事

但支庁詰ハ該庁定額金ノ内ヨリ支出々張所ノ内日州ハ宮崎支庁ヨ

リ薩摩ハ本庁ヨリ下付スベシ且ツ島津商家ノ分ハ鹿児島出張所へ送致シ同所ヨリ下付ノ事

右信節ニ付本日休暇ノ事

十一月四日 晴 日曜日

薩摩兩州へ付達

丙第廿一号

本年地租ノ儀ハ米赤米大豆粟菜種共出願次第石代金納許候尤相場ノ儀ハ鹿児島上町下町西田町福山谷山隈之城市米加治木大根占出水園分以上十一箇所本年十月十五日ヨリ同十二月十五日迄日数六十日ノ

同日々ノ相場總平均ヲ以テ薩摩兩州一般ノ相場ニ相立石代相願候村々ハ總テ右相場ヲ以テ收入候矣此旨相心得石代上納致村々ハ本月三十日ヨリ限リ可願出此段薩摩兩州へ布達候事

但例年ノ正納致シ候村々ト雖トモ是亦本月卅日ヨリ限リ其旨可願出候事

御用都合有之帰庁ニ不及候吏 等外三等出仕 相 良 吉十郎

全 四等出仕 牧 十左衛門

十一月五日 晴 月曜日

大蔵卿ヨリ達書

鹿児島県

金銀公債証書利子金ノ儀ハ本月以米可取立金員ノ内ヨリ預ケ金ノ順序ヲ經可相渡等ニ候処交付期限切迫致シ右順序ヲ經過致居候テハ不都合ニ候度当十一月分ノ利子ニ限リ取立金有之次第右ノ内ヨリ飯二

仕松後日右順序ヲ經テ受取金可致此旨相達候事

但取立金ノ都合ニ寄リ幾分欺現金ヲ要需致候儀モ有之候ハ、早々取調可申立候事

明治十年十月廿三日

九州臨時裁判所ヨリ通知書

当裁判所本月三十一日限解庁元老院中へ九州臨時裁判事務局ヲ設ケ

殘務取扱候此段申入候也

明治十年十月廿九日

同回答書

本文畧之

官員へ達書

明六日午前第八時ヨリ會議相開候ニ付各課長及兼テ相違置候支庁長
各出張所官員并左名之者一同全時ヨリ出庁可致此段相違候事
各課長支庁長等ノ外出庁人名

二等屬	伊東市郎
全	長山信順
四等屬	蒲原敬路
八等屬	山田海三
御用掛	坂本清彦
全	真田 亮
六等屬	牛奥 昌
五代	助五郎

十一月六日晴 火曜日

長次官及御用掛各課長支庁長各出張所詰長外官員數名ト庁ニ会シ
事ヲ議ス

議目

- 第一 区长機拳
 - 第二 各出張所入費予定概算
 - 第三 授産法
 - 第四 学校開設法
 - 第五 金祿公債証書保護法
- 右之外出張所存廢等追テ衆議ニ付シ候儀可有之事
議日追加

出張所事務章程
大小区假職制章程
区長配置並ニ定員

議員 長次官之外

御用掛	上村行微
一等屬	田辺輝実
同	曾根静大
御用掛	小野修一郎
二等屬	長山信順
同	伊東市郎
同	丹羽昭陽
同	藤井楯雄
同	桜木保又
御用掛	青江 秀
同	西久保 紀
同	貞正 虎
同	坂本清彦
四等屬	蒲原敬路
五等屬	大江 遜
同	塩田益穂
六等屬	渥美力弥太
同	藤本頼慶
同	鎌田定衛
同	高木王謙
八等屬	山田海三
同	木村植造

會議心得書
第一条

衆議ニ与ルハ大書記官准委任御用掛各課長支庁長出張所長員ニ限ル
ヘシ尤臨時見込ヲ以テ各課之官員ヲ撰ミ列所可申付事

第二條

別紙法案議日之通費議ニ付シ候各意見アル者ハ會議之日書面或ハ口
上ヲ以テ可申立事

第三條

前條書面或ハ口上之主意ヲ一同ヘ相示スニ付篤ト衆議ヲ思シ可成丈
一定ニ帰シ同議書ヲ作り製印之ニ可差出事

第四條

衆議若シ多岐ニ涉リ一定強致節ハ其意見ヲ同議ニ付議之上可差出事

第五條

同議起草ハ其議日ニ係ル各課長之ニ任シ製印之上一同ニ可相廻事

第六條

會議之日課官員傍聴ハ可為勝手事

別紙

長崎縣ヨリ掛合書
國事犯御衆士族永田伊左衛門外十八名別紙人名書之通客月三十日同
三十一日之向日ニ県下当九州臨時裁判所ニ於テ除族並免罪処分之上
引渡相成候ニ付当県ニ等巡查朝永次郎三郎外一名ヲ以テ及御送付候
矣身柄御受取相成度此段申進候也

別紙

明治十年十一月一日

別紙

十年十月三十日決放
鹿兒島縣松山郷新橋村
士族新左衛門二男
永田 伊左衛門

除族

同県谷山郷下福木村七族
源太左衛門二男
佐藤 才之助

除族

同県大隅國始連郡反土村
士族万左衛門養子

神田 宜智

同県日向國那珂郡佐土郎

下田島村士族

長倉 靖珍

除族

十年十月卅一日決放

鹿兒島縣日向國諸縣郡

都之城士族

瀬戸山 清

除族

外人名之ヲ悉ス 但処断免罪

同回答書

本県士族永田伊左衛門外十八名客月三十日同卅一日九州臨時裁判所
ニ於テ除族並ニ免罪処分之上御県ヘ引渡相成候ニ付ニ等巡查朝永次
郎三郎外一名ヲ以テ御送付相成本日當県到着本人共所有金並品物等
併セテ受取候也

別紙

鹿兒島縣日向國諸縣郡
野村高志外一名本日及処断候条官告書等相添此段及御通知候也
明治十年十一月六日

別紙

鹿兒島縣日向國諸縣郡
小山田村士族
野村 高志

別紙

其方儀本年七月中賊徒宮崎表引揚之際編野利秋ヨリ預リ金六千四百
五拾円余携帶スル科賊盜律詐期取財条ニ依リ除族ノ上懲役十年申付
ル

別紙

鹿兒島縣下日向國兒湯郡
小丸村四百三十六番地
士族
堀谷 豊太郎

別紙

其方儀本年九月廿中第四旅團砲隊部其方宅ヘ宿陣中馬小屋ヘ積入シテ
彈丸盜取ル賍金三円ノ科盜兵器条ニ依リ官物タルヲ以テ本罪ニ一

等ヲ加へ懲役七十日之処士族ナルヲ以テ除族申付ル

御預人西京府公田穩清齋ヨリ届書

明治四年申二月私外ニ八名当県へ御預人ニ相成候処明治十年三月十五日四名ハ市来エ湯治トシテ罷越外二名ハ四月十八日右同所へ同辭罷越其後罷歸不申私ニモ是迄第一大区一小区八十一番地之内旧管轄方裏通へ外八名共旧県令ヨリ謹慎被申付居候処本年四月卅日ヨリ罷越ニ際シ田辺次兵衛周旋ニテ谷山郷玉利村六助方へ立退居処又候騒擾ニ付同郷荒子村士族島丸寛太郎方へ立退該所へ百五十日間潜居後又右之玉利村へ立歸リ十月十八日御巡回之官員川畑篤雄殿へ右之次第悉皆御届申上置候也

但沙見町浜通り平民田辺次兵衛是迄暗等引受人ニ御座候間御月之節ハ右之御召出相成度候也

明治十年十一月六日

別紙

西京	矢田	穩清齋
大和	小和野	広人
越前	中島	城之助
西京	高田	終
出羽	中村	如助
土佐	堀之内	勢五郎
東京	落合	直語

右之内六名ハ湯治之末于今相歸不申候

戸長心得	吉井	仲奎
御用掛医員	三田	宗三

等外二等出仕申付候事
第三課申付候事
依頼免御用掛

十一月七日晴 水曜日

議事前口ノ如シ

出張所事務仮章程ヲ議定ス

第一条

出張所官員ハ所轄内ノ安寧ヲ謀リ保護ノ道ヲ布キ章程ニ據ケル所ノ諸件ヲ管理スベキ事

第二条

所轄地方ニ於テ若シ非常ノ事アルニ際シテ一面ハ(本縣也)一面ハ(支)府一面ハ最寄警察署ニ急報シ相當ノ処分ヲ為スベキ事

以下逐条前号ニ從ヒ号數ヲ卸退ス

第三条

区戸長事務被所浦役場學校等之整否及ヒ一般之人情風俗ヲ觀察シ其景況ヲ具申スル事

第四条

神社臨時祭及仏寺臨時開帳之類ヲ処分スル事

第五条

区戸長学区取締之勤惰ヲ勘査シ之カ黜陟ヲ具申スル事

第六条

区戸長学区取締公立教員之除服ヲ達スル事

第七条

区戸長学区取締之療養并婦省願ヲ許可スル事

第八条

宿村通送人及ヒ其旅費等ヲ処分スル事

第九条

行旅病人行倒人等ノ原籍ヲ各府県へ照会スル事

第十条

人民逃亡届ヲ処分スル事

第十一条

国民軍簿々及總兵連名等ヲ検査スル事

第十二条

疫癘ヲ撲殺セシメ規則ニ照シ代償ヲ下渡ス事

但処分済直ニ開申スベシ

第十三条

物産調査検査シ之ヲ具申スル事

第十四条

舟車検印願ヲ許可スル事

第十五条

解船及廢車願ヲ許可スル事

第十六条

官有之枯木損木等ヲ処分スル事

第十七条

孝子貞婦其他奇特之者ヲ具狀スル事

第十八条

区戸長事務振所及公立学校費之旧納ヲ監査スル事

第十九条

無税之諸興行願ヲ許可スル事

第二十条

水火風災等之際一時窮民救助規則ニ照シ救恤ヲ施行スル事

但処分済直ニ本(支)庁へ書類ヲ添へ具申スベシ

第二十一条

棄兒養育及貰受願ヲ許可スル事

但処分済ノ上速ニ具申スベシ

第二十二条

天然痘並惡病流行ノ微アルトキハ速ニ予防方ヲ施シ其景狀ヲ至急

開申スル事

第二十三条

種痘表ヲ検査スル事

第二十四条

有害ノ鳥獸ヲ除クカ為メ規則ニ照シ發砲願ヲ許可スル事

第二十五条

区戸長学区取締改訂之事

但印鑑ハ直ニ本(支)庁へ送達スベシ

以上出張所ニ於テ担任專決シ第一第二第三第十二第二十一第二十二第

廿五条ヲ除ク外一ヶ月宛取經ノ本(支)庁へ書類回送スベシ其他ノ事件ハ願伺書ニ見込ミヲ付シ本支庁へ回送処分ヲ仰クベシ

薩隅兩州へ布達

西第廿八号

地租徴収期限之儀ハ本年太政官第五十三号別紙公布之趣有之實踐スヘキハ勿論之処當県下ノ儀二月以來兵燹ニ際シ第一第二兩期ノ如キハ陸奥之間ニ經過シ且各鄉村田畑荒廢ニ屬スルニ不尠自然定額之租税ヲ上納シ不能分往々有之ニ付縣ニ官吏ヲ派遣シ災地検査候間尚此上篤ト調査ヲ遂ケ相當ノ税額可相達候得共上納期限之儀ハ畑方沽券税ト雖トモ此際一時徴収候テハ困難ノ事情可有之ニ付今後畑共併セテ三期ニ分チ來明治十一年四月二十日ヲ以テ完納ノ期限ト相定メ徴収候條此旨厚可相心得依テ五十三号公布面歩合ニ準シ先以當十二月一日ヨリ來明治十一年一月三十日迄ニ田畑ハ定式免之貢額ニ比シ凡三分沽券税ハ昨九年ノ貢金ニ比シ凡四分超上納可致候然レモ追テ本年租額調査済之上ハ過不足共後期ニ至リ尚可相達候可有之条心得達無之様可致候尤別紙記載町村之儀ハ協議之次第候条追テ何分ノ儀相達候迄先以上納方見合可申此段薩隅兩州へ布達候事

追而石代上納諸相場之儀ハ未定ニ付先以飯ニ真米ハ金禄相場六円貳錢六厘六毛三系其他赤米大豆菜種粟稗等ノ儀ハ飯ニ各郷與今ノ相場ヲ相用ヒ置キ追テ石代相場確定ノ上過不足共決算致シ候儀ト可相心得事

別紙

明治十年分薩隅日三ヶ国地租徴収期限

口畑及沽券税地共

各五分通

右ハ本年十二月一日ヨリ來明治十一年一月三十一日限

右同斷 各三分通

右ハ來明治十一年二月一日ヨリ同年三月三十一日限

右同斷 各二分通

右ハ來明治十一年四月一日ヨリ同年四月三十日限

追而相達候迄地租上納可見合分

鹿兒島郷

武村

西山村

塩屋村

永吉村

荒田村

谷山郷

塩屋村

横川郷

中野村

吉松郷

中津口村

重喜郷

陽元村

築山郷

大久保村

川北村

田口村

福山郷

福山村

長島

花ノ元村

上臨島

中飯村

中野村

瀬上村

桑ノ浦村

江石村

小島村

平良村

下飯島

青瀬村

長浜村

瀬々野浦村

片野浦村

手打村

外二沽券地

鹿兒島三ヶ大区

大分県ヨリ来書

春來鹽援ニ付県民旅行之者へハ通行券相渡來候処既ニ平定ニ版候ニ付相廳候条此段及御照会候也

明治十年十月三十日

右本日回答ニ及フ書而答ス

福中付ケ月金拾貳圓給与候受

第三課申付候事

福中付ケ月金八圓給与候受

第六課申付候事

鹿兒島士族 宮ノ原 正 蔵

本県士族 牛 島 幸 吉

十一月八日晴 木曜日

議事前日ノ如シ

旧征討總督ヨリ電報

九月三十日發第三百四号ヲ以テ軍夫逃亡之者捕縛或ハ自首スルトキハ口供ヲ以テ隨軍裁判所ヘ伺フ可キ旨達シ置タル処旧征討軍團事務所ヲ設ケタルニ付同所ヲ当テ伺ヒ出スベシ此旨更ニ相達ス

十一月二日

鹿兒島警視出張所ヘ封合書

旧征討總督ヨリ別紙之通御達相成候処右ハ其出張所關係之事件ニ付書類及御回送候也

内務卿へ上中書

当県所轄大島外四島へ今般諸官員在勤為致候就テハ右支府之如キ海

路隔絶ノ地方ニシテ正端不弁ノ義モ有之候間為手当何分敷給与致度
尤右支給方ノ儀從前県全適宜ヲ以一ヶ年判任官百門等外ハ七拾門給
与致来加之出発之際必ス昇等可致之習慣モ有之候処右ハ不都合ノ義
ニ付更ニ御省官員琉球藩へ在勤之例ニ徴ヒ月手当給与仕度復許可ノ
上ハ官等ニ準シ支給方規則書御下付相成度此段相伺候也

明治十年六月廿日

指令

書面之趣ハ事情尤之儀ニ付判任官金貳拾三圓等外吏金拾圓之割ヲ
以各月手当給与之儀聞届額外常費トシテ可下渡候条受取方大蔵省
へ可申出申

明治十年十月廿六日

同上申書

先般当県諸官員一同赴任ニ付東京表ニ於テ旅費全額受取候処神戸港
ヨリ官船法英丸ニ乗移候ニ付右同所ヨリ当県マテハ官船日当ヲ賜リ
旅費返納可致等ニ候得共此度赴任ノ如キハ県地果動ニ際シ銘々非常
臨時之費用等モ有之候儀故官船乗組之儀ハ食料相払候テ赴任旅費ハ
支給相成候様仕度尤同号船賃之儀ハ当県臨時費之内ヨリ仕払可申ト
存候然ル上ハ前縣乗組諸官員ヨリ食料之分取立船賃額之内へ差加
へ精算可仕此段相伺候也

明治十年六月廿日

指令

書面官船乗組日当給与之儀ハ定則之通相心得神戸港ヨリ其県迄之
旅費全額返納可致尤事情無余儀支ニ付特別之詮議ヲ以夫々手当給
与候条銘々返納之金高取調可差出申

明治十年六月廿六日

大蔵省へ電報

和歌之浦高千穂兩船ヲ以テ当県へ御渡シ米之中各所へ蒸揚ケ之分蔵
敷等モ和掛リ月ツ新穀刈入レノ季節ニモ有之相場下落之景況ニ付時
宜見計ヒ入札私ヒ取計ヒ中慶至急御指揮ヲマツ
丙第廿二号布達

第十九中学区ヨリ第廿四中学区迄へ即チ舊摩大隅二国之内受持之学
区取締ハ本年六月三十日限り職務差免候儀ト可相心得此段薩摩大隅
両国へ布達候事

十一月九日晴 金曜日

各出張所へ達書

出張所事務章程別冊之通り仮定相渡候条遵守可致此旨相達候事

今般出張所事務章程ヲ仮定権限ヲ与ヘ事務整理候儀ハ人民顧問等
之便宜ヲ得セシメ上下之事情通暢セシムルノ旨趣ニ有之候条此旨
厚ク相心得停滯無之様精勵候事可致候且又今回各大区々長ヲ新任
中付候ニ付テハ区内事務ニ於テハ親臨申談決テ阻礙之弊無之様相
心得交互抵抗論争ニ涉リ候儀致問致申ニ公平之志ヲ旨トシ成規定
例ヲ熟知遵奉候様示諭可致此旨為心得添テ相達候事

別紙事務章程ハ去ル二日之下ニ出ツ此ニ答ス

在庁官廳支庁長各出張所請長へ達書

区戸長配置方釐正等之儀ニ付兼テ相達シ候通リヲ以テ一同出庁相成
居候処御用済ニ付来ル十一日出发歸任可致此旨相達候事
依鳳雇差免候事 川 如 篤 雄

十一月十日雨 土曜日

九州臨時裁判所ヨリ通知書

区事犯其果士族入江十郎太以下十五名本日別紙之通刑名宣告相添候
条写相添及御通知候也

明治十年十月廿七日

別紙

鹿児島県鹿児島上

諏訪馬場士族

入 江 十郎太

其方儀西郷隆盛等之逆意ニ与シ桐野利秋之指図ニ随ヒ官將支庁有合
金數百門ヲ受取及ヒ区長川西平蔵外二名ニ送金數千門ヲ募リ賊營相

渡シ猶賊營之指揮ニ任セ支庁諸山下元次ト俱ニ加世田ニ外三人ヘ金
札製作持リ申付ル辭令書ヲ渡シ加之旧宮崎県ヨリ橋口善千代ヘ貸付
アル金三千円ハ既ニ返納済之体ニ受納之爲証書ヲ取存又ハ同支庁結
塩田七ト議リ支店ヨリ貸付金之抵当ナル古金並公債証書ヲモ既賊
徒軍資金之爲メ既肥商社ヘ下渡シ賊用ニ充ル科ニ依リ懲役十年可申
付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役三年申付ル

明治十年二月廿七日

鹿児島縣薩摩国加世田郷鯨

村百六十二番地上族

野元ト助

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ并シ衆ヲ聚メ小隊長心得トナリ
官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲
役三年申付ル

年月日同上以下倣之

鹿児島縣薩摩国額娃郷

一町村士族

榑 權右衛門

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首ス
ルヲ以自宅謹慎申付置処隆盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ際野間口周衛之
指揮ニ随ヒ巡查ヲ捕縛セント仙田村迄出張スル科ニ依リ懲役三年可
申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿児島縣第十七大区十五

小区二百十五番地上族

阿万 治右衛門

同県同大区一小区

五番地上族

右馬 知純

同県同大小区

六番地上族

榑 渡清直

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ携ヘ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ
悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置処隆盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ
際其本管之達ナリ連各兵器ヲ携ヘ戸長郎間口周衛ノ指揮ニ随ヒ巡查
ヲ捕縛セント額娃郷仙田村迄出張スル科ニ依リ懲役三年可申付処情
状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役二年申付ル

鹿児島縣薩摩国今泉郷

岩本村士族

川 知八造

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗スル先非ヲ悔悟シ自首ス
ルヲ以テ自宅謹慎申付置処隆盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ際所幸次郎
ノ指揮ニ随ヒ岩本村迄派出ノ巡查ヲ捕縛セント逃スル科ニ依リ懲
役三年申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿児島縣永利郷百次村

士族

榑 角志

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ
以テ自宅謹慎申付置処隆盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ際其本管ノ達ニ從
ヒ兵器ヲ携ヘ巡查ヲ捕縛セント各所ニ出兵スル科ニ依リ懲役三年ノ
処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿児島縣第十七大区一小区

百二十三番地上族

上野 勇次郎

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ携ヘ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔
悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置処隆盛等再ヒ鹿児島ニ襲来ノ際
其本管ノ達ナリ連兵器ヲ携ヘ戸長野間口周衛ノ指揮ニ随ヒ巡查ヲ捕
縛セント額娃郷仙田村迄出張スル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ
酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿児島縣日向国高鍋上江村

士族香次郎父

泥谷 直義

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ兵器ヲ并シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年之処情状ヲ酌量シ懲役三年可申付処初メ区長ノ達ニ出ルヲ以尚酌減シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県民郷士族

柴尾山 源 内

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ兵器ヲ并シ衆ヲ聚メ分隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

以下宣告書各ス 如断免罪

同回答書

十月廿七日附ヲ以テ因事犯当県士族入江十郎太以下廿五名御延断済之段御通知之趣致承知候然ルニ右十郎太以下雖之内七之助迄十五名ニ有之人員相違候ニ付一応御取調之上御回送相成度御答旁此段及御照会候也

第二課事務章程中追加

一 駅通事務及ヒ水陸運輸ノ事務ヲ管掌スル事

一 大小船舶ノ取締ヲナス事

但其税金ハ第三課ニ於テ收入スベシ

一 汽船解船等ノ運轉ヲ管掌スル事

但税外收入之金員ハ第六課ニ於テ管掌スル事

第一課戸籍掛ヘ達書

其掛中駅通之事務悉皆二課ヘ可引渡此旨相達シ候事

宮崎支庁ヨリ何書

會計年度明治九年額外常費陸軍武官兵卒等戦死家族扶助料ヲ初メ其外之諸費春來ノ騒擾ニテ受取候レ相成候趣ヲ以追々士民ヨリ受取方顯出右ハ旧費ニ付士民ヨリ顯出候凌每ニ上申候テ別途御渡ニ相成候哉又ハ支庁ニテ繰替相渡置追テ取束受取可申哉至急御指導有之度此段相伺候也
指令

書面伺之趣ハ大蔵省山張官員旧経費取調之上ニ無之テハ何分ノ指令ニ難及候条各額之者ヘ厚ク其旨趣ヲ諭示シ不都合無之様可致事

第二課長申付候事

種子島出張所詰申付候事

救恤取調ニシテ日向國

巡回中付候事

依頼先本官

十一月十一日晴 日曜日

大蔵卿ヨリ達書

租税局勤務

六等属

全

七等属

全

八等属

十等属

御用掛

右之者共明治九年以前ニ係ル租税調査トシテ其宗ヘ出張申付候条百事協議シ処置可致此旨相達候事

明治十年十月九日

同達書

田賃局勤務

大蔵六等属

全

大蔵七等属

大蔵八等属

大蔵九等属

中野 韶
橋本 速水
安達 秀実
大島 近知
永井 直晴

御用掛 青江 秀
三等属 白根 大造
八等属 山田 海三
等外二等出仕 田川 兵力
八等属 遠水 時中

全 松田 澤
全 足立 忠 緒

其県下七族平民家祿賞典為取調前書ノ者共派出中付候衆着ノ上ハ協議及候儀可有之候間此段為心得相違候事

旧鹿兒島藩士族ヲ除キ其他旧宮崎県上族平民金祿公債存票帳整理ニ付六冊内因通運会社便送附致候元証券之儀ハ製造出次次第追テ送附可致候衆其節右調帳種類下系へ番記号ヲ記シ表印押捺セシメ還納可致勿論公債証書ハ先戸主ノ名前ヲ以テ相渡候儀ト可相心得候且利子ノ儀同下後他府県へ其属替及ヒ寄附ノ分ハ現今ノ管庁へ可下渡寄ノ処調方ノ都合モ有之當十一月渡ノ利金ニ限リ悉皆其県へ可下渡候間其県ニ於テ渡方可取計候因テ總計表一冊相添此段相違候事

但一月一日後転籍寄附者ノ内新管庁ニ於テ証券受取方相願候者ハ受取証別紙ニ取其旨原籍へ来ヲ以記載可致且旧延岡藩平民西岡俊一郎ハ東京府へ其属替ノ遺金様帳差出シ候後寄附ノ旨申出ニ寄リ則引直シ金券調帳ハ同府へ下付隨シ金券モ同府へ可相渡衆其旨可相心得事

明治十年十一月七日

丁野少警視ヨリ掛合書

無籍或ハ遠國ノ者ニテ多年各郷ニ乞食致居ル輩往々有之趣相聞へ中候貴庁ニ於テ右等ノ考給育等ノ方法此際御取設ケモ有之間有候得共日下流行ノ伝染病等モ自然是等ノ行商人ヨリ感染スルモ難計候衆巡查ニ於テ見認次第該区戸長へ送付シ夫々処置相成候様致度此段及御叶議候也

明治十年十一月二日

同回答書

無籍或ハ遠國ノ者ニテ多年各郷ニ乞食致シ居者共処置方ノ儀ニ御協議之趣了承早速其辺達方可取計ト存候然ルニ右無籍人ノ儀ハ何分当県ニ於テ授産ノ方法モ不相立差支候ニ付復舊ノ地無之者ニ限リ貴方御所轄ノ警役場ニ於テ犯罪人ト別異シ相当ノ授産ヲ以自活ノ道御取計相成候様ノ都合ニ致シ度此段尚又及御協議候也

追テ本文御承知之上ハ無籍人ニテ復舊ノ地無之者ハ貴方へ可申出旨ヲ可達置、存候此段及御打合候也

埼玉県ヨリ通知書

御県下大隅国始羅郡浦生郷上久徳村元士族長谷場純尚外四十六名九州臨時裁判所ニ於テ別紙写之通宣告本年九月廿一日当県へ引渡相成候衆此段及御通知候也

明治十年十月廿六日

別紙宣告書ハ十月二日ノ下ニ出ツ此ニ尋ス

同回答書

当県士族長谷場純尚外四十六名九州臨時裁判所ニ於テ本年九月三十一日処断済宣告書副御宗へ引渡相成候段御通知之趣致了承候此旨御回答ニ及候也

九州臨時裁判所ヨリ通知書

田村利貞外式拾貳名別紙之通本日及処断候衆右宣告書写相添此段申入候也

十年十月三十一日

別紙

鹿兒島県日向国那珂郡下那珂村士族
兵二長男

田村利貞

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊監軍ノ附屬トナリ監軍池田盤、謀リ該隊ヲ監督シ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役三年申付ル

明治十年十月三十一日

鹿兒島県日向国那珂郡佐土原下田島士族

安藤武宣

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊監軍ノ附屬ナトリ監軍池田盤下謀リ該隊ヲ監督シ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役

十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役三年申付ル

明治十年十月三十一日

年月日同上以下略

鹿児島県大隅国加

治木郷士族

竹下 仙左衛門

同県日向国都之戒

郷士族

大峯 兼昭

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ官
兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役
三年申付ル

鹿児島県伊敷村

士族

長崎 信夫

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長代理トナ
リ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上
懲役三年申付ル

鹿児島県日向国高

岡郷士族

本田 年苗

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長差引トナ
リ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上
懲役三年申付ル

鹿児島県日向国諸

泉郡都之城郷宮丸村

士族

福山 泰全

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ官

兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役三年可申付処
初メ戸長ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿児島県大隅国加

瀬郷加治木郷小山

田村士族

宇都宮 泰輔

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ官
兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役
二年申付ル

鹿児島県日向国那

珂郷下那珂村士族

飯田 道義

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ官
兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二
年申付ル

鹿児島県大隅国加

治木郷士族

竹下 庄之進

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ官
兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役
二年申付ル

鹿児島県日向国都

ノ城郷士族

妹尾 包道

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ官
兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役
二年申付ル

鹿児島県日向国都

ノ城郷士族

山下 良全

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ半隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県大隅国始

羅郡加治木郷柳田

馬場七族

伊丹親衛

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ半隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県日向国宮

崎郡加納村士族

平島直之

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ彈藥運送等ニ從事スルノミナラス伊東直記ノ達ヲ受ケ兵ヲ募リ其隊長ヲ定メ番兵ニ出張セシムル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県日向国佐

土原下田島村士族

加世田 一二

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ小隊兵士ノ勤怠ヲ監督シ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ同三年可申付処初メ区長ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県第十大区

一小区永吉郷釐士

族藤内二男

佐土原 藤五郎

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅勤慎中付置処隆盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際其本營ノ機文ニ応シ兵器ヲ携ヘ伊集院郷清藤村迄出兵スル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県日向国諸
県郡都ノ城五十町村
士族

加塩為幹

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役一年申付ル

鹿兒島県大隅国始

羅郡加治木郷反土村

上族

赤崎直記

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役一年申付ル

鹿兒島県日向国郡

珂郡板敷村士族

伊東卓雄

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長心得トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役一年申付ル

鹿兒島県日向国諸

県郡都ノ城郷士族

瀬戸山 清

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ同一年可申付処初メ戸長ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ懲役百日士族ナルニ付除族白付ル

鹿兒島県日向国諸

県郡都ノ城郷士族

石川 次兵衛

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長トナリ官

兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ同一年ヲ申付処初メ戸長ノ達ニ出ルヲ以テ酌減シ懲役百日士族ナルニ付除族申付ル

以下二名宣告書署 処断外罪

十一月十二日晴 月曜日

内務卿ヨリ電報

士族ニテ金襴公債秩秩公債証書ノ類有之者ハ小屋敷料農具料共貸付ケ開届ケ難シ

十一月十二日

芳川電信局長ヨリ電報

先般御依頼ニ依リ都ノ城電信局開局ニ候処不日鹿兒島ヨリ大谷へ線路架設落成ノ筈然ル上ハ都ノ城開局ノ積リニ有之一応及御照会候至急御回答ヲ乞フ

同日報

都ノ城電信局開局ノ儀ニ付御照会之趣当県於テハ差阻無之尤モ鹿兒島屯在兵普及ヒ警視出張所へ協議ニ及候処警視ニテモ差支ナシ然ルニ鹿兒島屯在兵參謀部ニ於テ右ハ都ノ城屯在兵ト運児島屯在兵トノ間ニ急報ヲ要スル儀モ問々有之ニ付当分スエ置キ相成渡旨回答アリ依テ此段及御回答

在京一等属曾根静太外二名ヨリ大藏卿へ上申書

今般本県焼失ノ際予テ御渡相成居候度量復原器一切焼失候ニ付更ニ御下渡相成度此段私共ヨリ上申可仕旨県ヨリ被中付候間上申仕候也

明治十年九月廿八日

指令

中立之趣其県庁へ相備有之候度量復原器焼失候ニ付テハ右を通ツ、更ニ相渡候条收入可致事

但器物ハ内国通運会社ヲ以テ送致候事

明治十年十月二十日

十一月十三日雨 火曜日

種子島出張所へ達書

先般共出張所ニ於テ施行候島会社規則ノ議ハ詮議ノ次第候条速カニ廢止可致此段相達候事

但廢止取計ノ上ハ早々可届出事

各官員へ達書

当分毎月第一第三第四ノ日曜日休暇之事

右相達候事

九州臨時裁判所ヨリ通知書

伊豫直記外百十一人別紙ノ通本口及処断候条右宣告書等相添比段申入候也

十月三十日

鹿兒島県鹿兒島

荒口村士族

伊東 祐兼

其方俄西郷降参ノ逆志ニ号シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ既肥清武ノ三小隊ヲ伊東直記等但々總轄シテ官兵ニ抵抗スルノミナラス本營ノ指揮ヲ受ケ鹿兒島ニ到リ幕府ノ兵ヲ以テ九小隊ト爲シ其上官ヲ擢任シ尙分隊ヲ率ヒテ都ノ城ニ到リ該所ニ分官ヲ設ケ兵七招募シ六小隊ヲ編制シ各上官ヲ擢任スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ除族ノヒ懲役七年申付ル

明治十年十月卅日

鹿兒島県下西田

士族

日置 吉左衛門

同県鹿兒島高麗町

士族七太夫三男

重久 敬一

同県薩摩国鹿兒島

郡新屋敷士族

仁 札 滿 助

同県鹿兒島岩寄
士族太長男

新 納 肇

同県日向国那珂郡

飯肥楠原村士族

守 永 守

同県同国諸県都城

宮丸村士族

弥 塚 重 邦

同県同国那珂郡

飯肥楠原村士族

石 川 駿

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ并シ衆ヲ衆メ中隊長トナリ
官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ヲ申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上
懲役五年申付ル
年月日同上以下倣之

鹿兒島県鹿兒島

九十二番地士族

菱 刈 良之助

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ并シ衆ヲ衆メ中隊長ノ監軍トナ
リ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ヲ申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上
懲役五年申付ル

鹿兒島県鹿兒島

馬場通士族登五右

衛門長男

白 尾 国 芳

同県鹿兒島西山

居住士族

古 川 勝次郎

同県日向国那珂佐

土原下那珂村士族

海老原 源 太

同県大隅国始羅郡

蒲生郷北村士族

福 崎 直 彦

同県日向国那珂郡

飯肥飯敷村士族

川 崎 登

同県同国諸県北又

村六十八番地屋敷

居住士族

大 始 良 義 昌

同県鹿兒島鴨島場

士族

児 玉 良四郎

同県第一大区三小区

武村三十番地士族

久 留 景 実

同県第三大区五小区

坂本村士族

讃 良 貞 信

同県日向国諸県郡

都之城士族

山 内 哲 勝

同県第一大区三小区

天祐馬場廿七番地士

族七郎左衛門長男

篠 崎 三 大

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ兵器ヲ并シ衆ヲ衆メ中隊長トナリ官

兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役三年申付ル

鹿兒島県鹿兒島

城ヶ谷士族

松崎 善兵衛

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長代理トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役三年申付ル

鹿兒島県鹿兒島

武村士族甚之丞

長男

高橋 直次郎

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長心得トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役三年申付ル

鹿兒島県第二大区

三小区鹿兒島上ノ

園居住士族

阿多 震二

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ大小荷駄役又ハ郡代取締トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役三年申付ル

鹿兒島県鹿兒島西田

居住士族正太郎長男

南 四右衛門

同県日向国那珂郡

西方村士族中長男

田中 登

同県同国白杵郡延岡

恒富村士族

加藤 淳

同県同国那珂郡

紙肥板敷村士族

荒武 勇記

同県同国那珂郡佐土

原下田島村士族

小牧 秀発

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長ノ盟軍トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役三年申付ル

鹿兒島県日向国那珂

郡佐土原下郡那珂村

一族

川俣 致雄

同県同西垂水郷麓

居住士族直助長男

鎌田 正方

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役三年可申付処初メ戸長ノ達ニ出ルヲ以尚ホ若減シ除族ノ上懲役二年申付ル

鹿兒島県鹿兒島

冷水居住士族

上床 壮助

同県第一大区三小区

番所小路百十六番地

一族平之丞長男

木村 平右衛門

同県第一大区一小区

今泉村居住士族

阿方 組三郎

同県日向国那珂飯 肥上郷ノ原村士族	柳正重周	同県日向国児湯郡 高鍋村士族向太郎 養子	内藤有慶	同県日向国高鍋村 士族	平島重綱	同県同国児湯郡 高鍋村士族	野口一馬	同県鹿兒島縣 冬々士族	伊勢地源左衛門	同県大隅国始羅郡 加治木郷小山田村 居住士族	犬童英輔	同県第百二大区一 小区楠原村四百八 十七番地士族	郡司 稔	同県日向国飯肥 板敷村百五十九 番屋敷士族
----------------------	------	----------------------------	------	----------------	------	------------------	------	----------------	---------	------------------------------	------	--------------------------------	------	-----------------------------

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ半隊長トナリ
官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上
懲役二年申付ル

鹿兒島県鹿兒島縣 冬々士族利右衛門 長男	甲斐 半藏	鹿兒島県日向国那珂 郡福島西方村士族直 長男	田中 東穂	同県大隅国始羅郡 加治木郷木田村 士族	谷山 喜輔	同県日向国諸県郡 庄内郷安永村七十 五番地士族	東 熊太郎	同県日向国那珂郡
----------------------------	-------	------------------------------	-------	---------------------------	-------	-------------------------------	-------	----------

同県日向国白杵郡
延岡岡富村士族
村上 景捷

同県同国那珂郡
肥脇元村居住士族
佐土原 省吾

青山 競

佐土原下田島村
七族

伊地知 種元

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長トナリ
官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役二年可申付
処初メ戸長ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ各除族ノ上懲役一年申付ル

鹿兒島県鹿兒島
新正院士族

上井 甚七

同県同所士族

村田 佐吉

同県第二大区二小区

新屋敷二百廿四番地

士族

林 昌助

同県薩摩国鹿兒島

郡冷水士族十五郎

弟

永田 彦兵衛

同県日向国那珂郡

鉄肥板敷村士族

伊東 祐純

同県大隅国々府郡

ムケ村士族

坂本 勇之助

同県鹿兒島樺ノ口

士族喜助長男

北原 吉藏

同県下加治木郷

反上村士族

同県日向国諸県郡
都ノ城下長飯村
士族
白尾 源太郎

同県同郡同郡

財部 実治

都ノ城士族

菊谷 重彦

同県同郡那珂郡鉄

肥前原村士族

肥田木 健雄

同県同郡臼杵郡延岡

菅宮村士族

杉山 準見

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長トナリ
官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ各除族ノ上
懲役一年申付ル

鹿兒島県薩摩国鹿兒

島郡樋ノ口士族武満

長男

有村 武五郎

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長心得トナリ
官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲
役一年申付ル

鹿兒島県鹿兒島

西山村士族

四本 幾

同県日向国児湯郡

高鍋村士族

浦常 太郎

同県鹿兒島曾牟山
村士族六郎三男

長崎 濱 義

同県大村郷薩士族

其左衛門長男

石神 平

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニテシ兵部ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長代理ト
ナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ各除族ノ上
懲役一年申付ル

鹿兒島第一大区

六小区士族

菊地 忠

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニテシ桐野利秋ノ指揮ヲ受ケ自家来八十
名並ニ農民ヲ募リ出兵セシムル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌
量シ除族ノ上懲役一年申付ル

鹿兒島縣松山郷

新橋村士族新右

衛門二男

永田 伊左衛門

同県谷山郷下福公村

士族源左衛門三男

佐藤 才之助

同県大隅国始羅郡

反土村士族万左衛

門養子

神田 宜 智

其方共儀西郷隆盛ノ逆意ニテシ兵部ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長トナリ官
兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役一年可申付処
初メ区戸長ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ懲役百日士族ナルニ各除族ヲ
申付ル

以下宣告書畧 但処断免罪

同回答書

当県士族伊東直記外三十一人御処断済ノ上宣告書互相添御通知ノ趣
致承知候此段御回答及候也

右懲役五年以上ノ者八原藩ヘ之ヲ揭示ス

第二課申付候事

全

全

全

第一課戸籍掛申付候事

第三課申付候事

当分官ノ城山張所詰申付候事

八等属	外島 麗 治
全	新倉 直 道
十等属	古川 一 雅
全	小川 力 松
等外二等	山崎 弘
十等属	中島 泰 雄
同	吉井 友 輔

十一月十四日晴 水曜日

乙第三十七号達書

各区戸長

本県士民旅行之儀ハ是迄戸長限間届米候処此際士族ニ限リ無願旅行
不相成候条必ス願書ニ通ヲ為差出方一過ヲ最寄警視署又ハ警視派出
所ヘ差出シ該所ノ検査印ヲ受ケ本人ヘ下付可致外一追ハ何月何日
何処警視署又ハ派出所ニ於テ検印済本人ヘ下付シタル旨ヲ朱書シ戸
長役所ニ留置キ毎一ヶ月分ヲ取進メ翌月五日限り当県本支庁出張所
之中ヘ可差出此段相達候事

官崎支庁ヨリ届書

当地懲役場鹿兒島警視支出張所ニ於テ相用度旨照会ニ付差支無之旨
御回答之趣本年十月廿一日御達ニ付所官員立会同日三十日引渡候
条此段及御届候也

十年十一月十二日

任一等属

御用掛 小野 修一郎

全	全	全	全	全	全	全	全	全	御用掛	元八等属	八等属	出仕 等外二等	六等属	三等属	全	全	全	全	全	全	全	全	同
本	浜	南	西	田	山	横	中	岸	安	西	森	草	鎌	相	飯	柴	坂	横	福	青	西	初	真
田	野		田	中	井	井	川	本	永	谷	川	野	田	田	率	田	本	川	永	久	原	田	田
玄	三	普	弥	緝	量	俊	春	俊	一	新	正	甚	定		礼	圭	清	源	信	紀	義		
安	平	資	学	瀬	平	介	雄	造	郎	作	良	七	衛	庵	良	三	彦	藏	治	秀	林	則	庵

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
伊地知 繚藏	城本 常彦	高村 文德	荒井 房吉	松村 誠	桑原 尚吾	鳥谷 文吾	片桐 重明	大河本 聰松	小林 廉三	吉田 宗城	難波 一	武部 元質	津田 文麗	福田 晉一	岡元 保馬	森晉 圭勇	梶玄 碩

十一月十五日

県令藤見島江出張越川重平随行

兼任内務八等属

郵便局事務取扱申付候事

但右内務省ヨリ御評合在成ル

雇中付一ヶ月金拾五円宛給与候事
第三課申付候事

当分金庫番申付候事

全

全

鹿兒島出張所詰申付候事

鹿兒島県八等属

外高郎治

岡山県士族

竹内 素

等外四等出仕

日高 善藏

全 高山 経武

全 大野 秋彦

鹿 竹内 廉

十一月十六日雨 金曜日

甲第六十号布達

去ル十月本庁甲第四十六号ヲ以テ各出張所々々替之儀及布達置候処
今般詮議之次第有之左之通更定候条此旨布達候事

吉田郷 鹿兒島出張所々々轄

伊集院郷 水引出張所々々轄

横川郷 菱刈出張所々々轄

敷板郷 本庁直轄

百引郷 水引出張所々々轄

十一月十七日晴 土曜日

内務卿へ上申書

当県下之儀ハ従前六百八十ノ学校ニ三万四千之生徒ヲ養ヒ其数則モ
追々文部省ノ正則ニ拠リ全体之学事漸ク旺盛ノ場合ニ相成候処今般
ノ専要ニ際シ校舍ノ兵火ニ罹リシ者其数尠カラス凡各校学資金ハ尽
ク賊徒ニ奪ヒ去ラレ夫等ノ為メ各校一旦都テ教場ヲ閉チ学事ノ頓断
実ニ極処ニ至リ候今般勸奨之術ヲ施シ漸々教育再起致度候得共学校

之状況ハ前文陳述候通ニシテ従前学費ノ儀モ鹿兒島市中ハ民寄附金
等ニテ支弁シ其他薩隅二国ノ鄉村ハ士族持高ヨリ取立候ハ升壹合米
ト唱ヘ候者ニテ学校諸費ニ充テ日向国ハ民寄等ニテ支給来候処何分
ニモ兵乱久敷打続キ民力ノ凋弊セシハ今更中立候迄モナク且ハ升壹
合米取立之儀ハ向後廃棄相成候ハ勿論之処ニテ学費課出ノ法端的迄
支如何トモ致方無之候間何卒格別之御詮議ヲ以テ今般限リ学資トシ
テ金五万円御下渡相成度左様ハ、従前之学校再興永続之法相立候而
己ナラス皆下一般教育普及之基相立候儀ニ付至急御開濟相成候様仕
度此段奉願也

明治十年九月廿七日

追テ本文五万円之儀ハ過越電報ヲ以テ中上候予定金百円之内ニ籠
リ居候此段御陳候也

指令

伺之趣難岡庄候事

文部大輔

明治十年十一月二日 山中不二

啓

乙第廿九号達書

区戸長

売買縁之儀ニ付先般大蔵省ヨリ官員派出調可相成旨本年八月当県乙
第十四号ヲ以テ相達置候処去ル九月一日県下再乱ニ付一旦引揚今般
再派出不ヨ当県官員俱ニ鹿兒島及ヒ各郷ニ就キ売買高取調可相成候
条最前達ノ通知心得此達到着ノ日ヨリ七日以内ニ一郷限リ取調其区
戸長詰所ニ取纏メ置キ可申且又家祿賞與トモ八年分ヨリ金祿改定相
場ヲ以テ大蔵省ヨリ下渡相成候得共旧令ノ都合ヲ以テ從前之進米額
之鑑下渡候趣ニ付テハ八九兩年トモ賣納格場達ニ低価ナルヲ以テ渡
不足ニ相成居候分渡方可相成候間是又原紙書式ニ倣ヒ一郷限リ其区
戸長詰所ニ取纏置可申此段相達候事

但本年八月乙第十四号布達懸機ノ為メ相達セサル郷モ有之候ハ、
更ニ可相渡候条其旨至急可申出申

別紙書ス

乙第三十号達書

区戸長

当県士族昨九年初秋所務米受取残余有之者ハ勘合之切符等相添受取方可由出官兼テ相達置追々取調済之分ヨリ下渡候処九月一日鹿兒島へ賊徒襲来ノ際簿面紛乱ニ付是迄渡方不成居候処此際調査中渡答ニ候条切符所持ノ者ハ願書並互相添来ル廿五日迄ニ可差出此旨相達候事

但九月一日以前願書差出居現金下渡不相成分ハ願書焼失之儀ト相心得更ニ願書切符等共可差出事

乙第三十一号達書

区戸長

管下旧鹿兒島藩元官等管内諸郡郡ヲ除ク士族平民戊辰之役出軍賞典禄下賜候者共廢藩置縣之際不蔵省へ届出之名簿廢藩等有之其後廢々追加之者モ不少候処当保旧官員收授ノ帳簿錯雜人員格高等大蔵省保存ノ帳簿ニ相違ノ儀モ相見へ取調方甚々不都合ニ付賞典禄下賜候者ハ勿論戦死人數祭典料并負傷者養祿下賜居向モ別紙用細書難形之通復除キ三十日間ニ取調可差出此旨相達候事

別紙略ス

乙第三十二号達書

薩隅兩国

正副戸長

從來各郷ニ設置有之候官有ノ建物 諸役所飯屋倉庫或ハ 別紙表面ニ照準 物品造所等ノ類 無遺漏取調至急可差出此旨相達候事

乙第三十三号達書

区戸長

與下人民中秩禄並新旧公債証書所持之庄ハ過般鹿兒島へ賊徒乱人之際元帳等紛乱候条有証書所持ノ者ハ利賦金下賜之都合モ有之金高種類番号記号枚数及印鑑共別紙難形ノ通相認メ為差出区戸長ニ於テ取調可中出尤本人事故有之委任ヲ受居候向ハ願書別紙難形之通為差

出前全縣区戸長ニ於テ取調メ其 支所 出振所 へ来ル三十日迄迄度差出可申 此旨相達候事

宮崎安行并各白張所へ達書

秩禄并新旧公債証書所持ノ証ヨリ金高種類番号枚数並印鑑差出方之儀ニ付別紙之通区戸長へ相達候ニ付来ル三十日迄ニ其 支所 出振所 へ取調メ速ニ本庁第六課へ可相廻万一等閑相成候テハ期日モ過キ人民迷惑ノ節ニ候条厚ク注意可致此旨相達候事

別紙同上

甲第六十五号布達

官布ニ属スル森林及道路並本社寺境内樹木等之儀ハ追々公達ノ趣モ有之相六 木タリトモ官許ヲ經スレテ張リニ伐深候儀決シテ不相成管ニ候処自然等閑ニ相心得典刑ニ般レ候者有之候テハ不相濟候条以後違無之様可致此旨更ニ布達候事

但旧県令大山彌良在職中既ニ許可之分タリ、雖トモ代価未納ノ分ハ本文ノ通相心得更ニ其理由可申出候事

甲申付月給三千円給与候事

本県士族 児玉 源之丞

第一課吏誌編輯掛申付候事

雇内付月給十五円給与候事

吉水 生一

第六課公債掛申付候事

吉水 生一

鹿兒島出張所詰申付候事

吉水 生一

依願御用掛差免候事

江間 三郎

十一月十八日雨 日曜日

十一月十九日晴 月曜日

駅通局長前島内務少輔ヨリ回答書

汽船高千穂丸船費之儀ニ付当是九月一日並同月廿八日ヲ以テ及御照会候処三菱会社へ下渡金三万三千九百円ハ予テ内務卿へ御下金之儀ニ付御伺ノ趣モ有之候ニ付御許可ノ上ハ直ニ当局へ回金之事ニ可相

成云々十月十二日付第百十七号ヲ以御回答之趣了承然ルニ高千穂丸航費並東京ニ於テ解貨費悉皆精算之上三万八千五百八十五円余ニ有之候ニ付其段ハ同月十七日付会社ヨリ差出榮精算書相添及御照会ノ次第且同日電報ヲ以金額ノ儀ハ申進候趣最前同社ヨリ差出候概算書三万三千六百円並解貨等二百余円トテ合候金額ト相違候ニ付云々電報ヲ以テ御中辨ニ付尚又電報ヲ以テ及御答置候通りノ儀ニテ最前会社ヨリ申立候三万三千六百円ハ高千穂丸航費概算ニシテ十七日付ヲ以中進候ハ同船御用解ノ上悉皆精算申出候事ニ有之就テハ内務卿へ御上申面三万三千六百円ニテ實際金額不足ヲ生シ不都合ニ付同御伺ハ御取消ノ上更ニ三万八千五百八十五円余ニ差合社へ御下渡シ相成候事ニ御取置有之度此段御回答申進候也

十年十一月九日

田中文部大輔へ上申書

明治六年中東京府華族島津忠義ヨリ賞典金五千石癸酉年ヨリ丁丑年迄五年間當崇下學寮トシテ寄附願之義御聞届相成候趣右癸酉年ヨリ丁丑年迄五年間寄附スルトハ壬申（明治十年）ノ分ヲ癸酉年（即明治九年）ノ寄附スルニ起リ丙子年（即明治九年）ノ分ヲ丁丑年（即明治十年）ニ寄附スルニ終ル儀ニ候哉又ハ癸酉年ノ分ヨリ丁丑年迄ノ分ヲ寄附スル儀ニ候哉其境界井然致知度候至急御示シ相成度此段相伺候也

明治十年十月七三日

指令

何之趣島津忠義賞典銀五万石學寮トシテ寄附候忠義最前願出之書面上癸酉年ヨリ丁丑年迄凡五ヶ年間寄附スルトアリ書面外之事情當省ニ於テ難相分候事

明治十年十一月九日

川谷海軍大輔へ上申書

當県ヨリ服役致居候御省軍人軍属之丙這回之役戦死或ハ負傷之后死没之者御筋ヨリ報告相成候ニ付遺族扶助金之義御成規ニ拠リ可伺立ハ勿論ニ候趣今般兵難ニ罹リ家累焼燼或ハ数旬之間兵乱ヲ避ル等失

率ニ及ヒ候者共往々渡方願出事実惻然之至ニ付何分日下ノ急御規則實踐難致候ニ付御省退隱令第三十四条ニ拠リ其本人死亡シタル時之官等ニ準シ其額妻へハ年俸金額孤兒ニハ其人数ヲ問ハス年俸三分ノ一不取敢給手當一時操營相渡シ又父母幼少ノ弟妹ノミニテ養育致候親類無之者ハ是又詮議ヲ遂ケ手當金ヲ給シ軍属之儀モ其原由ニ拠立人同様給与可然哉此段相伺候事至急何分御指揮相成度候也

明治十年八月廿日

指令

何之趣本年當省乙第九号達之通知分可致候事

明治十年十一月九日

実父病氣ニ付帰省

病没

十等属 松井堂介
八等属 石川辰一郎

右ハ加治木富居桑畑某方ニ於テ病没而所木田村田長年寺ニ埋葬ス

雇申付一ケル金五式に給与候支

大阪府属 関 正秀

第三號中付候支

九等属 黒田男七

依願免本官

十一月廿日附 火曜日

内務卿ヨリ電報

尸主之賊徒ニ与シタル家族へ兵火ニ付良民一樣救助之儀ハ難聞届

十一月廿日

大藏卿へ電報

当県士族十年相當家禄賞典禄ハ公債利子之内当半期十一月渡シノ分八部進リ相渡度未タ金禄取調済ニ至ラサルザルトモ兵乱後格別困難ノ場合ナルヲ以テ御聞届裁下度且前県令專断ニ而渡置シ分ハ帳簿宛矣ニテ未タ調へ付候故還而下渡スベキ利子ニテ引去リ候積リニ付尚別ニ上申致スベク付テハ租税金未タ取立不相成故此節で渡利子該計五拾万円長崎山納付ヨリ御下渡相成度此段御省官員へモ協議ノ上上申ス至急御指揮ヲ待ツ

徳大寺宮内卿へ上申

先般此県官員一同へ為御慰勞酒肴科下賜候ニ付金口操替相渡候分更ニ受取方上申候延右金高之内大蔵二等属金田清風外七名へ被下候分ハ林内務少輔九州出張中何人へ御回金之上被下方御依頼相成候ニ付上申之金高七百円之内大蔵省出張官員へ被下候分式拾円相除キ差引金六百八十七円御回金相成既ニ受取証差出候處当県第四課之儀ハ本年七月中閉止致シ左事務東京警視出張所へ引渡候ニ付同所警部並巡査等へ被下方之儀過般上申候本年九月十日付ヲ以テ御省大書記官ヨリ被下出張ノ警部巡査へハ是迄參官本官ヨリ操替相渡候者ニテ御慰問勸慰差遣都度ニ候依頼及ヒ置候得共当県出張之分ハ警視ノ常務ニ服シ候分ニ可有之然レハ未タ被下方不相濟ト存候ニ付於当県取調ノ上渡方取計済済可申出旨御申越相成候ニ付警視出張所へ照会ニ及ヒ篤ト取調候處同知警視巡査等ノ分ハ常務之者ニテ未タ不相濟罷在候由則判任等外共同所立ノ人員ニ拠リ合金千八百五十五円五拾錢操替相渡候處別紙之通受取証回送相成候ニ付右金千八百五十五円五拾錢更ニ御下金相成度此段上申候也

別紙

証

一金千八百五拾五円五拾錢

但先般宮内省ヨリ詰合判任等外共御慰勞金總計高

右正ニ領取候也

明治十年十一月二日

鹿児島警視出張所

鹿児島県

御中

鹿児島警視局へ電報

明朝快順丸鹿児島島へ向ケ出帆廿日長崎へ向ケ技錨致ス積リニ付囚人送方御手配リ本度シ尤船賃ハ鹿児島島出張所へ御差出アレ

十一月十八日

汽船快順丸へ達書

本日鹿児島島へ向ケ出帆同所於テ警視局囚人乗組之上長崎ヲ経テ大阪

へ向ケ航海中付候条同所出所当県官員ノ指揮ヲ受木材等積込直ニ帰県可致事

県令鹿児島島ヨリ送付

鹿児島出張所詰申付候事

依願免本官

十等属 正 孝
八等属 清 阿 健 八

十一月廿一日晴 水曜日

大蔵卿ヨリ電報

和歌浦高千穂ノ兩船ニテ回漕米ノ内各所へ陸揚ノ分ハ札込ノ儀ハ辨宜ニ任ス然レモ米代ハ先般出納局ヨリ報知セシ相場ニテ既ニ買取タル者ニシテ惣代金額ヲ納ムベシ此相場、實際売込ノ相場ト違アンハ其違文ケ金額及ヒ藏敷共非常臨時費ニテ仕松ベシ委細ハ郵便ニテ達ス

県令薩摩各縣巡用ニ付
隨行申付候事

同	一等属	田 辺 輝 実
同	二等属	丹 羽 照 陽
同	三等属	青 江 秀
同	雇	越 川 重 平
同	十等属	堀 興 憲
同	雇	竹 迫 弥 一
同	八等属	角 田 高 保
同	十等属	山 口 伸 賢

十一月廿二日晴 木曜日

前島縣捕局長ヨリ電報

二年元ヲ御県ノ用船トナシ出帆ヲ命シ快順丸ト大阪ニテ交換ノ積リ

十一月廿一日

同回報

千年丸ト快順丸ト大阪ニテ交換ノ旨承知セリ同地ヨリ仮県庁切組材
木等積取等ニ付尚急キ御廻シテ請フ

泉令薩隅巡回ニ付隨行申付候事

同

御用都合有之帰庁中付候事

三等属 坂本 清彦
等外四等 村山 彦兵衛
厘 黒山 彦右衛門

十一月廿三日晴 金曜日

与倉出納局長へ電裁

和歌浦高千穂両船ヲ以テ御渡シ相成シ米御局御調ノ左数并代価什訳
参照ノ為御中越テ請フ

雇市付一ヶ月金貳拾四圓給与候事
第三課申付候事

福島県士族局 場 兼

雇申付一ヶ月金拾貳圓給与候事
第六課申付候事

十一月廿四日晴 土曜日

大蔵卿ヨリ電報

旧鹿児島藩金禄公債利金ノ内五拾万円外ニ佐土原藩ノ分五万九百貳
円下渡ス此現金ハ米ル廿七日東京出帆ノ飛脚船ニテ長岡田納局へ廻
ス所ヨリ通知次第受取人差出スベシ渡シ切符ハ駅通局ヲ経テ廻ス

十一月廿四日

大蔵卿ヨリ達書

鹿児島県

其際大島外四島支庁經費流用ノ儀客歲十一月廿七日第一万三千三十二
号及指令候延判任等外 仕丁ハ 月給ハ別紙之通本庁俸給へ移シ該料日
ヨリ各支庁ノ分仕可申中此旨相達候事

明治十年十月廿四日

別紙

定額常費ノ部

鹿児島県

大島支庁

一金貳千四百四拾八円

内訳

金貳千貳百八円

金貳百四拾円

外

金百九拾貳円

岩界島支庁

一金千四拾四円

内訳

金九百貳拾四円

金百貳拾円

外

金百九拾貳円

徳之島支庁

一金千四拾四円

内訳

金九百貳拾四円

金百貳拾円

外

金百九拾貳円

沖永良部庁

一金千四拾四円

内訳

金九百貳拾四円

金百貳拾円

外

金百九拾貳円

俸 給

判任月給

等外月給

九年十一月廿
七日指令ノ通

俸 給

判任月給

等外月給

九年十一月廿
七日指令ノ通

俸 給

判任月給

等外月給

九年十一月廿
七日指令ノ通

俸 給

判任月給

等外月給

九年十一月廿
七日指令ノ通

与論島支庁

一金千四拾四円

俸 給

内訳

金九百廿四円

判任月給

金百貳拾円

等外月給

外

金九十六円

九年十一月廿七日指令ノ通

同達書

九年度経費額外費度量衡諸費トシテ金三千六百三十六円及増額候条或規ニ随請取方可申出此旨相達候事

但費目ノ儉ハ当省九年乙第九十号達ニ照準区分可致事

明治十年十月廿四日

出張所へ達書

飯肥出張所

一金貳百三拾四円八拾四錢七厘

外

金四拾八円

旅費等充テ用意金

右其出張所一ヶ月費額予定之上相渡候条精々節略ヲ要シ超過セサル様仕払一ヶ月限り取廻メ精算帳ヲ製シ翌月五日限り本庁第六課へ可差出候事

但官員月給及庁中買上用品之類ハ本庁ヨリ運送ス尤運搬不便ノ場所ニ限り月俸ヲ除クノ外此限ニ非ス

同

那之城出張所

一金三百貳拾七円拾四錢七厘

外

金八拾円

旅費等へ充テ用意金

右其出張所一ヶ月費額予定之上相渡候条精々節略ヲ要シ超過セサル様仕払一ヶ月限り取廻メ精算帳ヲ製シ翌月五日限り本庁第六課へ可差出候事

但官員月給及庁中買上用品ノ類ハ本庁ヨリ運送ス尤運搬不便ノ場所ニ限り月俸ヲ除クノ外此限ニ非ス

同

延岡出張所

一金三百貳拾七円拾四錢七厘

外

金八拾円

旅費等へ充テ用意金

右其出張所一ヶ月費額予定之上相渡候条精々節略ヲ要シ超過セサル様仕払一ヶ月限り取廻メ精算帳ヲ製シ翌月五日限り本庁第六課へ可差出候事

但官員月給及庁中買上用品ノ類ハ本庁ヨリ運送ス尤運搬不便ノ場所ニ限り月俸ヲ除クノ外此限ニ非ス

内務府へ上申書

小官儀今般薩隔西国巡回致候ニ付不在中大書記官渡辺千秋へ代理為致候条此段御届仕候也

甲第六十四号布達

拙者儀今般薩隔西国巡回ニ付不在中大書記官渡辺千秋代理候条此旨布達候事

御用部合有之掃庁中付候事

全 雇

坂本八郎左衛門

十一月廿五日時 日曜日

果令薩隔西国巡回随行官員ト本日出发

十一月十六日雨 月曜日

大藏卿へ電報

当県上族十年相当金銀公債利金合計五十五万九千五百圓余御下渡御指
令ニ付去廿一日付ヲ以上中ノ通末夕金銀取調済ニ至ラサレモ兵乱
後格別ノ困難サルヲ以此節ヨリ入部通リ可相渡ル前県令專断ニテ渡
シ置キシ分ハ帳簿兵燹ニ罹リ未タ調付候故追テ可相渡利子ニテ引
去リ候積ニ付御指令書ニ金額御下渡シノ廉ノミニ付尚為念此段申上
置ク

土木掛申付候事

三等属	新嶋 善之
六等属	牛奥 昌
七等属	島田 徳治
全	中村 政綱
全	沼尻 政太郎
全	小村 庄太郎
全	大貫 定清
九等属	渡辺 忠一
十等属	村田 喜八郎
等外二	松田 庵
等外一	長命 房吉
全	関 正秀
全	五代 助五郎
全	草野 甚七
全	田中 万左衛門
全	和田 直石衛門
四等属	福島 哲三
九等属	有馬 純直
十等属	小林 広重
全	津田 古介
等外三	東郷 栄之助
等外二	馬場 兼
全	

雑税掛申付候事

正租掛申付候事

全	加納 源之丞
全	伊地知 筑兵衛
全	鎌田 長左衛門
全	川井 朱厚
四等属	福井 仁篤
七等属	中島 桂之助
八等属	齊藤 助作
九等属	米山 信久
全	池田 徳久
十等属	佐土原 祐知
全	塩山 直行
全	北村 元広
全	安井 義教
六等属	福井 忠利
七等属	飯本 礼俊
全	大石 卓郎
八等属	平馬 定重
全	大野 親温
九等属	榎本 義泰
十等属	赤堀 廉蔵
全	後藤 基
全	染川 喜兵衛
等外一等	池田 鎭三郎
全二等	伊藤 喜之助
全三等	山内 松太郎
全	竹内 廉
全	山田 有庸
全	早田 万蔵

鹿兒島出張所詰申付候事

全	谷村	十右衛門
全	南郷	八郎次
全	内田	良助
全	園田	七兵衛
全	渡江	彦二
全	吉井	仲主
等外二等	山世	

十一月廿七日晴 火曜日

乙第三十九号違書

府県

客歳十月熊本県下騒擾ノ際及ヒ本年九州地方賊徒征討之役戦死或ハ傷損ニ原因シテ死ニ至ル軍人之寡婦孤児ハ恩給令ニ因リ扶助料可下賜ノ処特別ヲ以テ右死没報告其所管ヘ相達候日ヨリ並定ニ至ル迄寡婦孤児ノ内ヘ于当金可与旨本年丁第四百十九号大阪事務島屋中將達及ヒ日第廿七号ヲ以テ相達候処今般既ニ平定ニ至リ候ニ付テハ手当金給与可相止管之処右ハ追テ扶助料下賜候迄従前之通給与該候条軍人軍属之遺族ヘ無漏漏可相達此段更ニ相達候事

但扶助料可ノ口ニ至リ右手当金差引精算候支

陸軍卿山県右朋代理

陸軍中將西郷従道

右ノ通り陸軍省ヨリ被達候ニ付追テ規則實踐扶助料下賜候迄従前之通毎日手当金給与候条此旨軍人軍属之遺族ヘ無漏漏可相達此段相達候事

鹿兒島出張所詰申付候事

当分鹿兒島飯師範学校在勤

申付一ヶ月金拾二円給与候事

当分鹿兒島師範学校生徒掛

申付一ヶ月金六円給与候事

十一月廿八日晴 水曜日

内務卿ヨリ達書

鹿兒島県

其県下官林手入伐木並苗木植付等ニ付当省八等属嶺山計人九等属山本等造派出為致候条諸支交無之様協議可取計此旨相達候事

明治十年十月九日

宮崎支庁ヘ達書

別紙等之通内務卿ヨリ御達有之該官員本日其支庁ヘ出発致候条諸事不都合無之様可取計此旨相達候事

十年十月

別紙同上

川村海軍大輔ヨリ達書

当県九等属遠藤直方並造船職工等去ル七月中其県下造船所取纏メノ為メ出張為致候條如九月一日賊徒突入以來行衛不相分或ハ右乱入ノ御賊徒ノ為メ遭殺害候哉ノ嫌疑モ有之候得共是以確報モ無之就テハ右搜索方兼テ警視局ヘモ及依頼置候得共尚於其県モ精々搜索踪跡相分候半ハ速ニ可申此旨相達候也

明治十年川日

同回答

御省九等属遠藤直方並造船職工等去ル七月中当県下造船所取纏メノ為出張相成居処九月一日賊徒鹿兒島ヘ乱入以來行衛不相分ニ付右搜索方御達ノ誠敬敬承則チ当県ニ於テ種々取調候得共相分不付ニ付尚警視出張所ヘ照会ニ及候処同所ニ於テモ踪跡不相分趣別紙之通回答相成候ニ付左様御承知有之度此段及御回答候也

日口第七号布達

密売淫並賣座並娼妓等渡世之儀ハ兼テ不相成管ニ候処騒擾後等聞ニ相心得類似ノ所業候者有之趣相聞得ヘ不埒ノ事ニ候向後右等之所業於有之ハ左之訓則ニ依リ処分候条此旨布達候事

但旧宮崎県ニ於テ差許候貸座並娼妓渡世ノ者ハ兼テ相達置候規則堅ク相守リ營業可致事

密売罰則

第一条

凡ノ売淫ヲ為シ及ヒ媒合客止スル者初犯ハ十円以内再犯以上ハ二十円以内窩主初犯ハ拾五円以内再犯以上ハ三拾円以内ノ罰金ヲ科ス但シ父母等ノ指令ヲナス者ハ其罰ヲ指令者ニ科ス

第二条

若シ無力ニシテ罰金ヲ徴収ス可ラサル売淫者及ヒ媒合客止初犯ハ二ヶ月半以内再犯以上ハ五ヶ月以内窩主初犯ハ三ヶ月以内再犯以上ハ六ヶ月以内苦使ニ処ス

第三条

売淫ニ類スル猥褻ノ現跡ヲ認ムル三度ニ至ル者此規則ニ照シ処分スベシ

第四条

売淫ノ罰ヲ受シ者貧窮ニシテ自存スル能ハサルトキハ之ヲ教育シテ工芸ヲ授クベシ其工事ニ習熟シ又ハ工銭ノ貯蓄ヲ得就産之目途アルカ或ハ人ニ嫁スル等之類ハ親戚又ハ地主差配人等身元擔ナル者ノ保証ヲ以テ之ヲ下付スベシ

第五条

右之者再犯ヲナストキハ保証人ヨリ五円以内ノ罰金ヲ科ス

第六条

寄留ノ者売淫ノ罰ニ処セシトキハ其親戚又ハ雇主受人或ハ正副戸長等へ責付シ本籍へ送還セシムル事アルベシ

第七条

右ノ罰金ハ絶テ教育等ノ費用ニ充ツベシ

内務卿へ上申書

当県下賣淫取締方法別冊之通相定候間此段及御届候也

別冊如前

長崎九州臨時裁判所ヨリ通知書

鹿児島県十旗横山矢次郎本日別紙宣告書寫之通及処断候条比段及御

遅知候也

十年十一月十七日

別紙

鹿児島県第十大区

小區永吉郷釐士族

半左衛門長男

横山 矢次郎

其方儀西郷隆盛ノ逆黨ニ与シ官兵ニ抵抗スル先非ヲ僥倖シ自首スルヲ以テ自宅謹慎中付置候処隆盛等再ヒ鹿児島ニ襲来之際其本營ノ機文ニ応シ兵器ヲ携ヘ伊集院郷清藤村迄出兵スル科ニ依リ懲役三年可中付処置狀ヲ酌量シ陰謀ノ上懲役二年申付ル

明治十年十一月十七日

依願御用掛差免候事

御用掛 鳥谷 文 吾
全 岡 元 保 馬

十一月廿九日晴 木曜日

遠藤大蔵大書記官ヨリ掛合書

御県口令書記官ヨリ兼テ差出有之願何之分ハ退テ遠官ヨリ指令ノ儀御用開申有之迄其儀罷置相成度旨過ル四月十三日付ヲ以テ内蔵兩郷へ御申立有之候処右旧官ヨリ何出之分ニテモ追々取調之上計算上不都合無之分ハ指令不相成候テハ勘定組收受方之照へ対シ差支候筋モ有之且日下当省派出之官員於貴庁旧事務調査之都合ニモ相涉候間右様ノ類ハ不慮指令有之度依テ及御照会候也

明治十年十月廿日

追テ当省派出ノ官員於テモ本文之趣承知罷在ニ付尚御打合せ有之度候也

同回答書

当県口令書記官ヨリ兼テ差出有之願何之分ハ小官ヨリ開申候迄ハ其儀罷置相成度旨過ル四月中内務大蔵兩郷へ上申致置候処勘定組收受方ノ兼差支有之且御省官員於当庁旧事務調査之都合ニモ相涉リ候ニ

付右様ノ願ハ不聞御指令相成候段本知可致旨御照会之趣了承既ニ御
省官員着景旧事務調査和成居候ニ付都テ差支之儀無之候間御指令相
成候様致度此段及御回答候也

明治十年十一月十六日

内務卿へ上申書

当県下水車組織機械之儀ハ兼テ上申仕置候通ニテ示来益盛業ニ趣キ
從テ職工等逐月習熟致シ候ニ付進後米為對獎
右皇后へ献上仕度含ヲ以テ今般更ニ一層ノ精心ヲ籠メ別紙日録ノ反
物凡十五日間ヲ以テ爲織立差山中候間何卒進献相成候様仕度然ル上ハ
特ニ組織之業而己ニ無之后来勸産獎勵ノ補益モ不尠儀ニ付前件ノ趣
御酌量可然御処置被成下度依之反物相添此段上申仕候也

明治九年九月十八日

指令

應児島県令大山綱良

書面中立之通献納御聞証和成候条此旨本人へ可相達事

明治九年十月十六日

大藏卿へ上申書

旧宮崎県下官國幣社定額常費金御下渡之義上申

記

金三千五百六拾三円

決定高

一金九拾門八錢貳厘

九年自七月至九月三ヶ月旧宮崎県下官
國幣社定額常費

外

金八百円

請取済

右者本年御省第八号御達ニ因リ一屆歳経費決定高四分シタルトキハ
六拾六錢八厘減額之姿ニ候得共縣ニ付テハ現在仕置高書前之通有
之候間本行金額御下渡有之虞則別紙仕置書相添此段上申候也

明治十年二月十五日

應児島県令大山綱良

指令

上申之趣聞届候条金九拾門八錢二厘官國幣社定額常費トシテ可下

渡候支

明治十年十月廿四日

大藏卿へ上申書

旧宮崎県定額常費金御下渡之義上申

記

金五万六千六百六拾五錢

決定高

一金貳千八百八拾六円拾八錢

九年自七月九月迄三ヶ月旧宮崎県定
額常費

外

金壹万四千円

請取済

金百五拾八円貳拾五錢

御指令済ニテ未タ不請取

右者本年御省第八号御達ニ因リ一屆歳決定額四分シタルトキハ四
五百拾七円七拾六錢七厘増費ノ姿ニ候得共縣ニ付テハ官員備年賜
金共他一時費額相寄書面之通實際仕置候間本行金額御下渡有之度則
別紙仕置書相添此段上申候也

明治十年二月十五日

應児島県令大山綱良

指令

上申之趣聞届候条金貳千八百八拾六円拾八錢定額常費トシテ可下

渡候事

明治十年十月廿四日

同上申書

旧宮崎県額外常費金昨九年七月ヨリ九月迄之分算請取額之内ヲ以
實際仕置タルニ度量衡諸費不足相半然処應県ニ付テハ年末ヲ不俟御
勘定結末ニ付外科日有余之金額ヨリ流用支弁致シ候旨此段御聞届相
成渡則別紙仕置書相添上申候也

明治十年二月十五日

應児島県令大山綱良

指令

上申之趣聞届候事

明治十年十一月六日

受付掛申付候事

二等屬

堀

奥 憲

雇中付月給七円給与候吏

本県士族 有川 弥四郎

十一月二十日 金曜日

陸軍卿へ上申書

本年丁酉四百十九号御省大坂支所島屋中將達戦死者遺族へ手当金給与之儀死没報告其所管ニ相違候口ヒリ平定ニ至迄給与云々ト有之然レハ第六十八号公布之通リ九月廿四日以テ平定ト見認メ同月ヲ限リ下渡スヘキ平又ハ追テ御達有之恩給令案賤相成候迄ハ引續キ給与取計可申候至急何分之御指揮有之度此段相伺候也

明治十年十月十七日

指令

伺之趣本年当省達甲第三十七号之通可心得事

明治十年十一月十七日

屯在兵参謀部ヨリ掛合書

今般口私學校境内へ仮兵營建築之処場所狭小ニテ同所上植物官有地之内九百〇八坪五合先般御掛合之上借用致候処屋舎配置之都合ニ依リ不用ニ属シ候間該所及返却候条図面並借用記書共御返却相成候様致度此段及御照会候也

十一月三十日

同回答書

私学校植物官有地之内九百八坪五合御貸渡申置候処屋舎配置之都合ニ依リ不用ニ付御返却之儀云云御照会之趣了承知図面並記書共及御返却候条御落着有之度此段及御回答候也

宮崎支庁ヨリ電報

検見坂仕出シ調済ニ付仕出ノミ可送致主務之官員ニ為持可送ヤ御答ヲ俟ソ尤モ玄米ハ各種ニテ貳万石余ナリ

大蔵省出張官員ヨリ掛合書

九年度租税調査トシテ滝沢尚弘外一名種子島へ出張候処于今吸果不致右ハ冬季ニ至候得ハ司局ヨリ風順悪シク日本船ニテハ渡海六ヶ敷趣ニ有之候間燕汽船御遣シ有之候様仕度此段及御掛合候也

明治十年十一月三十日

大島ヨリ出京

喜界島ヨリ山県

徳之島ヨリ出京

鹿兒島出張所詰中付候事

全

全

全

依願御用掛着免候事

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

三等属

司

同

六等属

同

同

九等属

御用掛医

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

柳原義則

横川源蔵

仁田登平

丹下量平

友野長祥

山田有庸

森田一平

西谷新作

安原一郎

岸本俊造

横井俊助

武部元禎

津田文麗

福井晋一

山井量平

森井主三

森井主三

島安碩

本安碩

本安碩

南野普安

浜野普安

西田弥平

明治十年十二月分

鹿児島県日誌

第八

十二月一日 土曜日
地租改正事務局へ電報

当県下市街沽券税ノ儀又夕部一税ノ儀ナリ右ハ地租改正迄ハ据置キ
ノ積リ當テ大山県令ヨリ何濟ノ儀歟又ハ部三税ニ改正スベキ筈ヲ其
儘差置キタル儀歟書類焼失ニ付此段例ニ及ブ至急御指揮ヲ待ツ

十一月卅日
同回報

其県市街地租ノ事先官ヨリ何モ伺ヒシ事ナシ

十二月 日

丙第廿五号布達

明治九年八月五日第百八号公布ヲ以テ家禄賞典禄ノ制限ヲ改メラレ
金禄公債証書ヲ以テ一時ニ下賜候ニ付テハ右発行条例第二条ニ照ラ
シ本年一月ヨリ六月迄ノ利子ハ此処ニテ可相渡成規ニ有之然ルニ就
果令專断ヲ以テ一月以降正米等ニテ内渡取計候分モ有之甚以テ不都
合ノ儀ニ付断然前渡ノ分ハ去リ残余ノ分ノミ可相渡等之処管下兵
乱ノ後ニテ士民頗ル困弊之趣ニモ相聞候ニ付格別之訳ヲ以テ當十一
月渡シ相当利子額ノ凡八分通速ニ可相渡候条別紙離形之通書面相認
メ各郷ハ米ル十五日迄鹿児島三大区ハ同廿五日迄ニ各区事務所へ諸
取方可申出此段薩隅兩國有教士民へ布達候事

但本年一月以降旧令專断ヲ以テ渡越之米額ハ前テ上納之儀相達候
条此旨為心得添テ相達候事

乙第四十号達書

管下士族並平民ニテ有縁之者ハ本年 月ヨリ六月迄金禄公債証書利
子額凡八分通速ニ付丙第二十五号ヲ以テ相達候通各郷ハ米ル
十二月十五日迄鹿児島三大区ハ同廿五日迄ニ各区事務所ノ書面可
差出布達及置候間篤ト事實取証之上書類取纏メ各郷ハ本庁へ鹿児島
三大区ハ同出張所へ区戸長及各區利子請取人總代トシテ五人ヨリ少
ナカラス出頭可致此段薩隅兩國之区戸長へ相達候事

但請取方之儀ハ甲号離形ノ如ク申出乙号ノ如ク總代人及区戸長ノ
奥印ヲ以テ仮証書差出當歸郷之上其本人へ直ニ相渡シ丙号ノ通り
銘々ヨリ

更ニ証書為出上ニ問ニ悉皆取纏メ本庁第六課へ申出仮証書ト交換
可致事

別紙皆署ス

鹿児島出張所詰申付候事

等外三等 東郷 米之助

臨時病院加治木出張所

内務省御用掛

詰中村候事

久米 絶精

依頼御用掛差免候事

御用掛医員 松村 誠

十二月二日 土曜日

大蔵卿へ上申書

非常臨時費遺私目区分之儀ニ付本年七月十日附ヲ以御省並内務卿へ
相伺候御省ヨリ平定迄諸費額之内官員月給史誌編輯費招魂社費ノ
外警察馬スル費用トシテ年度ヲ分界シ勘定別仕上可取計旨御指令有
之然ルニ管下全平定相成候得共方今仕松等ハ渾テ臨時ノ費用ニ属ス
ル儀ニ付追テ常務ニ復スル迄ハ右御指令ニ基キ勘定別仕上可取計
条此旨為念御届上置候也

明治十年十月廿日

指令

届出之趣ハ本年第七十六号公達之旨モ有之候ニ付十一月以降征討
費ニ不属分ハ總テ通常之通り区分シ勘定仕上可取計事

明治十年十一月十五日

十二月三日 月曜日

甲第六十六号布達

管下鹿児島郡之城阿所ニ今般区裁判所設置来ル十日開庁事務取扱候条
裁判所長判事官云忠ヨリ別紙ニ通達越候間為心得此布達候事

別紙

日向国第五大区部之城ニ区裁判所設置来ル十日開庁事務取扱候条
左之大区中人氏へ係ル民事ハ金高百円以下刑事懲役百日以下裁押致

シ勸解ハ金高等ニ不係惣テ同所ヘ可願出訴状其他宛名之儀ハ部之域
区裁判所長判事補窪田盛明宛ニテ可差出申

第百三大区 第百四大区 第百五大区 第百六大区
第百七六区 第百九六区

以上六大区

麻児島裁判所長

明治十年十二月三日

判事策 元忠

今般鹿児島区裁判所設置米ル十日ヨリ般鹿児島裁判所内ニ於テ事務取
扱候条薩摩大隅兩國ノ人民ヘ係ル民事ハ金高拾円以下刑事ハ廿日以
下裁判シ勸解ハ金高等ニ不係惣テ同所ヘ可願出訴状等宛名之儀ハ鹿
児島区裁判所長三塚吉康宛ニテ可差出申

明治十年十二月三日

出納局与介守人駕報

高千穂丸ニテ積送リタル米ノ内積戻タル米高ヲ引去リ全ク御果ヘ克
渡シタル米高ハ当地ニテ積込タル玄米三千七百石ハ九門九千錢白米
一貳百十三石七斗五升五合ハ七円六錢下裏ヨリ積入タル玄米ハ貳千
八百五十三石八斗八合五円廿五錢ナリ委細ハ郵便

十二月三日

宮崎出張申付候事

寄外四等 富山 国 彦
出仕

全 同一等 小 田 為 政
出仕

十二月四日晴 火曜日

宮崎支庁長小野修一郎ヨリ進達書

疊ニ電報ヲ以御達相成候由延調藩士族金禄公債軒書本年分利子額續
別紙之通旧県調金禄帳ニ基キ渡總額概算取調候ニ付進達ニ及ヒ候也

十年十一月三十日

追テ延岡士族利子額之儀兼テモ上申致シ候通事実切迫ニ付至急御
指揮有之度此段モ中上置候也

旧延岡藩士族金禄利息調

金禄公債証書高四拾壹万千百拾円

外金貳千百拾八円五拾錢五厘

五円未満一
時現金渡

十年分七分

利息金貳万八千七百七拾七円七拾錢

内金壹万四千三百八十八円八十五錢 十年十一月渡

金壹万四千三百八十八円八十五錢 十一年五月渡

内訳

十一年半分

証書標券高拾壹万五千九百七十円

外金四百五拾九円三拾八錢九厘

十二分

証書標券高拾万三千貳百五十円

外金三百六十円十二錢八厘

十二年半

証書標券高四万四千七百二十円

外金貳百十五円四十錢

十三年

証書標券高三万五千八百七十円

外金百八拾九円十六錢六厘

十四年

証書標券高四万九千四百二十五円

外金四百三十五円四十二錢八厘

終身株

証書標券高壹万五千五百十五円

外金百四十五円五十六錢

右之通ニ候也

同庁ヨリ電報

先月三十日付ヲ以テ延岡士族金禄利子調書進達セシ処事情切迫ノ儀
故至急何分ノ御指揮アリタシ

十二月三日

同回報

延岡士族金禄利子請取方ノ儀承知セリ右ハ昨三日其支戸防ノ分悉皆
五万九百二円余差送レリ因テ延岡士族事情ニムヲ得サレハ十一月相
當ノ五部通先以テ渡シ方取計其餘三藩及ヒ諸果上族ノ分ハ金禄帳致
達ノ上渡方取計ヘシ

神奈川與御用場

任四等屬第三課
正程掛申付候事

速 藤 為 徳

屏中付一ヶ月金十円給与
第三課土木係申付候事

吉 宮 直 武

届申付一ヶ月金八円給与
第三課土木係申付候事

上 原 仲 左 衛 門

十二月五日晴 水曜日

内務卿ヨリ達書

鹿児島県

其某士族長崎用藏所有汽船華勢丸本年七月申長果使用ニ振向候ニ付
示後同給ニ係ル航費ハ其果臨時費之内ヨリ可支松等ニ有之候然ルニ
今般前同人ヨリ当省及其果使用中ノ分共取束別紙之通受取方照出候
ニ付テハ当省ニ係ル航費ハ別ニ取調直ニ本人ヘ可下渡候間其果使用
中ノ航費ハ其果ヘ直ニ受取方可由出旨本人ヘ相達候条其旨相心得下
渡方可取計依之別紙相付此旨相達候事

明治十年十一月一日

大蔵卿ヨリ達書

鹿児島県

本月九日電信ヲ以テ何出候和歌高千穂之両縣ヲ以及口漕候米穀之
内各所ヘ陸揚ノ分売却ノ儀ハ本日其果之便宜ニ任セ候旨電信ヲ以相
達候通リ相心得矣然売却代ト還出候局長ヨリ及通達候相場ト差違
ヲ生シ不足之節ハ其不足金ヲ非常臨時費ノ内ヨリ支松右ヲ以テ売却
代ト併テ出納局ヘ米代額上納可致ハ藏敷料ノ義モ非常臨時費ニテ可
任松義ト可相心得此旨相達候事

但出納局長ヨリ及通達候相場ヨリ實際売却代高価ナルトキハ其差

益金上納方之義ハ別段可相出申

明治十年十一月十一日

同達書

鹿児島県

金禄公債計書利子金之儀ハ本日以来可取立金員之内ヨリ預ケ金之順
序ヲ経可相渡管ノ処交付ノ期限ハ迫致シ右順序ヲ経過致居候而ハ不
都合ニ候間当十一月分ノ利子ニ限リ取立金有之次第右ノ内ヨリ仮ニ
仕松後日右順序ヲ経テ受取方取金可致此旨相達候事
但取立金之都合ニ寄幾分敷現金ヲ要需致候義モ与之候ハ、早々取
調可申立候事

明治十年十月廿三日

長崎県ヨリ回答書

御管内種子島島嶼へ十月廿五日漂到朝鮮人三十三名一等巡査有村武
昌外二名兼送御照会之趣了之候候則當廿一日夜到着候ニ付該民共受
取之候此段及御回答候也

明治十年十一月六日

鹿児島県出張所官員ヨリ電報

警視出張所ヨリ長崎裁判ヘ護送スベキ囚人凡ソ百五十名程之千年
丸長崎ヘ帰港ノ相談アリ外ニ近々便船無之無余義次第ニ付相談ニ応
シ可然哉

同回報

警視出張所ヨリ長崎ヘ護送スベキ囚人百五十名程千年丸乗込度云々
ノ儀差聞ナシ右ハ該船出航之義ハ至急ヲ要スル儀ニ付暮々急キ乗込
様ノ御掛合有度シ

甲第六十七号布達

熊本県第十二大区八小区河俣村ニ於テ牛疫流行十一月四日ヨリ迄七
頭相斃レ尚蔓延ノ形勢有之趣通知有之候ニ付當管下ニ於テモ右等ノ
伝染病ニ罹ル牛畜有之節ハ昨九年丙寅省乙第廿四号牛疫予防法ニ照
シ処分致シ候ハ、速ニ可届出此旨相達候事
鹿児島出張所詰申付候事 三等属 新島 善 之

全 四等民 櫻島 哲三
全 辰 吉宮 直武
全 上原 伸左衛門

十二月六日雨 六曜日

甲第六十八号布達

本年五月第三十八号ヲ以テ及有津候通底見草本内臨時病院ニ於テ
当分ノ内平常患者治癒ヲモ兼施候処九月一日再乱ニテ本庁焼失候ニ
付第一大区一小区米倉構内ニ於テ尙又米^(ツ)日ヨリ当分之内從前之
通治案為政候条此旨有達候事

但急劇患者ノ外ハ午前八時ヨリ午後二時限リ巨費窮ニシテ業仙上
納不相整者ハ其旨該戸長奥印ノ書面可差出事
第二課中付候事 七等屈 近藤 真吉

鹿兒島出張所中付候事 全 全
任八等屈 高知県 古津 弥八郎
第一課受付掛申付候事 七族

十二月七日金 金曜日

丁野少警視ヨリ米書

書ノ第百二号

火災防禦ノ為上下方限面警視署へ消防夫五十名ヲ置キ別紙之通飯規
則相定度候条御興存無之候ハ、第三條之趣意ヲ以テ信号ノ儀三大区
へ御達相成度此段及御協議候也

明治十年十一月四日

別紙

鹿兒島消防飯規則

第一条

火災防禦ノ為上下方限面警視署ニ消防夫五十名ヲ置キ月々手当ヲ支
給ス

第二条

消防ノ事務ハ白旗所ニ於テ之ヲ總括スト雖トモ消防夫ノ指揮進退歸
陟ハ所轄署長ノ任トス

第三条

出火ノ合圖ハ上下方限警視署ニ於テ三ツ打ノ半鐘ヲ以テス

第四条

消防夫ハ二十五名ヲ一組、シ警部一名巡查三名ヲ以テ之ヲ監視ス

第五条

毎月消防ノ入費ハ警視署ニ於テ取調へ出張所ニテ受取ルベシ

消防夫組割

組頭

五人

小頭

五人

ポンプ夫

八人

平夫

十五人

一ヶ月足留手当金額

組頭

廿五錢

小頭

二十錢

ポンプ夫

十五錢

平夫

諸器械

高張灯燈

壹張

馬口

十七

薪子

壹挺

小頭ヨリ平夫ニ至ル迄凡羽織壹枚股引一足宛ヲ給与ス

消防夫心得

第一条

消防夫出火場ノ駆引ハ所轄署長ノ指揮ヲ受クベシ時機ニ因テハ警部
ニテモ指揮スル事アルベシ

第二条

消防夫ハ号鐘ヲ聞クヤ直ニ警視署へ駆付クベシ

但不参スル者ハ草鞋代ハ当料ヲ給セス

第八条

消防ニ臨ミ被難相働クカ或ハ傷死ニ係ルトキハ賞金又ハ扶助手当等臨時給与スルコトアルベシ

同回答書

火災防禦規則則御設立ニ付書第百五附ヲ以テ該規則書相添護々御照会之趣詳知致候当県ニ於テハ異存無之候ニ付別紙ノ通三六区へ相達可申候仍此旨及御回報候也

丙第三十一号布達

火災防禦ノ為メ今般上下方限而警視署へ消防大相備置出火之節ハ右兩署ニ於テ三ツ打ノ半鐘ヲ以テ告知候条為心得此旨第一第二第三大區布達候矣
並水出張所結申付候事

伊東 小太郎

十二月八日晴 土曜

地和改正事務總裁へ上申書

当県下本年租額ヲ定ムルノ儀御委任被成度旨八月申上中致候延九月廿七日付ヲ以云々御指令相成候ニ付不逞敬收之責額ヲ結具了可仕運々有之然ルニ沽券稅地之開闢以來鹿兒島ハ勿論谷山重富御治本福山其他各郷(所謂外城是也方々)ノ如キハ官軍又ハ賊徒之一時占拠スル所トナリ自然兵燹ニ罹リ無ニ荒廢ニ属スルモノ不少未タ全ク士民歸住仕業實ニ非常ノ困苦ニ陥リ候儀ニ付足又先般御指令濟ニ基キ罹災之深淺調査之上相当ノ税額ヲ徴シ田畑・同可申上候間御聞區被下度申上申仕候也

熊本鎮台へ掛合書

今回戦陣ニ因リ傷痍ヲ受ケタル軍人等屬郷寮養ノモノ本年陸軍省丁第四百五十一号達歸郷假規則第一条ニ拠リ俸給並食料ニ付出願ノモノ有之候ニ付至急御取調金額御送付有之度比段及御照会ニ候也
任十等屬
第六表申付候事

渋谷 力平

十二月九日 日曜

内務卿ヨリ達書

鹿兒島県

其県下暴動ニ付県官共其他巡査等ニ至ル迄賊刃ニ罹リ非命ノ死ヲ遂ケ候者共東京招魂社へ合祭相成候条官名姓名等取調可届出此旨相達候事

明治十年十一月廿四日

陸軍々医西友輔ヨリ掛合書

今般下荒田屯在病院ノ名称被廢縣本鎮台病院出張所ト改称ニ付テハ是迄右屯在病院ニ御借受致居候西洋館共其備置本鎮台病院出張所へ更ニ御借受致度御差支無之候ハ、右西洋館新々破損之廉且外國等ハ於当所修繕可致候条御差支之有無至急御報知有之度此段及御照会候也
十年十二月五日

同回答書

下荒田西洋館ノ義ハ是迄屯在病院へ借用和成居候延今回附属館共縣本鎮台病院出張所へ更ニ御借受損所修復之儀共御照会之趣了承右ハ別段差支之筋無之候ニ付御貸渡可申候間更ニ借用証書御同有之度此段及御回答候也

当県在職中職務引続申付置候延御月済ニ付相解候事

元八等屬 速水 時中
御用掛 中川 春雄
同 桑原 貴

十二月七日晴 月曜

甲第七十一号布達

本年四月申当県下撫官承忠而社ノ名ヲ以紙幣類似之金券ヲ發行候趣相聞候ニ付本年五月第一号ヲ以テ通用嚴禁之儀及右達置候延尚第節ニ至リ候テモ密ニ通用致候者モ之ノ儀ニ相聞以ノ外ノ事ニ候以來該券通用致候儀決テ不相成候若相背ニ於テハ相当ノ処分ニ可及候也

右金券所持ノ者ハ金高並ニ枚数共区戸長於テ詳細取調至急不支所又ハ最寄出張所等へ可届出此旨尙又布達候事

支庁各出張所へ達書

県下撫育承恵内社金券通用嚴禁之儀ニ付尙又別紙之通及布達候ニ付テハ右金員可成至急爲届出取繼メノ上早々可差出此旨相達候事

別紙同上

御所右之宮崎出張申付候支

三筆爲 真田 庵

十二月十一日晴 火曜日

乙第四十八号達書

区戸長

旅籠屋渡世ノ者以來察泊爲候節ハ本籍姓名年節等詳細帳簿ニ記載シ最寄警視署又ハ派出所へ急速可届出右營業ノ者へ無誤可相達候旨相達候事

十二月十二日雨 水曜日

丙第三十二号布達

薩隅両州

本年貢米上納手續ノ儀別紙之通相定候条此旨布達候事

別紙

貢米上納手續書

第一条

貢米拵方ノ儀ハ従前ノ通碎ケ米廻交リ等無之様可成丈ケ念ヲ入レ可申事

第二条

縄拵拵方ハ是又従前ノ通相心得精々念入レ料漏ノ拵方致間敷支

第三条

俵入ノ儀ハ其村々ノ仕来ニ拠リ従前ノ通三盃入或ハ二盃入ニ相仕立目盜レ欠減等無之様可致支

第四条

貢米量リ立ノ儀ハ従前ノ通起先ノ法ニ倣ヒ左ノ通收納取計可致支

三盃入ノ儀

本租米三斗二升

延米壹升六合

小以米三斗三升六合

外米壹升六合込米 金納ノ分ハ此込米上納ニ及ハズ

合米三斗五升二合

此量日八十八斤

従前ノ一先ニ当ル

外糶俵

此量凡七斤

量用合九十五斤

二盃入一俵

本租米二斗壹升三合

延米壹升壹合

小以米二斗二升四合

外米壹升壹合込米 金納ノ分ハ此込米上納ニ及ハズ

合米二斗三升五合

此量日五十九斤

従前ノ一先ニ当ル

外糶俵

此量凡六斤

量目合六十五斤

第五条

各村ニ於テ糶俵及米拵等出来候ハ、其村内便宜ノ場所へ取集メサセ割印付取納ト云正副戸長ニ於テ巻俵毎ニ米性ノ普悪糶俵及袋入等ヲ検査シ不都合ノ分ハ説諭ノ上終直シ付格謹教シ置ベシ

第六条

右格護中火盜難等ニ罹ラザル様様夜番人ヲ附ケ置其儀数ハ戸長ヨリ泉所へ届出ベシ

但本文番人ノ嘗用ハ其村費タルベシ

第七條

第五條ノ通村收納出来其旨届出候節ハ上納ノ月日ヲ期シ官員本藏所迄出張シ米持ノ善悪及ヒ焚入等ヲ検査シ受取ノ上蔵入取計ベシ

但官員出張ノ期限ハ其時ニ可相違宜

第八條

焼入改方ハ五百俵ヲ以一大拼トシ其内ヨリ同斤ノ俵數ヲ各小拼ニ分チ焼入ノ上各小拼ヨリ三俵ツツ量リ様シ取計ヒ若シ不足ノ節ハ其小拼支ケノ俵數ヘ其不足米ヲ増加シ石詰量俵ヲ以上納付可シ

但五百俵以下百俵迄ハ本文ノ通取計ヒ百俵以下三拾俵迄ハ一小拼ヨリ二俵ツ、量リ様シ三拾俵以下ハ一小拼ニ一俵ツ、量リ様シ本文ノ通取計フ可シ彼令ヘハ其例左ノ如シ

三盃入

一米五百俵

内

百俵

三百俵

百俵

二盃入

一米五百俵

内

百俵

三百俵

百俵

右一拼小毎ニ焼入ノ上當焼ノ三俵ヲ量リ様シ又百俵以下三拾俵迄ハ一小拼ニ付二俵ツ、三拾俵以下ハ一小拼ニ付壹俵ツ、量リ様シ本文ノ通取計フベシ

第九條

第九條

前條ノ斤量ヲ以收入ス可シト雖トモ三盃入ハ九十五斤ヲ以テ定法トシ若シ輕重定法ヨリ四斤以上ノ差ヒアルモノハ割俵トシ更ニ秤直申

付ヘシ又二盃入ハ六十五斤ヲ定法トシ定法ヨリ以上ノ差アルモノハ割俵トシ更ニ秤直申付ヘシ

第十條

赤米ノ俵ハ米性モ甘惡ナルカ故自然斤量モ又略量ナルベシ因テ實際收入ノ節斟酌ノ上前ケ條ニ準ス

第十一條

倉庫ノ儀ハ從前ノケ所迄收納ノ管ニ候得共自然兵乱ノ為メ焼亡或ハ大破等ニ罹ル分ハ接近便宜ノ藏ノ藏所ヘ合取シ又小破ノ分ハ至急修繕ヲ加ヘ該所迄收納候儀ト相心得ベシ

第十二條

從前延米及ヒ込米等ノ如キハ現ニ收納スト雖トモ渾テ其受納証ヘハ登記セサルノ習慣ニ候處本年ハ本村ハ勿論延米込米トモ御坂則ノ通收入シ其請取証ヲ下附スベシ

第十三條

斤量及ヒ掛廻ハ其方ニテ事關レタル者ヲ撰ミ取扱ヲ申付スベシ

第十四條

差札ノ儀ハ左ノ通りタルベシ
長サ壹尺位 巾八分位 竹ニテ宜シ

表 月 日

見分 戸長

裏

何之誰

裏

何郷何村何之誰

以上

十二月十三日半兩半時 木曜日

兵庫縣指令ヨリ掛合書

昨明治九年九月中對泉下宮界島沖ニ於テ英國艦前船難破ノ節懇々尽

力致候人民姓名並同時諸雜費其他云々別紙之通該國領事官ヨリ通知有之候間則官通及御転送候条至急御取調ノ上御回答有之度此段申進候也

明治十年三月廿二日

別紙

兵庫大阪兼荷蘭英國領事官

於兵庫千八百七十七年三月十七日

君

昨年九月中喜界島ニテ破船致シ候英國商船ツエシウス船乗組ノ外国水夫共ヲ日本人民救助有之候ニ付倫敦府ニ在ル皇帝陛下ノ交易局ヨリ拙者書簡致落手候儀ヲ貴下ニ及御通知候布書中ニ尚詳細ノ報知可致様交易局ヨリ中議候ニ付テハ其節破船ノ水夫惣々接遇有之候日本人總休之姓名並右等ノ人ヘ対シ相當ノ褒賞致度趣ニ付テハ如何様物受納可相成哉貴下ヨリ拙者迄御通知被下候得ハ悉々候其他水夫等救養ニ係ル諸費金額並其日數且喜界島ヨリ神戸迄護送ノ入費共御通知被下度相願候且又鹿児島縣參事右水夫共救助方御尽力被下候ニ付謝物進呈致度並ニ神戸迄水夫共護送相成候士官兩名ニモ同様進度ニ付何程ノ贈物ナレハ受納可相成哉是亦御諭示被下度致希望候恐惶謹言

兵庫大阪兼荷蘭英國皇帝

陛下ノ代弁領事

エ・エ・アンネスリ

兵庫県總令森岡昌結貴下

喜界島支庁ヘ達書

兵庫縣ヨリ別紙寫之通取調之義照會有之候其支庁ニ於テ詳細取調至急可申此段相達候事

別紙同上

雇申付金六円給与候受
第一認當務掛申付候事

高尾野 助

十二月十四日附 金曜日

九州臨時裁判所長崎出張杉本検事中島判事ヨリ通知寄
薩尻島県士族駿島元本日別紙之通御断候条此段及御通知候也

別紙

薩尻島岩崎士族

駿島 元

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ付シ佐土原ニ於テ軍資金ヲ募リ島津啓次郎ヲ佐ケテ官兵ニ抵抗スルノミナラス日向國參軍トナリ宮崎支庁ニ到リ県下三州軍國政治ヲ施スヲ以テ軍務ニ尽力スベキ旨県官等ニ相達シ及ヒ桐野利秋ト謀リ懲役人ヲ解放シ七工兵ニ用ユル科ニ依リ除族ノ上罰罪中付ル

十年十一月廿五日

同口答書

当県士族駿島元十一月廿五日御延斷濟ノ段宜告書相添ヘ御通知ノ趣致承知候此段及御答候也

右宜告書原籍ヘ之ヲ揭示ス

十二月十五日附 上曜日

内務卿ヘ上申書

小官赴任以來県治ノ情況及ヒ追々御渡相成居候臨時費途整理之件且県庁等新築之件本年地租減免之件相次民費課出之件等ヲ始メ其他相同度儀有之候処書而上ニテハ何分行届兼候間大書官渡辺千秋儀御同都合見計ヒ来月中県地出立上京為仕度此段相伺候也

明治十年十一月十三日

指令

何之趣聞届候事

明治十年十一月十八日

同上申書

長崎県下薩人笠野熊吉儀県下兵乱ノ折柄本年手代管學兵衛外三名差

出シ物品輸入私下取扱方等日没政官民ノ牟利ヲ得候儀ニ付右手代
人ニ一ヶ月金廿五円宛ニ付分且大坂ヨリ当県迄往還旅費トシテ一
人金五拾円宛ヲ以テ合金四百円並付旅費ヘ為手当非常子保金之内ヨ
リ下渡度此段相伺候也

明治十年十一月廿五日

指令

書面伺之通

明治十年十一月廿八日

御用都合有之版付申付候事

鹿兒島県山付一ヶ月金八円
給与第二課申付候事

鹿兒島出張所詰申付候事

上等属 内海 忠海
六等属 西村 言敬
鹿兒島出張所詰申付候事

十二月十六日晴 日晴日

在東京熊本県令ヨリ電報

貴官赴任以來戦地ニ在テ尽力不少候付勲四等ニ叙シ旭日小授影ヲ授
与セラレ年金百八拾円下シ賜ル御品御書付ハ下官代罪ニテ拝受ス来
ル一月始メ帰京ノ苦ニ付持滞ルベシ其積リニテ誰ソ県地ヘ御差出ア
ルベシ委細ハ郵便ニテ

十二月十五日

同回報大書記官ヨリ

岩村県令勲四等ニ叙セラレ候云々承知セリ右ハ巡回中ニ付小官ヨリ
直ニ中進シタリ御受書等ハ御品拝受之上差山然ル可キヤ其辺宜御取
計ヲ乞フ

各課官員各支庁各出張所ヘ送案

県令岩村道後赴任以來戦地ニ在テ尽力不少候ニ付勲四等ニ叙シ旭日
小授影ヲ授与シ年金百八拾円下賜ル旨東京表ニ於テ熊本県令官
廳敬明代理ヲ以テ拝受候旨同人ヨリ電報有之候条為心得此旨相達候
事

十二月十七日曇 月曜日

内務卿へ届書

小宮儀先般及御届直通隨隔司國路同之処本口掃庁事務取扱候条此致
御届仕候也

父母保難ノ義ニ付帰省
徴兵取調担当申付候事
同
上等属 野中 法隆
九等属 篠塚 基長
十等属 内海 忠海

十二月十八日雨 火曜日

甲第七十五号布達

左之通鹿兒島裁判所ヨリ申越候条此旨布達候事

別紙

日向国第九十四大区官崎へ区裁判所設置米ル廿五日開庁事務取扱候
条左之大区中人民へ係ル民事ハ金高拾円以下刑事ハ懲役二十日以下
裁判致シ勸解ハ金高等ニ不係懲テ同所へ可願昌訴状其他宛名ノ義ハ
官崎区裁判所長判事補河野忠三宛ニテ可申出

第九十四大区 第九十五大区 第九十六大区

第九十七大区 第九十八大区 第九十九大区

以上六大区

鹿兒島裁判所長

明治十年十二月十七日

判事宛 元 忠

日向国第九十九大区延岡へ区裁判所設置米ル廿五日開庁事務取扱候
条左之大区中人民へ係ル民事ハ金高百円以下刑事ハ懲役百日以下裁
判致シ勸解ハ金高等ニ不係懲テ同所へ可願昌訴状其他宛名ノ義ハ延岡
区裁判所長判事補多賀義生宛ニテ可申出

第九十八大区 第九十九大区 第一百大区 第一百八大区

以上四大区

鹿兒島裁判所長

明治十年十二月十七日

判事宛 元 忠

実父病氣ニ付版告

十等属 磯部 栄忠

十二月十九日 水曜日

甲第七十六号布達

先般管下騷亂ノ際人民所有ノ鎗銃賊徒ニ強奪セラシ大カニ漁業ニ差支候趣相聞エ甚タ以慙然ノ至ニ付今般県庁ニ於テ鎗若干有之候間低価ヲ以松下ケ候衆志願ノ者ハ区戸長ニ於テ取調本支庁ヘ可申出此旨布達候事

家事ノ義ニ付帰省

所有品ノ義ニ付坂府ヘ発行

等外一等 服部 豊寛
屈 関 正秀

十二月廿日 土曜日

九州臨時裁判所長崎出張本検事申島判事ヨリ通知書

鹿児島県士族大重善太郎外八十七名本日別紙宣告書等ノ通知及処断候条此段及御通知候也

明治十年十一月廿九日

別紙

鹿児島県下帖佐郷

三十丁村士族甚右

衛門長男

大重 善太郎

司基下鹿児島滑川道

士族勇右衛門弟

鷗木 正左衛門

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ中隊長トナリ官

兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲

役五年中付ル

同県同所西田村

區司馬場士族

池田 兼長

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ中隊長トナリ官

兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役一年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上

懲役五年中付ル

同県同所下荒日村

天保山士族嘉壽弟

土岐 丑之助

同県伊集院郷

春山村士族

原田 種秋

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ中隊長代理トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役五年中付ル

同県同所平野馬場

士族

(姓名脱)

同県下高山郷新富村

士族矢三右衛門長男

相原 雄之進

同県下吉田郷釐

士族

谷口 政範

同県下鹿児島

冷水士族

中村 郷兵衛

同県下大隈園帖佐郷

鍋倉村士族

小城 宗一郎

同県下帖佐郷東

餅田村士族

有田 善太郎

同県串木野郷上

名村士族

池田正義

同県下市来郷

士族

堀原 村右衛門

同県下栗野郷木場村

士族五兵衛長男

前山 國重

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役三年中付ル

同県下谷山御山田村

士族

中馬 秀普

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長代理トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役三年中付ル

同県下鹿兒島冷水

士族

内山 伸七郎

同県下同新上ノ平

士族

川北 湯孝

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長代理トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役二年申付ル

同県下草牟田村

池ノ平士族

本庄 尚方

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ一小隊ヲ指揮シ官兵ニ抵抗スル科ニ

依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役三年中付ル

同県下谷山郷川口村

士族

山口 吉右衛門

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首シテ其裁判ヲ受ル後隆盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際其本營ノ邊ニ応シ重村源七其他ノ者、俱々伊泊村戸長ヲ捕縛シ本營ニ護送スル科ニ依リ除族ノ上懲役三年中付ル

同県下今泉郷

岩元村士族

逸見 甲之輔

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎中付置処隆盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際其募リニ応セント喜入郷瀬々口村迄出兵スル科ニ依リ除族ノ上懲役二年中付ル

同県下田布施郷

大野村士族

床次 利右衛門

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年中付ル

同県下谷山郷下

之馬場住平民

(姓名脱)

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎中付置処隆盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際其募リニ応シ途中迄出兵スル科ニ依リ懲役二年中付ル

同県下谷山郷上

福元村士族

岩崎 幸左衛門

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首シ

ヲ其裁判ヲ受ル後隆盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際其募リニ応セント谷
山郷中村迄出兵スル科ニ依リ除族ノ上懲役二年申付ル

同県下鹿兒島平之

馬場士族

谷元延清

同県司所三官橋

横通士族

椎原国幹

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ大小荷駄掛トナリ官兵ニ抵抗スル
科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

同県同所内之丸

士族

崎元休右衛門

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ大小荷駄荷代理、ナリ官兵ニ抵抗ス
ル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

同県同所内之丸

士族

飯牟礼古兵衛

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ大小荷駄心得トナリ官兵ニ抵抗スル
科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

同県コ置郡コ置郷

士族

山口松次

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ半隊長トナリ官
兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ハ酌量シ除族ノ上懲役
二年申付ル

同県下高山郷前田村

士族

児玉実正

同県鹿兒島吉野村

実方士族

塚田十右衛門

同県下同所吉野村

実方

松岡岩次郎

同県下草牟田村

士族

富山吉彦

同県下加世日郷

内山田村二族

石塚金助

同県下鹿兒島福昌寺

門前池之上士族

市米政平

同県下指宿郷本方村

士族

永池吉之進

同県下鹿兒島坂元村

冷水士族

吉留直賢

同県下同所元来

馬場居住士族

市来弥藤治

同県下雨太野卿

士族

宮地貴切

同県下口置郷日置村

磯右衛門長男

西方為兵衛

同県下義山郷東郷村

士族

最勝寺 勝一郎

同県下河郷西郷村

士族

最勝寺 半次郎

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ノ衆メ半隊長代理トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

同県下鹿兒島新屋敷

士族

木原 清澄

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆メ半隊長代理トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年申付ル

同県下鹿兒島西ノ谷

士族

海老原 正兵衛

同県日置郡市来郷

士族

高崎 親良

同県鹿兒島城ヶ谷

士族

樺山 資英

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆メ半隊長心得トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役二年申付ル

同県下高山郷前正村

士族伴右衛門長男

渡辺 伴助

同県下鹿兒島紙屋谷

士族助次郎長男

伊地知 鎌介

同県同所植ノ原

士族

黒田 清定

同県比志島松住

士族

中馬 才助

同県下美野郷木場村

士族彦二良男

池田 養為

同県同郷同村士族

重治良男

永田 林右衛門

同県下郷露上族

尾辻 佐八

同県下市来郷士族

永井 四郎

同県下鹿兒島城ヶ谷

士族

樺山 喜平次

同県下伊集院郷

春山於士族

四元 助八

同県下国分郷麓

士族

宮原 本右衛門

同県下鹿兒島上

冷水居住士族

土師 盛

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長トナリ
官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲
役一年申付ル

同県下鹿見島上伊敷
村士族

種子島 廉四郎

同県下同所冷水
士族

郷田 彦兵衛

同県下同所下荒田村
士族

川上 弥之助

同県下同所冷水
士族

山口 新吉

同県下路郷薩
士族

須之田 太八

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長代理ト
ナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ各除族
ノ上懲役一年申付ル

同県下日置郡市来郷
士族

石 神 音 介

同県下同郡同郷湊村
士族

和田 応 介

同県下贈炭郡藝山郷
薩士族彦助三男

荒 田 彦 七

同県下串木野郷士族
幸右衛門長男

相 島 武 一

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長心得ト
ナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ
上懲役一年申付ル

同県下新屋敷
士族

酒 匂 景 雄

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ官
兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役
三年申付ル

同県志布志郷

松村士族

福 山 吉 連

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長トナリ官
兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役
二年申付ル

同県下永吉郷薩

士族

宇 田 伴之助

同県下同郷同所
士族

有 馬 竜右衛門

同県同郷同所士族
雄右衛門長男

和 田 六郎兵衛

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗モシ先非ヲ悔悟シ自首
シテ其裁判ヲ受ル後隆盛等再ヒ鹿見島ニ襲来ノ際其本營ノ機文ニ応
シ兵器ヲ携ヘ伊集院郷清藤村迄出兵スル科ニ依リ懲役三年可申付処

情ヲ酌量シ各除族ノ上懲役二年中付ル

同県下指宿郷

上族

山名 亀次郎

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置処隆盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際院所幸次郎ノ募リニ応シ同人ノ下ナリ喜入郷迄出兵スル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年中付ル

同県下高江郷

士族

二ノ宮 實之助

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置処隆盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際其本營ヨリ各郷派出ノ巡查ヲ捕縛スベシトノ達アリ此中村一兵衛ノ招募ニ応シ兵器ヲ携ヘ同人宅迄出兵スル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年中付ル

同県下姪石垣浦

士族

西牟田 勝太

同県同郷同所

士族

有馬 純治

同県同郷同所

士族

井上 治右衛門

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置処隆盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際其本營ノ達アリ此有富吉左衛門ノ指揮ニ随ヒ兵器ヲ携ヘ各所ニ奔走シ巡查ヲ捕縛セントスル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役二年中付ル

同県下永利郷山田村

士族 橋太郎二男

上村 勘之丞

外七十一人

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首スルヲ以テ自宅謹慎申付置処隆盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来ノ際本營ノ檄文ニ応シ或ハ戸長ノ募リニ随ヒ各所派出ノ巡查ヲ捕縛シ又ハ島平浦警視分署ヲ襲撃セント出兵スル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ上懲役二年中付ル

同県下南方郷

坊村上族

長井 弥藤治

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メニ隊長トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役三年可申付処初メ戸長ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ除族ノ上懲役一年中付ル

同県下坂元郷

士族

早川 兼治

同県下佐多郷

士族

禮元 甚助

同県下大始良郷

大始良村士族

北方 盛

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長トナシ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役一年中付ル

以下直告書客 但処断免罪

同通知書

鹿兒島県士族成田宗淳外廿四名本日別紙宣告書ヲノ通及処断候条此

段及御通知候也

明治十年十一月三十一日

別紙

鹿兒島県下加世山郷

津賀村士族伝右衛門

長男

成田宗淳

同県下大崎郷永吉村

士族

鮫島善之丞

同県下永吉郷麓

士族

太寺伊右衛門

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ

官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役三年可申付

処初メ戸長ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ各除族ノ上懲役二年申付ル

同県下太良郷旧

本城居住士族

前田廣右衛門

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長心得トナリ

官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役三年可申付

処初メ戸長ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ除族ノ上懲役二年申付ル

同県下吉利郷

吉利村士族

大山直治

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ半隊長トナリ官

兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役二年可申付処

初メ戸長ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ除族ノ上懲役一年申付ル

同県下栗野郷

木場村士族

瀬戸口慶輔

同県下永吉郷

士族

同県同郷士族

後藤八郎太

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ半隊長トナリ

官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役二年可申付処

初メ戸長ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ各除族ノ上懲役一年申付ル

同県下吉松郷川

津川村士族

長井実友

同県下同郷中津

川村士族

吉川嘉吉郎

同県下日向區都城郷下

長坂村士族

大山哲一

同県下養山郷田口村

士族源右衛門長男

中別府源藏

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長トナリ

官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役一年可申付

処初メ県庁ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ懲役百日士族ナルヲ以テ除族

申付ル

同県下印布施郷

士族

松山久右衛門

同県高山郷上ノ原村

士族

橋口 十太郎

同県寺交郷

士族

石神 慶藏

同県下同郷

士族

永井 久八郎

同県下永吉郷小山田村

士族兵右衛門長男

北原 市次郎

同県下串木野郷

士族

久保 吉之進

同県下同郷士族

四郎二男

久保 久九郎

同県下川辺郡加世田郷

片河村士族

宮原 勇右衛門

同県下市米郷

士族

永井 休右衛門

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長代理トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役二年可申付処初メ戸長ノ達ニ依リ出ルヲ以尚酌減シ懲役百日士族ナルヲ以テ除族申付ル

鹿児島県大隅国敷根郷

松山郷士族五右衛門

二男

河野 精一

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長代理トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役一年可申付処初メ戸長ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ懲役百日士族ナルヲ以テ除族申付ル

鹿児島県串木野郷

士族

肝付 万之丞

同県同郷士族

勘左衛門二男

萩原 佐兵衛

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年申付処情状ヲ酌量シ懲役一年可申付処初メ戸長ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ懲役百日士族ナルヲ以テ除族申付ル

鹿児島県太良郷

口本城士族

神田橋 文之助

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長心得トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役一年ノ処情状ヲ酌量シ懲役一年可申付処初区長ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ懲役百日士族ナルヲ以テ除族申付ル

同通知書

鹿児島県士族永山盛香外三名本口別紙宣告書写之通及処断候条此段及御通知候也

十年十二月一日

鹿児島県上冷水

士族

山口 盛高

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ大塚之監事トナリ官軍ニ抵抗スル科ニ依リ除族之上懲役十年申付ル

鹿児島県第百四大区

一小区志布志郷新村
士族伊兵衛長男

永山盛春

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ官処
ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役三
年申付ル

鹿兒島縣薩摩郷
士族

山下鉄兵衛

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ官
兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役
三年申付ル

鹿兒島縣薩摩郷

五十町村士族

勇之進長男

外山正之進

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ中隊長トナリ官兵
ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年之処情状ヲ酌量シ懲役二年可申付処初
メ戸長ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ除族ノ上懲役一年申付ル

同道知書

鹿兒島県士族池田彦四郎外百二十七名之者昨十三日別紙宣告書之
追及処断候条此段及御通知候也

明治十年十二月十四日

鹿兒島縣下花岡郷

木谷村士族

地田藤四郎

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ中隊長トナリ官
兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲役
五年申付ル

明治十年十二月十三日

同県鹿兒島高麗町
士族

右馬義範

同県同所内之丸
士族

草野兼周

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ中隊長代理トナ
リ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ各除族ノ
上懲役五年申付ル

同県同所原良村士族

矢太右衛門長男

泊原直亮

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ中隊長心得トナ
リ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上
懲役五年申付ル

同県大隅國横山川ケ野

金山平民七郎長男

市米求藏

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ官
兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ懲役三年申付
ル

同県下鹿兒島新正院

士族

佐々六新藏

同県同所内之丸

士族

若松則亮

同県下同所國牟山村

士族

田中資幹

同県蒲生郷上久徳村
士族

赤塚 真志

同県国分郷浜市
士族

種子田 則勝

同県大隅国肝付郡
申良郷岡崎村士族

桑原 周吉

同県鹿児島縣元村
士族松本敏齊方同居

黒木 実澄

同県同所郷之口馬場
士族

平川 兼善

同県日向国諸県郡
大崎郷飯宿村士族

有馬 道軒

道直長男

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長トナリ官
兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処各除族之上懲役三年申付ル

同県下鹿兒島高麗町

中洲通上原久五郎三男

笠山 利智

同県宮之城郷
星地村士族

満尾 勘兵衛

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長代理トナ
リ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族之上
懲役三年申付ル

同県鹿児島上伊敷村
士族

田中 市右衛門

同県大隅国肝付郡
白良郷岡崎村士族

弥八郎長男

岡宮 清藏

其方儀西郷隆盛ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長ノ監軍トナリ
官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族ノ上懲
役三年申付ル

同県下鹿兒島

小山田村士族

野間口金左衛門

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ其裁判ヲ受
ル後賊徒再ヒ鹿兒島ニ襲来之際貴島清等之指揮ニ応シ郡山派出ノ巡
査ヲ捕縛セント其屯所ヲ襲ヒ物品ヲ掠奪スルノミナラス山下猪之助
之中付ニ随ヒ兵卒十八名ヲ捕獲シテ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ除族ノ
上懲役三年申付ル

同県同所同村

士族応助長男

永井 金太郎

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首シ
テ其裁判ヲ受ル後賊徒鹿兒島ニ襲来之際其魁ニ応シ出兵途中官兵ノ
追走ズルヲ追跡シテ其一名ヲ斬殺スルノミナラス野間口忠八ニ随ヒ
巡査ヲ捕縛セント郡山屯所ヲ襲ヒ物品掠奪シ再ヒ官兵ニ抵抗スル科
ニ依リ除族ノ上懲役三年申付ル

同県中木野郷

龍士族

飯田 善吾

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ大小砲隊代理トナリ官兵ニ抵抗スル

先非ヲ悔悟シ自前スルヲ以テ宅地謹慎申付置処降盛等再ヒ鹿児島ニ
襲来之際其本管ヨリ有忘ノ者ハ急回所ヘ廻付可キ旨達シアリ連人
民ニ回達スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族之上懲役
三年申付ル

同県同郷同所

士族

長 次郎兵衛

同県下鹿児島平馬場道

士族

宇 宿 榮之丞

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ大小荷駄代理トナリ官兵ニ抵抗スル
科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ各除族之上懲役二年申付ル

同県下隈之城郷

西手村士族

有 馬 孫兵衛

其方儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与ル大小荷駄心得トナリ官兵ニ抵抗スル
科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族之上懲役二年申付ル

同県下内之浦郷

南方村士族六郎長男

肥 後 愛 介

同県同郷同村

士族

吉 井 清

同県下義山郷松永村

士族源四郎長男

久木元 直 吉

同県下鹿児島内之丸

士族

岩 城 十 郎

同県下同所後道

士族

區 田 敬 助

同県下市来郷

薩士族

宇 田 善左衛門

同県下大隅国肝付郡

白良郷岡崎村士族

斜 木 等

同県同国同郡同郷同村

上族徳二長男

町 田 実 雄

同県下諸県郡大崎郷

飯留村士族

山 賀 一

同県同国同郡同郷同村

士族新長男

郡 司 和 平 太

同県下伊集院郷

下谷口村士族

野 村 孫 七

其方共儀西郷隆盛等ノ逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ半隊長トナリ

官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ各除族之上

懲役二年申付ル

同県下太良郷曾木

針持村士族

佐 土 原 才 助

同県下国分郷麓

士族

野 村 源 左 衛 門

同県下鹿児島内之丸

士族

見喜之助

同県下向断草牟田村
士族

吉田清武

同県下日向国大崎郷
長古村士族久友長男

伊集院久実

同県日向国同郷
飯徳村士族

藤井道愛

其方儀西郷隆盛等之逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆メ半隊長心得トナ
リ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ各除族之
上懲役二年申付ル

同県下鹿兒島小山田村
士族

小野彦之丞

其方儀西郷隆盛等之逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首ス
ル其裁判ヲ受ル后隆盛等鹿兒島ニ襲来之際野間忠八ノ勸ニ応シ出兵
ノ途中官兵ノ逃走スルヲ追逐スルノミナラス忠八等ニ随ヒ巡查ヲ捕
縛セント郡山屯所ヲ襲ヒ物品ヲ掠奪シ再ヒ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ
懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ除族之上懲役二年申付ル

同県下隈之郷郷

西平村士族

勝日喜兵衛

其方儀同郷隆盛等之逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ先非ヲ悔悟シ自首ス
ルヲ以テ自宅謹慎申付置処隆盛等再ヒ鹿兒島ニ襲来之際其勢ニ応シ
出張之巡查ヲ捕縛セント京泊迄出兵スル科ニ依リ懲役三年可申付処
情状ヲ酌量シ除族之上懲役二年申付ル

同県下鹿兒島下伊敷村

士族

加治木 應之助

同県同所同村
士族

五代友広

其方儀西郷隆盛等之逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ科ニ依リ其裁判ヲ受
ル后隆盛等鹿兒島ニ襲来之際川北陽孝之勸ニ応シ再ヒ官兵ニ抵抗ス
ル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ除族之上懲役二年申付ル

同県同所同村
士族

河野 晋之丞

其方儀西郷隆盛等之逆意ニ与シ官兵ニ抵抗セシ科ニ依リ其裁判ヲ受
ル后隆盛等鹿兒島ニ襲来之際川北陽孝之勸ニ応シ再ヒ官兵ニ抵抗
スル科ニ依リ懲役三年可申付処情状ヲ酌量シ除族之上懲役二年申付
ル

同県大隅国横川郷中
野村士族

四元 五次郎

同県日向国諸県郡
飯野郷原田村士族

宍波 義保

同県下主水郷田村
士族

杉ノ屋 万蔵

同県下清水郷龍城村
士族

二階 高

同県同郷同村

土持 宣治

同県下豊後郷松永村

士族
 前日 稻助
 同県下高瀬町中洲馬通り
 士族
 久留 影起
 同県下東叢山郷
 重久村士族
 島田 十七郎
 同県下宮之城郷庄地
 上族
 佐々木 八郎次
 同県下霧山郷麓
 上族
 細山田 重造
 同県下西叢山郷
 最光寺村士族
 松本 勇左衛門
 同県下蒲生郷上久徳村
 士族
 湯田 金兵衛
 同県下伊集院郷石谷村
 士族
 笠崎 幾太郎
 同県下蒲生郷上久徳村
 士族
 瀬戸口 寛之助
 同県下川辺郡加世田郷
 麓士族藤兵衛長男
 長井 武右衛門
 同県大隅国肝付郡

申長郷井東村士族
 次右衛門長男
 関 弥平太
 同県同国同郡同郷
 岡崎村士族溪藏三男
 小田 孝之助
 同県日向国諸県郡
 大崎郷長吉村士族
 小野 藤左衛門
 同県下鹿兒島
 諏訪ノ小路士族
 有馬 純尚
 其方儀西郷隆盛等之逆意ニテ兵ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長トナリ官
 兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情狀ヲ酌量シ各除族ノ上懲
 一年申付ル
 同県大隅国横川郷山ヶ野
 金山平民弥四郎長男
 吉野 角太郎
 其方儀西郷隆盛等之逆意ニテ兵ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長トナリ官
 兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役一年申付ル
 同県下鹿兒島縣魁冬
 士族
 若松 長治
 同県宮之城郷屋敷村
 士族
 山下 敬蔵
 同県豊山郷
 大窪村士族
 小川 善太郎
 其方儀西郷隆盛等之逆意ニテ兵ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長代理トナ

リ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族之上
懲役一年申付ル

司馬下斐山郷重久村
士族

高橋 甚平

同県佐志郷広瀬村
士族良右衛門長男

黒木 治信

同県加治太天神馬場
士族

北村 治兵衛

同県伊集院郷下谷口村
士族四郎兵衛長男

中山 石吉

上原大始良郷大始良村
士族

竹内 三平

其方共儀西郷隆盛等之逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長心得ト
ナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ除族之
上懲役一年申付ル

同県宮之城郷
求名 士族

種子 弥右衛門

同県上鏡島白飯村
士族

上村 壮之丞

同県下荘内郷
安永村士族

津曲 兼敏

其方共儀西郷隆盛等之逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ小隊長心得ト

ナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役三年可
申付処初メ県庁之達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ除族之上懲役二年申付ル

同県大隅国横川郷中野村
士族

川崎 一二

同県同国同郷村
士族

川崎 奎之助

同県大始良郷麓
士族

黒岩 慶之助

其方共儀西郷隆盛等之逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長トナリ官兵
ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年ノ処情状ヲ酌量シ懲役二年可申付処初
メ県庁之達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ除族之上懲役一年申付ル

同県日向国諸県郡
松山郷泰野村士族

柿元 長四郎

同県肝付郡始良郷
中名村士族

木佐實 愛介

同県花岡郡小野原村
士族

鮫島 繁助

同県山布施郷大野村
士族

松山 直之進

同県串木野郷下名村
士族

宮ノ原直右衛門

同県黒木郷黒木村

士族

長崎 武兵衛

同県加世田郷赤生村

士族

加藤 伊右衛門

同県同郷益山村

士族

中山 泰助

同県宮之城虎居村

士族

児玉 勘左衛門

同県野田郷上名村

士族

山之内 六之丞

同県日向国庄内郷

安永村士族善藏長男

大神 祐太郎

其方儀西郷隆盛等之逆意ニ号シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ半隊長トナリ
官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年之処情状ヲ酌量シ懲役二年可申付
処初メ戸長之達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ除族之上懲役一年申付ル

同県垂水郷田上村

士族

中村 常作

其方儀西郷隆盛等之逆意ニ号シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ半隊長代理トナ
リ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年之処情状ヲ酌量シ懲役二年可申
付処初メ戸長之達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ除族之上懲役一年申付ル

同県大隅国藝山郷

重久村士族

荒田 藤五郎

其方儀西郷隆盛等之逆意ニ号シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ半隊長心得

トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年可申付処情状ヲ酌量シ懲役
二年可申付処初メ県庁之達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ除族之上懲役一年
申付ル

同県鹿野屋郷

中名村士族

野中 経中

其方儀西郷隆盛等之逆意ニ号シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ半隊長心得トナ
リ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年之処情状ヲ酌量シ懲役二年可申
付処初メ戸長之達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ除族之上懲役一年申付ル

同県東郷山郷蟹士族

長右衛門養子

小城 甚次郎

同県同郷重久村

士族

山下 林五郎

其方儀西郷隆盛等之逆意ニ号シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長トナリ官
兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年之処情状ヲ酌量シ懲役一年可申付処
初メ県庁ノ達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ懲役百日士族ナルヲ以テ除族申
付ル

同県入来郷蟹

士族

古河 恕平

同県同郷同所

士族

村尾 雄五郎

同県山崎郷久富木

士族仲左衛門長男

中村 嘉納市

同県伊作郷中里村

士族

同県鶴岡郷岩川村 士族源助三男	松崎正助
同県加世田郷川畑村之内 麓士族	谷山登亮
同県出木野郷 下名村士族	有留半四郎
同県伊集院郷那村 士族	萩原次平太
同県佐志田原村 士族	中馬弥太郎
同県伊集院郷磯 士族善藏長男	松元藤六郎
同県阿郷谷山村 士族	上原慶輔
司景町郷同村士族 役之助長男	吉平四周藏
同県加世田郷内山田村 士族	重信半之丞
同県伊集院郷石谷村 士族	二ノ宮秋兵衛

其方共儀西郷隆盛等之逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長トナリ
官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年之処情状ヲ酌量シ懲役一年可申付
処初メ戸長之達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ懲役百日士族ナルヲ以テ除族
申付ル

同県吉之城郷 船木村士族	西木作藏
同県同郷求名村 士族	作田与一
同県日向国村内郷 安永村士族勇右衛門 養子	經山矢之助
同県中山郷羽月麓村 士族正藏長男	長峰政一
同県野田郷上名村 士族	是枝正太郎
同県大口郷里村 士族	本場甚五左衛門
同県垂水郷市成村 士族	那答院武彦
同県伊集院郷武村 士族尽太郎長男	鎌田善次郎
	崎山藤次郎

其方其儀西郷隆盛等之逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長代理トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年之処情状ヲ酌量シ懲役一年可中付処初メ区戸長之達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ懲役百日上族ナルヲ以テ除族申付ル

河原伊作郷中原村士族

西田隆富

同県日向国諸県郡大崎郷飯宿村

山下政記

同県同国都城川東村士族

山田村景

同県豊野屋光善城士族

竹下休右衛門

同県同郷高須村士族

野田柳左衛門

巨泉清水郷弟子丸村士族

浜田良俊

其方儀西郷隆盛等之逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長心得トナリ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年之処情状ヲ酌量シ懲役一年可中付処初メ区戸長之達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ懲役百日上族ナルヲ以テ除族申付ル

同県大隅国薩山郷重久村士族

小川喜右衛門

其方儀西郷隆盛等之逆意ニ与シ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ分隊長心得トナ

リ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ懲役十年之処情状ヲ酌量シ懲役一年可中付処初メ県庁之達ニ出ルヲ以テ尚酌減シ懲役百日上族ナルヲ以テ除族申付ル

右懲役五年以上之者ハ原籍ヘ之ヲ揚示ス

国事犯徒ノ長崎臨時仮監倉ヘ送留中虎列刺病ニ罹リ死去ノ者	
十月五日病没	鹿兒島県上族 春日夢二
十月三日全	全 島田壯一
十月六日全	全 日衛島治助
十月十六日全	全 大寺量兵衛
八月廿三日全	全 江口岩助
十月二日全	全 尾崎正真
一月十七日全	全 中村源七
十月廿六日全	全 重野源七
十月廿一日全	全 渋谷八次郎
十月廿九日全	全 松元覚右衛門
依願免本官	十等属 小林良恭
同	同 伊東小太郎
同	等外三等出仕 手島良介

十二月廿一日發 金曜日

田中文部大輔ヘ何書

各地方学区取締自分取扱等級並俸給共取調御省ヘ可届出旨明治六年太政官第六十六号御達之趣有之候処明治八年御省第六号ヲ以テ此事諸件毎時届出ニ不及候旨御達相成候ニ付テハ右太政官御達之儀モ御達之通相心得可然哉且学区取締事務規則等ハ最前当県ヨリ如何致被申置候哉今般之事変ニテ取締不行届候知今般学区取締事務規則等相定候節ハ一応草稿ヲ以テ御裁可ヲ受ベキ筋ニ候哉又ハ当県限リ専行

イタシ前文御名御達之通取計ヒ可然彼御指揮相成候處此段相伺候也
明治十年十一月十七日

指令

書面学区取締自分取振等由縣方之儀ハ明治七年太政官第六十六号
達並三明治八年文部省第六号達之通可相心得事務規則等制定之儀
ハ可伺出候ニ候事

明治十年十二月六日

渡辺大書記官上京ニ付隨行中付候事

三等属 真田 庵

全

六等属 高 辻 信 之

全

七等属 島 田 徳 治

全

九等属 添 田 瑪 子

等外一等山仁申付

喜界島住泉 嶺 哉

喜界島支庁申付候事

臨時病院御足掛申付月給金拾五円

野 添 正 寿

給与 但取扱裁判に候事

十二月廿二日附 土曜日

旧征討總督官ヨリ達書

先般西征之役ニ方リ各県ヨリ召募致候軍火之犯罪逃亡ニ限リ自首ス
ル者ハ特別ヲ以テ其罪ヲ逸シ候条此旨相達候事

但本文自首スル者ハ各所管ニ於テ直ニ免罪申達候儀ト可相心得事

十二月十二日

内務卿へ上申書

当県へ御渡可相成米五万石之内浪々和歌浦丸萬千穂丸等ヲ以回漕相
成候處今般高千穂丸航漕費合計三万三千六百円外ニ津出入足賃合
金三百円余仕松之儀航漕局長ヨリ照会之然ルニ右米浪々巨漕費支
出之儀ハ当県臨時費之内ニテ可相弁訳ニ候得共何分其金額目途難相
立ニ付過日相伺候今備金廿万円ノ内ヲ以テ支出可致見込ニ有之候處
右予備金三万円ニ御減少ニ付目途相違候間高千穂丸費用金三万三千
九百円余並今后回漕費用ニ充テ当県臨時トシテ更ニ金拾万円御下減

相成候儀仕度尤先般御許可相成候航海費七万八千円之儀ハ快順丸等
計丸迎陽丸運搬入費ニ見込有之候間前条之通金拾万円御下減之儀相
伺候条至急御指令奉仰候也

二仲本文金額御下渡御許可之上ハ高千穂丸へ可下渡金三万三千九
百円余ハ直チニ取返局へ御渡相成候儀仕度此段添テ申上候也
指令

書面回米船入費金拾万円八十月廿四日付電報ニ依リ渡方差控高千
穂丸運賃金三万八千五百八十五円式十九錢五厘大藏省出納局ヨリ
可下渡事

但該金員假ニ郵便局へ下渡直条大藏省出納局宛紙収証書ヲ取通
局へ差出同局高千穂丸運賃領收証書ト引換候儀可相心得事

明治十年十二月十一日

任五等属

神奈川県七族 関 重 磨

官給支正請中付候

第六課中付候事

八等属 古 津 弥 八 郎

徴兵取調担当中付候事

九等属 山 本 鉄 心

全

鹿 岡 田 重 広

依照出仕差免候事

等外二等出仕 木 村 茂

十二月廿三日陰三晴 日曜日

十二月廿四日曇 月曜日

内務卿へ上申書

本年九月三日長崎出納局ニテ繰替受取候金拾万円更ニ御渡之儀ニ付
九月廿七日付ヲ以上申上十月九日電報ニテ受取仕候次第ハ小官拜
任後九月中迄ニ受取仕候候處時費金概計取調候處其際現ニ元松恭弘
不足金拾万式千三百錢拾九円七拾七錢余ニ相及ヒ且十月四日付ヲ以
御許可相成候余備金五拾六万式千円之儀ハ夫々費日相立伺置其節増
減之目途相立兼再度請求モ仕候處節右貴途ノ内残余可相成見込相
立候間前書長崎出納局ニテ繰替受取金拾万円ハ更ニ同局へ返納取計候
間此旨御届申候也

明治十年十二月廿四日

同上中書

一金三千四百九拾壹円九拾貳錢九厘

内訳

金貳千六百貳拾六円貳拾錢六厘

是ハ十年八月廿八日同國諸果郡飯野郷教恤所へ賊徒襲來同

所在勦應細井濟ヲ捕縛シ奪取候分

金七百九拾円

是ハ前同年同月同日同郡小林郷教恤所へ賊徒襲來同所在勦八

等屬心得加納恒方ヲ捕縛シ奪取候分

金百拾五円七拾貳錢三厘

是ハ前同年九月鹿兒島再亂之際県庁金庫ニ差置候青銅貨遺棄

分

右ハ本年九月鹿兒島再亂之際賊徒各所教恤所等ヲ襲ヒ官更ヲ捕縛シ
取候金員及ヒ県庁金庫ニ差置候候青銅貨賊徒捕奪分書面之通ニ有之
候間此段御任仕置候也

鹿兒島屯在兵司令長官代理陸軍中佐長阪照徳ヨリ通知書

熊本鎮台ヨリ当地屯在兵交代トシテ歩兵一大隊奉十八日到着相成候
就テハ当部及屯在兵明日一日出體当地引込候条此段及御通知候也

十年十二月廿日

追テ殘務取纏メノ為メ坂本少佐兩三日滞在為致候条此段モ中添候
也

同回答書

熊本鎮台屯兵本月十八日当地到着相成候ニ付貴隊御交代御引揚ノ旨
御通知書之趣致了承此段及御答候也

各官員へ達書

本年十二月廿九日ヨリ來明治十一年一月三日迄本支所出張所共事務
休憩候条此旨相達候事
実父病氣ニ付帰省

九等屬 三浦直巨

霧島神宮鹿兒島神宮新嘗祭
奉幣使トシテ參向申付候事

帖込加治木堀濱取調掛
裏務申付候事

戸籍掛申付候事

宮崎支庁詰申付候事

第一課戸籍掛申付候事

鹿兒島出張所詰申付候事

御用右之東京出張申付候事

依頼御用掛差免候事

三等屬 坂本清彦

七等屬 中村政綱

九等屬 須知彦太郎

全 岡本隆興

等外一等 小田為政

全 猪瀬義典

全 大河本聰松

十二月廿五日 火曜日

文部省報告課ヨリ依頼書

御県管内ニテ從前手習師匠等子屋杯へ唱フル者共幼實教訓ノ為メ其
上地ニ限リ相用候書籍等本刊本ニ拘ラス卷部ツ、當省へ備置候候如
右書名種類等當省ニ於テ取調兼候ニ付御手數右書名冊數共代價並
者著述者姓名等御報告有之度此段御依頼等及照会候也

但英語教商売往來ノ如キ全国ニ通用スル者ハ御取調ニ不及候

十年十二月十一日

同回答書

当県管内ニテ從前手習師匠等相用候書籍御承知被成下度旨御中越之
趣ニ依リ取調候処大抵左之通ニ有之候元管内土地広大之儀ニ付此外
ニモ其土地限リ相用候者モ有之尚相分り次第追テ可中進存候此段及
回答候也

明治十年十二月廿五日

鹿兒島県第五課

書目

一 虎狩 宮ノ城郷土族其著

一 伊呂波歌 日新青島津忠良著

一 遊代歌 曾文子著

一 島津歴世歌 兄玉源之丞著

一大統歌

龜谷出歌著
月玉源之永留

各島支庁長ヨリ伺書

大島外四島支庁並諸官員之官舎從來民費ヲ以修繕ヲ加ヘ宅舎ハ其儘民費ニテ取繕繼在候処迄々朽損向後管轄ヲ加ヘサレバ居住モ不相成程ニ到リシカ共官宅之儀ハ已ニ被廢候ニ付右宅舎民費設立ニ付テハ人民ヘ還付致スヘキ場所モ無之何レニモ右民費設立ノ家屋買上結官員丈ハ住居不致候テハ差支候間何卒各島共官宅建設之事御許可被成下度然ル上ハ右宅舎ヲ買上或ハ建増旁ノ仕様賦書ヲ以詳細可伺出候此段先以相伺候也

明治十年十二月廿一日

指令

書面官舎建立ノ義ハ從前ノ宅舎買上代及ヒ建増之仕様賦書相副更ニ可伺出事

丁野少警視ヨリ來翰

過日ハ御巡回御都合能ク相済示后御清適御出務之御事ト拝賀ニ候隙ハ午唐突当県下人民是迄新曆ニ遵奉セス一切之儀或舊曆ニ因仍セル由乱后即今一新之際ニテ來十一月ヨリ朝廷ノ御儀式ニ隨ヒ國旗為揚候様相或候時ハ人民耳目モ自然一新可致ト存候尤此際人民一般難及時ハ区戸長ノ宅ハ必ス國旗為揚人民ハハ可成論達為致候様相成度心付之儘御内談

明治十年十二月廿一日

同回答書

当県下人民是迄新曆ヲ遵奉セス一切之儀ニ因候ニ付來十一月ヨリ朝廷之儀式ニ隨ヒ國期ヲ為揚候様續々御内談之趣致承知則來十一月ヨリ区戸長ハ勿論人民於テモ或又祝日祭日ニハ國期ヲ為揚候様説諭可致旨支庁及各出張所ヘ相達置候此段及御回答候也

支庁各出張所ヘ達書

明治十一年祝日祭日ニハ区戸長ハ勿論人民ニ於テモ成文國期ヲ為揚候様説諭可致此旨相達候事

各出張所元受金及仕二費等
為調察出張申付候事

全

御用都合有之歸庁申付候事

常務掛申付候事

昨九半租税米金既ニ未納調

査及ヒ倉庫現在米所分トシ

テ大蔵省出張官員臨調各郷

巡回ニ付同断申付候事

全

全

縣島沖宮廳島新宮新營

警察署便參向ニ付局代ト

シテ參向申付候事

八等属 大森利学

全 小山善述

九等属 岩城寛之

全 赤堀謙藏

十等属 早田万藏

全 内田良助

全 宮原正藏

全 肝付新藏

十一月廿六日晴 水曜日

内務卿へ上中書

当県下開戦以來官軍或ハ賊ノ死骸戦地近傍人民屋敷地内ニ仮埋候分往々有之成丈改葬取計ベク候得共中ニハ今更難取計場所モ有之候ニ付官軍現在埋葬ノ地ハ陸軍省ヘ伺置候得共右改葬跡地所蔵ノ埋葬地等地主換地或ハ買上ノ儀願出其得実不得止次第ニ付聞届申度然ルニ地券面記載ノ代価ハ改王前ニテ真価ニ照之為ニ苦情等モ有之候ニ付評価ノ上相当代価ヲ以テ買上方取計非常余備金ノ内ヲ以テ仕払度尤右御聞届ノ上ハ箇所限リ取調可相伺候得共前条之目的ヲ以テ取調可然或至急御指揮有之度此段相伺候也

明治十年十月

指令

書面地所買上候積ニテ取調可申出代金ハ其限臨時費トシテ可下渡

明治十年十二月十二日

大分県ヨリ通知書

当県中津支庁昨十八日相廃止本寸直達候条此旨及御通知候也

明治十年十二月十九日

一等属従六位

御用掛中付月俸八拾四拾与候事

小野 修一郎

但取扱准奏任候事

依願免本官

一等属

田 辺 輝 実

十二月廿七日 半時 半陰 木曜日

雇申付日給二十銀宛給与

第六課雇

田 中 伝 七

第一課戸籍係中付候事

第六課申付候事

今 村 羽 清

十二月廿八日 金曜日

乙第六十一号達書

区戸長

十年度地券税及ヒ船税取立済ノ内賦徒違等ノ分有之候ハ、詳細仕訳之上来一月十日限無相違可差出此旨相達候事

宮崎支庁へ達書

十年度地券税及ヒ船税取立済ノ内賦徒違等ノ分有之ハ早々取調云々別紙ノ通大蔵省出張官員懸合過候間該支庁管下至急相達来一月十五日限取調可差越此旨相達候也

内務卿へ上中書

一金壹万六千三百四拾二円也

右ハ本年七月ヨリ来十年六月迄一週年河津堤防道橋築修繕経費金之儀ニ付御省丙第二十六号ヲ以テ御達相成候処差向破損修繕之場所多分有之此節専ラ修繕中ニ付書面之金額此際一時ニ御下附有之度此段上申候也

明治十年十一月廿六日

指令

書面之趣聞届経費金壹万六千三百四十貳円土木局ヨリ可下渡候事

明治十年十二月十五日

十二月廿九日 土曜日

十二月三十日 日曜日

十二月卅一日 月曜日

征討費金額 明治十年三月ヨリ 同年六月マデ

一金貳拾三万円

元請高

但征 討費

内

金拾万円

明治十年四月廿日請取

金拾万円

明治十年四月廿一日請取

金三万円

明治十年五月廿九日請取

一金四万貳千四百三拾九円四拾銭壹厘 仕払高

但本庁 経費

内

金四二三百九拾壹円五拾五銭

諸雇給

金壹万六千四百五拾二円六拾銭

旅費

金貳千七百四拾八円八拾二銭三厘

糧食費

金三拾四円

被服費

金貳千三百五拾三円三拾二銭八厘

需用費

金七拾二円六拾五銭壹厘

郵便電信費

金百七拾八円三拾八銭四厘

運送費

金三千五百四拾五円四拾九銭五厘

経営費

金貳百拾九円拾壹銭三厘

雇費

金八千五百六円四拾壹銭五厘

病傷費

金四拾二円

賜金

金貳百八拾二円七拾四銭三厘

囚虜費

金千九百四拾六円三拾六銭七厘

諸雜費

金千六百六拾五円九拾二銭八厘	賑恤
金拾八万七千五百六拾四円九銭九厘	元松差引残
内	
金式一百七拾八円九銭	未決算
改 金拾八万五千貳百八拾貳円四拾九銭九厘	
征討費金額 明治十年七月ヨリ 同 年十月マデ	但征討費
一金百四拾四万七千四百壹円六拾九銭九厘	元請高
内	
金拾八万五千二百八拾二円四拾九銭九厘	明治十年六月ヨリ 越高
金貳拾五万円	明治十年十月八日請取
金拾万円	明治十年十月十六日請取
金拾万円	明治十年十一月十六日請取
金貳拾五万円	明治十年十一月十六日請取
金五拾六万貳千円	明治十年十一月十二日請取
金百拾九円貳拾銭	明治十年十一月廿三日請取 神宮非常臨時費トシテ請取
金百拾九万九千九拾九円四拾六銭	仕松高
内	
金百拾六万八千八百九拾八円八拾八銭九厘	本庁経費
内	
金貳千八百五拾貳円五拾銭	奉給
金壹万七千貳百四拾四円八銭壹厘	諸雇給
金貳万九千五百三拾九円七拾七銭七厘	旅費
金七千六百五円七拾九銭四厘	糧食費
金壹万八千八百八拾五円壹銭三厘	需用費
金九百六拾九円二拾六銭四厘	郵便電信費
金拾三万五千四拾九円五拾貳銭八厘	運送費

金貳万四千五百拾五円六拾八銭	經常費
金貳百五円八拾七銭八厘	賜金
金五万五千四拾九円三十五銭貳厘	病傷費
金壹万七千六百六拾七円四拾銭	賜金
金九千八百八拾四円六拾八銭三厘	囚虜費
金四万七千八百二拾壹円七拾二銭五厘	諸難費
金八拾万七千五百拾二円貳拾壹銭四厘	賑恤
金三万八拾壹円三拾七銭壹厘	官廳支庁經費
金百拾九円貳拾銭	神社經費
一金貳拾五万六千貳百貳円二拾三銭九厘	元松差引残
内	
金三万七千百拾壹円七拾壹銭九厘	未決算
改 金貳拾壹万九千九拾四円五拾貳銭	
殘 明治十年暴挙ノ際警内士民ノ戦死及生死不明ノ者人員	

死 生	國名	士	族	平	民	合	計
戰	薩	摩	貳千百拾八人	百三十三人	貳千貳百五拾壹人		
大	隅	九百七拾六人	三拾六人	千〇拾貳人			
日	向	六百〇八人	四拾貳人	六百五拾人			
死	陸	陸	六百七拾六人	四拾九人	七百貳拾五人		
生	大	隅	貳百七拾六人	拾人	貳百八拾六人		
明	日	向	貳百六拾五人	貳拾八人	貳百九拾三人		
總	計	四千九百拾九人	貳百九拾八人	五千貳百拾七人			

明治十年甲第五十七号布達ニヨリ同年七月ヨリ十二月ニ至リ開設スル学校總数

牧園小学 出水小学 溝辺小学 清水小学

高江小学	大始良小学	大始良村校	蒲生小学
佐多小学	松尾小学	山崎小学	田不野小学
永利小学	本城小学	曾太小学	永野村小学
馬越小学	湯之尾小学	大口小学	山野小学
羽月小学	吉松小学	栗野小学	横川小学
采山小学	苗代川小学	串良小学	大根占小学
小根占小学	伊集院小学	阿久根小学	藤崎小学
知覧小学	外二八分校	外二二分校	外二二分校
山川小学	喜入小学	今和泉小学	指宿小学
外二五分校	額娃小学	南高小学	勝目小学
川辺小学	亦世田小学	阿多小学	田布施小学
伊作小学	外二五分校	吉利小学	日置小学
敷根小学	永吉小学	口代小学	市来小学
	東郷小学	外一校	外六校
合計八十校			

鹿児島県史料刊行委員会（アイウエオ順）

芳 即 正

鹿児島市教育委員会

川 越 正 則

南 日 本 新 聞 社

北 川 鉄 三

鹿児島大学教育学部

五 味 克 夫

同 文 理 学 部

竹 内 理 三

東京大学史料編纂所

林 田 直 二 郎

右 同

原 口 虎 雄

鹿児島大学水産学部

福 満 武 夫

鹿児島毎日新聞社

村 野 守 次

鹿児島県立中南高等学校

桃 園 恵 真

鹿児島大学文理学部

